

---

---

丸亀市男女共同参画に関する  
市民アンケート調査結果報告書

---

---

令和8年1月

丸亀市 人権課 男女共同参画室

# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	報告書の見方	1
II	調査結果	3
F 1	性別	3
F 2	年齢	3
F 3	未既婚	4
F 4	あなたと配偶者の職業	5
F 5	同居している家族構成	8
F 6	同居している未成年者	9
F 7	日常的に介護を必要とする家族の有無	11
問 1	分野ごとの男女平等	12
問 2	一般的に女性が職業をもつこと	34
問 3	育児休業の取得	38
問 4	育児休業を取得しなかった理由	40
問 5	介護休業の取得	42
問 6	介護休業を取得しなかった理由	44
問 7	職場での性別による差	46
問 8	男女がともに働きやすい社会環境をつくるために必要なこと	69
問 9	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	71
問 10	家事の分担	76
問 11	地域活動や社会活動への参加	111
問 12	地域活動や社会活動に参加していない理由	113
問 13	防災活動での男女共同参画推進	115
問 14	困難な問題を経験したり、経験している女性の見聞き	117
問 15	困難な問題を解決するための環境や支援	119
問 16	ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力の経験・見聞き	122
問 17	ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力の相談経験	125
問 18	相談しなかった理由	127
問 19	ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力の相談窓口の認知	131
問 20	ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力をなくすための対策	135
問 21	男女共同参画社会の認知度	138

問22	丸亀市が力を入れていくべきこと	139
自由記述	男女共同参画社会づくりへのご意見等（抜粋）	141

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、次期男女共同参画プランの策定及び男女共同参画施策の推進のための基礎資料とし、男女共同参画に関する市民意識の現状などを把握することを目的に実施しました。

## 2 調査概要

調査地域	丸亀市全域
調査対象者	市内在住の18歳以上の方
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査時期	令和7年9月26日～令和7年10月17日
調査方法	郵送配布・郵送とオンラインでの回収
配布数	3,000件
回収率	44.3% (1,328件) ※内訳 郵送回答 30.9% (928件) オンライン回答 13.3% (400件)

## 3 報告書の見方

- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書の分析文章、グラフ及び表においても反映しています。
- ・複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・グラフ及び表中のn (number of case) は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を現しています。

- ・参考として、一部の質問において過去の調査との比較を行いました。  
それぞれの調査の概要は次のとおりとなります。

◆R2年調査（市民アンケート）

「丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート調査」〔令和2年8月実施〕

- ・調査対象：市内在住の18歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出による
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・有効回収数：986件　有効回収率：32.9%

◆H27年調査（市民アンケート）

「丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート調査」〔平成27年8月実施〕

- ・調査対象：市内在住の20歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出による
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・有効回収数：1,186件　有効回収率：39.5%

◆H22年調査（市民アンケート）

「丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート調査」〔平成22年1月実施〕

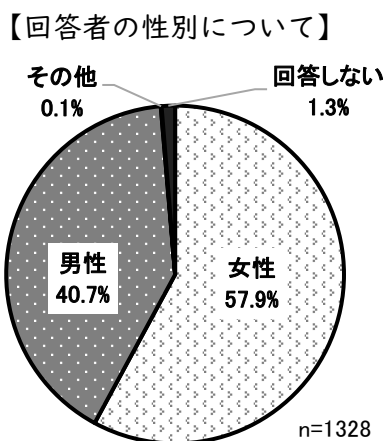
- ・調査対象：市内在住の20歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出による
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・有効回収数：1,174件　有効回収率：39.1%

## Ⅱ 調査結果

### あなた自身のことなどについて

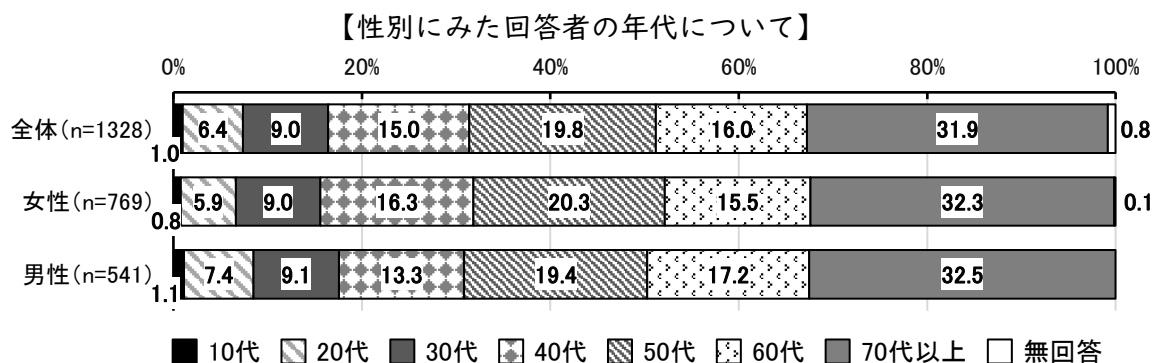
#### F1 あなたの性別は。(○は1つ)

回答者の性別をみると、「女性」57.9%、「男性」40.7%と「女性」の割合が高くなっています。



#### F2 あなたの年齢は。(記入日の時点で。○は1つ)

回答者の年代をみると、「70代以上」31.9%の割合が最も高く、次いで「50代」19.8%、「60代」16.0%、「40代」15.0%の順となっています。

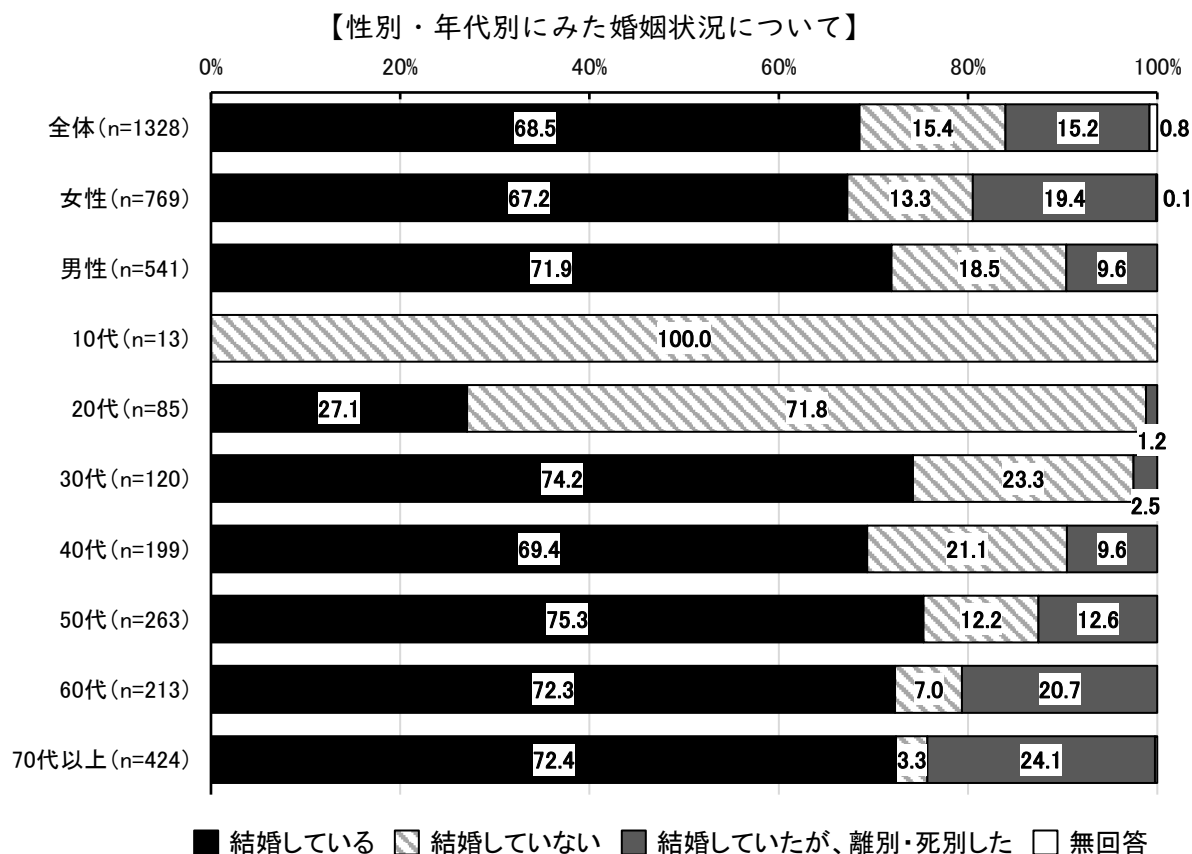


### F3 あなたは、結婚（事実婚等も含みます）していますか。（○は1つ）

婚姻状況を見ると、「結婚している」68.5%、「結婚していない」15.4%、「結婚していたが、離別・死別した」15.2%となっています。

性別にみると、女性は男性より「結婚していたが、離別・死別した」の割合が高く、男性は女性より「結婚している」「結婚していない」の割合が高くなっています。

年代別にみると、30代以上は「結婚している」が全体68.5%より高くなっています。20代の「結婚している」は27.1%となっています。



F4 あなたとあなたの配偶者（事実婚等のパートナーも含みます）の現在の職業は、次のうちどれですか。配偶者がいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。

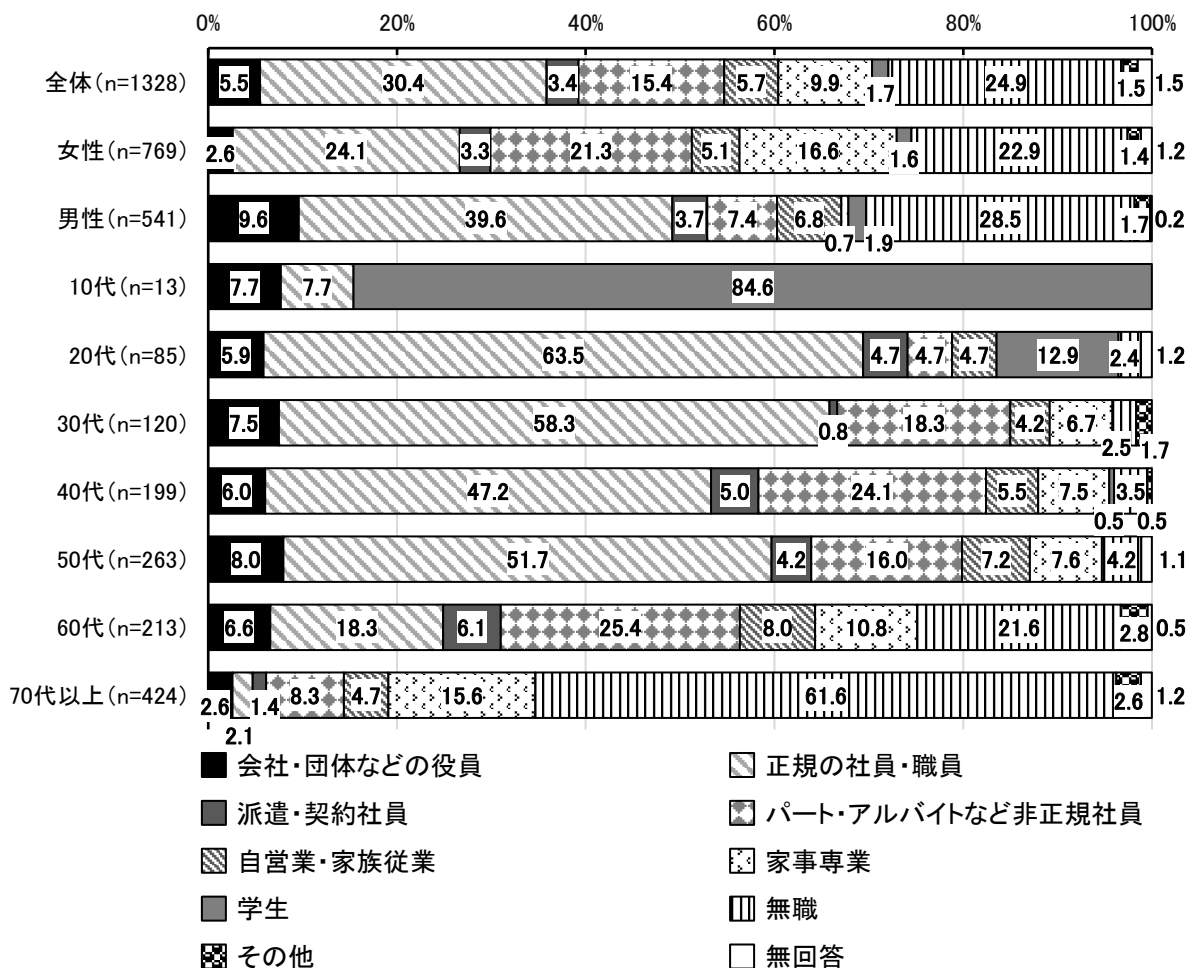
（○はそれぞれ1つつつ）

自身の現在の職業をみると、「正規の社員・職員」30.4%の割合が最も高く、次いで「無職」24.9%、「パート・アルバイトなど非正規社員」15.4%の順となっています。「その他」としては「農業」などの回答がありました。

性別にみても、女性・男性ともに「正規の社員・職員」の割合が高くなっており、加えて女性は男性より「パート・アルバイトなど非正規社員」、「家事専業」の割合が高くなっていきます。

年代別にみると、10代は「学生」、20代～50代は「正規の社員・職員」、60代は「パート・アルバイトなど非正規社員」、70代以上は「無職」の割合が高くなっていきます。

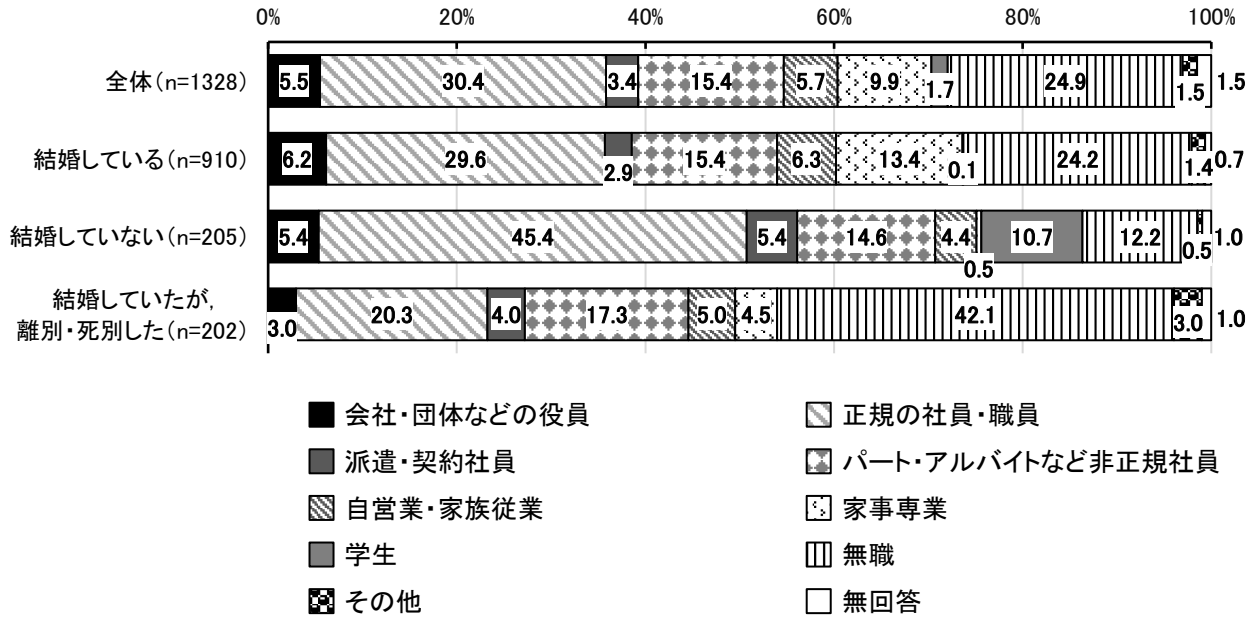
【性別・年代別にみた自身の現在の職業について】



婚姻状況別にみると、「正規の社員・職員」は結婚している方 29.6%、結婚していない方 45.4%と、結婚していない方が 15.8 ポイント高くなっています。

一方で、「結婚していたが、離別・死別した」は「無職」の割合が最も高くなっています。

【婚姻状況別にみた自身の現在の職業について】

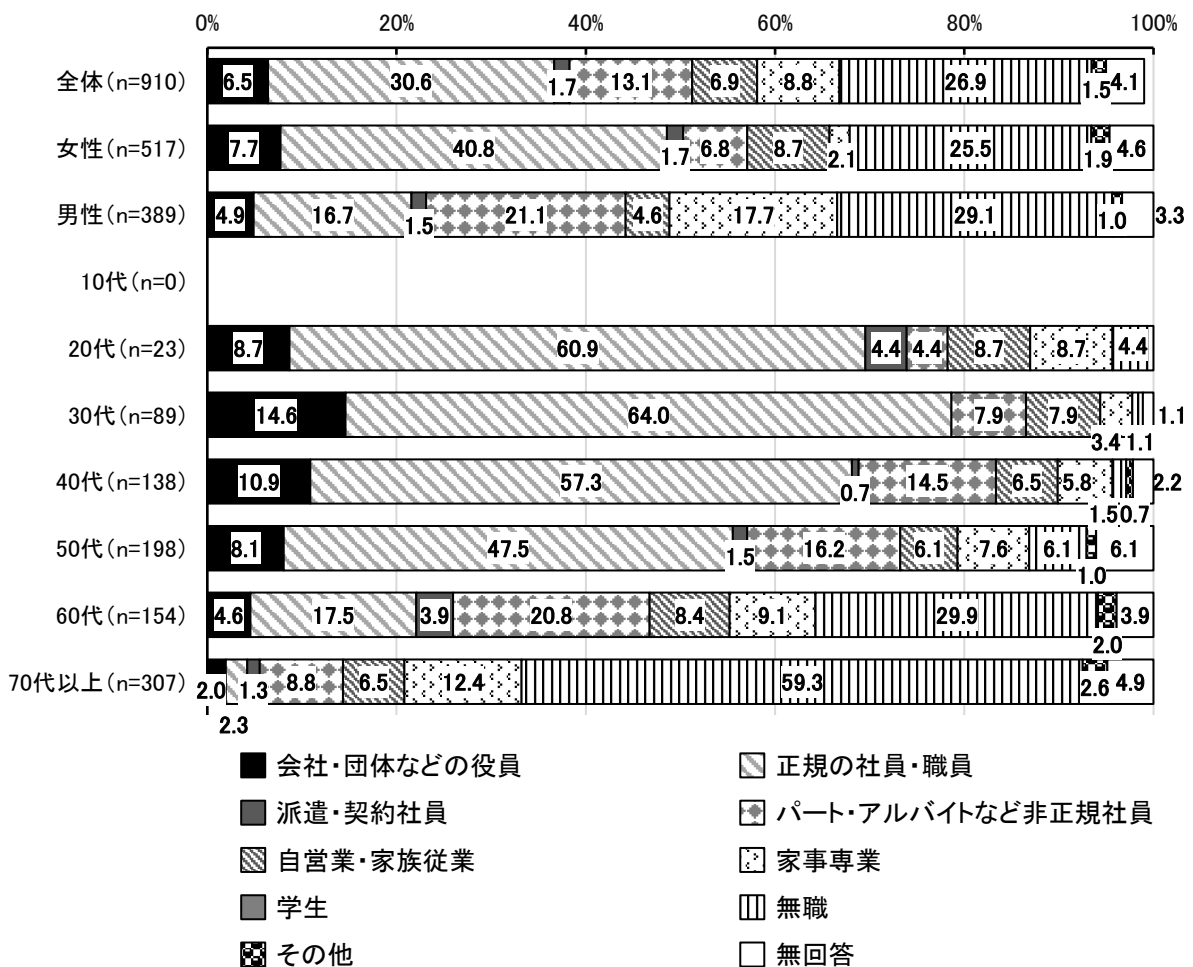


配偶者の現在の職業をみると、「正規の社員・職員」30.6%の割合が最も高く、次いで「無職」26.9%、「パート・アルバイトなど非正規社員」13.1%の順となっています。「その他」としては「農業」などの回答がありました。

性別にみると、「正規の社員・職員」では女性の配偶者 40.8%、男性の配偶者 16.7%と女性の配偶者の方が高くなっています。加えて男性の配偶者は「パート・アルバイトなど非正規社員」の割合が高くなっています。

年代別にみると、20代～50代は「正規の社員・職員」、60代以上は「無職」の割合が高くなっています。

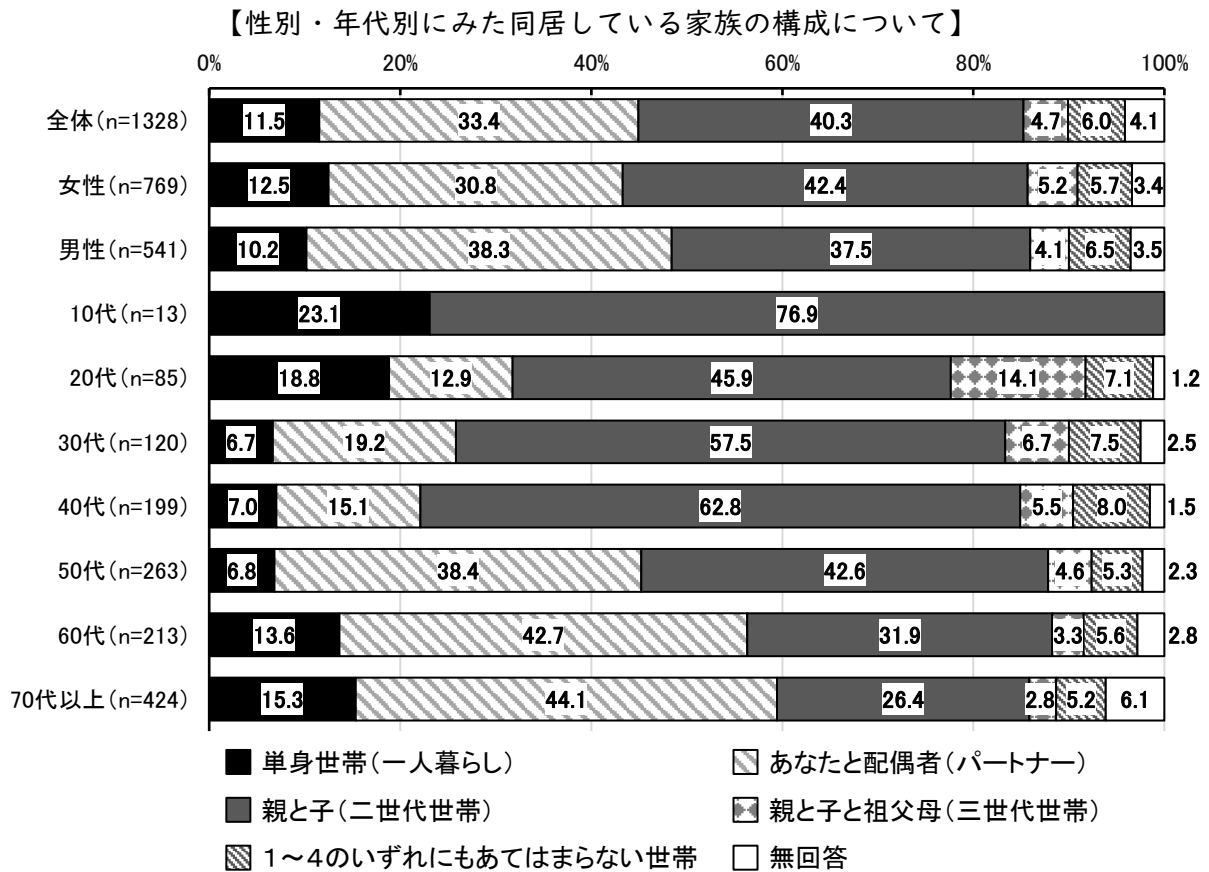
【性別・年代別にみた配偶者の現在の職業について】



## F5 現在、あなたが同居しているご家族の構成は、次のうちのどれですか。(〇は1つ)

現在、同居している家族の構成をみると、「親と子（二世世代世帯）」40.3%の割合が最も高く、次いで「あなたと配偶者（パートナー）」33.4%、「単身世帯（一人暮らし）」11.5%の順となっています。

年代別にみると、10代～50代は「親と子（二世世代世帯）」の割合が高く、60代以上は「あなたと配偶者（パートナー）」の割合が高くなっています。



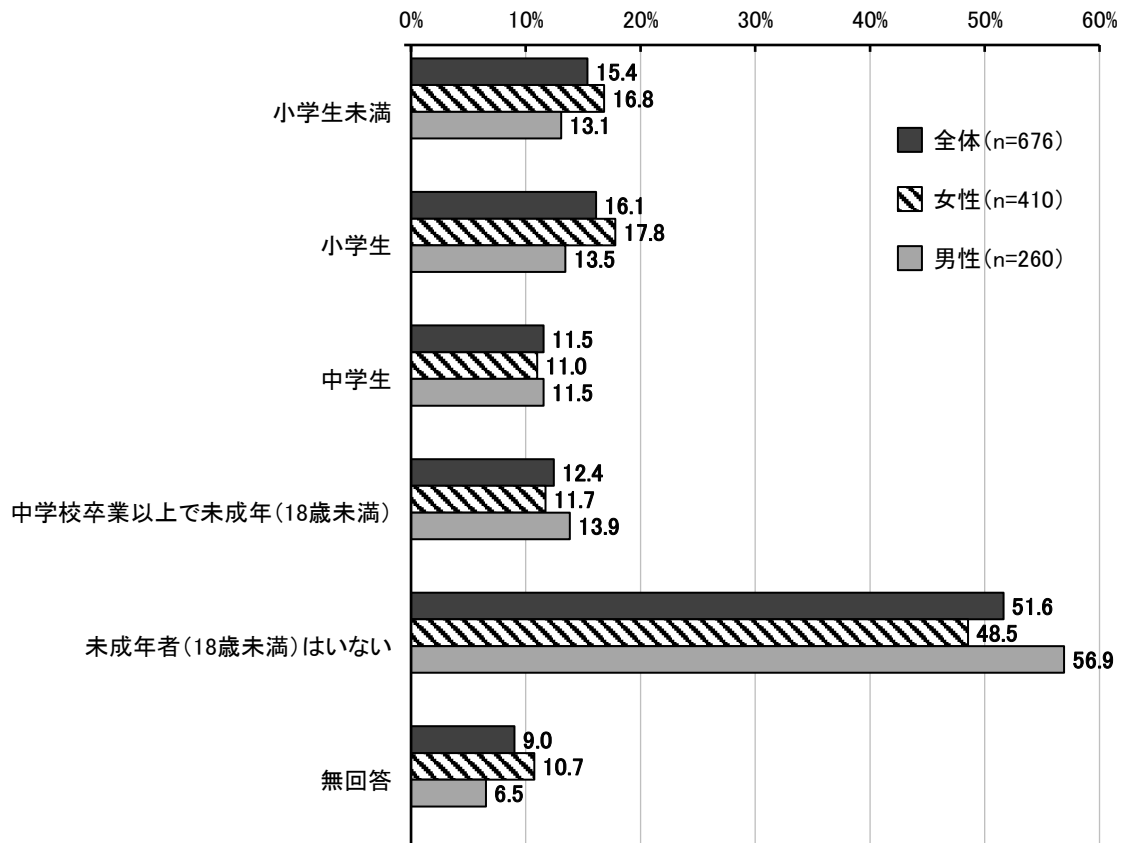
**F6 現在、あなたが同居しているご家族に、次にあてはまる方はいますか。**

(○はあてはまるものすべて)

現在、同居している未成年の家族についてみると、「未成年者（18歳未満）はいない」51.6%の割合が最も高く、次いで「小学生」16.1%、「小学生未満」15.4%の順となっています。

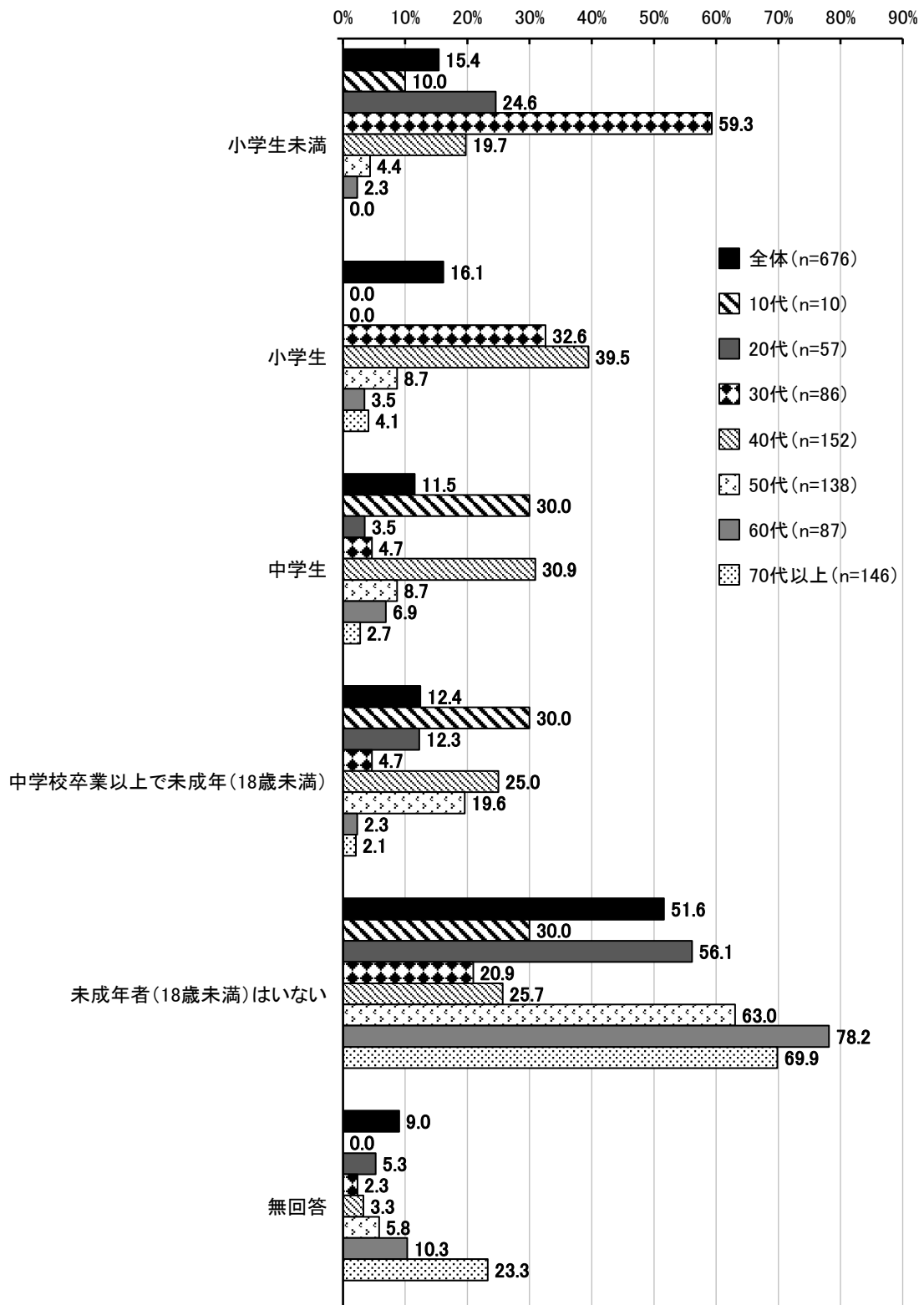
性別にみても、女性・男性ともに「未成年者（18歳未満）はいない」の割合が最も高く、次いで女性は「小学生」、男性は「中学校卒業以上で未成年（18歳未満）」の順となっています。

【性別にみた同居している家族の未成年者について】



年代別にみると、20代、50代以上では「未成年者（18歳未満）はいない」、30代では「小学生未満」、40代では「小学生」の割合が最も高くなっています。

【年代別にみた同居している家族の未成年者について】



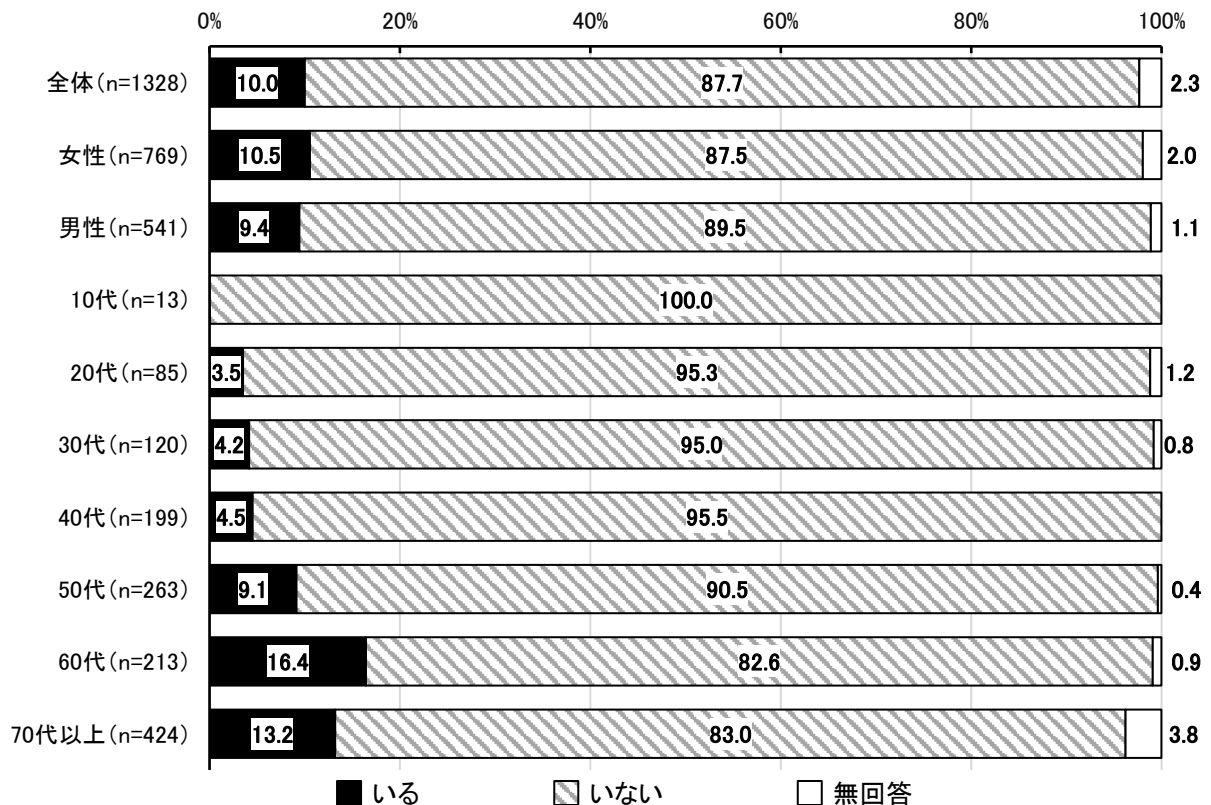
## F7 現在、あなたのご家族に、日常的に介護を必要とする方はいますか。(〇は1つ)

現在、自身の家族に、日常的に介護を必要とする方の有無についてみると、「いない」87.7%、「いる」10.0%となっています。

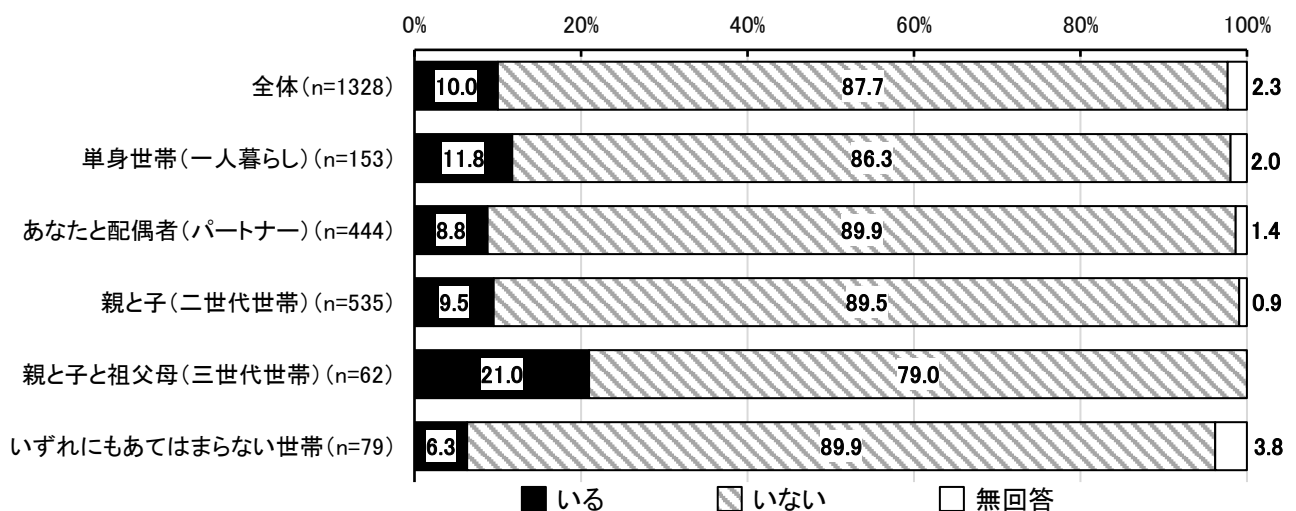
年代別にみると、60代以上は「いる」の割合が全体10.0%より高くなっています。

家族構成別にみると、「親と子と祖父母(三世代世帯)」は他の世帯より「いる」の割合が高くなっています。

【性別・年代別にみた日常的に介護を必要とする家族の有無について】



【家族構成別にみた日常的に介護を必要とする家族の有無について】



## 男女平等について

問1 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア)から(ケ)までの項目についてお答えください。(○は各項目1つずつ)

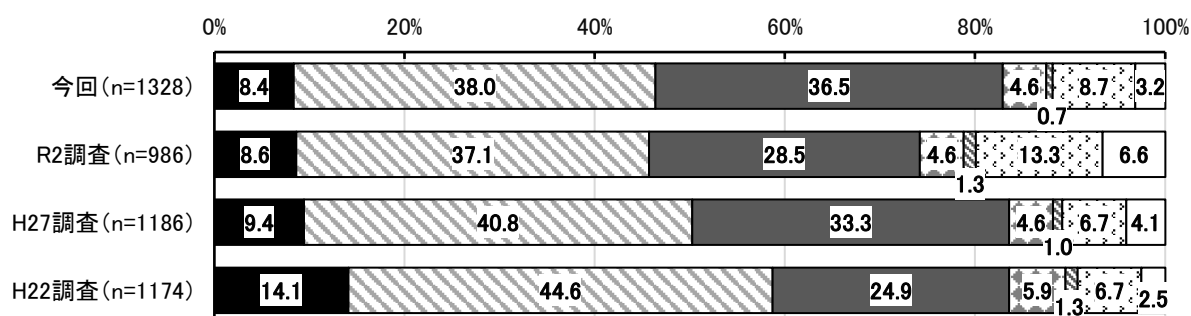
男女平等についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』(以下、同様)は「(カ)社会通念・慣習・しきたりなどで」、「(エ)政治の場で」、「(ケ)社会全体で」の順で割合が高くなっています。

「男女平等である」をみると、「(ウ)学校教育の場で」の割合が高くなっています。

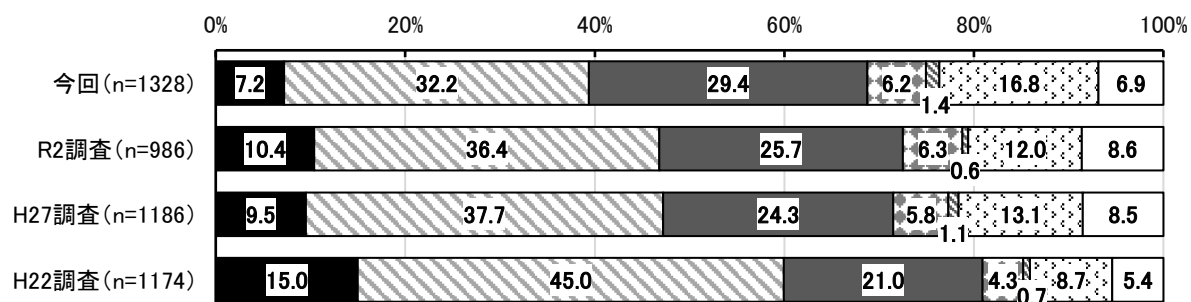
過去調査と比較すると、「(ア)家庭生活で」と「(イ)職場で」では「男女平等である」の割合が高くなっています。

【過去調査と比較した各項目の男女平等について】

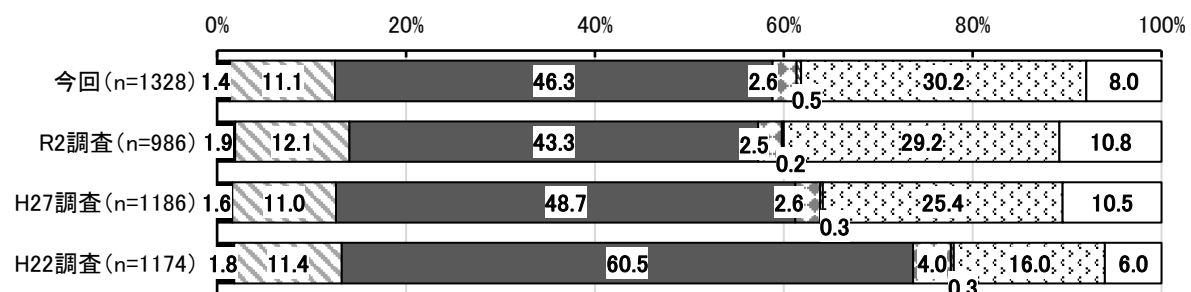
### <ア 家庭生活で>



### <イ 職場で>

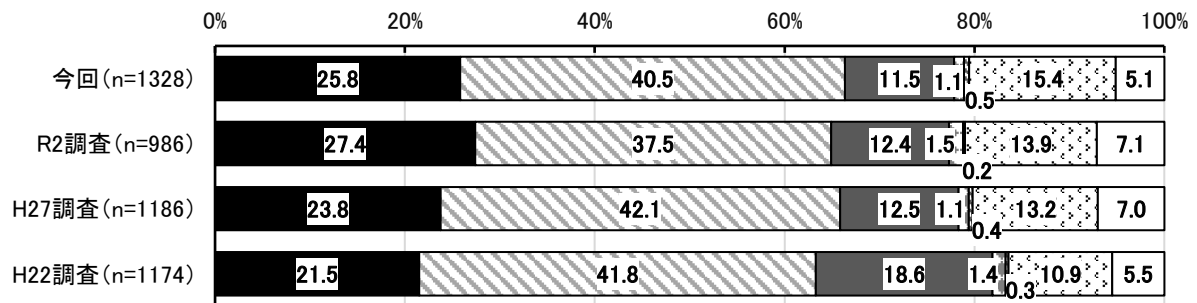


### <ウ 学校教育の場で>

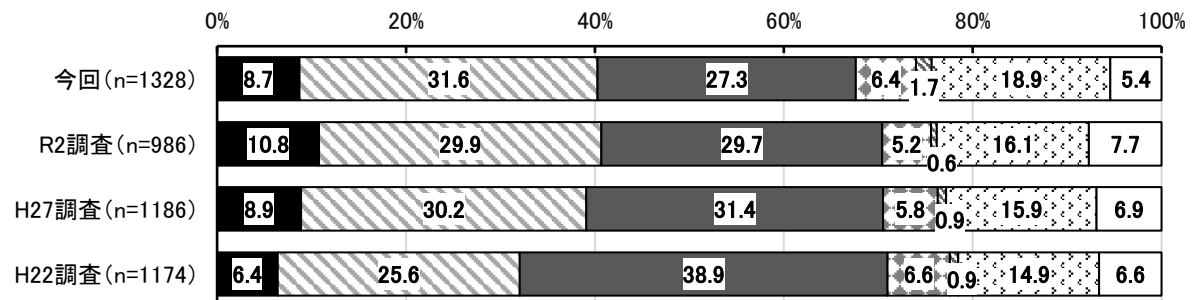


- 男性の方が非常に優遇されている
- 男女平等である
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▨ (斜線) どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ (点線) どちらかといえば女性の方が優遇されている
- (点線) わからない

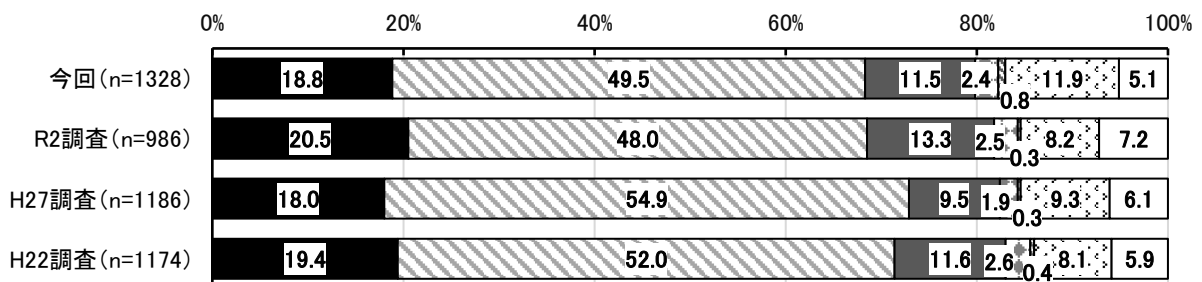
<エ 政治の場で>



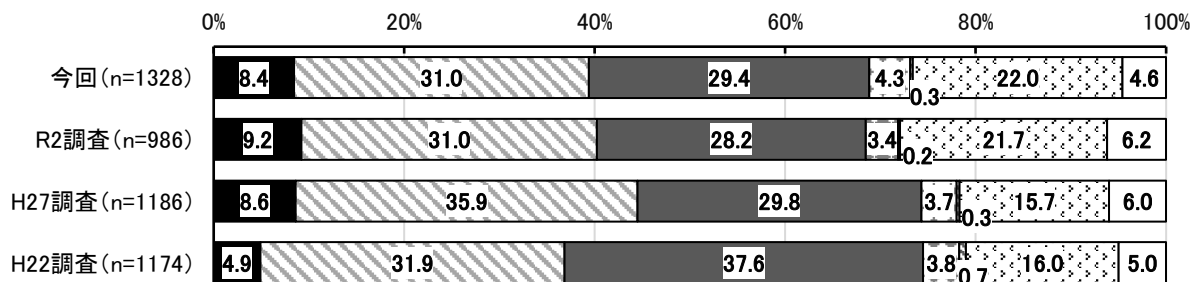
<オ 法律や制度の上で>



<カ 社会通念・慣習・しきたりなどで>

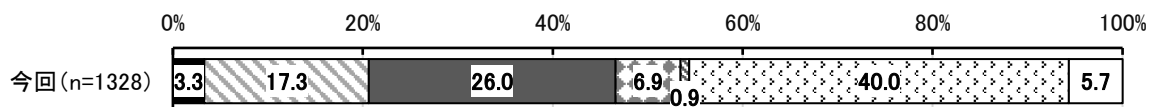


<キ 自治会などの地域活動の場で>

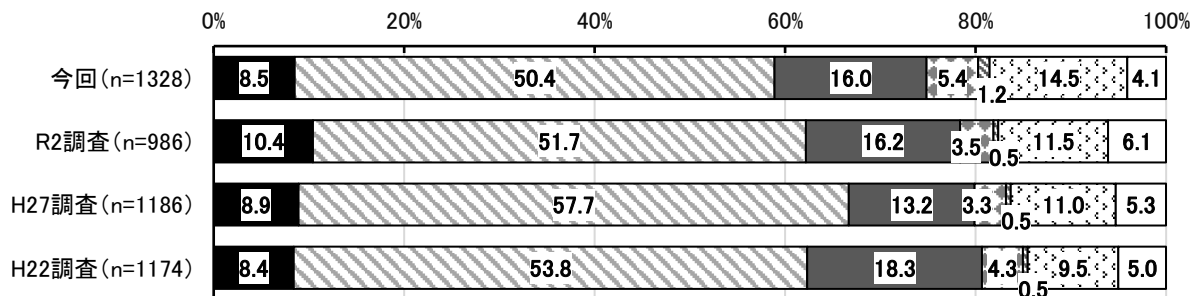


- 男性の方が非常に優遇されている
- 男性の方が優遇されている
- 男女平等である
- 女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

<ク 災害時の避難所・避難場所等で> ※今回調査のみ



<ケ 社会全体で>

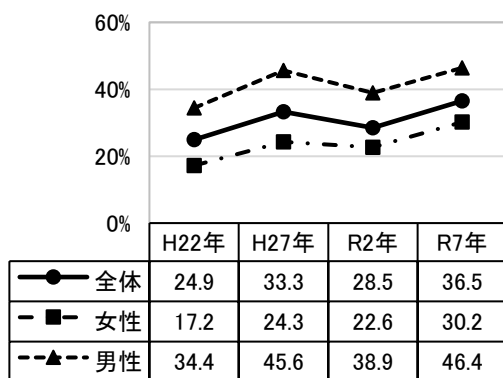


- 男性の方が非常に優遇されている
- 男女平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ わからない

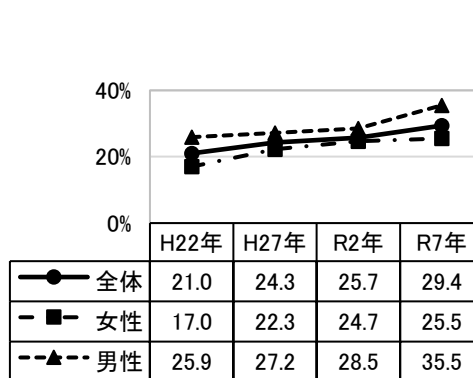
「男女平等である」の性別での違いについてみると、「(カ) 社会通念・慣習・しきたりなどで」を除くすべての項目で、女性と男性の割合に10ポイント以上の差がみられています。過去調査と比較すると、女性の「(エ) 政治の場で」の割合は年々低くなっています。

【性別にみた過去調査と比較した各項目の「男女平等である」について】

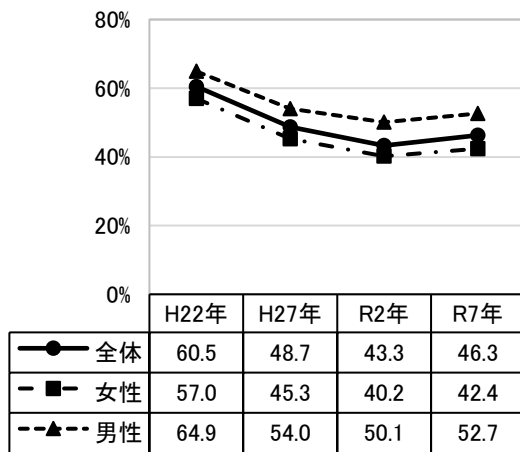
<ア 家庭生活で>



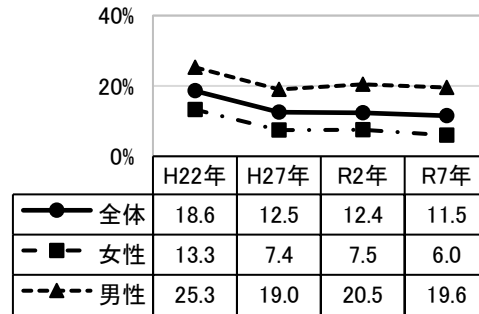
<イ 職場で>



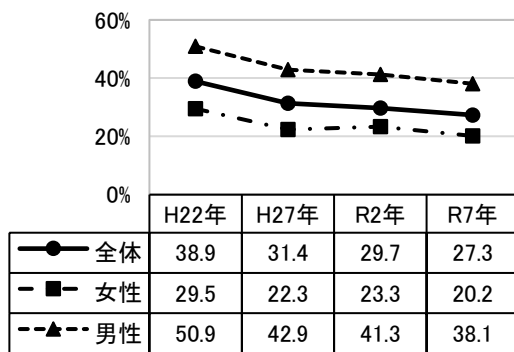
<ウ 学校教育の場で>



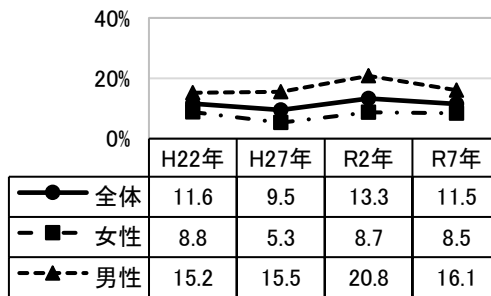
<エ 政治の場で>



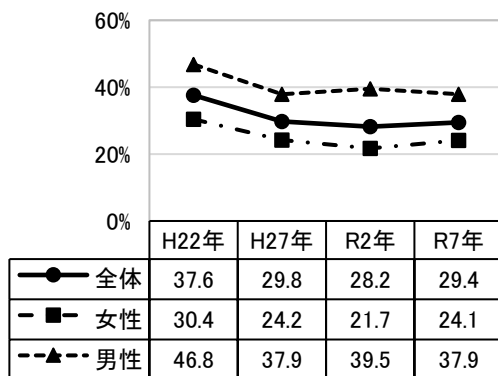
<オ 法律や制度の上で>



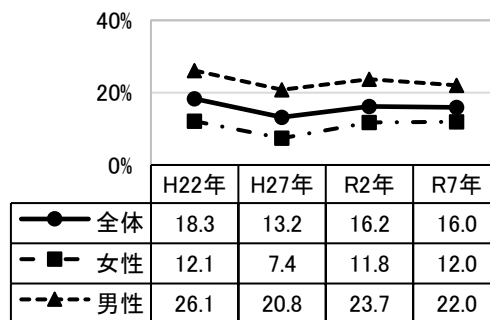
<カ 社会通念・慣習・しきたりなどで>



<キ 自治会などの地域活動の場で>



<ケ 社会全体で>



※<ク 災害時の避難所・避難場所等で>は今回調査のみのため、過去調査と比較していません。

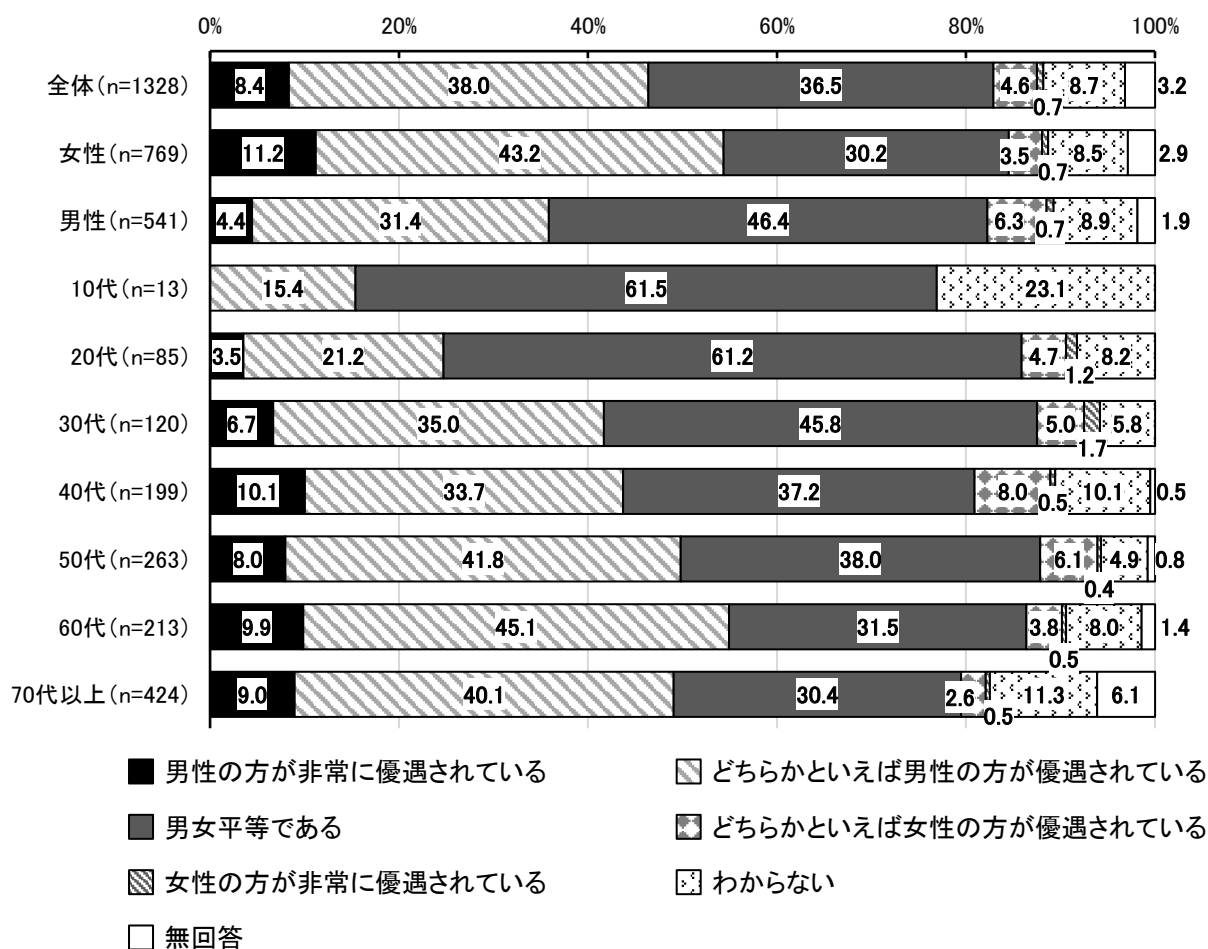
ア 家庭生活で

家庭生活での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」38.0%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」36.5%、「わからない」8.7%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は女性54.4%、男性35.8%、女性の方が18.6ポイント高くなっています。

年代別にみると、10代～30代では「男女平等である」が最も高く、40代以上になると『男性優遇』の割合が高くなっています。

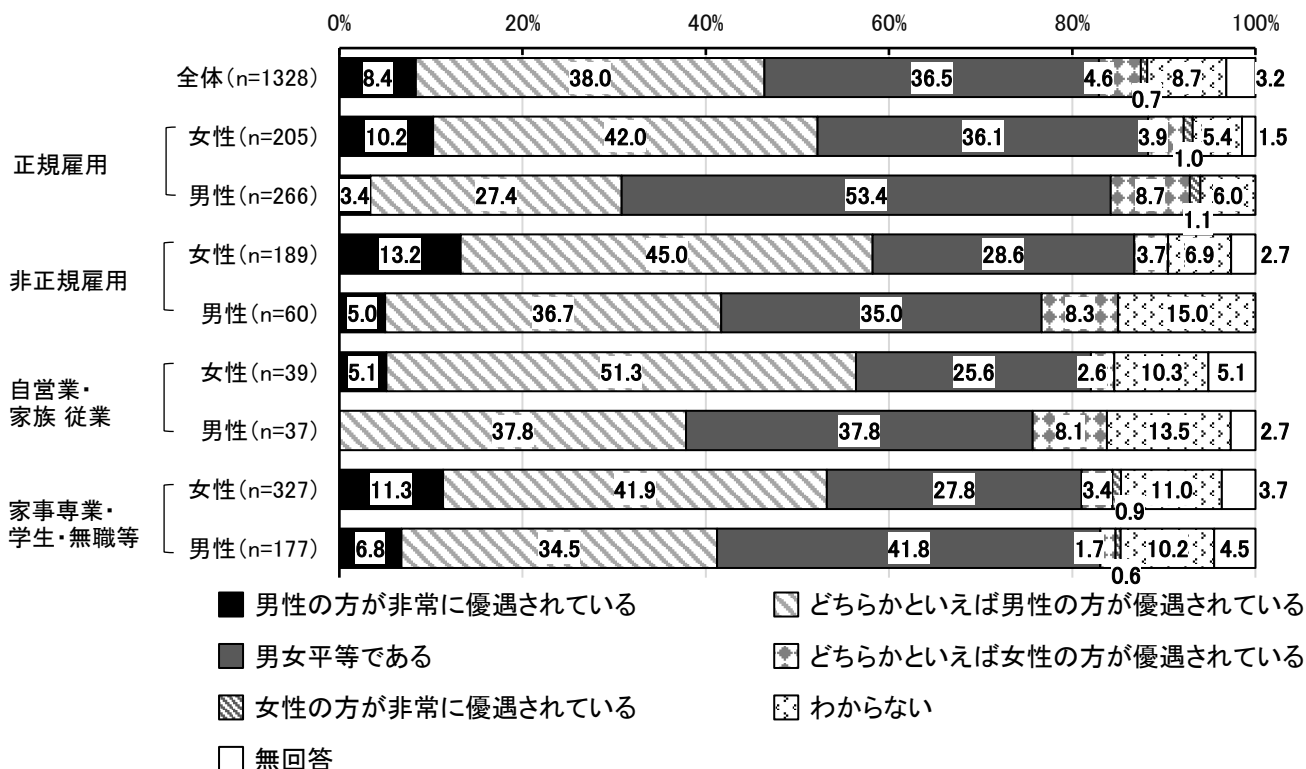
【性別・年代別にみた男女平等について(ア 家庭生活で)】



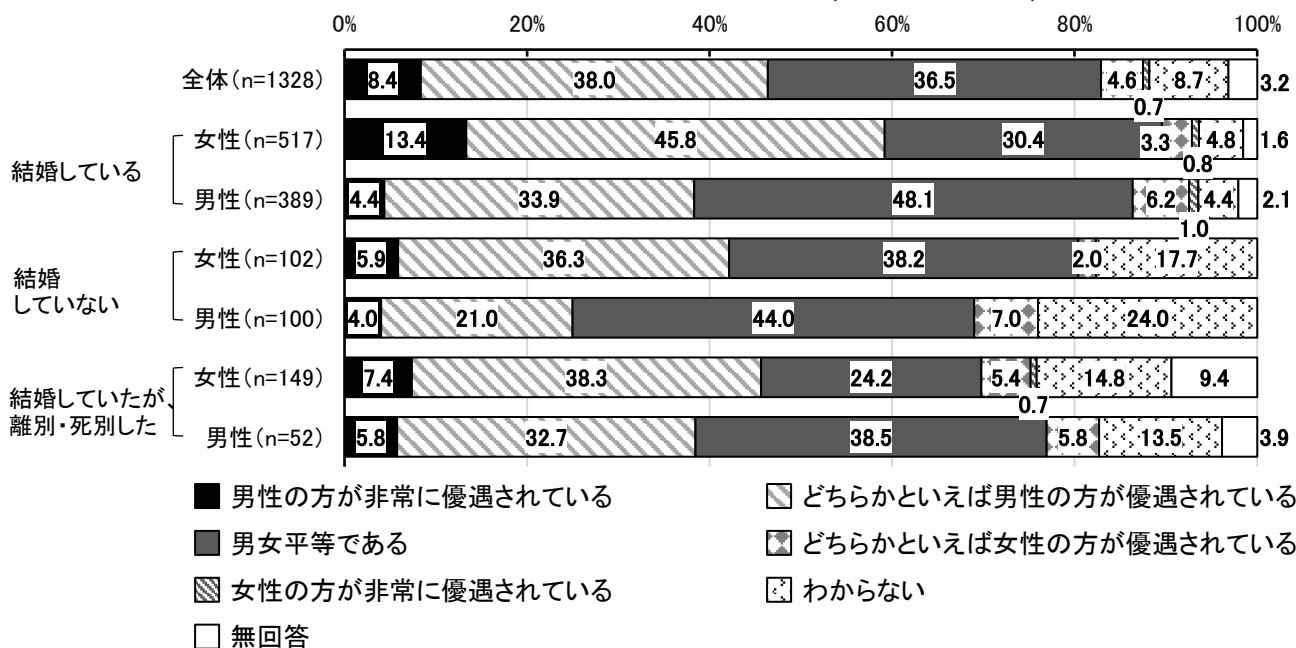
雇用形態別・性別にみると、男性の正規雇用はその他の男性と比べて「男女平等である」の割合が高くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚している女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(ア 家庭生活で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(ア 家庭生活で)】

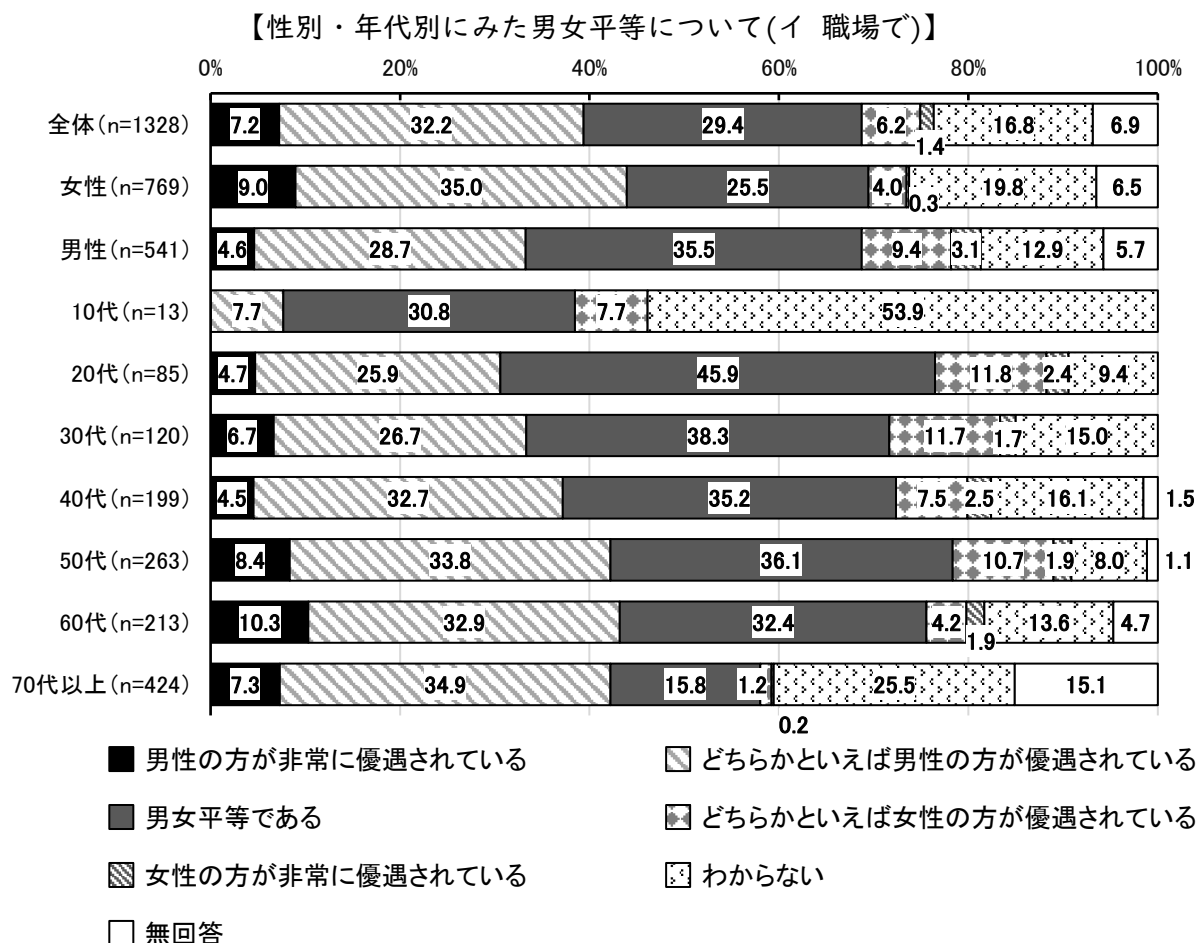


イ 職場で

職場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」32.2%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」29.4%、「わからない」16.8%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は女性44.0%、男性33.3%と女性が10.7ポイント高くなっています。

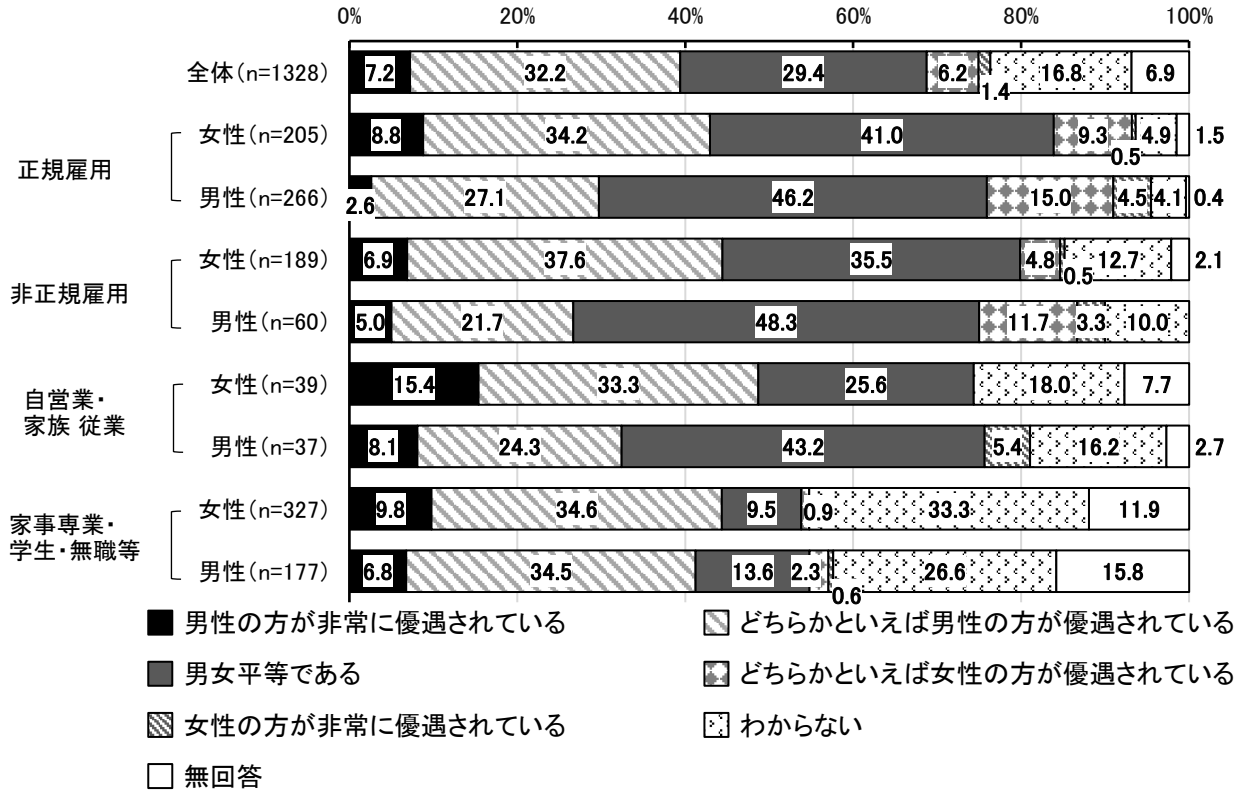
年代別にみると、20代では「男女平等である」が45.9%と他の年代より高くなっています。



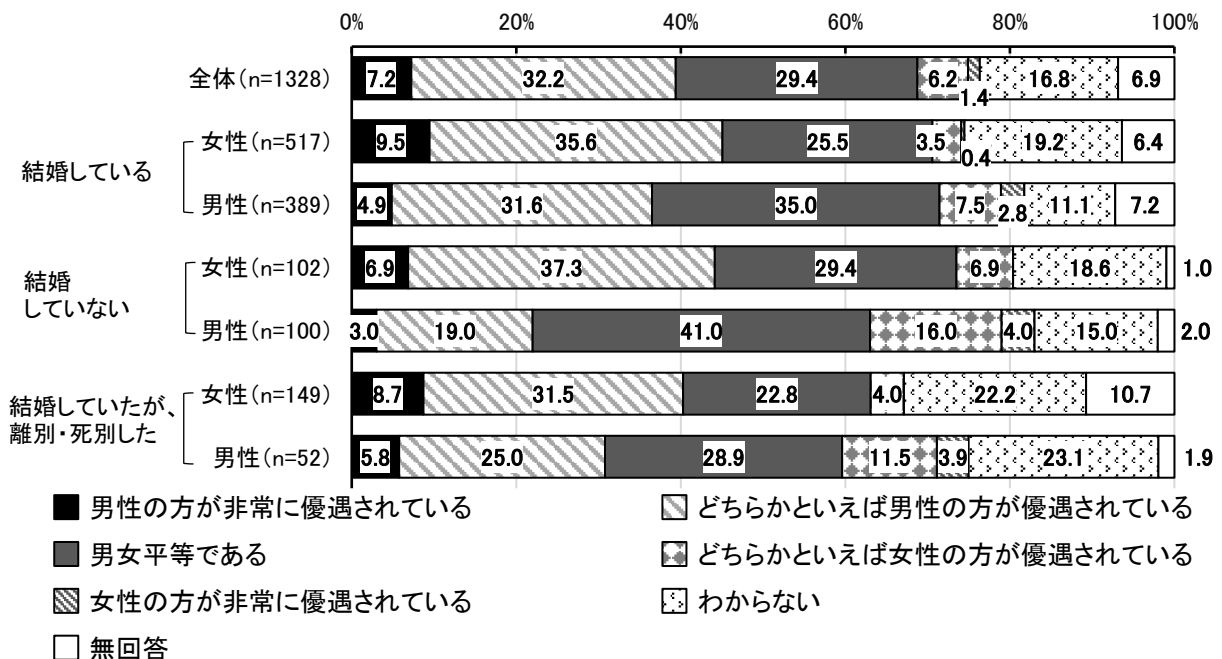
雇用形態別・性別にみると、自営業・家族従業や家事専業・学生・無職等の女性は、正規雇用や非正規雇用の女性と比べると「男女平等である」の割合が低くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚していない男性はその他の男性に比べて『男性優遇』の割合が低くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(イ 職場で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(イ 職場で)】



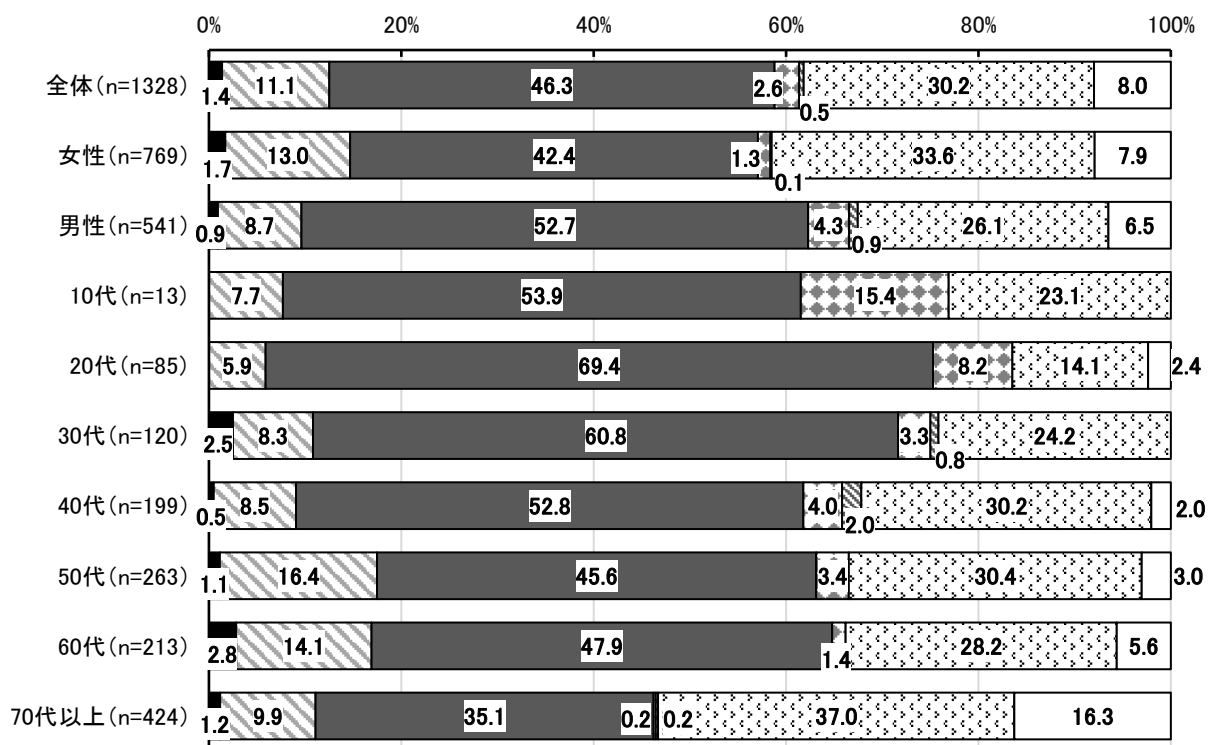
ウ 学校教育の場で

学校教育の場での男女平等についてみると、「男女平等である」46.3%の割合が最も高く、次いで「わからない」30.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」11.1%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性42.4%、男性52.7%と男性が10.3ポイント高くなっています。

年代別にみると、20代では「男女平等である」が69.4%と他の年代より高くなっています。

【性別・年代別にみた男女平等について(ウ 学校教育の場で)】

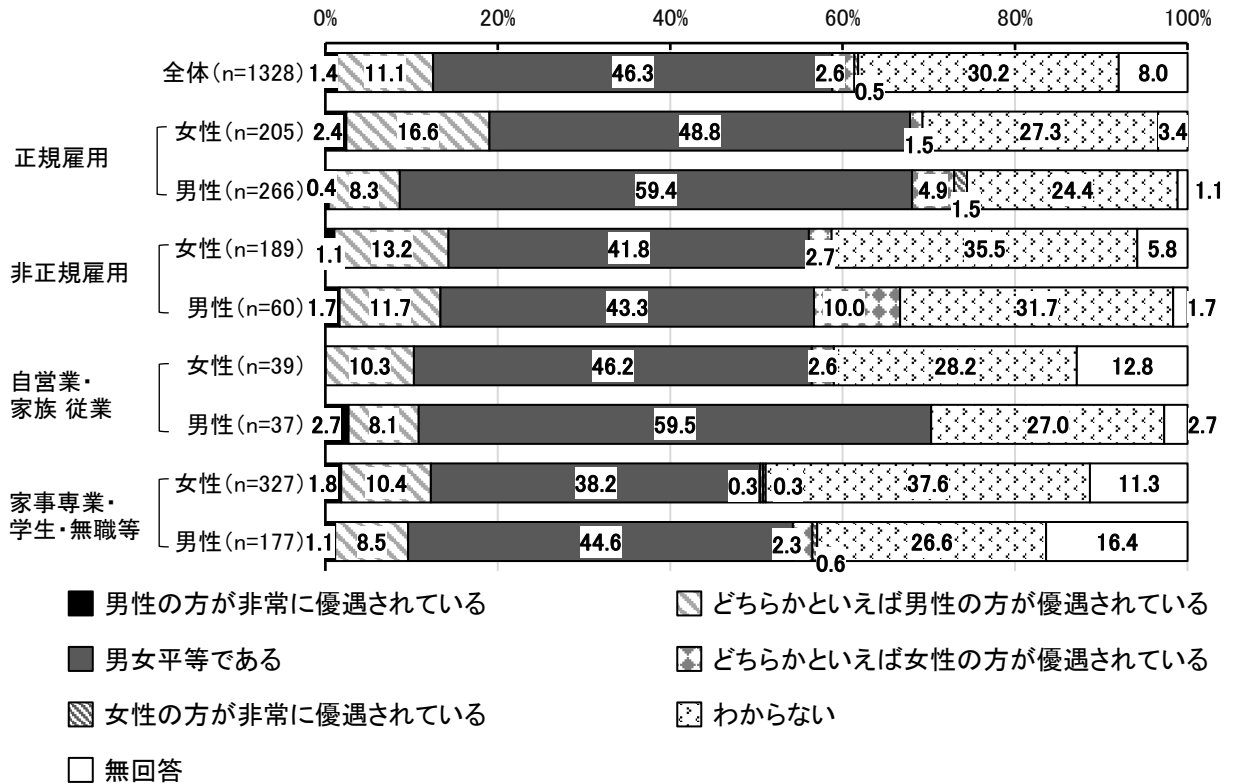


- 男性の方が非常に優遇されている
- 男性の方が優遇されている
- 男女平等である
- 女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

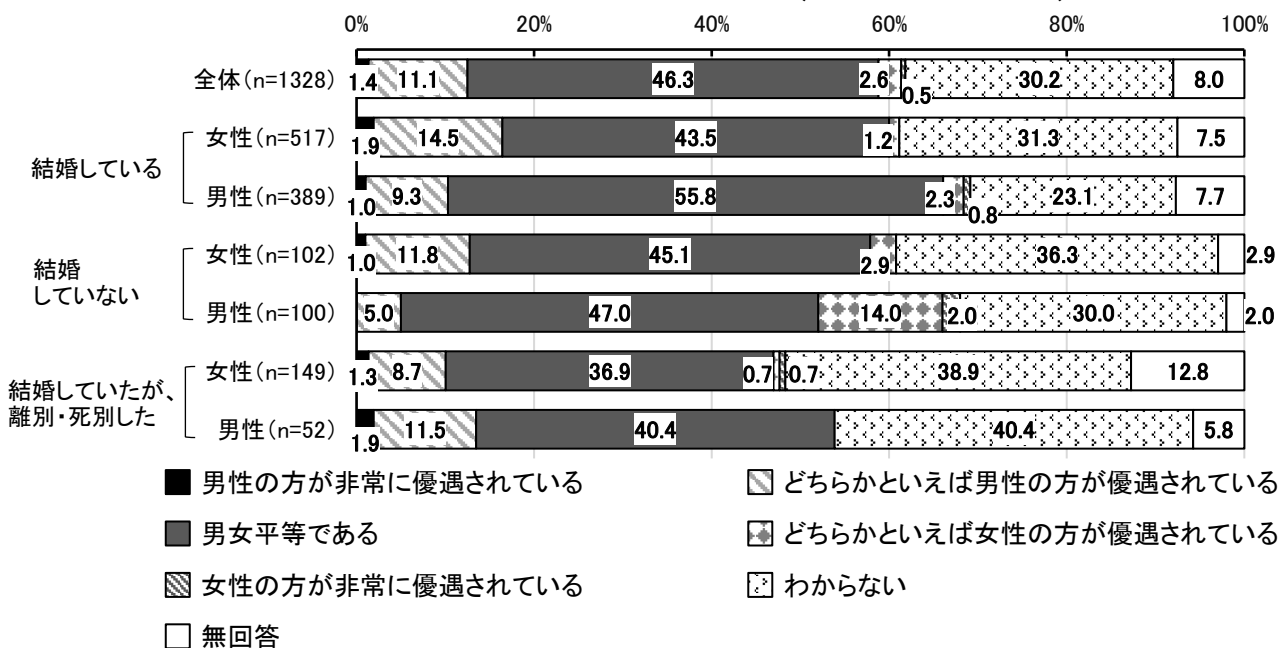
雇用形態別・性別にみると、正規雇用と自営業・家族従業の男性は、その他の男性に比べて「男女平等である」の割合が高くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚している男性はその他の男性に比べて「男女平等である」の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(ウ 学校教育の場で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(ウ 学校教育の場で)】



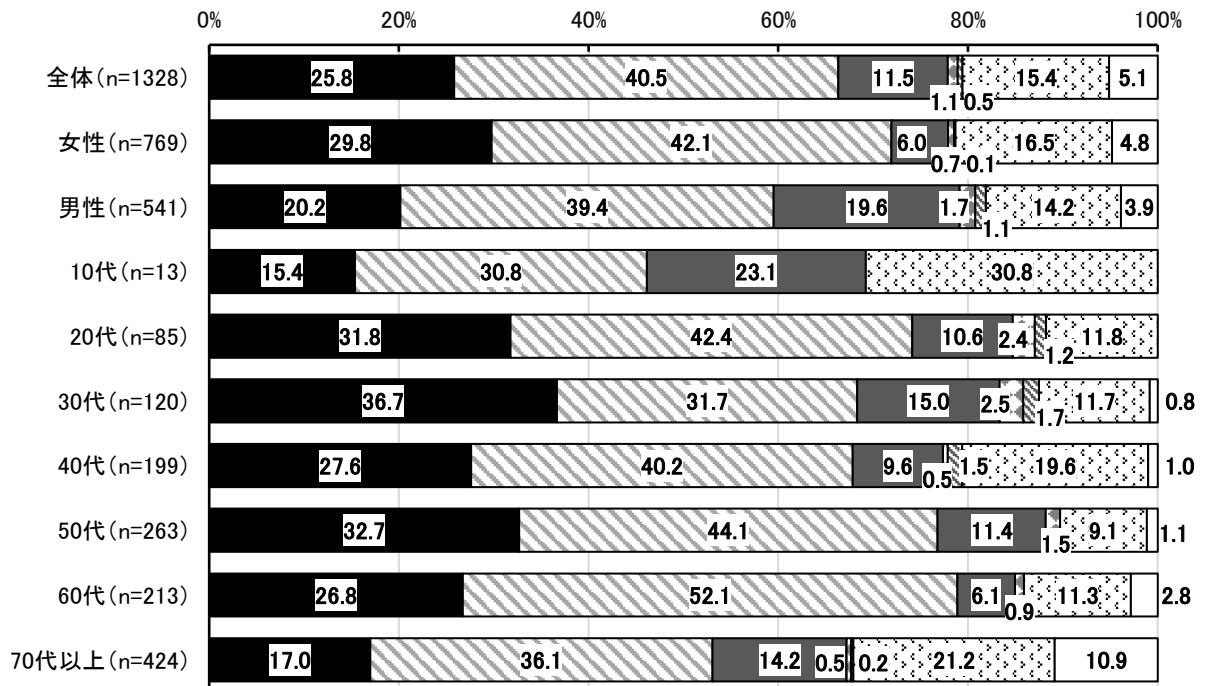
エ 政治の場で

政治の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」40.5%の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」25.8%、「わからない」15.4%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性 6.0%、男性 19.6%と男性が 13.6 ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で『男性優遇』の割合が高くなっており、20代、50代、60代では7割を超えています。

【性別・年代別にみた男女平等について(エ 政治の場で)】

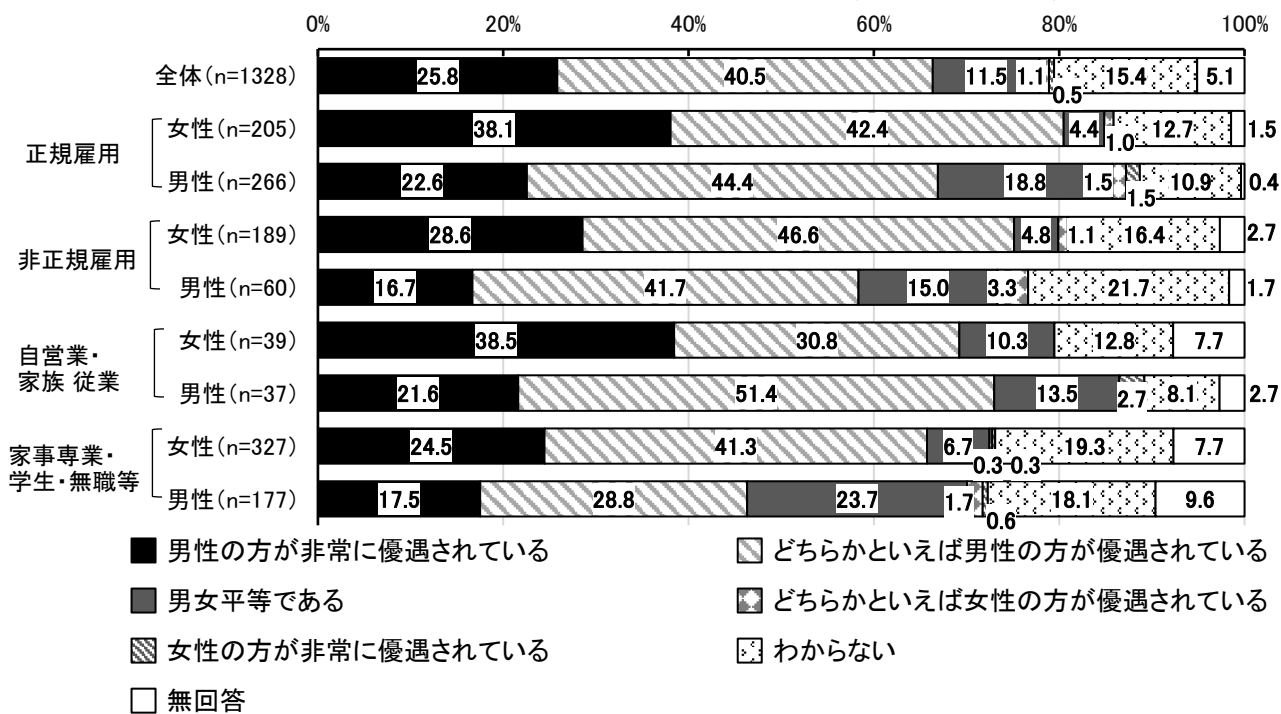


- 男性の方が非常に優遇されている
- 男女平等である
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▨ (斜線) どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ (点線) どちらかといえば女性の方が優遇されている
- (白) わからない

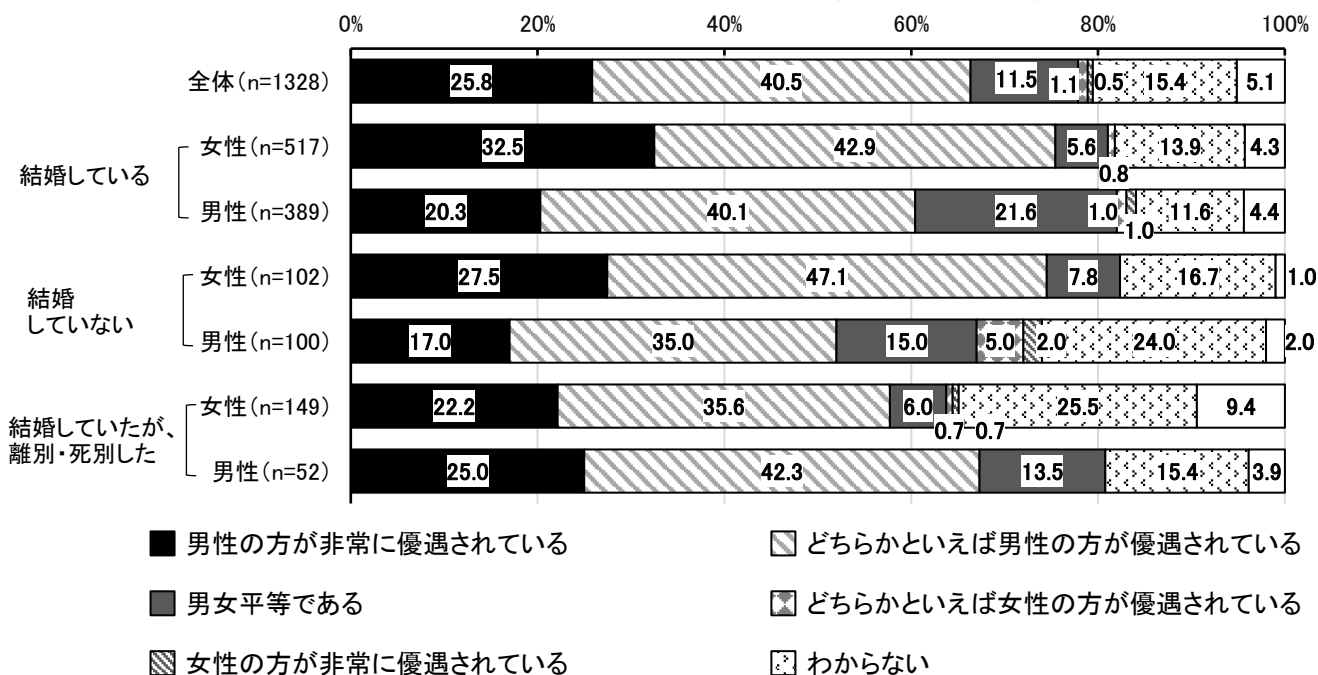
雇用形態別・性別にみると、女性では正規雇用、男性では自営業・家族従業で『男性優遇』の割合が高くなっています。また、家事専業・学生・無職等の男性はその他の男性に比べて『男性優遇』の割合が低くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚していたが離別・死別した女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が低くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(エ 政治の場で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(エ 政治の場で)】



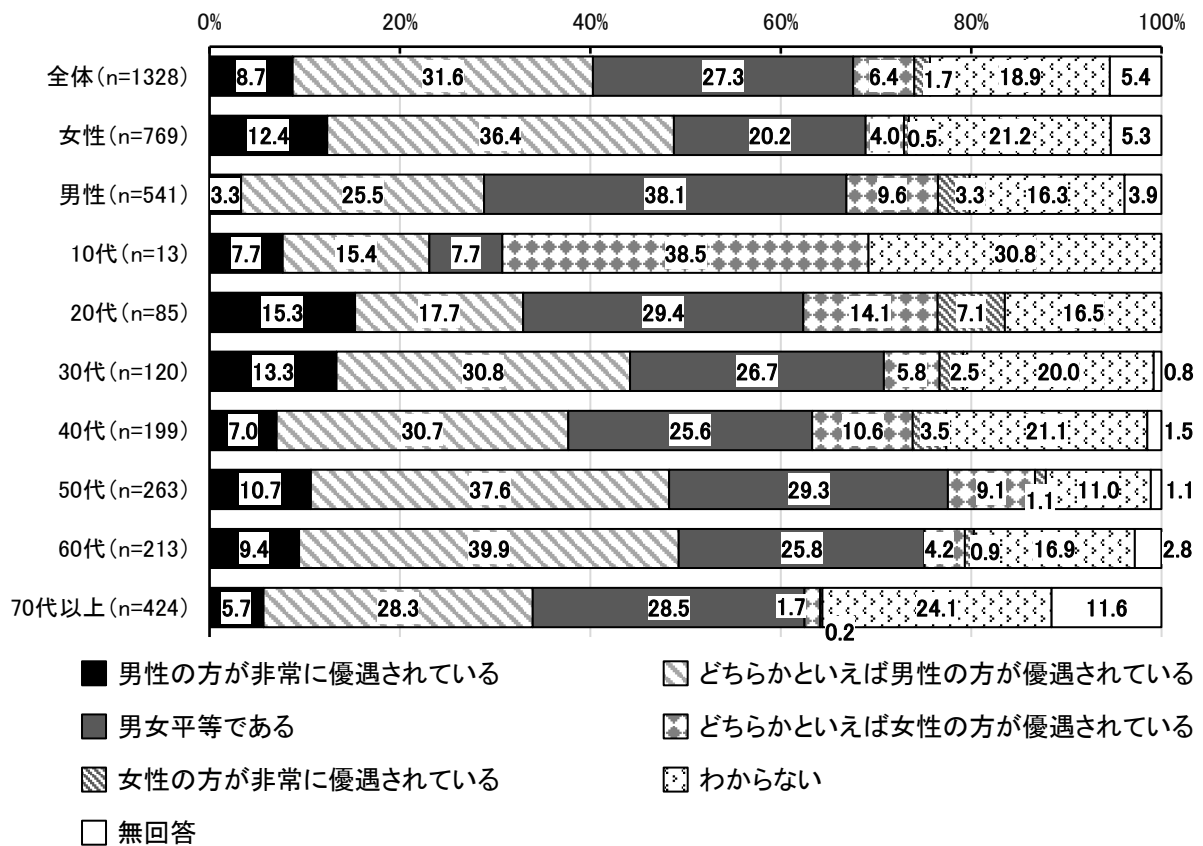
オ 法律や制度の上で

法律や制度の上での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」31.6%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」27.3%、「わからない」18.9%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は女性48.8%、男性28.8%と女性が20.0ポイント高くなっています。

年代別にみると、10代を除くすべての年代で『男性優遇』の割合が高くなっています。また、10代や20代では「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』（以下、同様）の割合が他の年代より高くなっています。

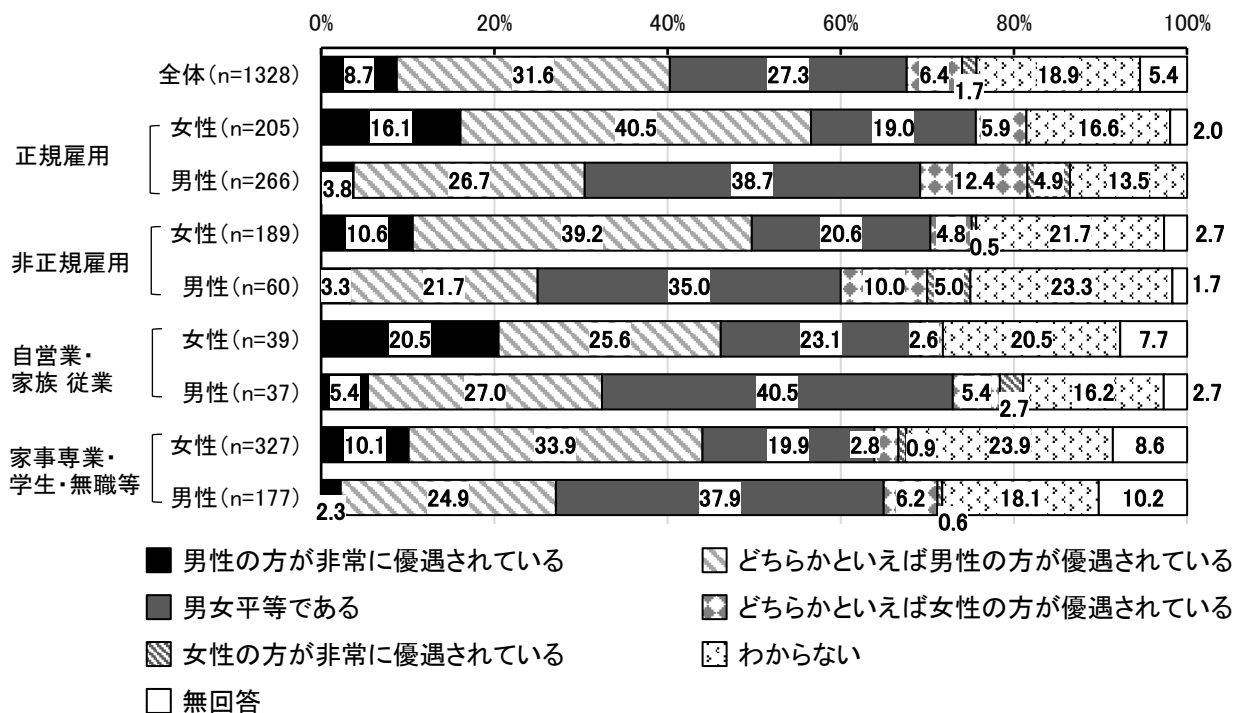
【性別・年代別にみた男女平等について(オ 法律や制度の上で)】



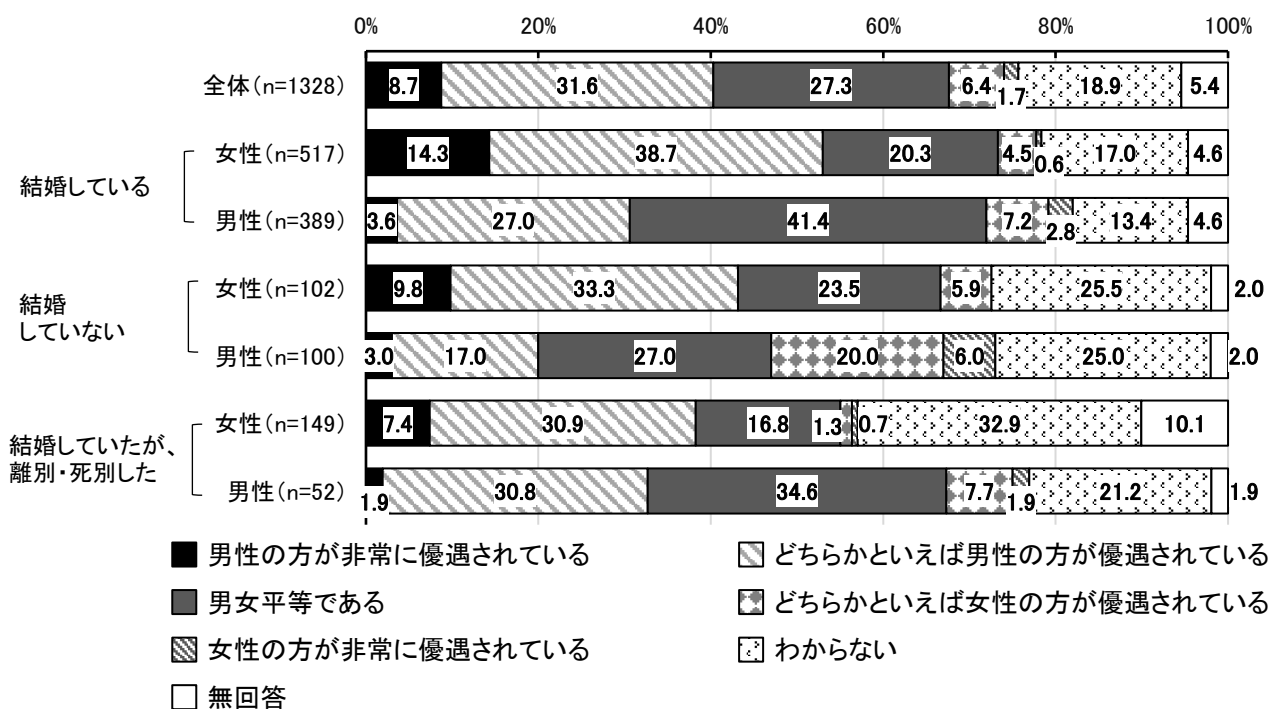
雇用形態別・性別にみると、正規雇用の女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が高くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚していない男性はその他の男性に比べて『女性優遇』の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(オ 法律や制度の上で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(オ 法律や制度の上で)】



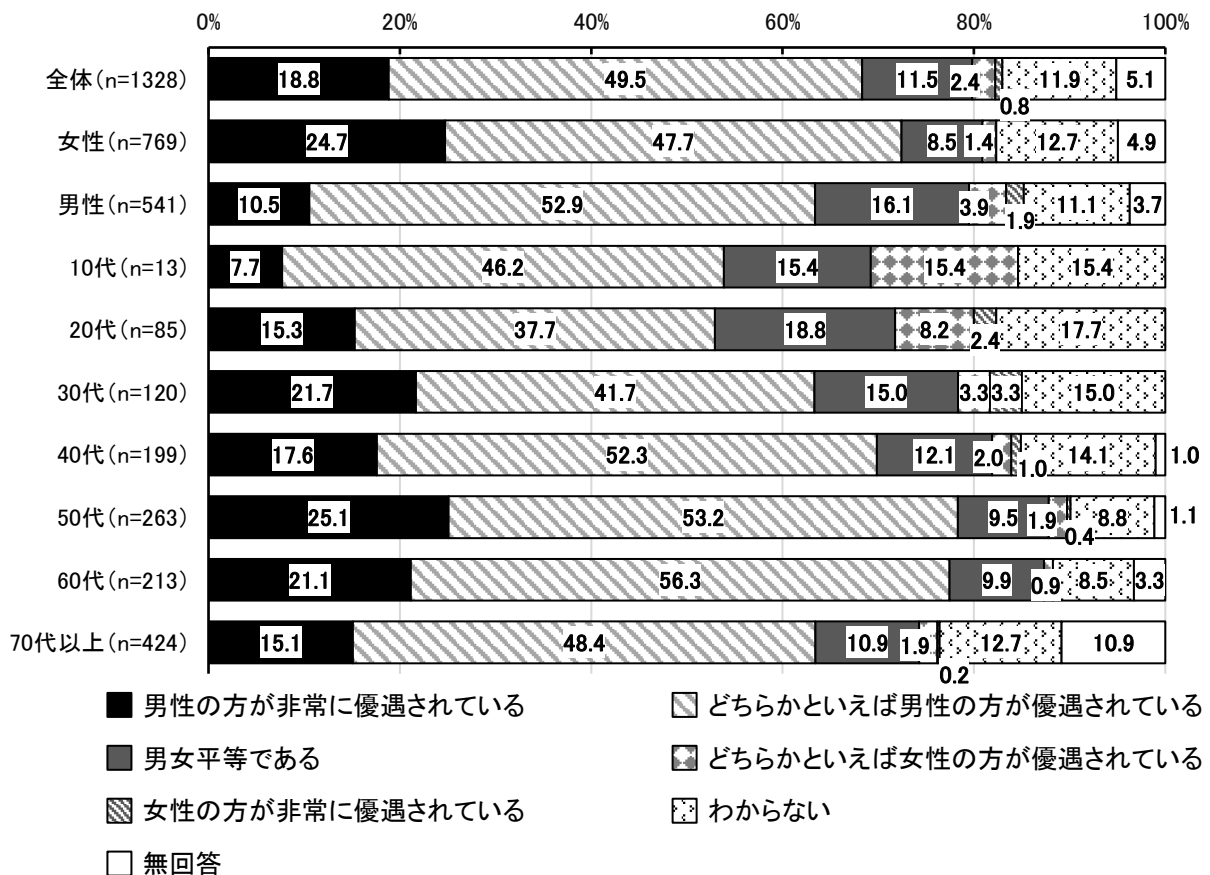
カ 社会通念・慣習・しきたりなどで

社会通念・慣習・しきたりなどでの男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」49.5%の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」18.8%、「わからない」11.9%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は女性 72.4%、男性 63.4%と女性が 9.0 ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で『男性優遇』の割合が高くなっており、50代、60代では7割を超えています。

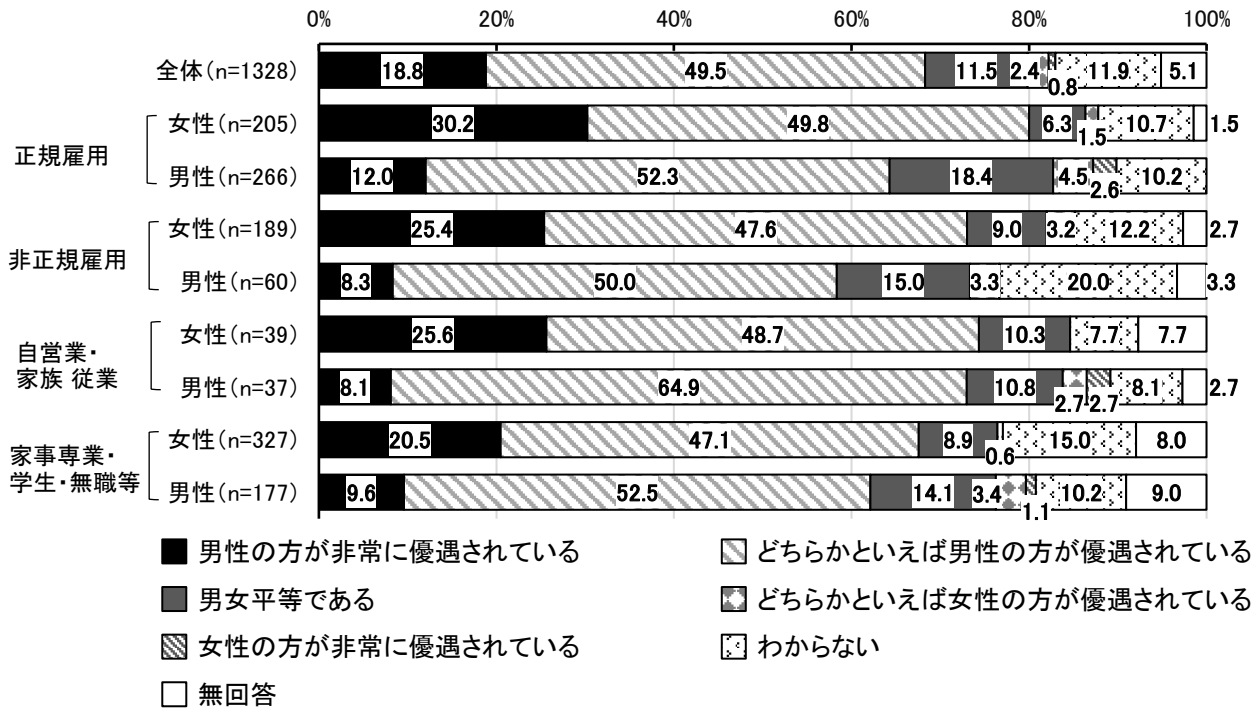
【性別・年代別にみた男女平等について(カ 社会通念・慣習・しきたりなどで)】



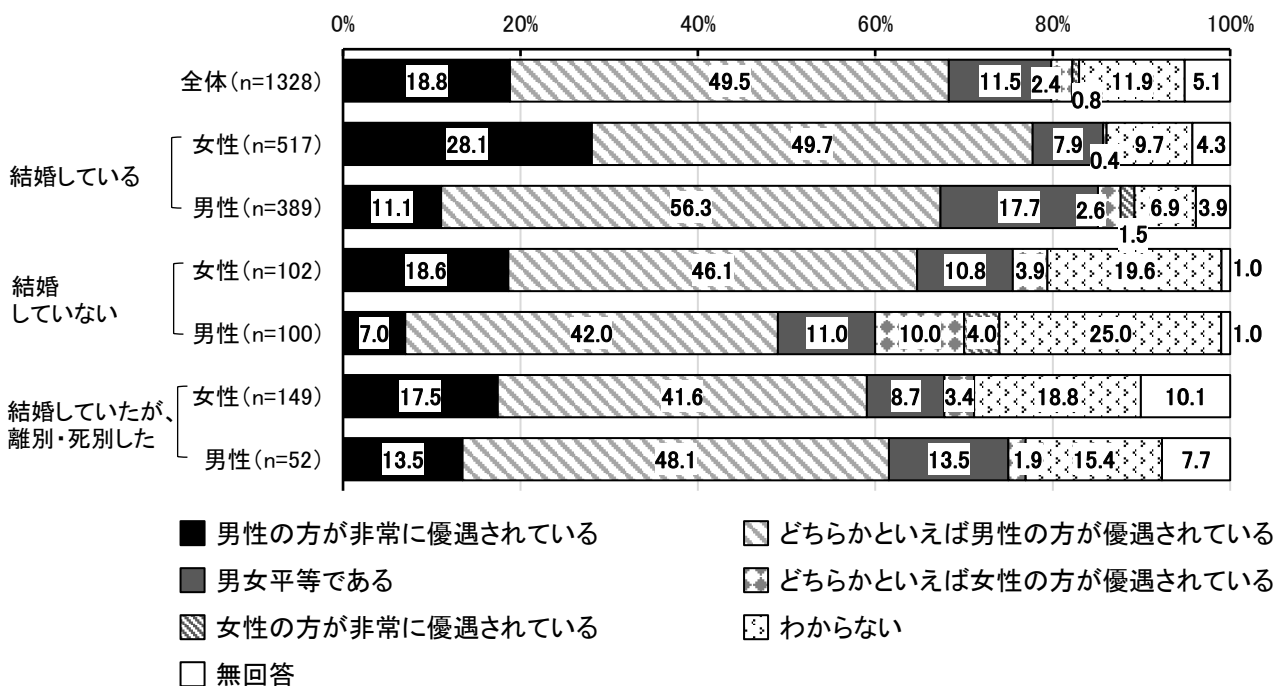
雇用形態別・性別にみると、女性では正規雇用、男性では自営業・家族従業で『男性優遇』の割合が高くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚している女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(カ 社会通念・慣習・しきたりなどで)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(カ 社会通念・慣習・しきたりなどで)】



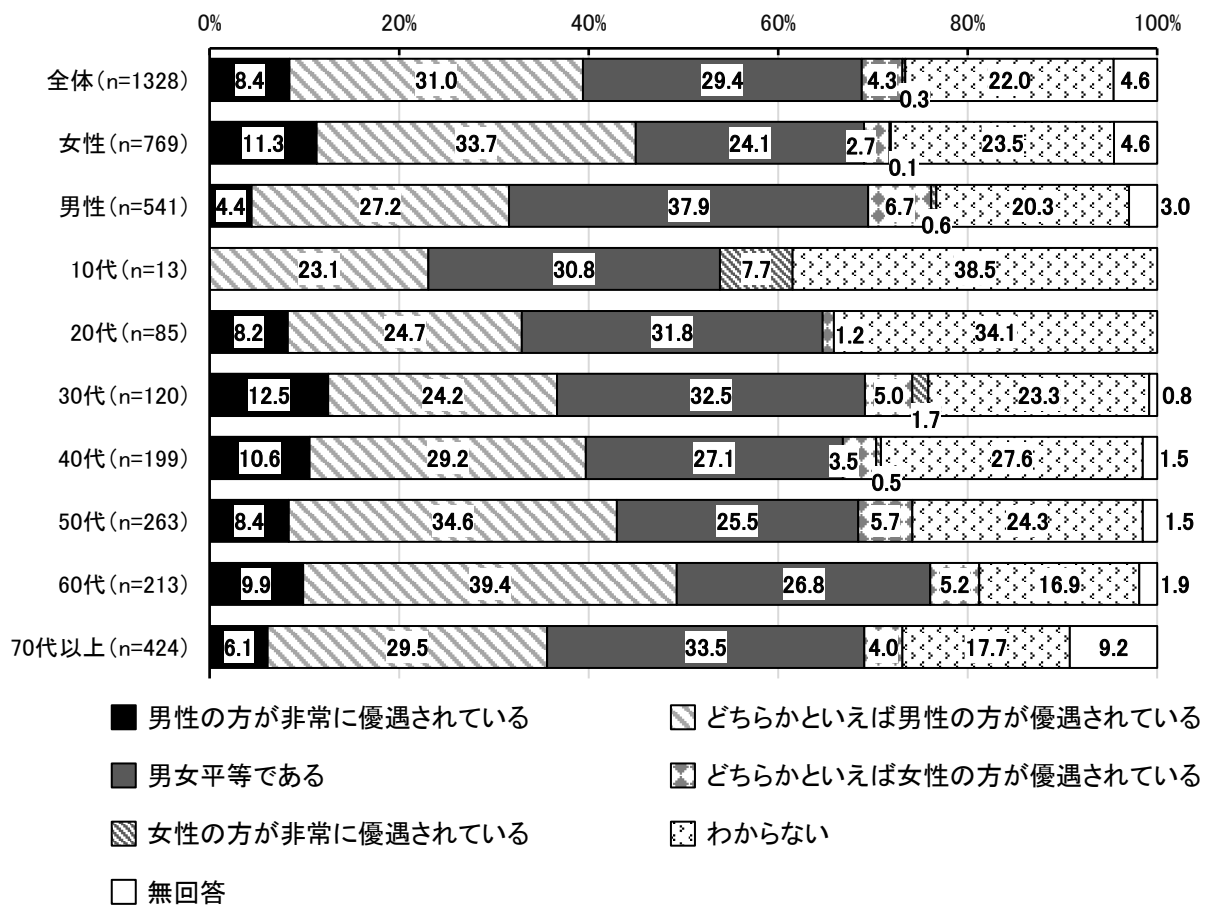
キ 自治会などの地域活動の場で

自治会などの地域活動の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」31.0%の割合が最も高く、次いで「男性平等である」29.4%、「わからない」22.0%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は女性45.0%、男性31.6%と女性が13.4ポイント高くなっています。

年代別にみると、10代、20代を除くすべての年代で『男性優遇』の割合が高くなっています。

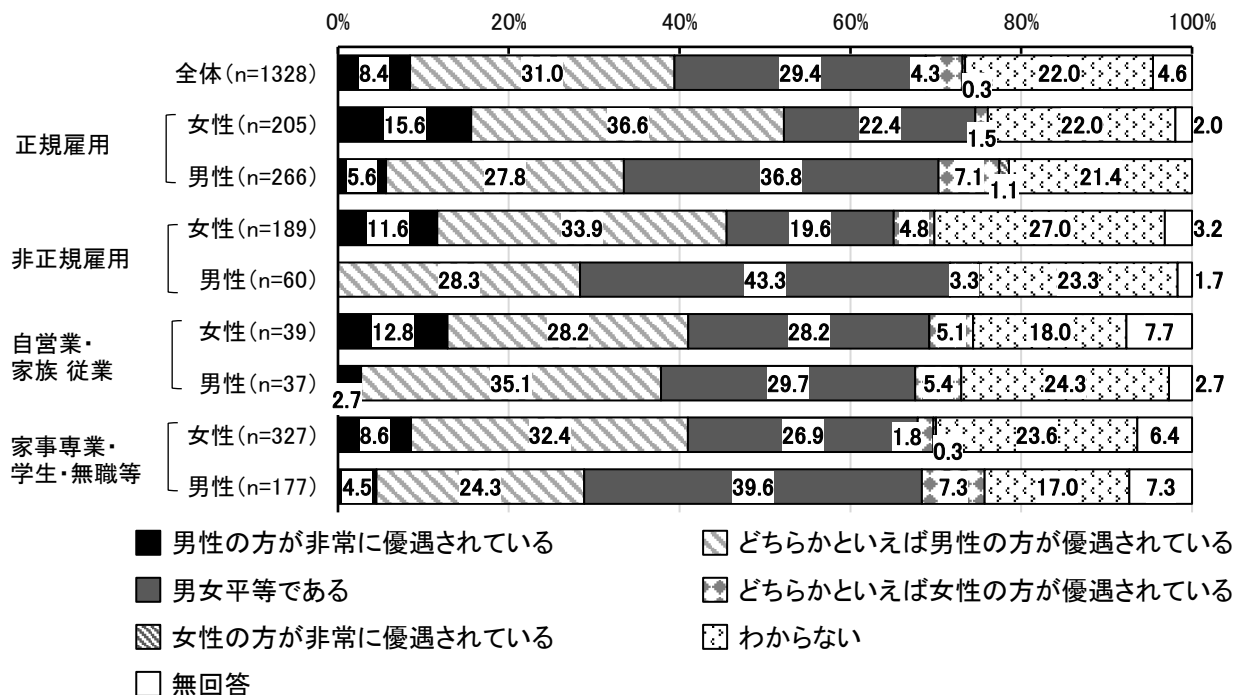
【性別・年代別にみた男女平等について(キ 自治会などの地域活動の場で)】



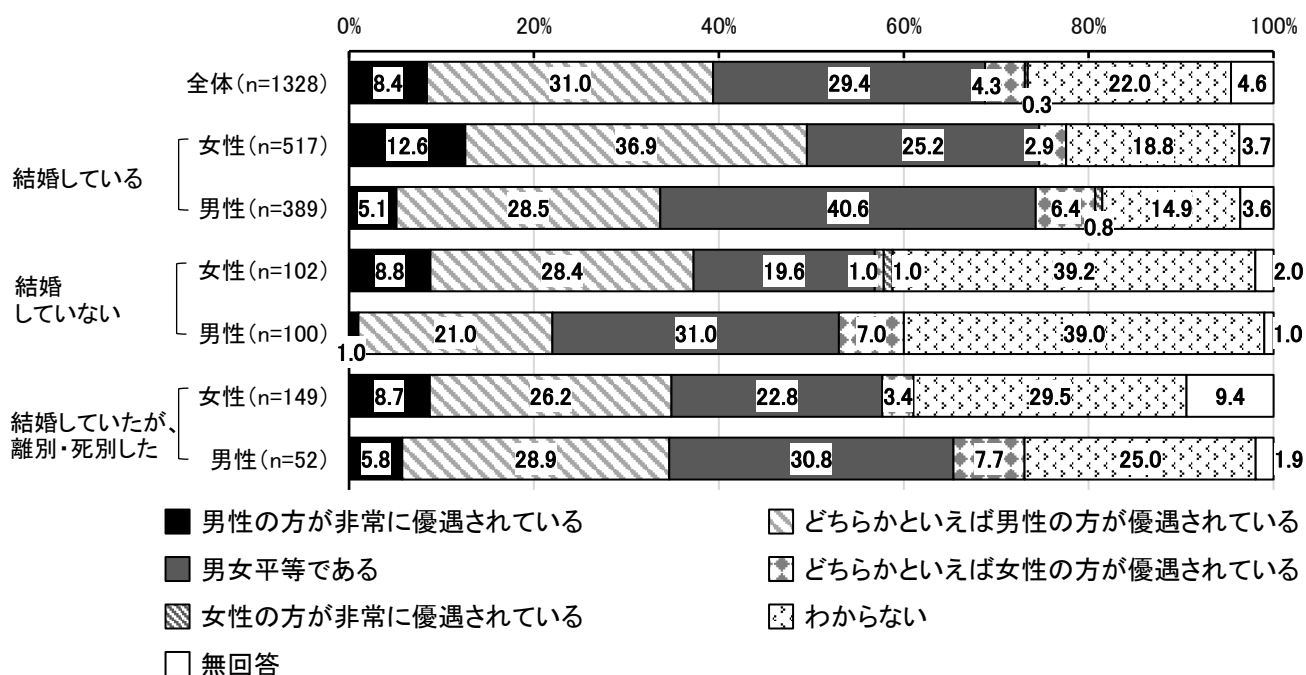
雇用形態別・性別にみると、正規雇用の女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が高くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚している男性はその他の男性に比べて「男女平等である」の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(キ 自治会などの地域活動の場で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(キ 自治会などの地域活動の場で)】



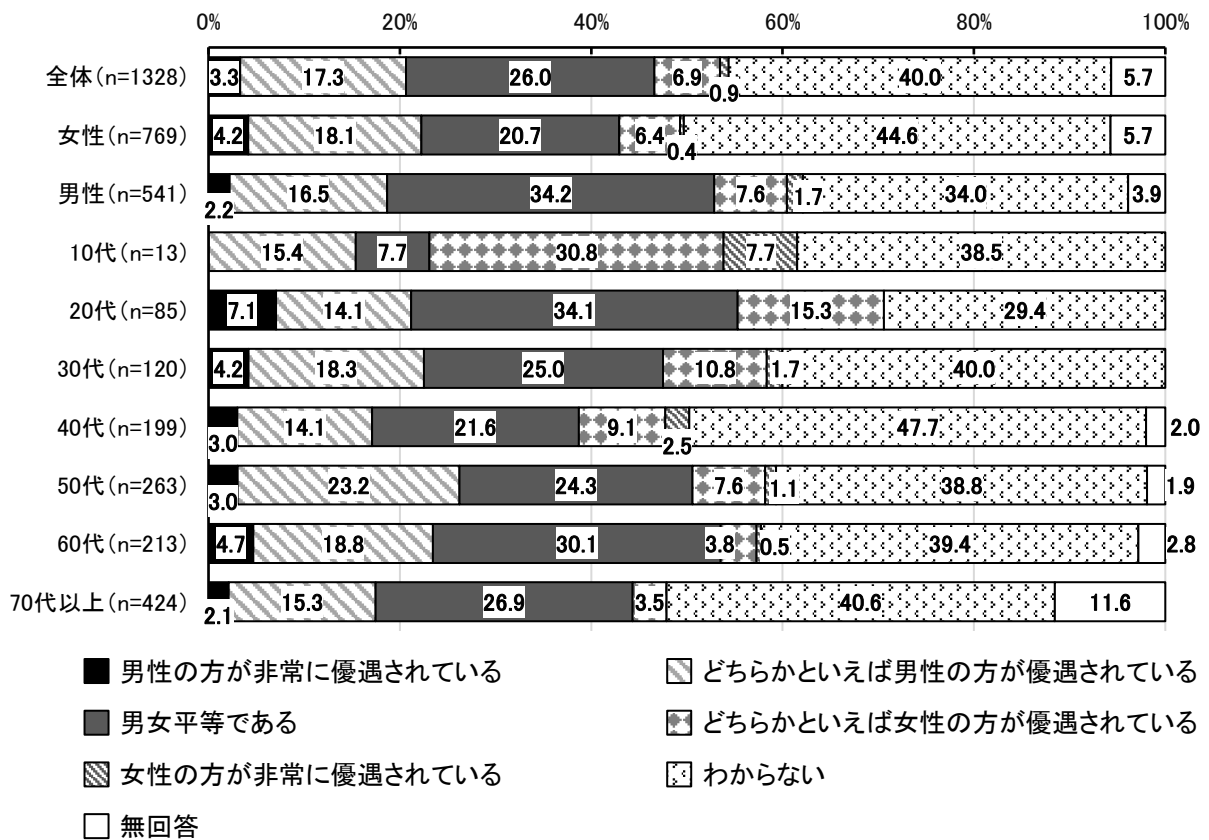
ク 災害時の避難所・避難場所等で

災害時の避難所・避難場所等での男女平等についてみると、「わからない」40.0%の割合が最も高く、次いで「男性平等である」26.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」17.3%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性20.7%、男性34.2%と男性が13.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、10代は『女性優遇』、50代は『男性優遇』、それ以外の年代は「男女平等である」の割合が高くなっています。

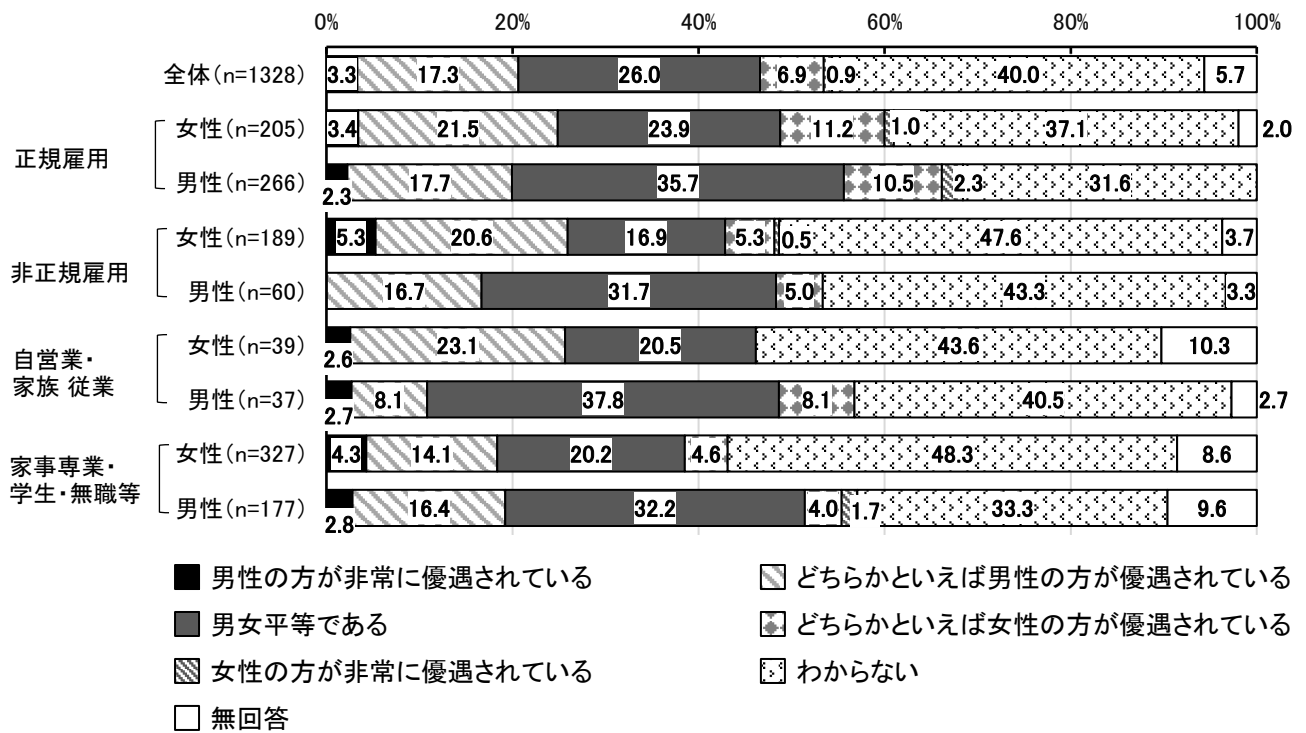
【性別・年代別にみた男女平等について(ク 災害時の避難所・避難場所等で)】



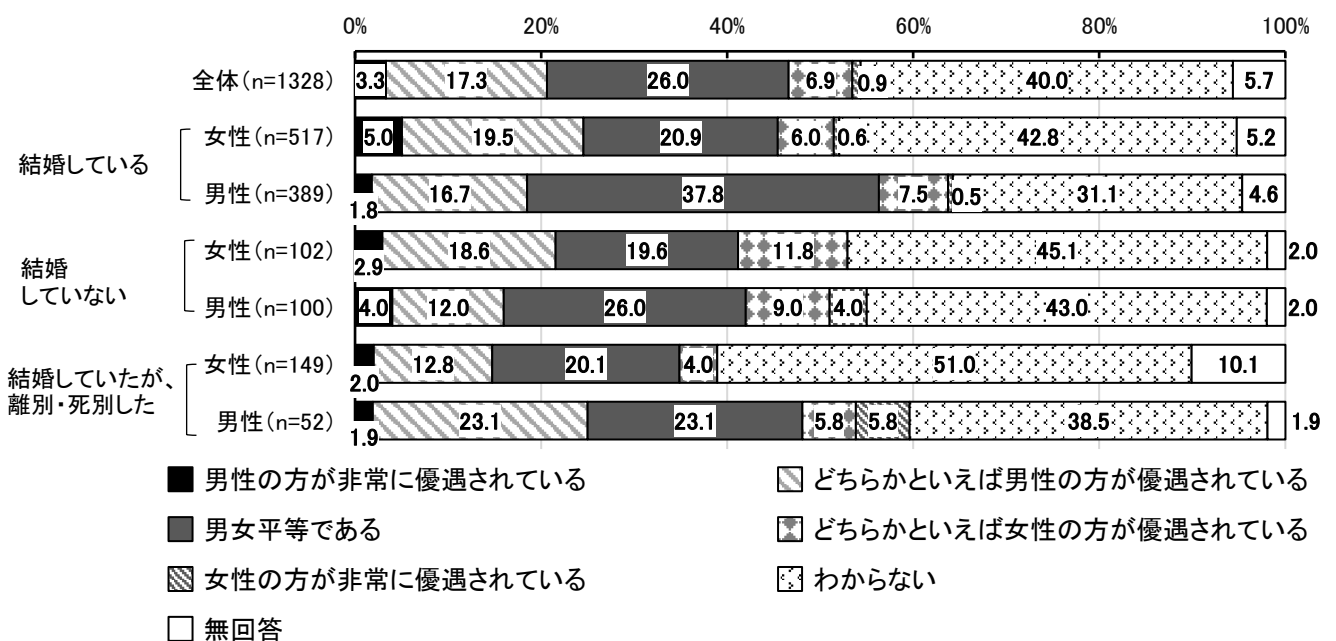
雇用形態別・性別にみると、家事専業・学生・無職等の女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が低くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚している男性はその他の男性に比べて「男女平等である」の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(ク 災害時の避難所・避難場所等で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(ク 災害時の避難所・避難場所等で)】



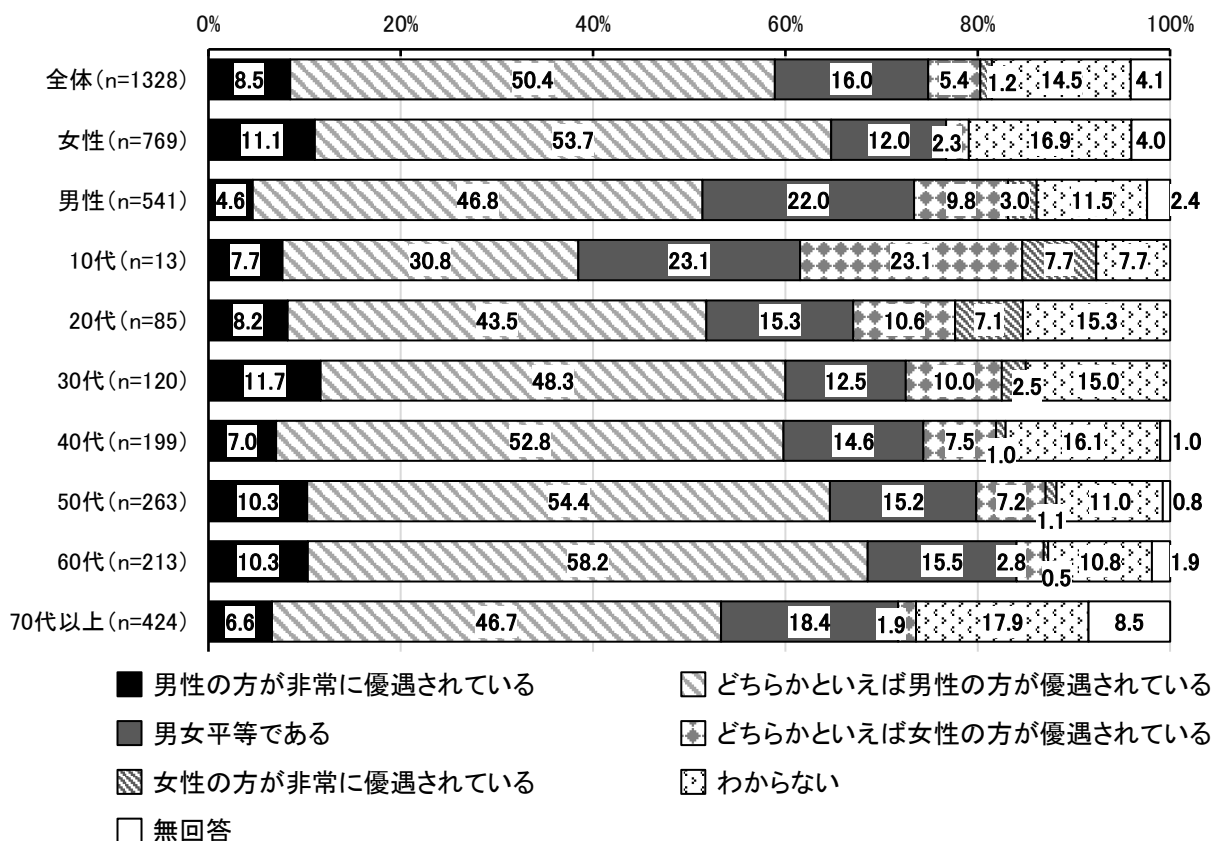
ケ 社会全体で

社会全体での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」50.4%の割合が最も高く、次いで「男性平等である」16.0%、「わからない」14.5%の順となっています。

性別にみると、『男性優遇』は女性64.8%、男性51.4%と女性が13.4ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で『男性優遇』の割合が高くなっています。

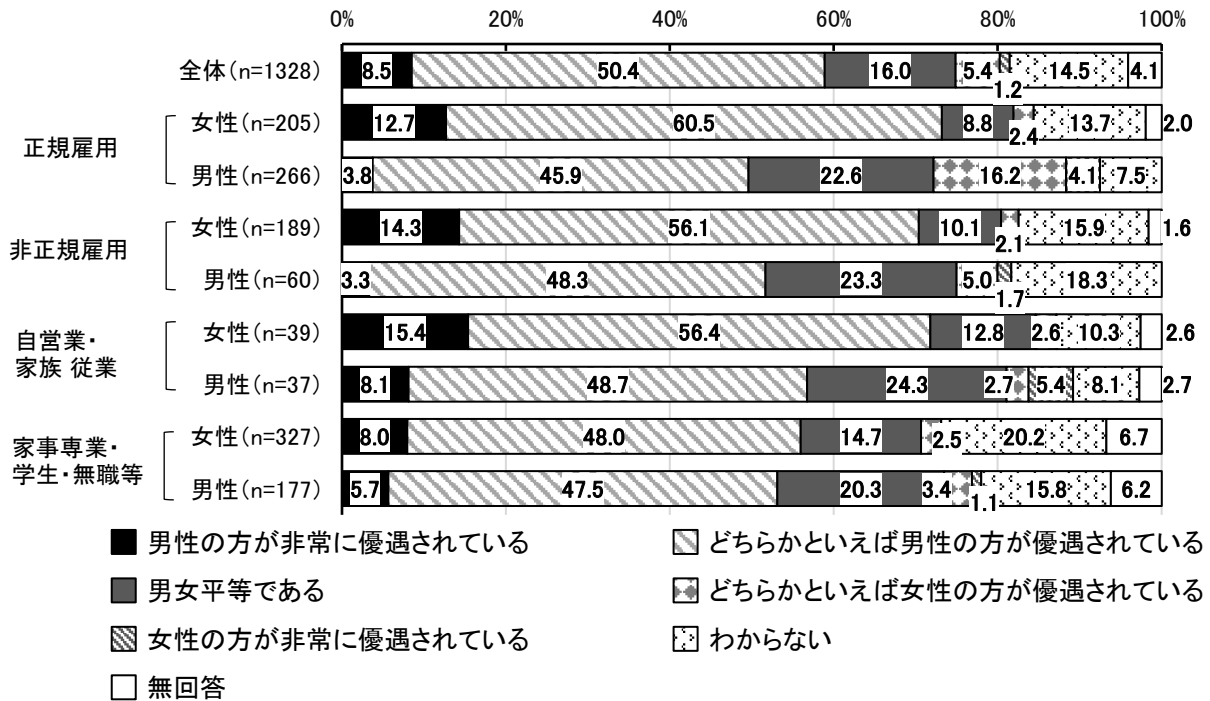
【性別・年代別にみた男女平等について(ケ 社会全体で)】



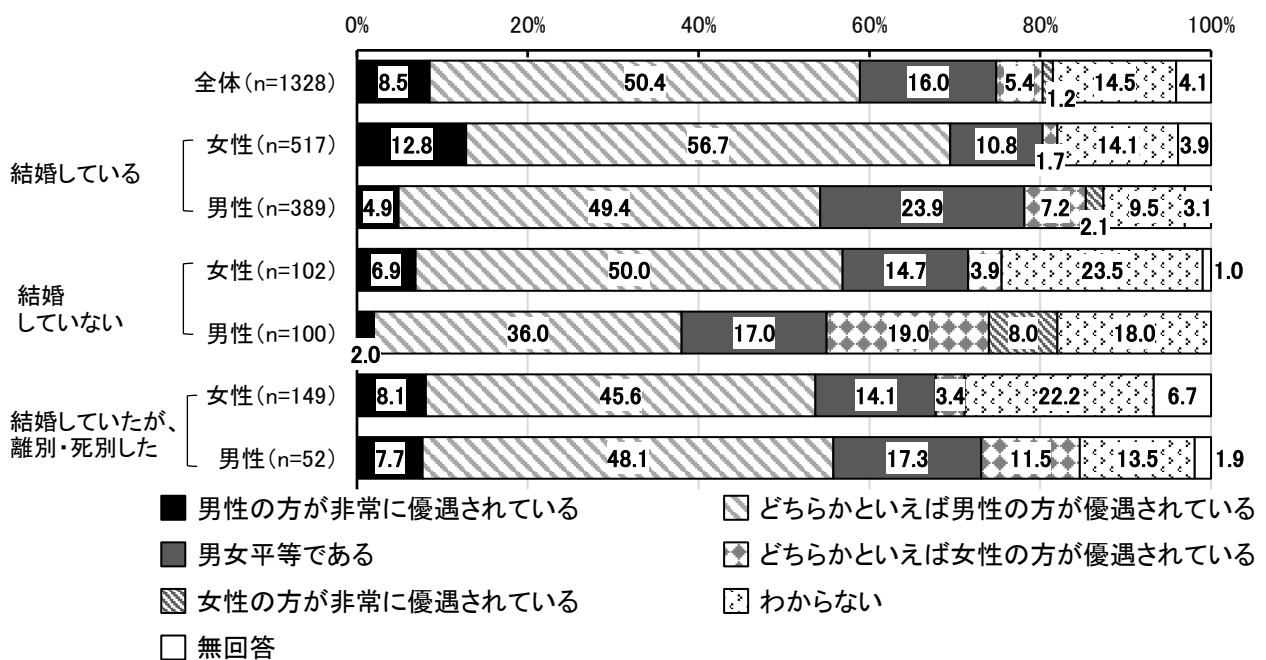
雇用形態別・性別にみると、家事専業・学生・無職等の女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が低くなっています。

婚姻状況別・性別にみると、結婚している女性はその他の女性に比べて『男性優遇』の割合が高くなっています。また、結婚していない男性はその他の男性に比べて『女性優遇』の割合が高くなっています。

【自身の雇用形態別・性別にみた男女平等について(ケ 社会全体で)】



【婚姻状況別・性別にみた男女平等について(ケ 社会全体で)】



## 職業、職場環境について

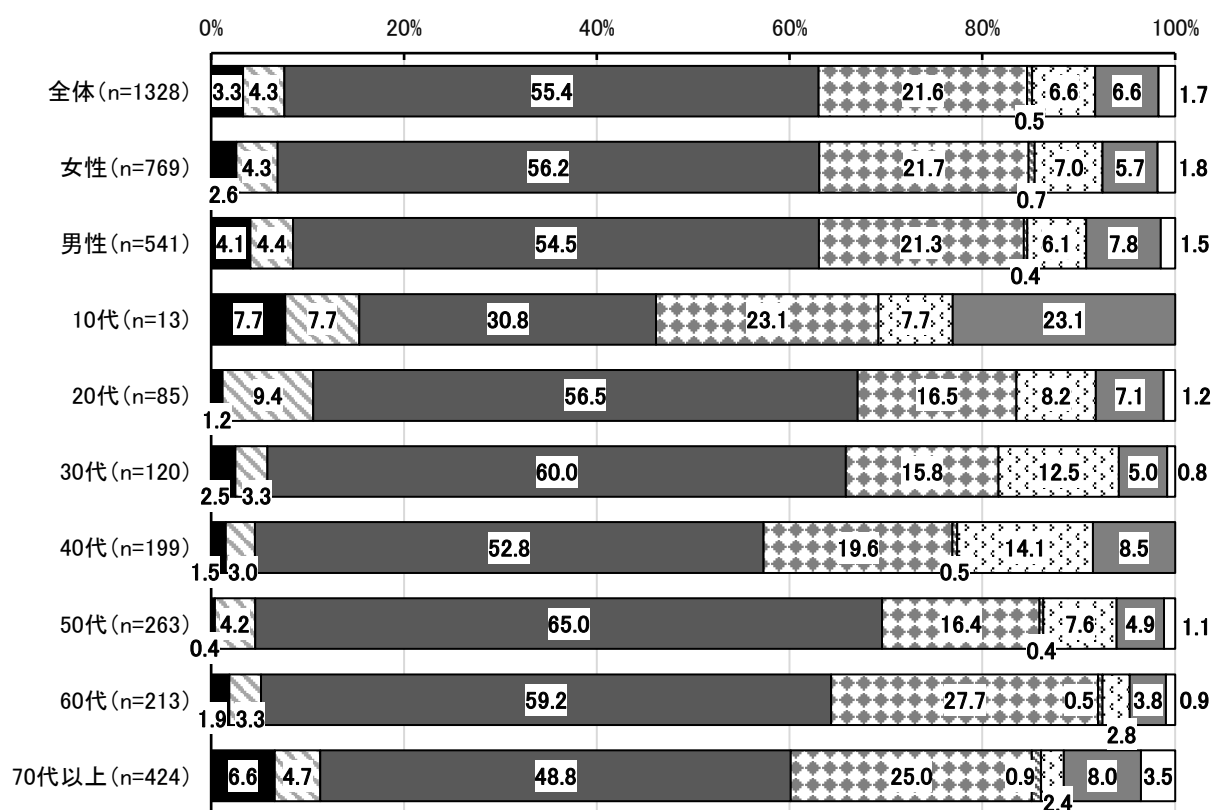
### 問2 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

一般的に女性が職業を持つことについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」55.4%の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」21.6%の順となっており、「その他」としては「人それぞれ」、「個人の自由」、「家庭状況によって異なる」などの回答が多くなっています。

性別にみると、概ね同様の割合となっています。

年代別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は50代で65.0%と全体55.4%より9.6ポイント高くなっています。

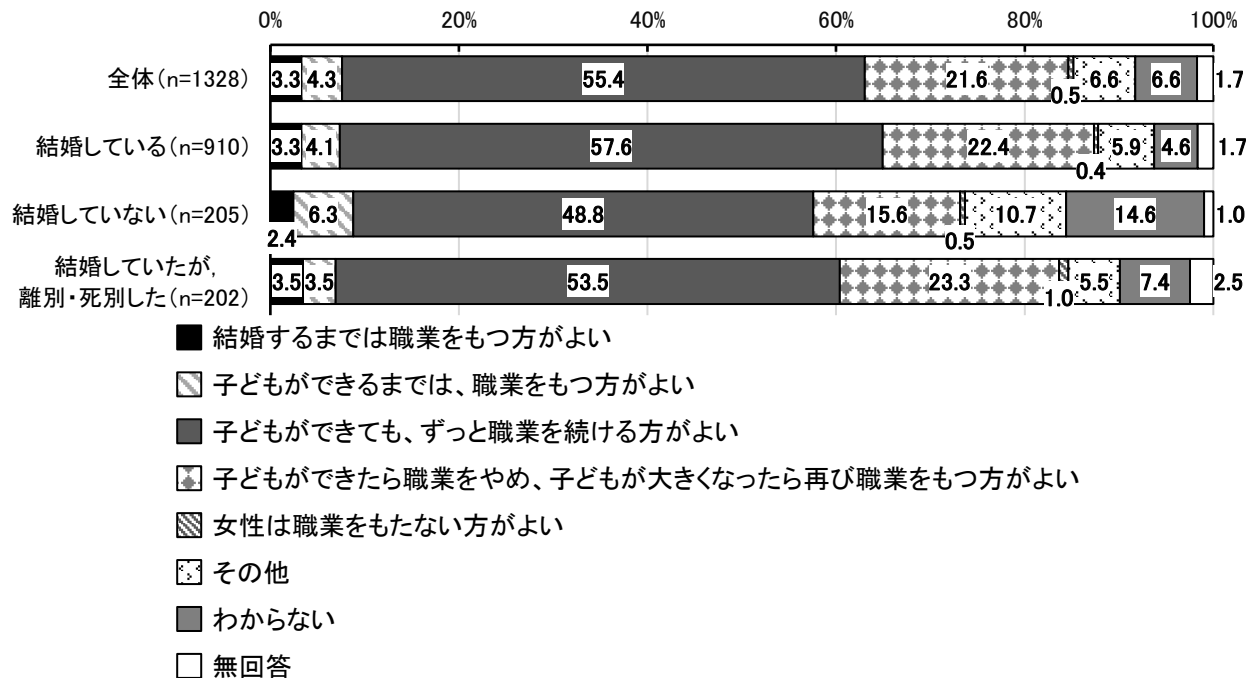
【性別・年代別にみた一般的に女性が職業を持つことについて】



- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- ▨ 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ▨ 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- ▨ 女性には職業をもたない方がよい
- ▨ その他
- わからない
- 無回答

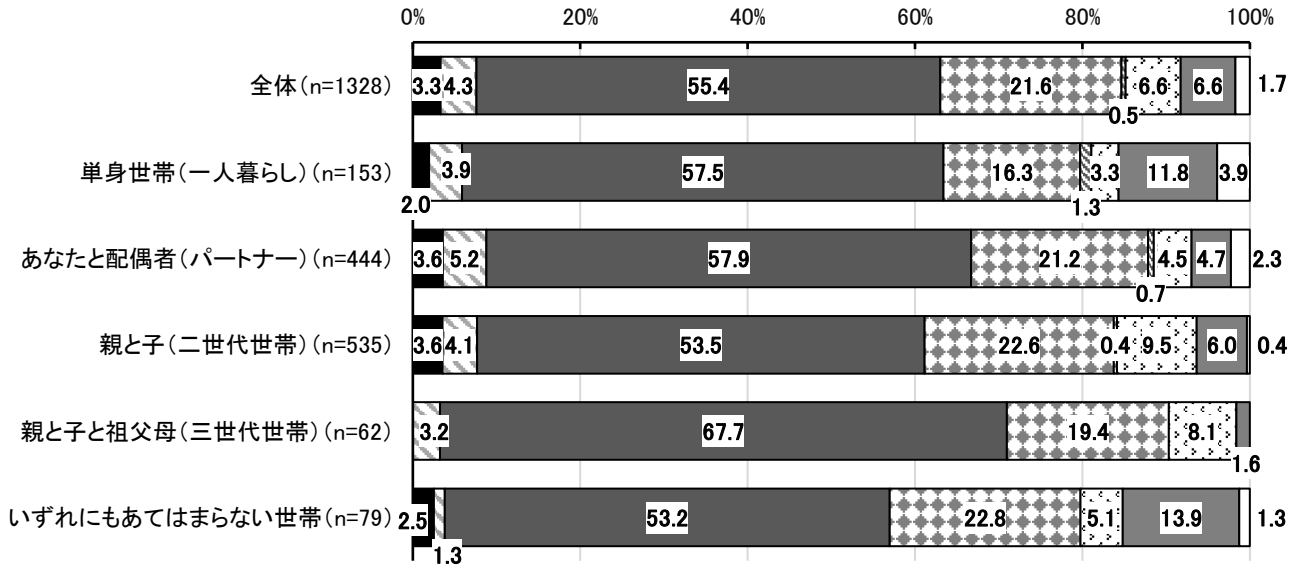
婚姻状況別にみると、すべての婚姻状況別で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が最も高くなっています。

【婚姻状況別にみた一般的に女性が職業を持つことについて】



世帯構成別にみると、親と子と祖父母（三世帯世帯）の世帯は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が67.7%と全体55.4%より12.3ポイント高くなっています。

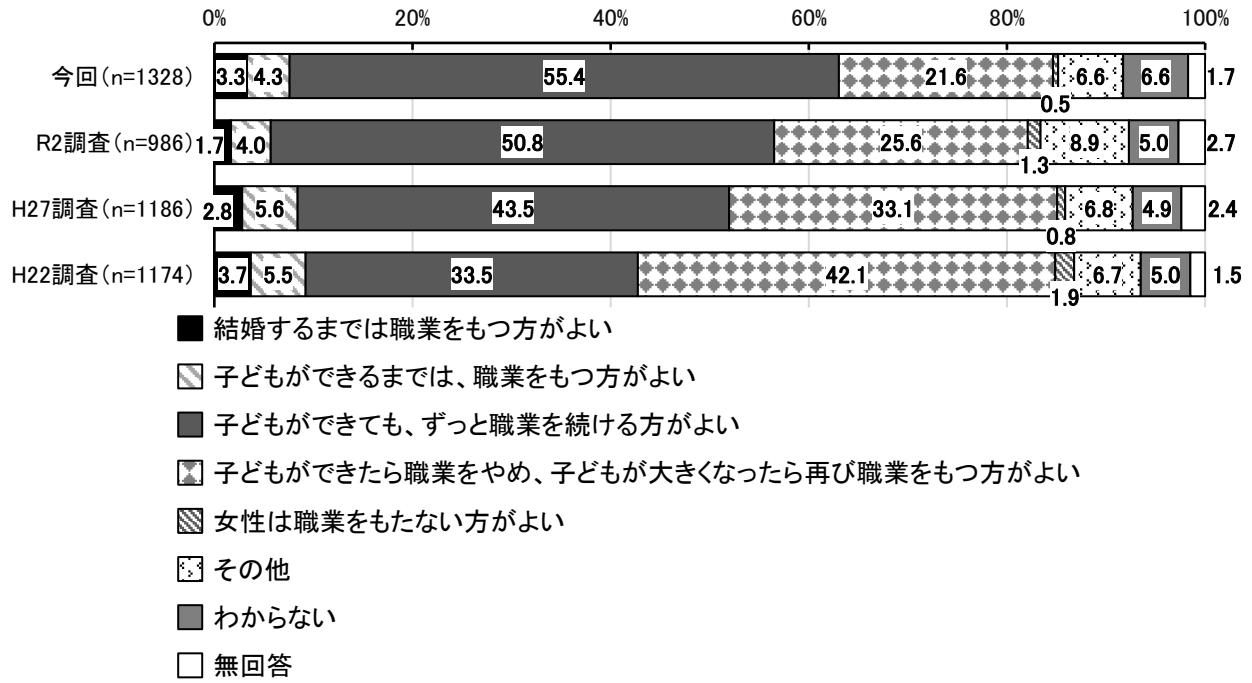
【世帯構成別にみた一般的に女性が職業を持つことについて】



- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- ▨ 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ▨ 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- ▨ 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

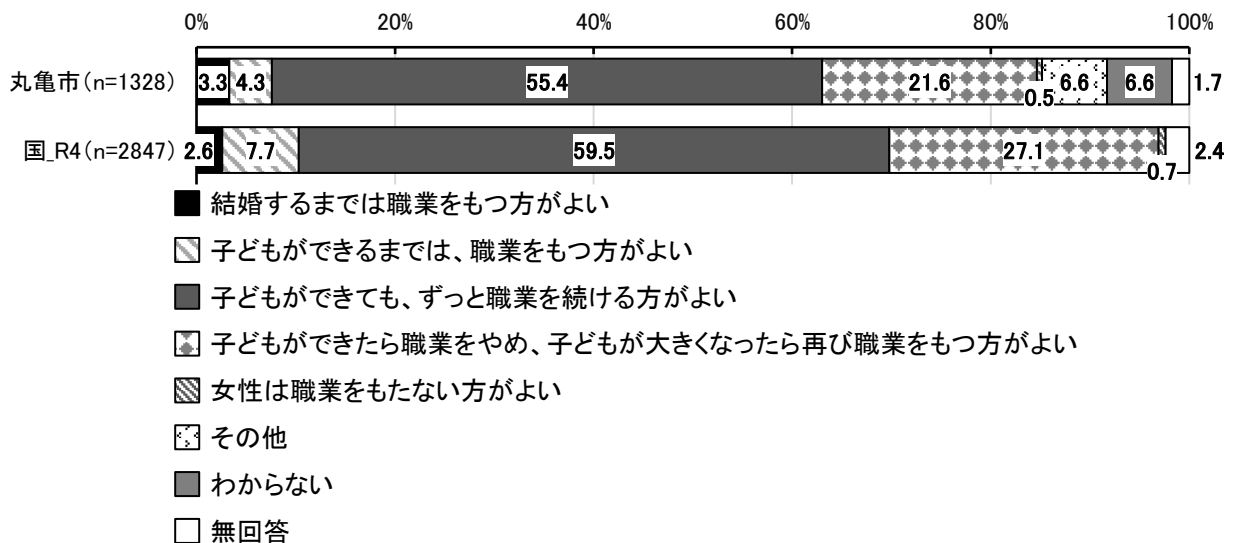
過去調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっており、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合は低くなっています。

【過去調査と比較した一般的に女性が職業を持つことについて】



国と比較すると、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合は、国より低くなっています。

【国と比較した一般的に女性が職業を持つことについて】



※参考：令和4年11月実施「男女共同参画社会に関する世論調査」内閣府調査

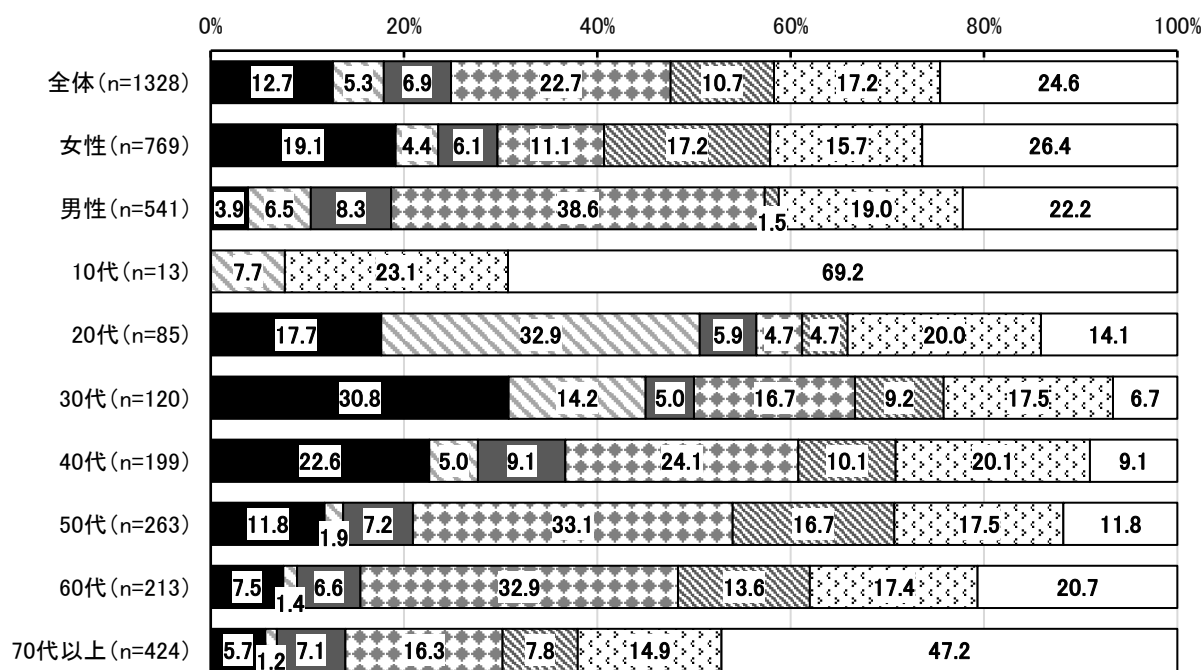
**問3 【就職している方、就職していた方に伺います】 → 【そのほかの方は問8へ】**  
**育児休業の取得についてお聞かせください。(〇は1つ)**

就職している方、就職していた方の育児休業の取得についてみると、「取得するつもりはない(取得しなかった)」22.7%の割合が最も高く、次いで「わからない」17.2%、「取得したことがある」12.7%の順となっています。

性別にみると、「取得したことがある」は女性19.1%、男性3.9%と女性が15.2ポイント高くなっており、「取得するつもりはない(取得しなかった)」は女性11.1%、男性38.6%と男性が27.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、「取得したことがある」は30代をピークに年代が上がるにつれて割合が低くなっており、「取得するつもりはない(取得しなかった)」の割合は、40~60代で高くなっています。

【性別・年代別にみた育児休業の取得について】

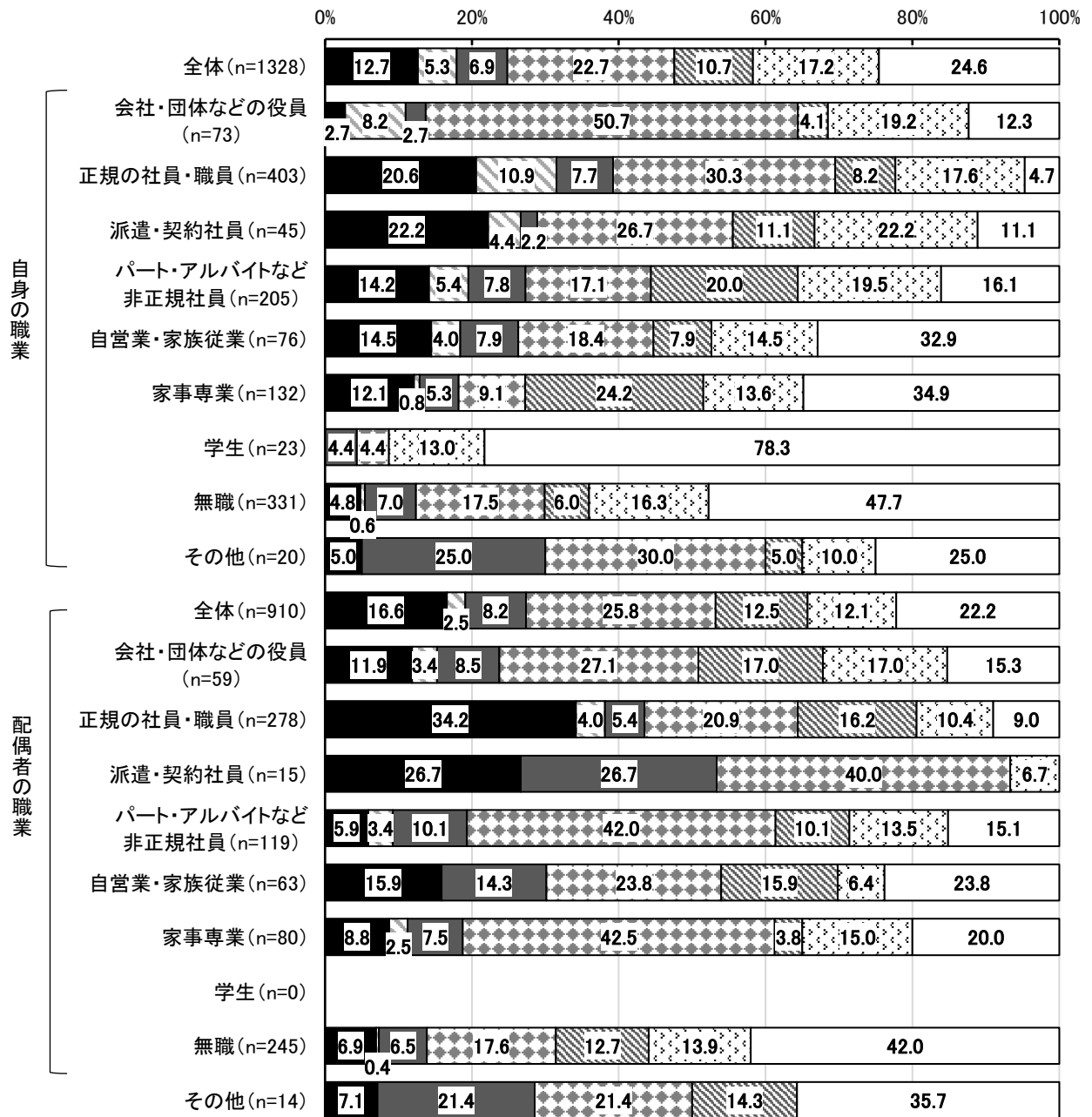


- 取得したことがある
- 希望するが、取得できない(できなかった)
- ▨ 取得せず出産または育児を理由に退職する(した)
- 無回答
- ▨ 取得するつもりである
- ▨ 取得するつもりはない(取得しなかった)
- ▨ わからない

自身の職業別にみると、「取得したことがある」の割合は派遣・契約社員、正規の社員・職員、自営業・家族従業の順に高く、「希望するが、取得できない（できなかった）」の割合はその他が最も高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「取得したことがある」の割合は正規の社員・職員、派遣・契約社員、自営業・家族従業の順に高く、「希望するが、取得できない（できなかった）」の割合は派遣・契約社員が最も高くなっています。

【自身の職業別・配偶者の職業別にみた育児休業の取得について】

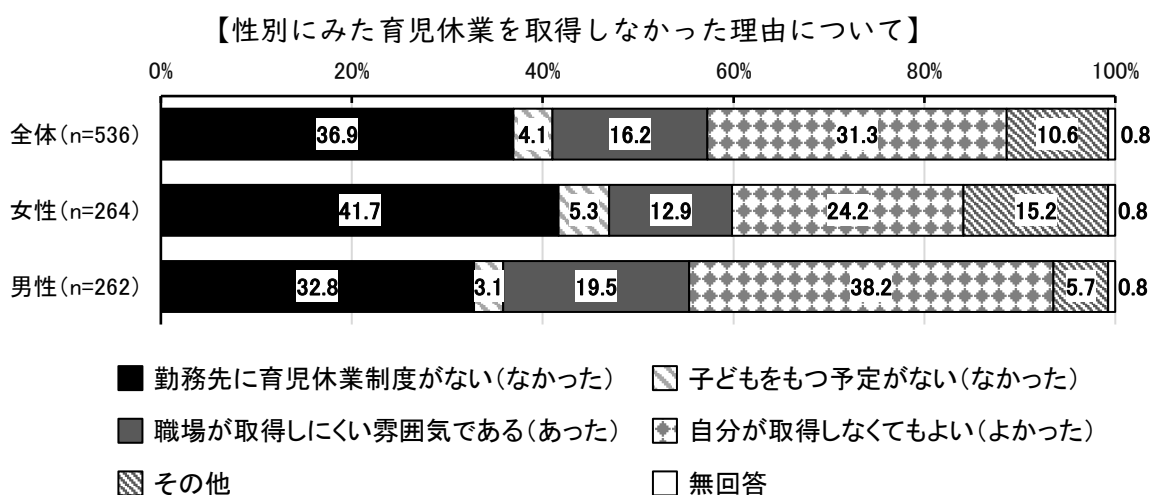


- 取得したことがある
- 希望するが、取得できない(できなかった)
- ▨ 取得せず出産または育児を理由に退職する(した)
- 無回答
- ▨ 取得するつもりである
- ▨ 取得するつもりはない(取得しなかった)
- わからない

問4 【問3で「希望するが、取得できない（できなかった）」、「取得するつもりはない（取得しなかった）」、「取得せず出産または育児を理由に退職する（した）」と答えた方に伺います】→【そのほかの方は問5へ】  
それはなぜですか。（○は1つ）

就職している方、就職していた方のうち、育児休業を取得しなかった理由をみると、「勤務先に育児休業制度がない（なかった）」36.9%の割合が最も高く、次いで「自分が取得しなくてもよい（よかった）」31.3%、「職場が取得しにくい雰囲気である（あった）」16.2%の順となっています。「その他」としては「昔は育児休業制度がなかった」、「子どもをみてくれる人がいなかった」、「収入に影響する」などの回答がありました。

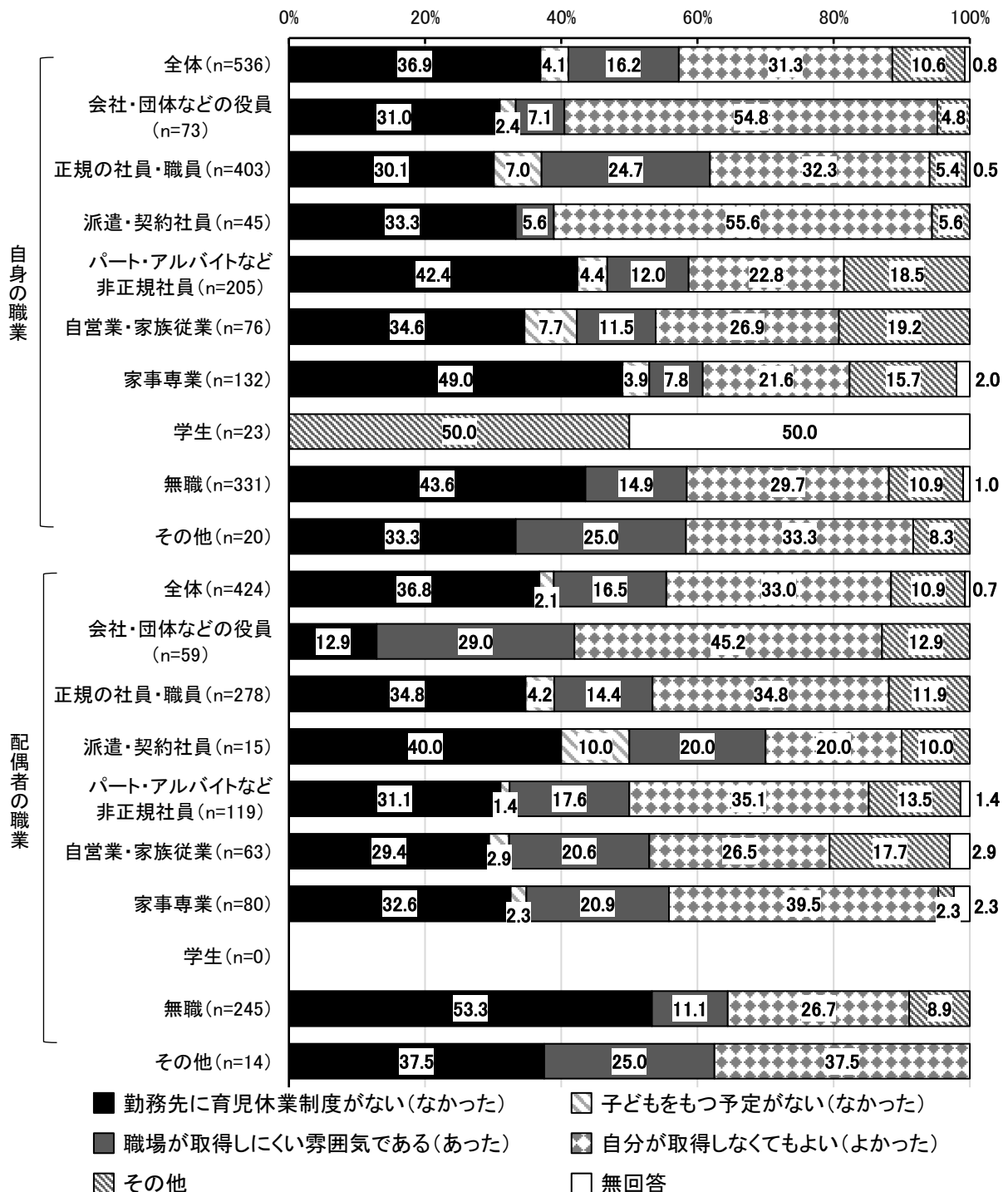
性別にみると、「勤務先に育児休業制度がない（なかった）」は女性41.7%、男性32.8%と女性が8.9ポイント高くなっており、「自分が取得しなくてもよい（よかった）」は女性24.2%、男性38.2%と男性が14.0ポイント高くなっています。



自身の職業別にみると、「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」の割合は家事専業、無職、パート・アルバイトなどの非正規社員の順に高く、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」の割合はその他が最も高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「勤務先に育児休業制度がない(なかった)」の割合は無職、派遣・契約社員、その他の順に高く、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」の割合は会社・団体などの役員が最も高くなっています。

【自身の職業別・配偶者の職業別にみた育児休業を取得しなかった理由について】

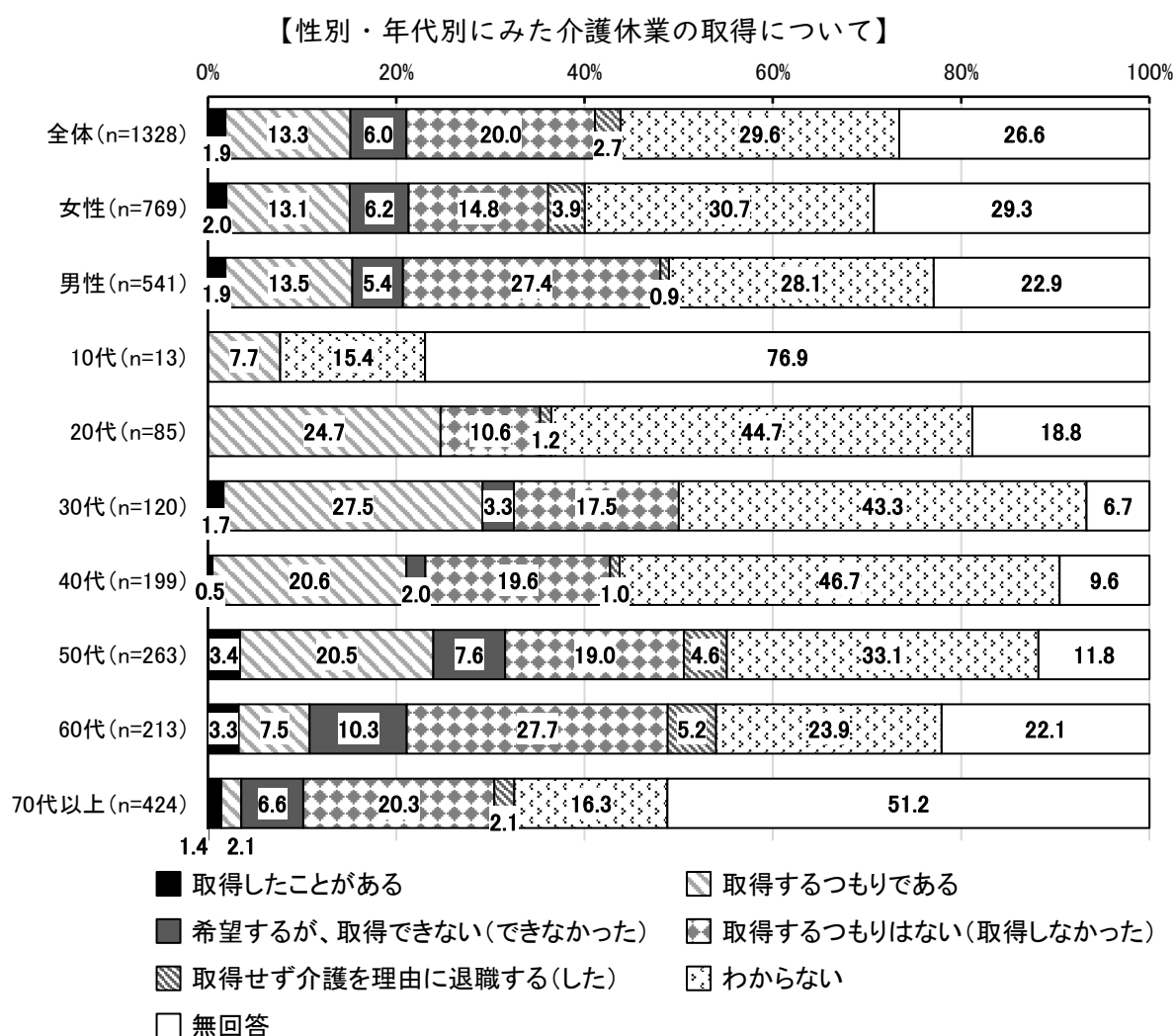


**問5 【就職している方、就職していた方に伺います】 → 【そのほかの方は問8へ】**  
**介護休業の取得についてお聞かせください。(〇は1つ)**

就職している方、就職していた方の介護休業の取得についてみると、「わからない」29.6%の割合が最も高く、次いで「取得するつもりはない(取得しなかった)」20.0%、「取得するつもりである」13.3%の順となっています。

性別にみると、「取得するつもりはない(取得しなかった)」は女性14.8%、男性27.4%と男性が12.6ポイント高くなっています。

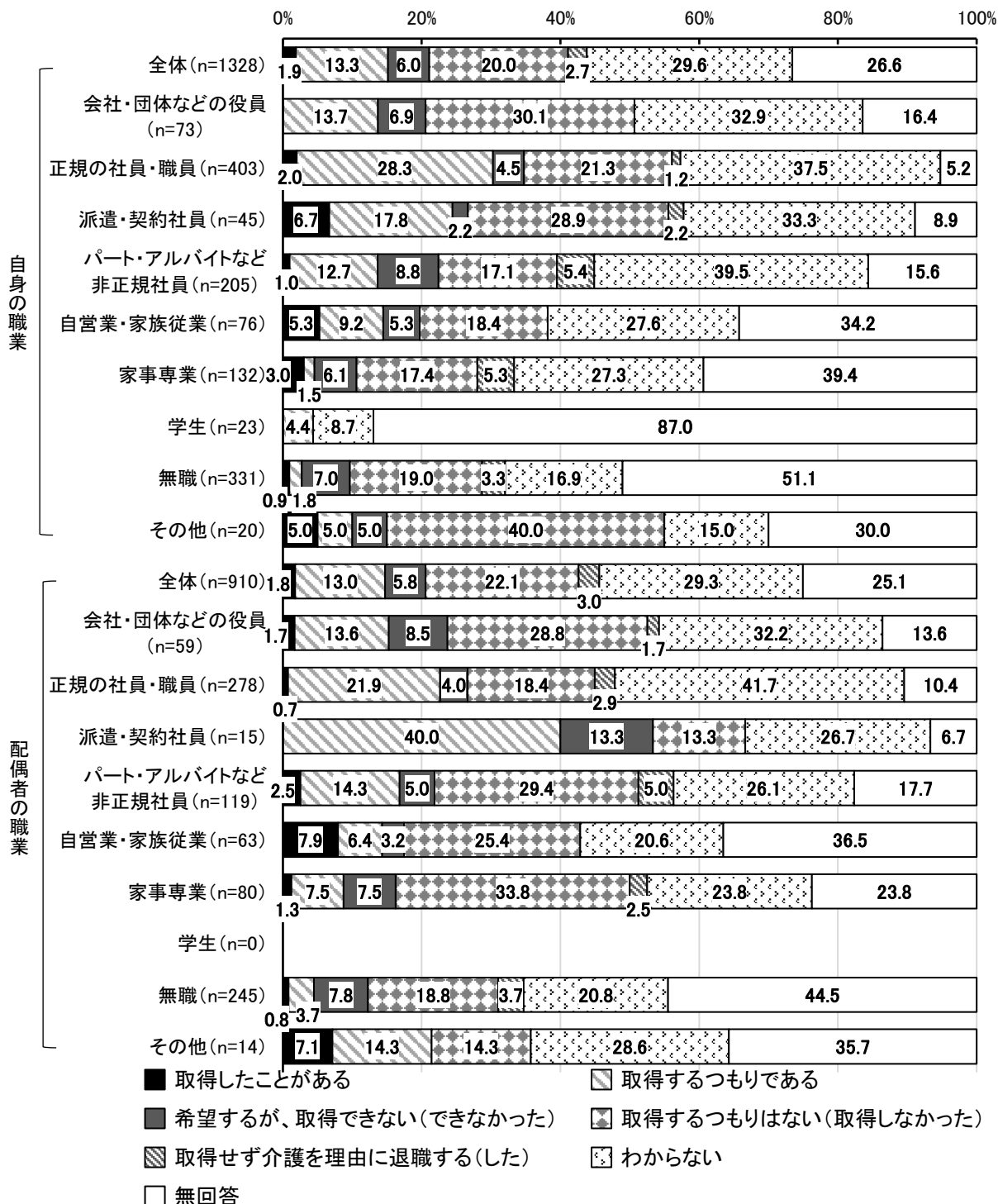
年代別にみると、「取得するつもりである」は20代~50代で全体13.3%よりも高くなっています。また、「希望するが、取得できない(できなかつた)」は50代以上で全体6.0%よりも割合が高くなっています。



自身の職業別にみると、「取得するつもりである」の割合は正規の社員・職員、派遣・契約社員、会社・団体などの役員の順に高く、「希望するが、取得できない（できなかった）」の割合はパート・アルバイトなど非正規社員が最も高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「取得するつもりである」の割合は派遣・契約社員、正規の社員・職員順に高く、「希望するが、取得できない（できなかった）」の割合は派遣・契約社員の割合が最も高くなっています。

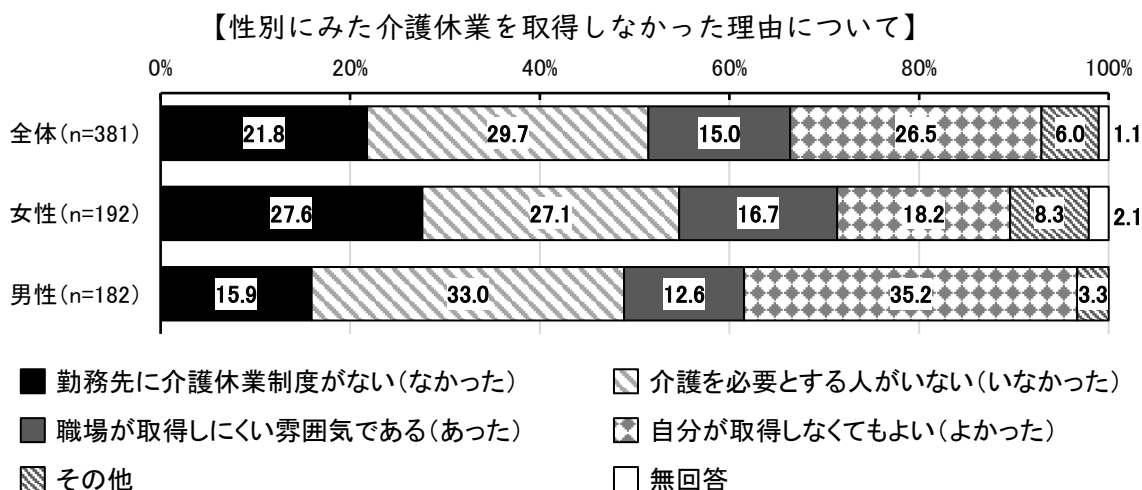
【自身の職業別・配偶者の職業別にみた介護休業の取得について】



問6 【問5で「希望するが、取得できない（できなかった）」、「取得するつもりはない（取得しなかった）」、「取得せず介護を理由に退職する（した）」と答えた方に伺います】→【そのほかの方は問7へ】  
それはなぜですか。（○は1つ）

就職している方、就職していた方のうち、介護休業を取得しなかった理由をみると、「介護を必要とする人がいない（いなかった）」29.7%の割合が最も高く、次いで「自分が取得しなくてもよい（よかった）」26.5%、「勤務先に介護休業制度がない（なかった）」21.8%の順となっています。「その他」としては「介護に自信がないため専門の方に任せたい」、「介護よりも育児に専念したい」などの回答がありました。

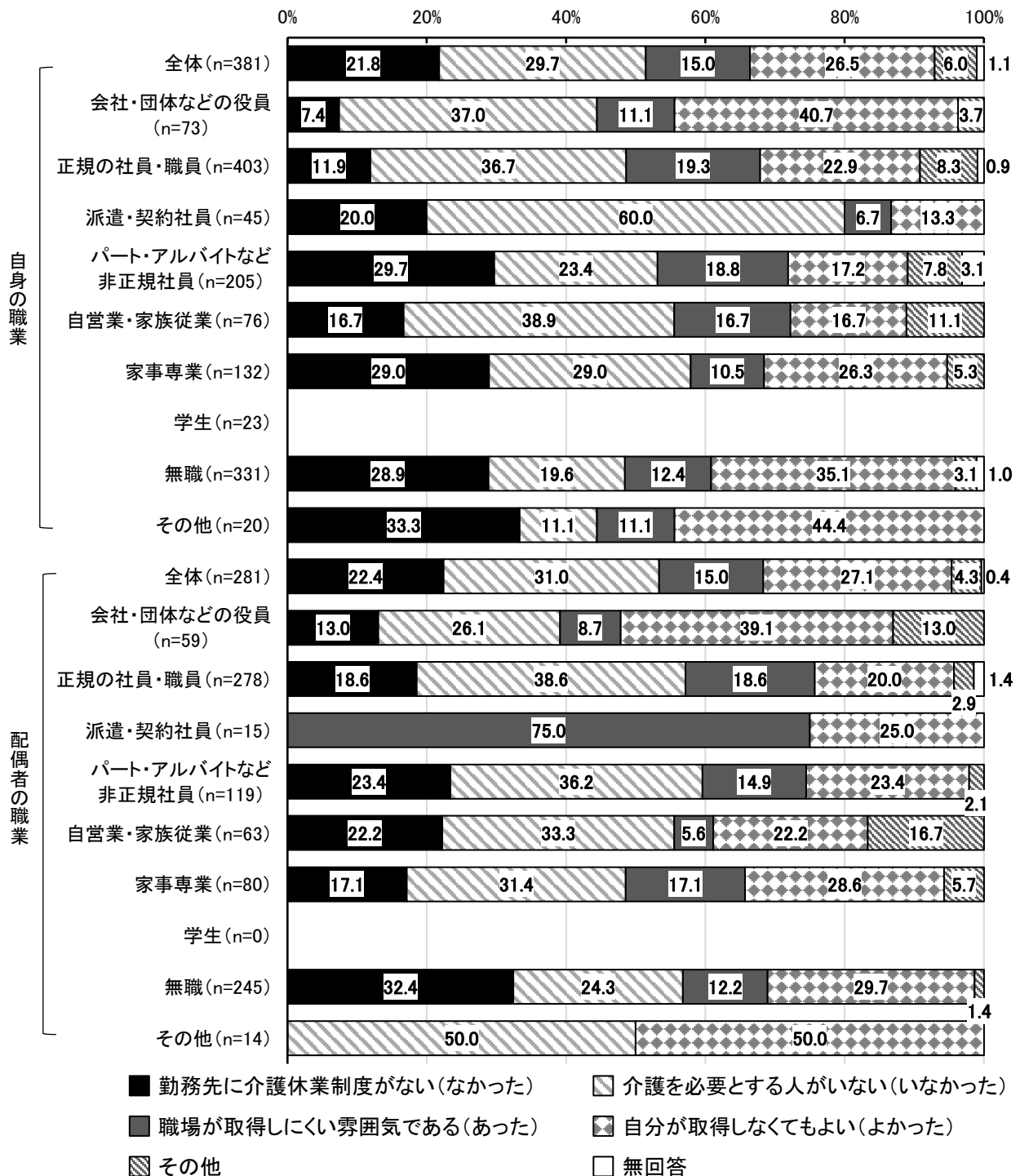
性別にみると、「勤務先に介護休業制度がない（なかった）」は女性 27.6%、男性 15.9%と女性が11.7ポイント高くなっており、「自分が取得しなくてもよい（よかった）」は女性 18.2%、男性 35.2%と男性が17.0ポイント高くなっています。



自身の職業別にみると、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」の割合はその他、パート・アルバイトなど非正規社員、家事専業の順に高く、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」の割合は正規の社員・職員が最も高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」の割合は、無職、パート・アルバイトなど非正規社員、自営業・家族従業が高く、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」の割合は派遣・契約社員、正規の社員・職員が高くなっています。

【自身の職業別・配偶者の職業別にみた介護休業を取得しなかった理由について】

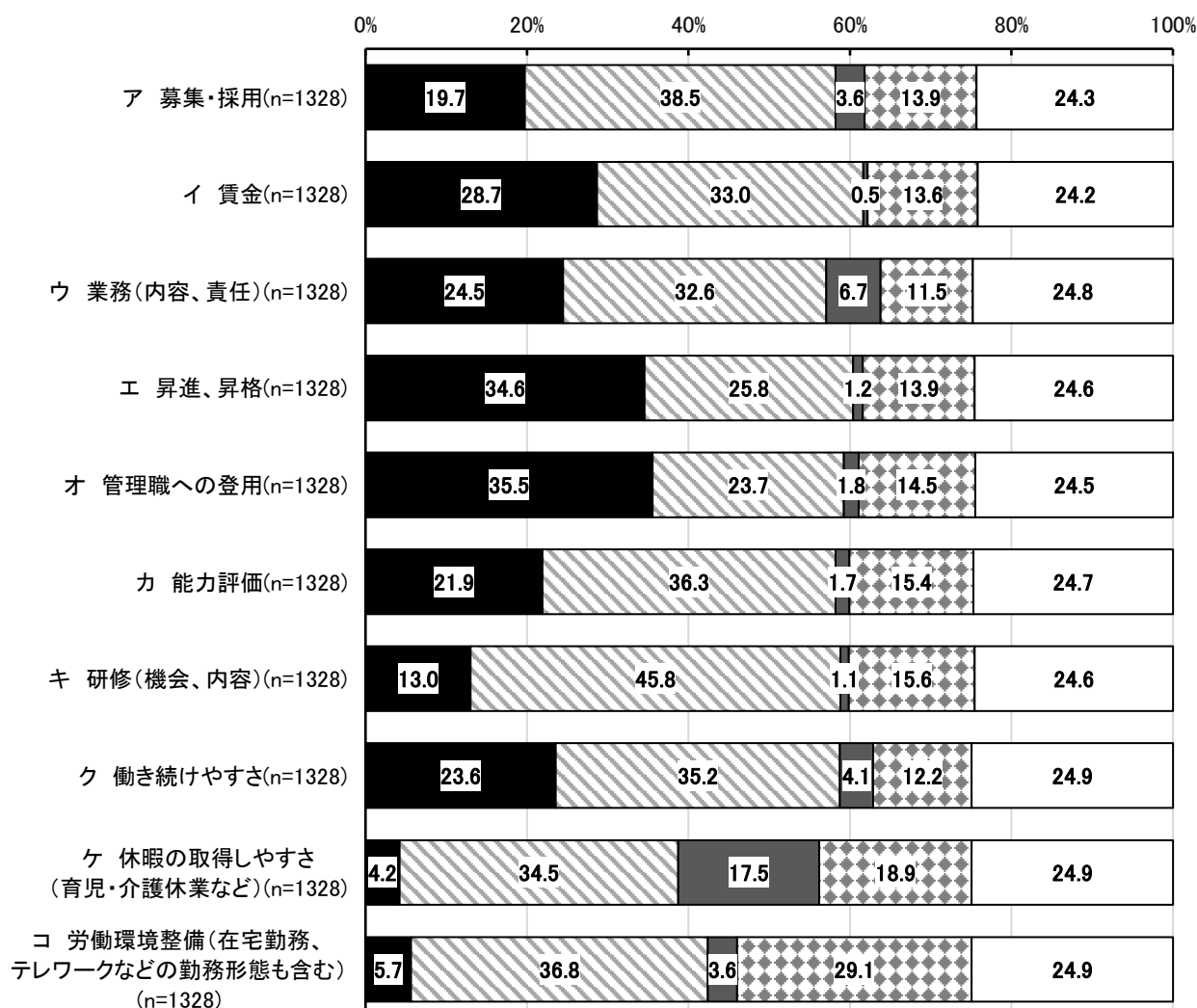


問7 【就職している方、就職していた方に伺います】→【そのほかの方は問8へ】  
 あなたの今の職場、あるいは元の職場では、次の（ア）から（コ）までの項目について、性別によって差がある（あった）と思いますか。（○は各項目1つずつ）

【全体】

就職している方、就職していた方のうち、今の職場、あるいは元の職場で性別による差がある（あった）と思うことをみると、「男性が優遇されている」は「（オ）管理職への登用」35.5%の割合が最も高く、次いで「（エ）昇進、昇格」34.6%、「（イ）賃金」28.7%の順で割合が高くなっています。「女性が優遇されている」は「（ケ）休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など）」17.5%の割合が最も高くなっている反面、他の項目においてはいずれも10%未満と低くなっています。

【職場で性別による差がある（あった）と思うことについて】

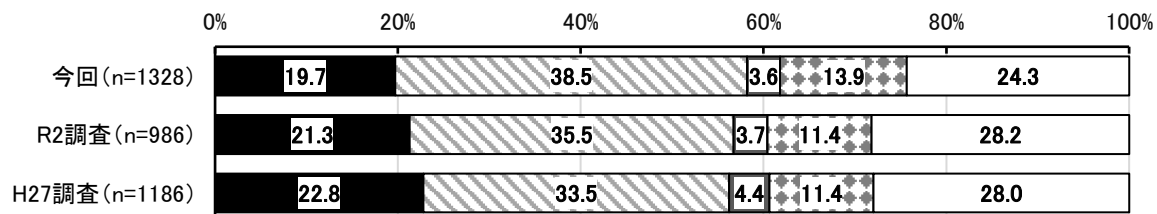


■ 男性が優遇されている ■ 男女平等である ■ 女性が優遇されている ■ わからない □ 無回答

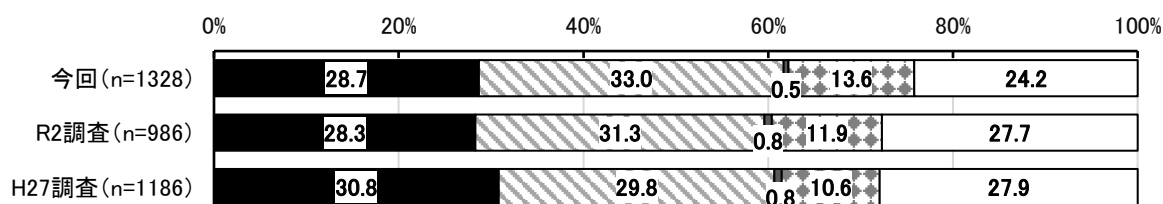
過去調査と比較すると、すべての項目で「男女平等である」の割合が年々高くなっています。

【過去調査と比較した各項目の職場で性別による差がある（あった）と思うことについて】

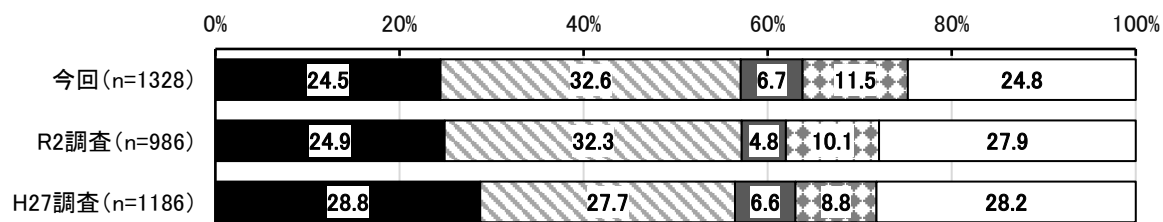
<ア 募集、採用>



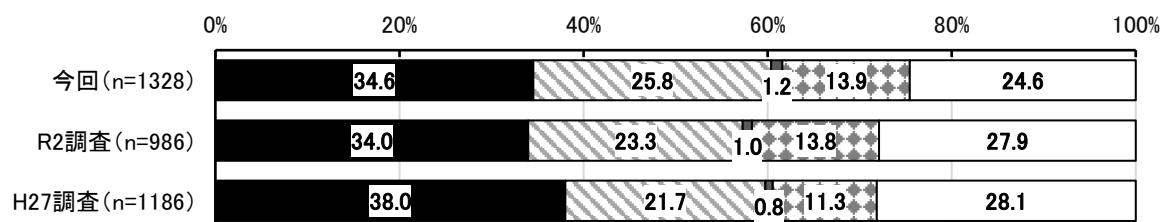
<イ 賃金>



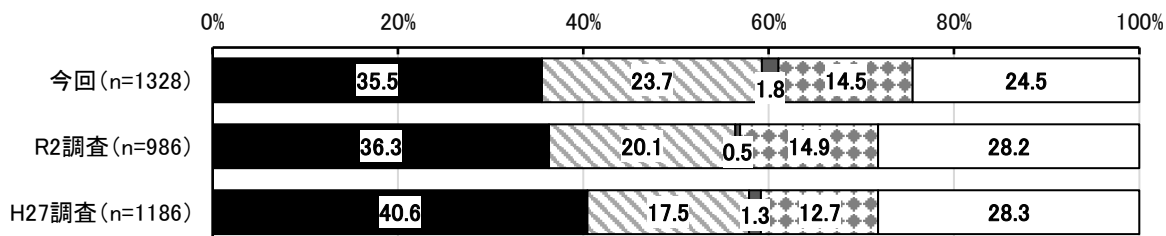
<ウ 業務（内容、責任）>



<エ 昇進、昇格>

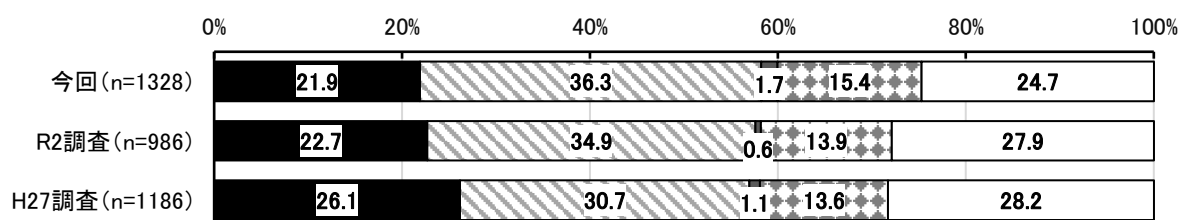


<オ 管理職への登用>

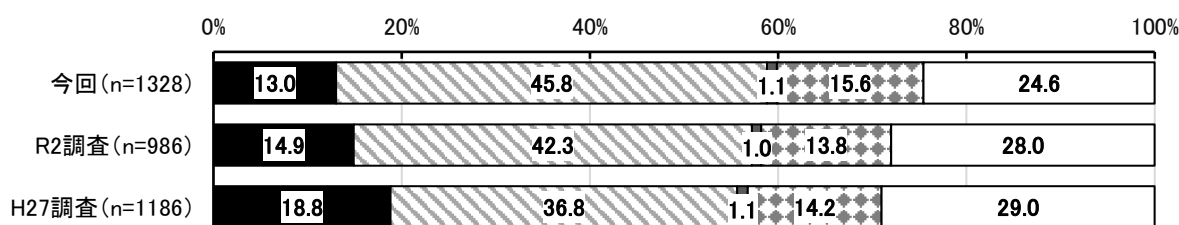


■ 男性が優遇されている □ 男女平等である ■ 女性が優遇されている ▨ わからない □ 無回答

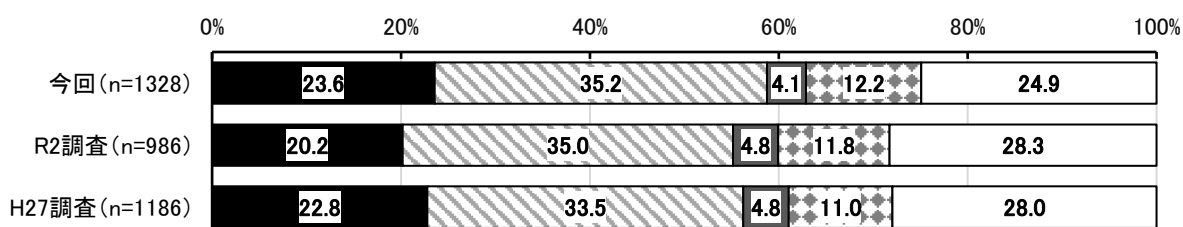
<カ 能力評価>



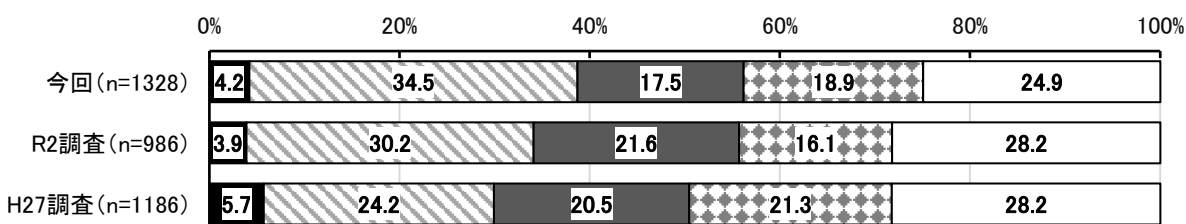
<キ 研修（機会、内容）>



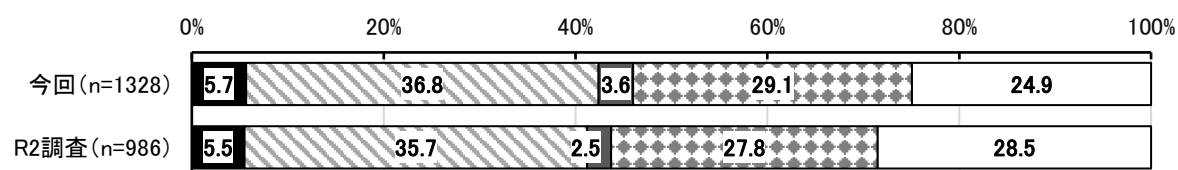
<ク 働き続けやすさ>



<ケ 休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など）>



<コ 労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む）>



■ 男性が優遇されている □ 男女平等である ■ 女性が優遇されている □ わからない □ 無回答

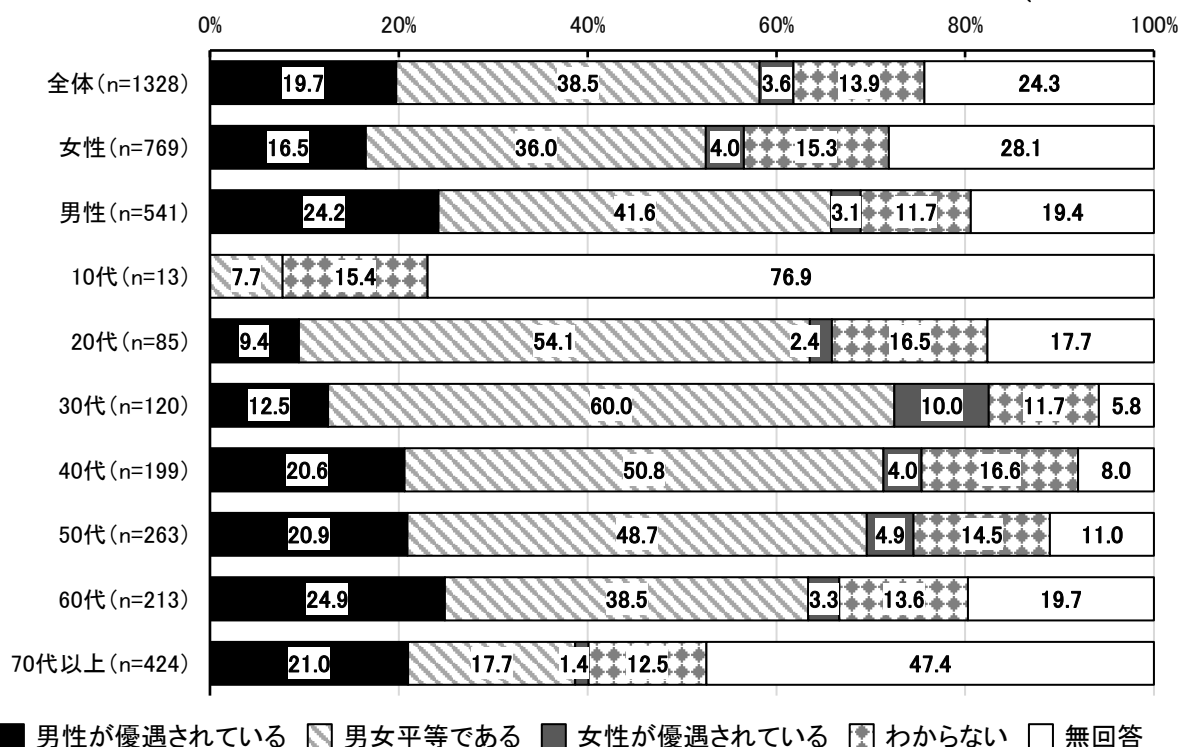
## ア 募集、採用

募集、採用についてみると、「男女平等である」38.5%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」19.7%、「わからない」13.9%の順となっています。

性別にみると、「男性が優遇されている」は女性 16.5%、男性 24.2%と男性が 7.7 ポイント高くなっています。

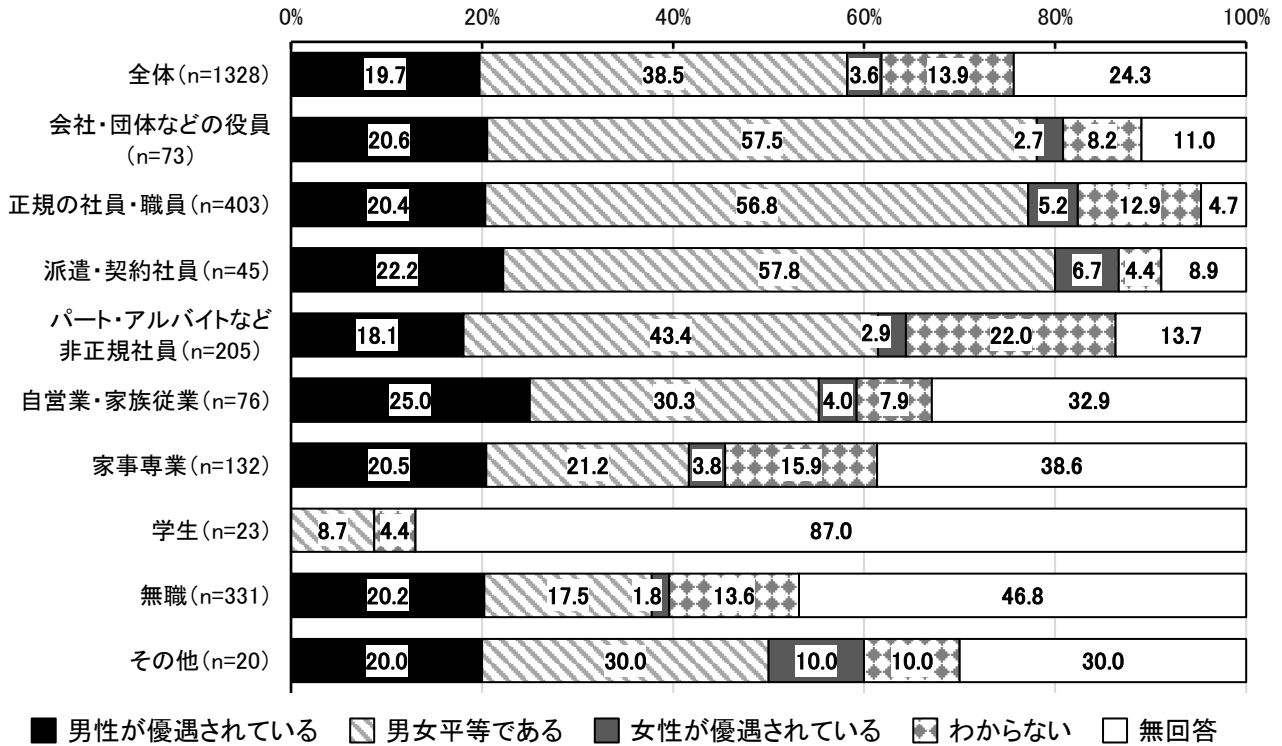
年代別にみると、「男性が優遇されている」は 20 代～60 代と年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ア 募集、採用)】



自身の職業別にみると、無職では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。それ以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ア 募集、採用)】



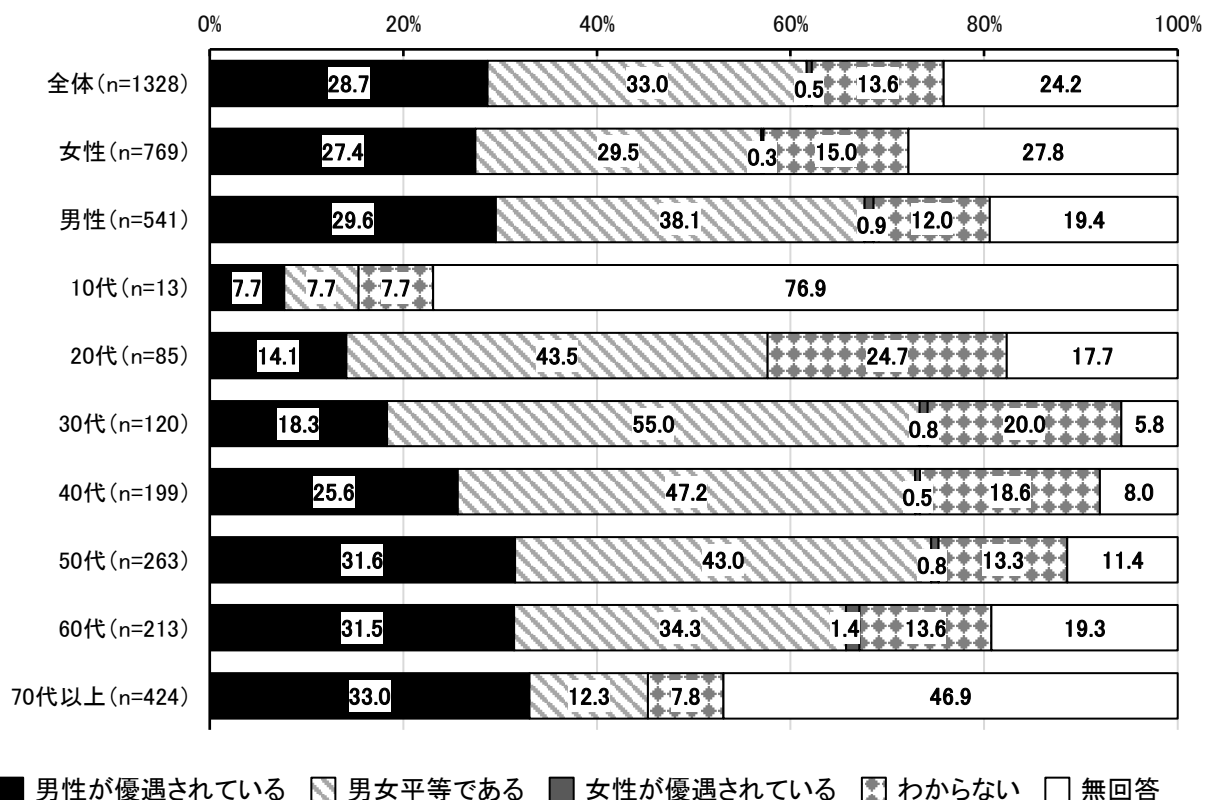
## イ 賃金

賃金についてみると、「男女平等である」33.0%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」28.7%、「わからない」13.6%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性 29.5%、男性 38.1%と男性が 8.6 ポイント高くなっています。

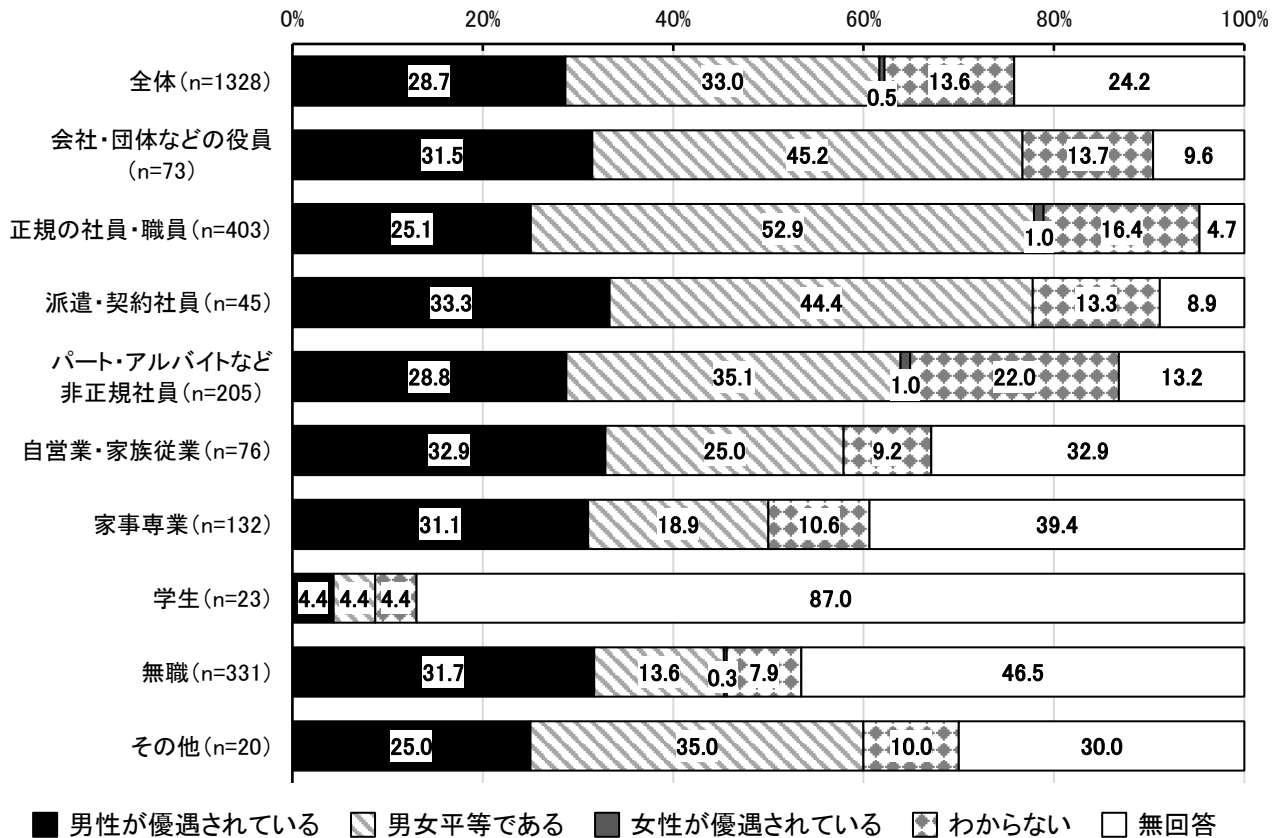
年代別にみると、「男性が優遇されている」は 10代から年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(イ 賃金)】



自身の職業別にみると、自営業・家族従業、家事専業、無職では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。それ以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(イ 賃金)】



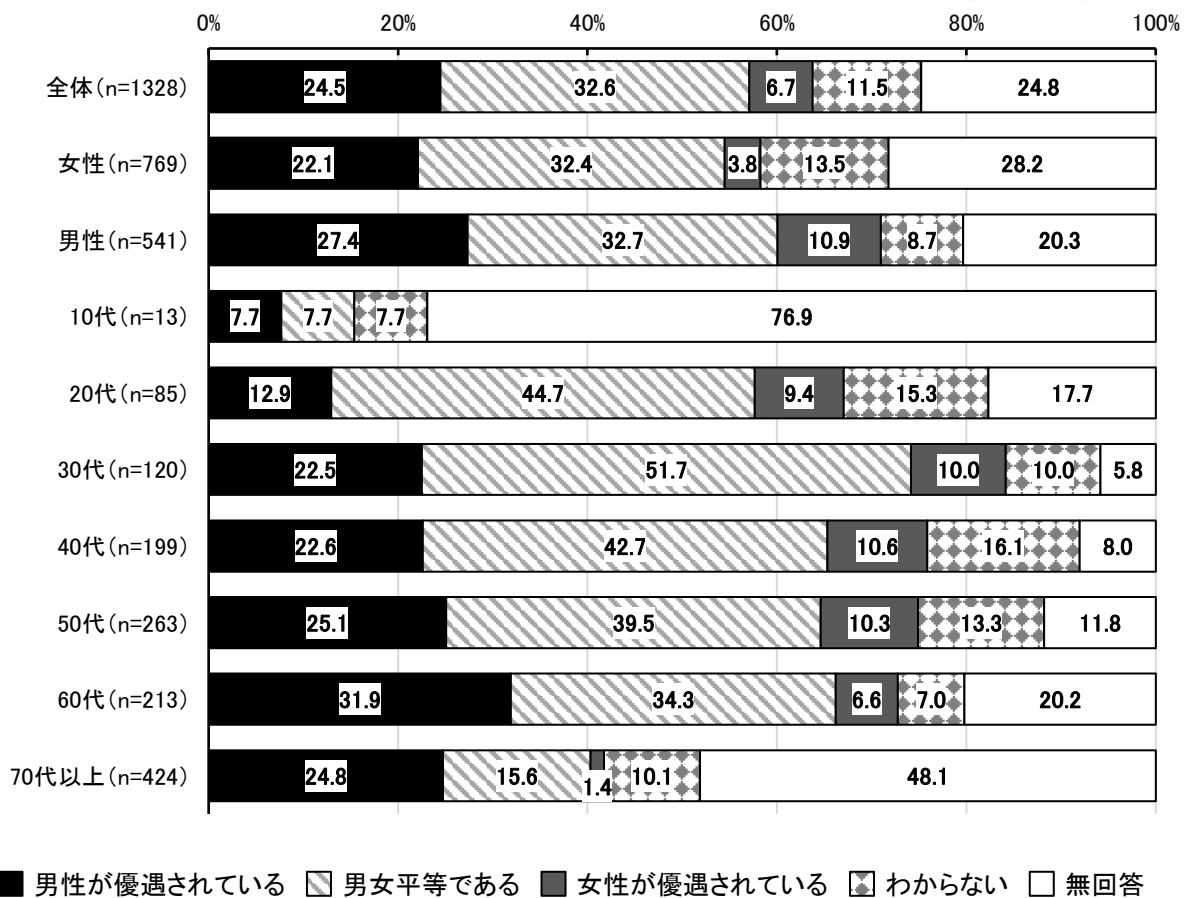
ウ 業務（内容、責任）

業務（内容、責任）についてみると、「男女平等である」32.6%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」24.5%、「わからない」11.5%の順となっています。

性別にみると、「女性が優遇されている」は女性3.8%、男性10.9%と男性が7.1ポイント高くなっています。

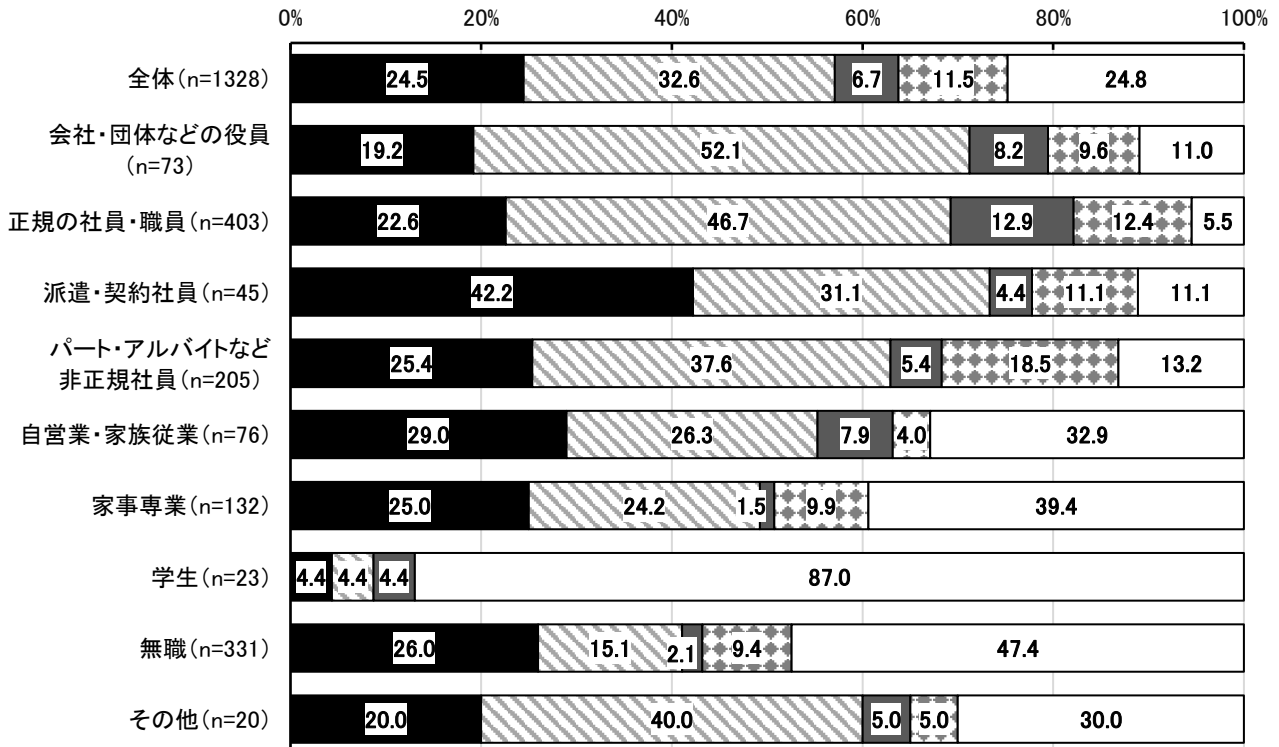
年代別にみると、「男性が優遇されている」は10代～60代までは年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ウ 業務(内容、責任)】



自身の職業別にみると、派遣・契約社員、自営業・家族従業、家事専業、無職では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。それ以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ウ 業務(内容、責任))】



■ 男性が優遇されている    ▨ 男女平等である    ■ 女性が優遇されている    ◻ わからない    □ 無回答

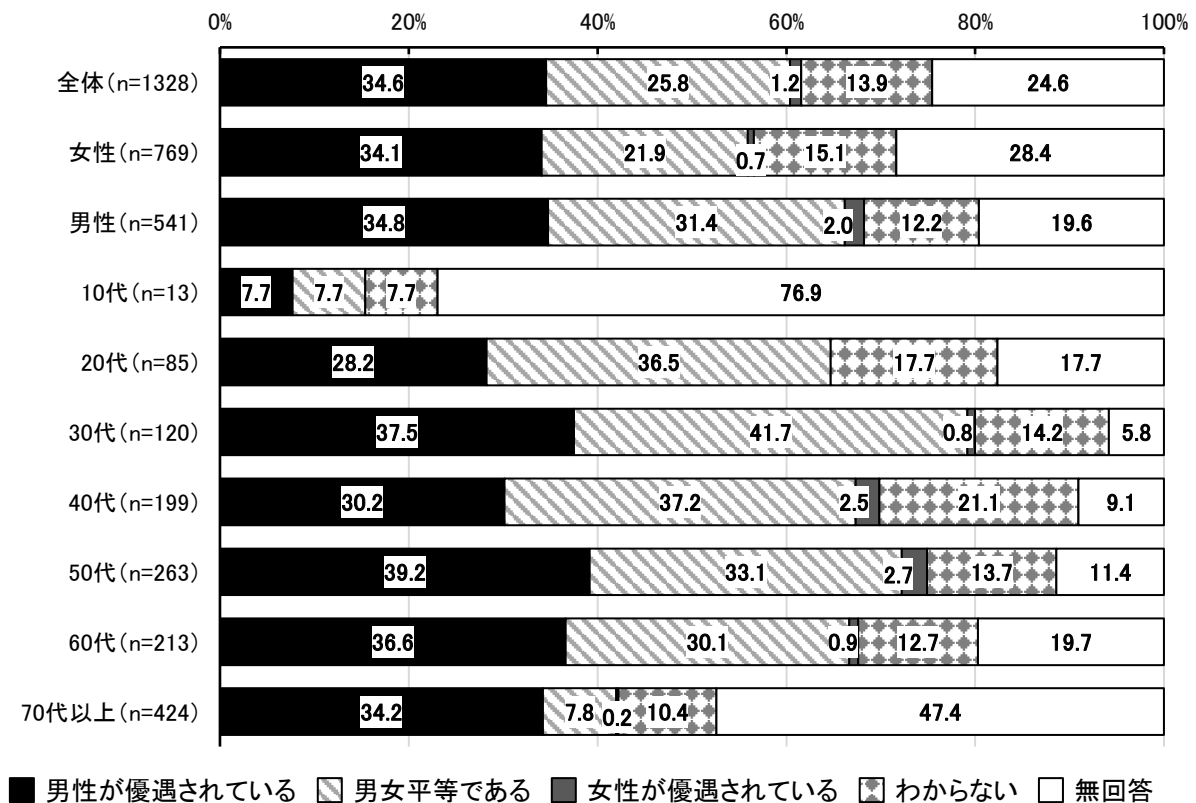
## エ 昇進、昇格

昇進、昇格についてみると、「男性が優遇されている」34.6%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」25.8%、「わからない」13.9%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性 21.9%、男性 31.4%と男性が 9.5 ポイント高くなっています。

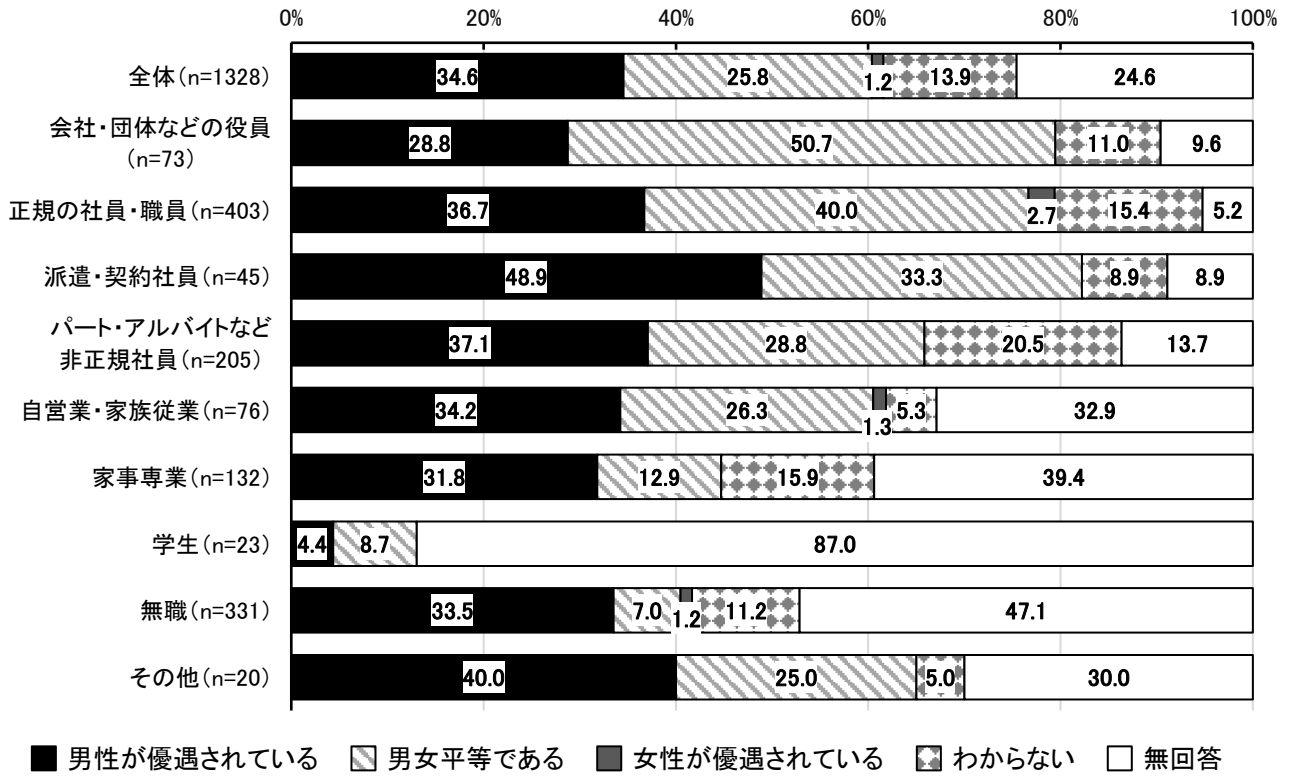
年代別にみると、20代～40代は「男女平等である」の割合が最も高く、50代以上は「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(エ 昇進、昇格)】



自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。それ以外の職業では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(エ 昇進、昇格)】



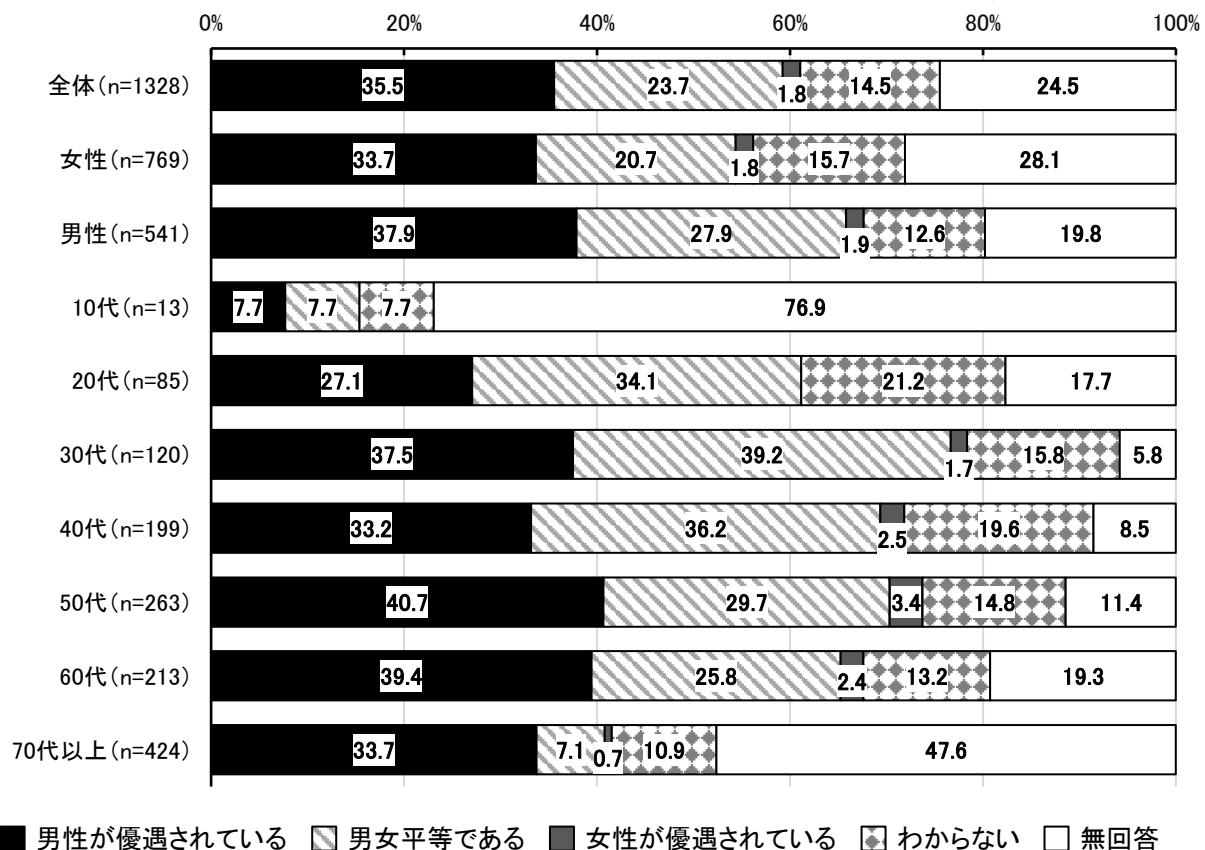
## オ 管理職への登用

管理職への登用についてみると、「男性が優遇されている」35.5%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」23.7%、「わからない」14.5%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性 20.7%、男性 27.9%と男性が 7.2 ポイント高くなっています。

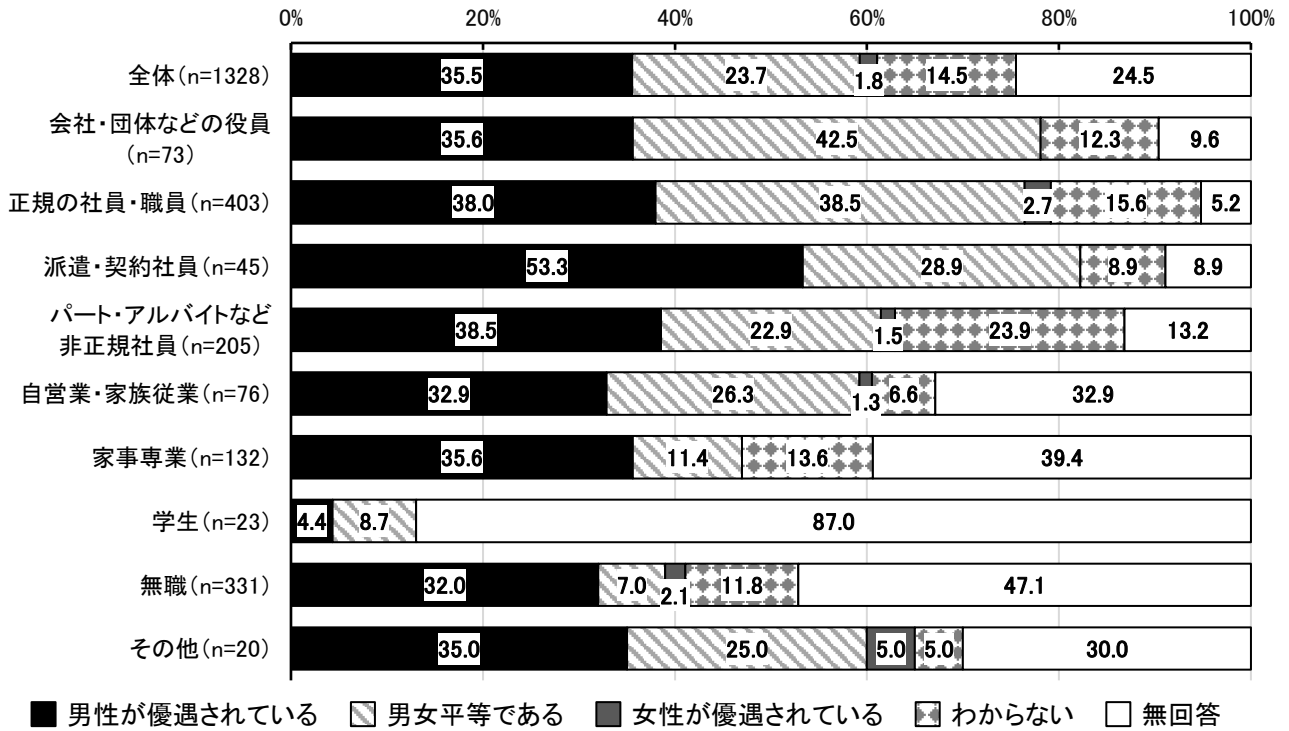
年代別にみると、20代～40代は「男女平等である」の割合が最も高く、50代以上は「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(オ 管理職への登用)】



自身の職業別にみると、会社・団体などの役員、正規の社員・職員では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。それ以外の職業では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(才 管理職への登用)】



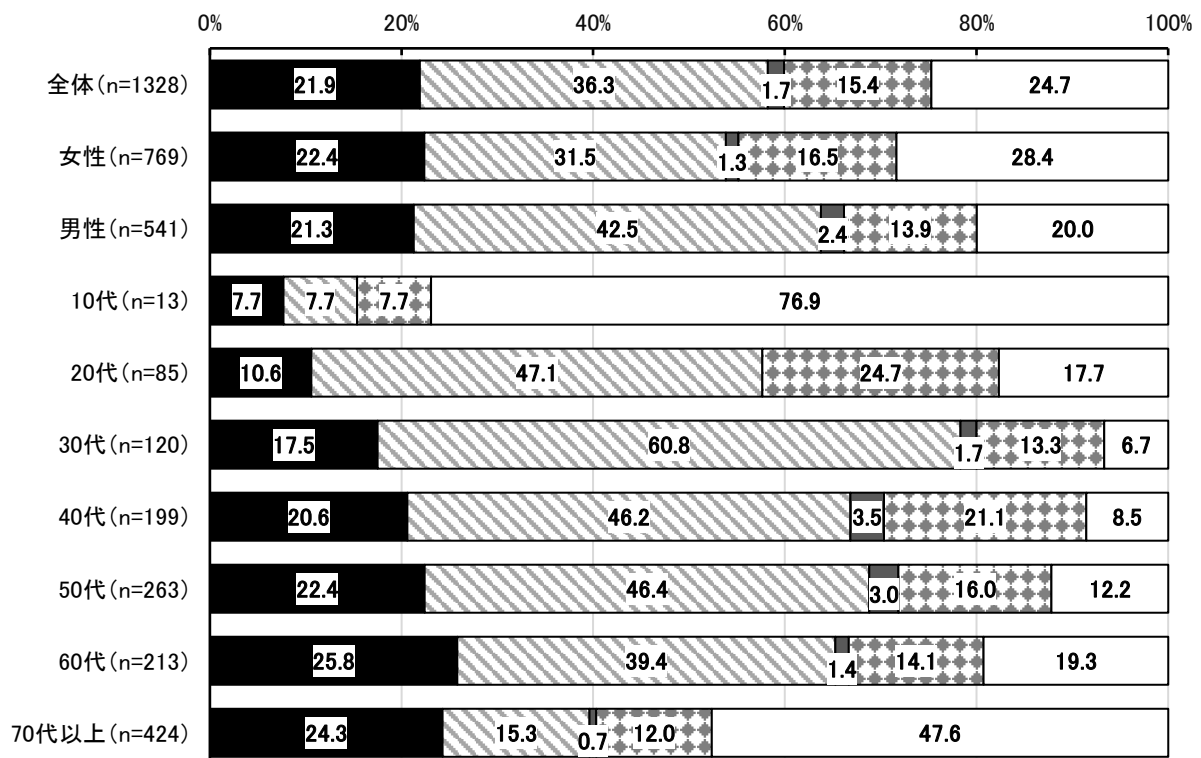
## カ 能力評価

能力評価についてみると、「男女平等である」36.3%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」21.9%、「わからない」15.4%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性31.5%、男性42.5%と男性が11.0ポイント高くなっています。

年代別にみると、「男性が優遇されている」は10代から60代までは年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

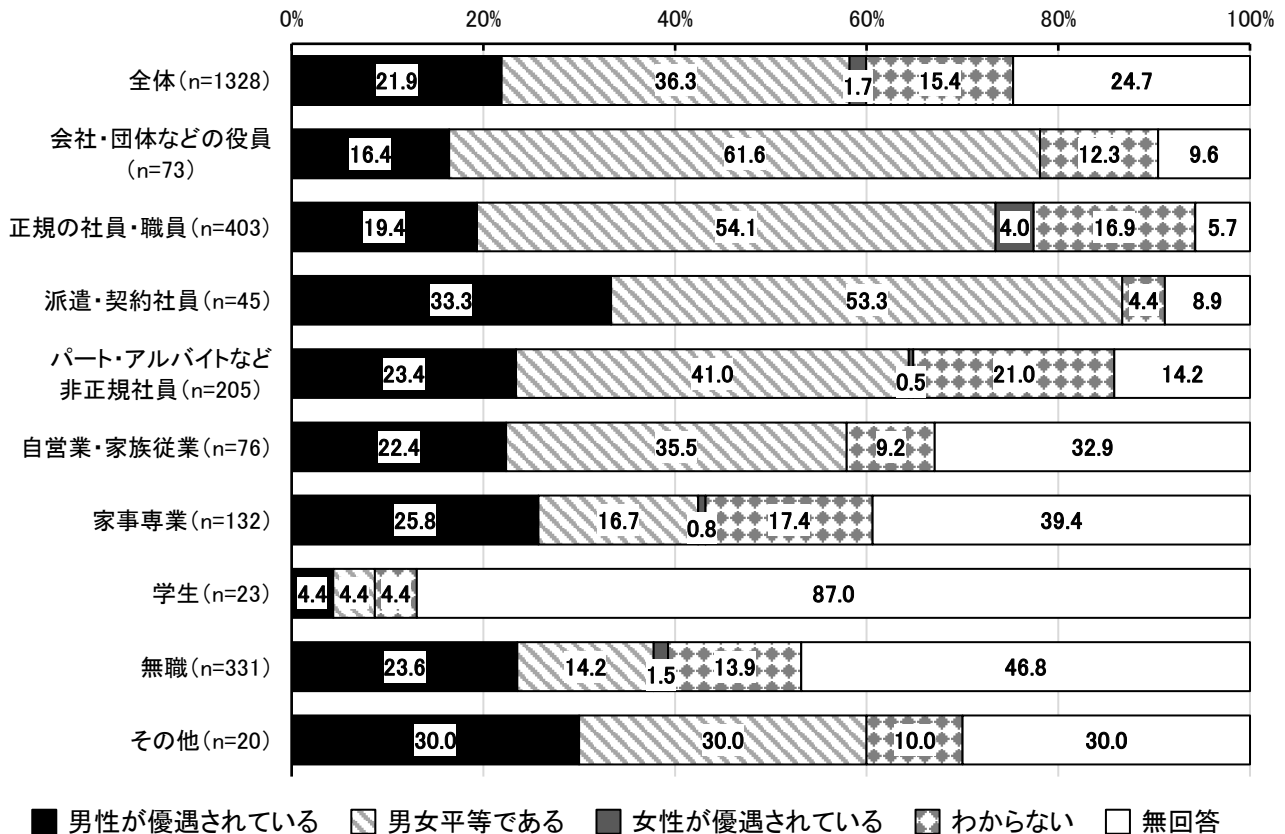
### 【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(カ 能力評価)】



■ 男性が優遇されている    ▨ 男女平等である    ■ 女性が優遇されている    ◩ わからない    □ 無回答

自身の職業別にみると、家事専業、無職では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっており、その他では「男性が優遇されている」と「男女平等である」が同率となっています。それ以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(力 能力評価)】



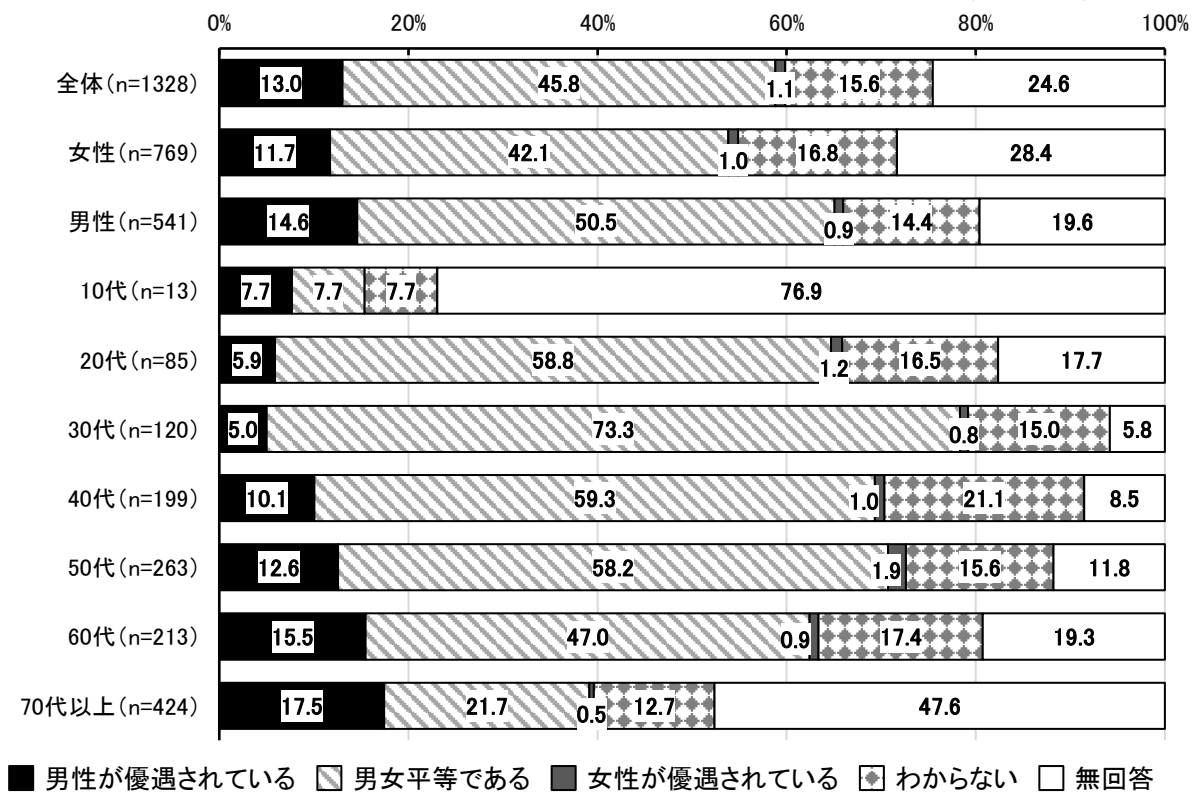
## キ 研修（機会、内容）

研修（機会、内容）についてみると、「男女平等である」45.8%の割合が最も高く、次いで「わからない」15.6%、「男性が優遇されている」13.0%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性 42.1%、男性 50.5%と男性が 8.4 ポイント高くなっています。

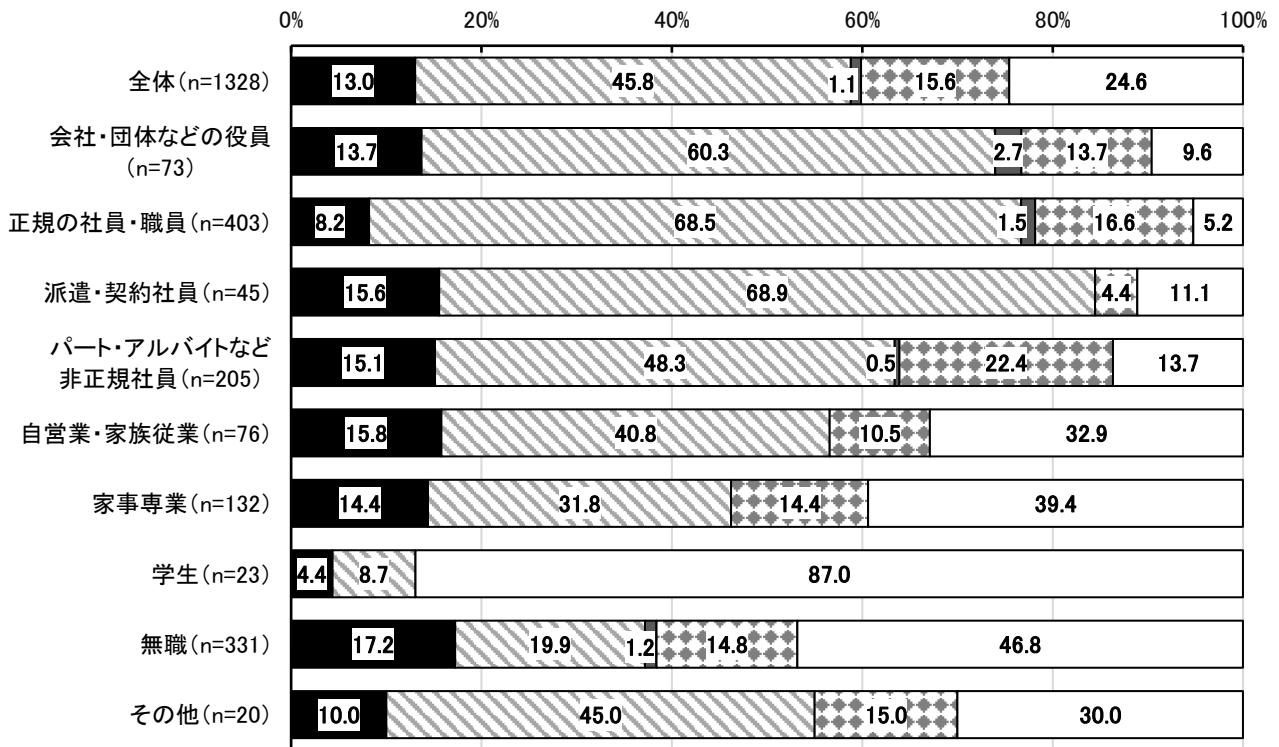
年代別にみると、「男性が優遇されている」は 30 代から年代が上がるにつれて割合が高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(キ 研修(機会、内容))】



自身の職業別にみると、すべての職業で「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(キ 研修(機会、内容))】



■ 男性が優遇されている    ▨ 男女平等である    ■ 女性が優遇されている    ▩ わからない    □ 無回答

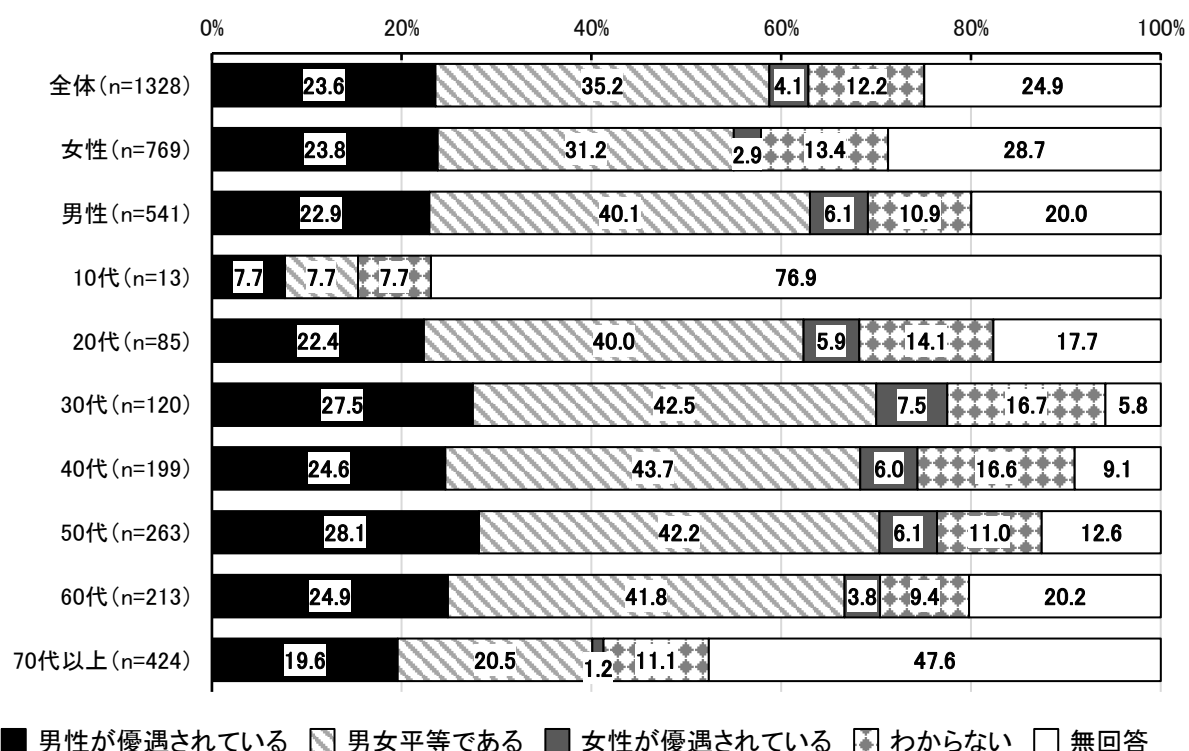
## ク 働き続けやすさ

働き続けやすさについてみると、「男女平等である」35.2%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」23.6%、「わからない」12.2%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性 31.2%、男性 40.1%と男性が 8.9 ポイント高くなっています。

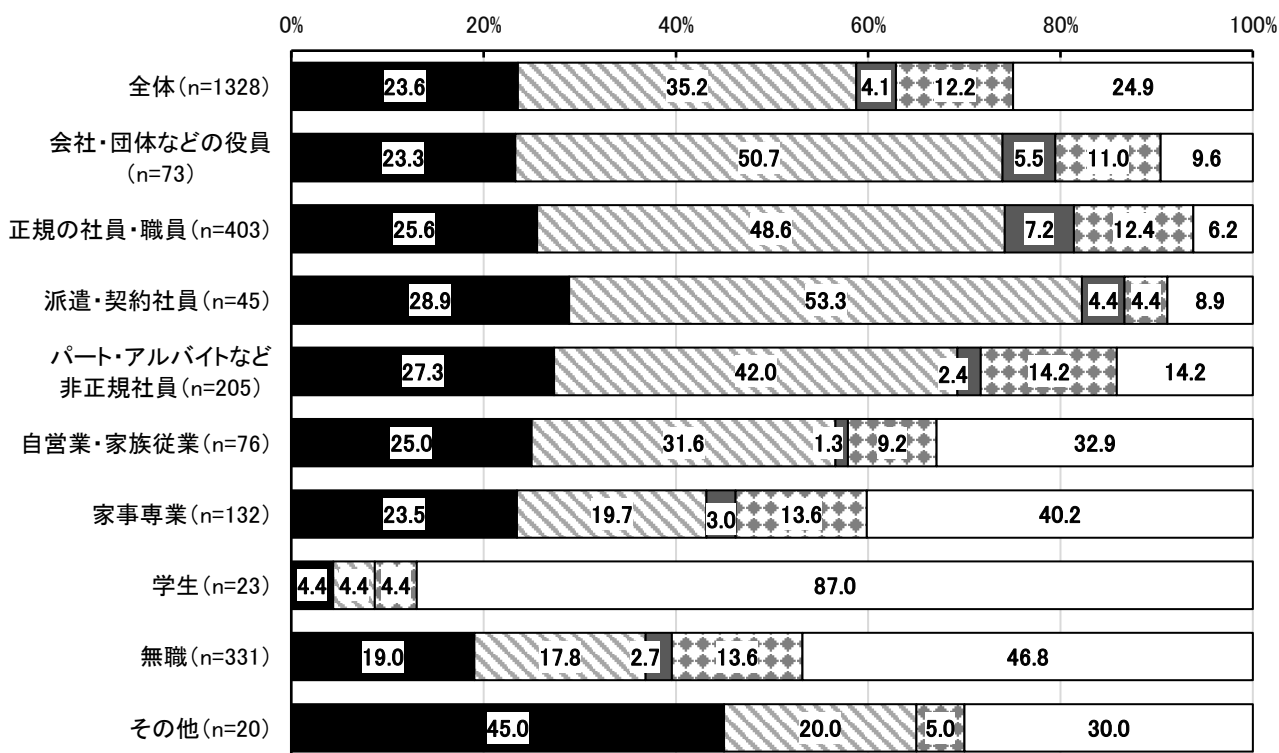
年代別にみると、無回答が多い 10 代と 70 代以上を除いた各年代では概ね同様の割合となっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ク 働き続けやすさ)】



自身の職業別にみると、家事専業、無職、その他では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。それ以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ク 働き続けやすさ)】



■ 男性が優遇されている    ▨ 男女平等である    ■ 女性が優遇されている    ▩ わからない    □ 無回答

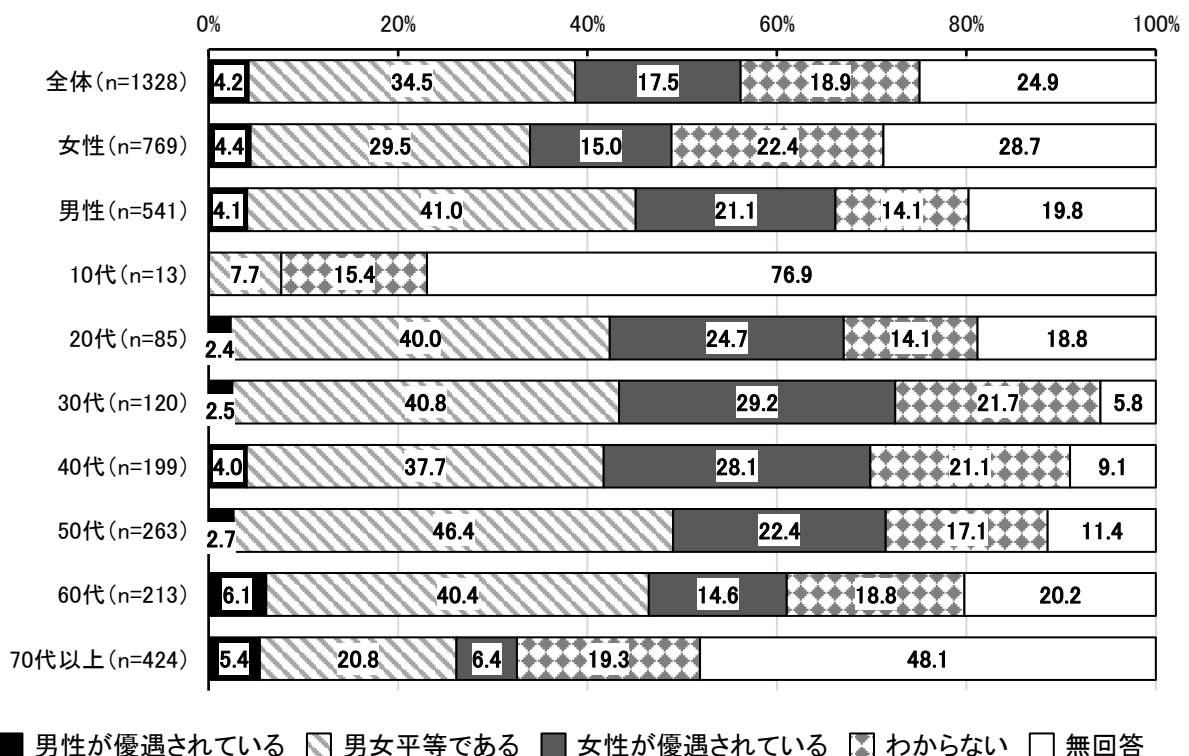
ケ 休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など）

休暇の取得しやすさ（育児・介護休業など）についてみると、「男女平等である」34.5%の割合が最も高く、次いで「わからない」18.9%、「女性が優遇されている」17.5%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性29.5%、男性41.0%と男性が11.5ポイント高くなっています。

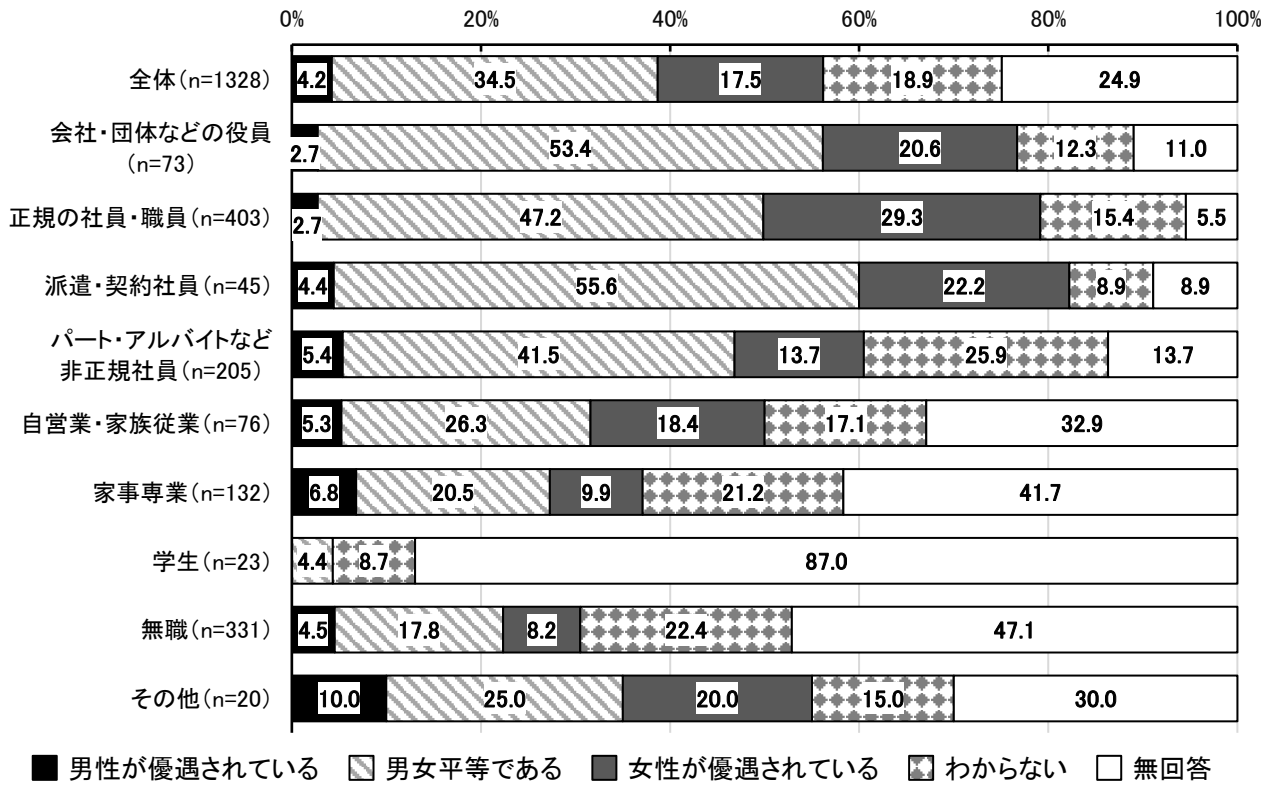
年代別にみると、50代は「男女平等である」46.4%と他の年代に比べて高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて  
（ケ 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)）】



自身の職業別にみると、家事専業、無職以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっており、その中でも会社・団体などの役員と派遣・契約社員の割合が高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて  
（ケ 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)）】



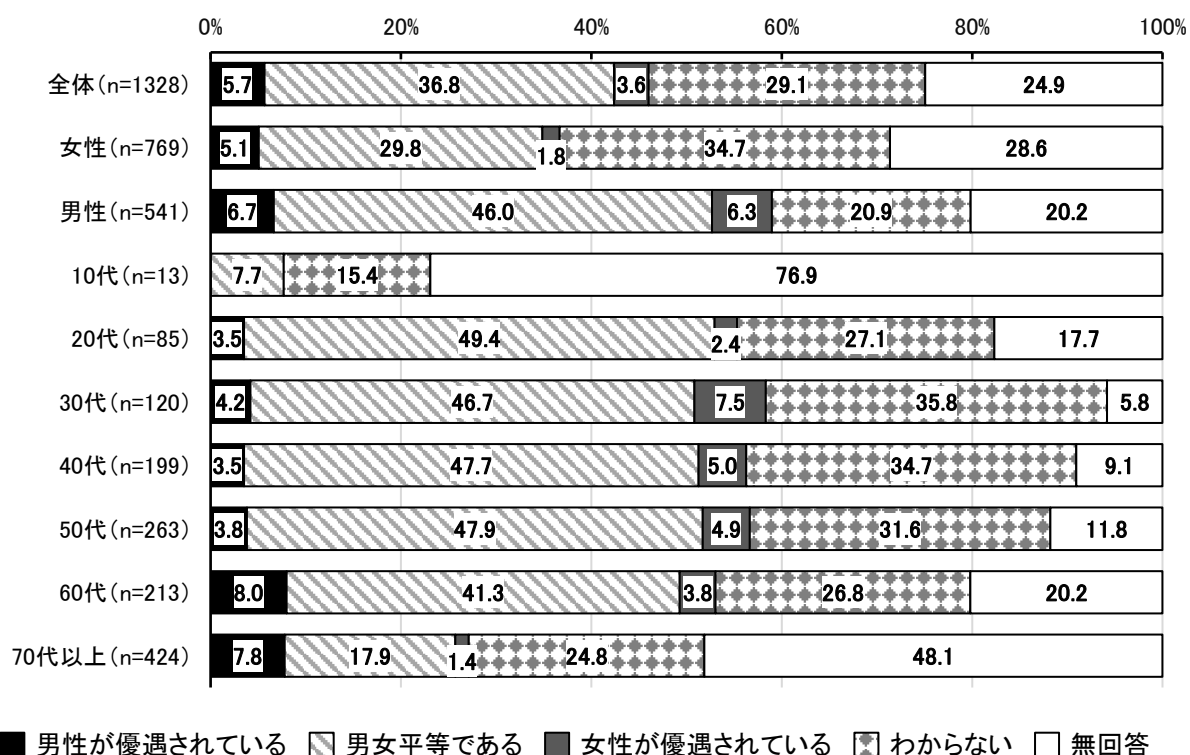
コ 労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む）

労働環境整備（在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む）についてみると、「男女平等である」36.8%の割合が最も高く、次いで「わからない」29.1%、「男性が優遇されている」5.7%の順となっています。

性別にみると、「男女平等である」は女性29.8%、男性46.0%と男性が16.2ポイント高くなっています。

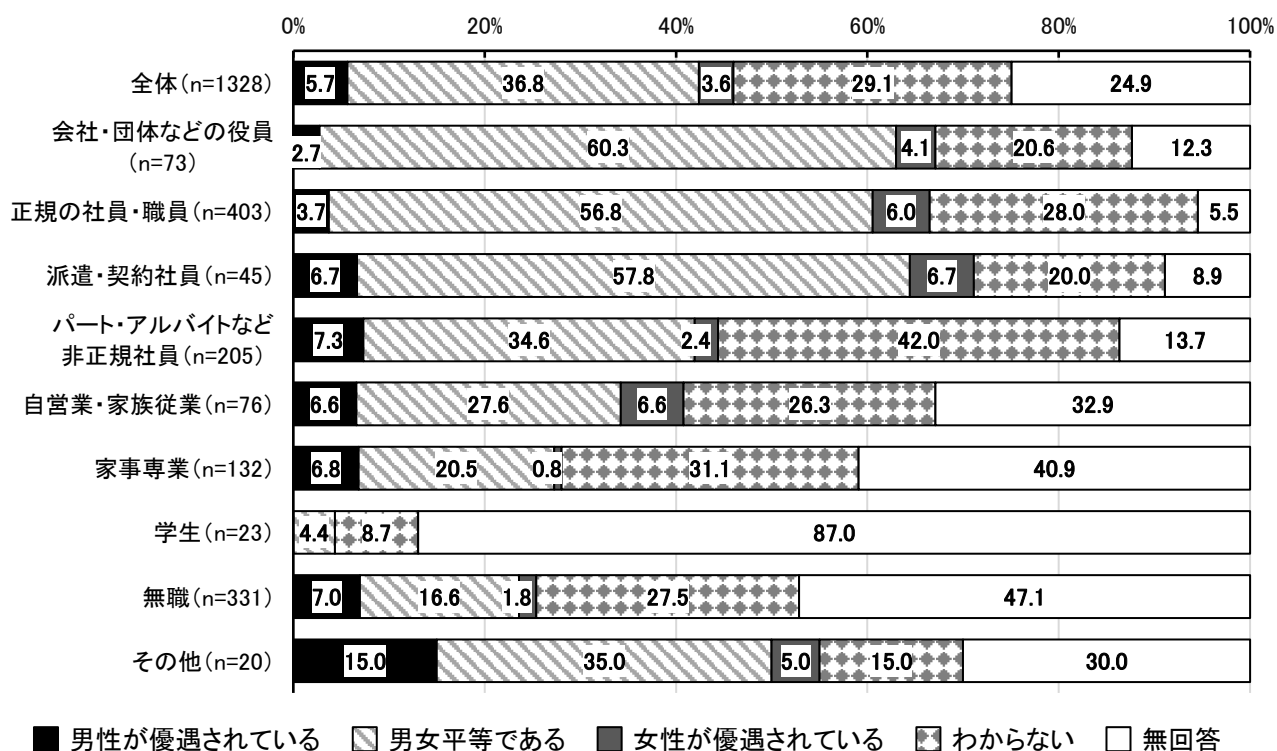
年代別にみると、30代は「女性が優遇されている」7.5%と他の年代と比べて高くなっています。

【性別・年代別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて  
（コ 労働環境整備(在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む)）】



自身の職業別にみると、パート・アルバイトなど非正規社員、家事専業、無職以外の職業では「男女平等である」の割合が最も高くなっており、その中でも会社・団体などの役員、正規の社員・職員、派遣・契約社員の割合が高くなっています。

【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて  
（コ 労働環境整備(在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む)）】

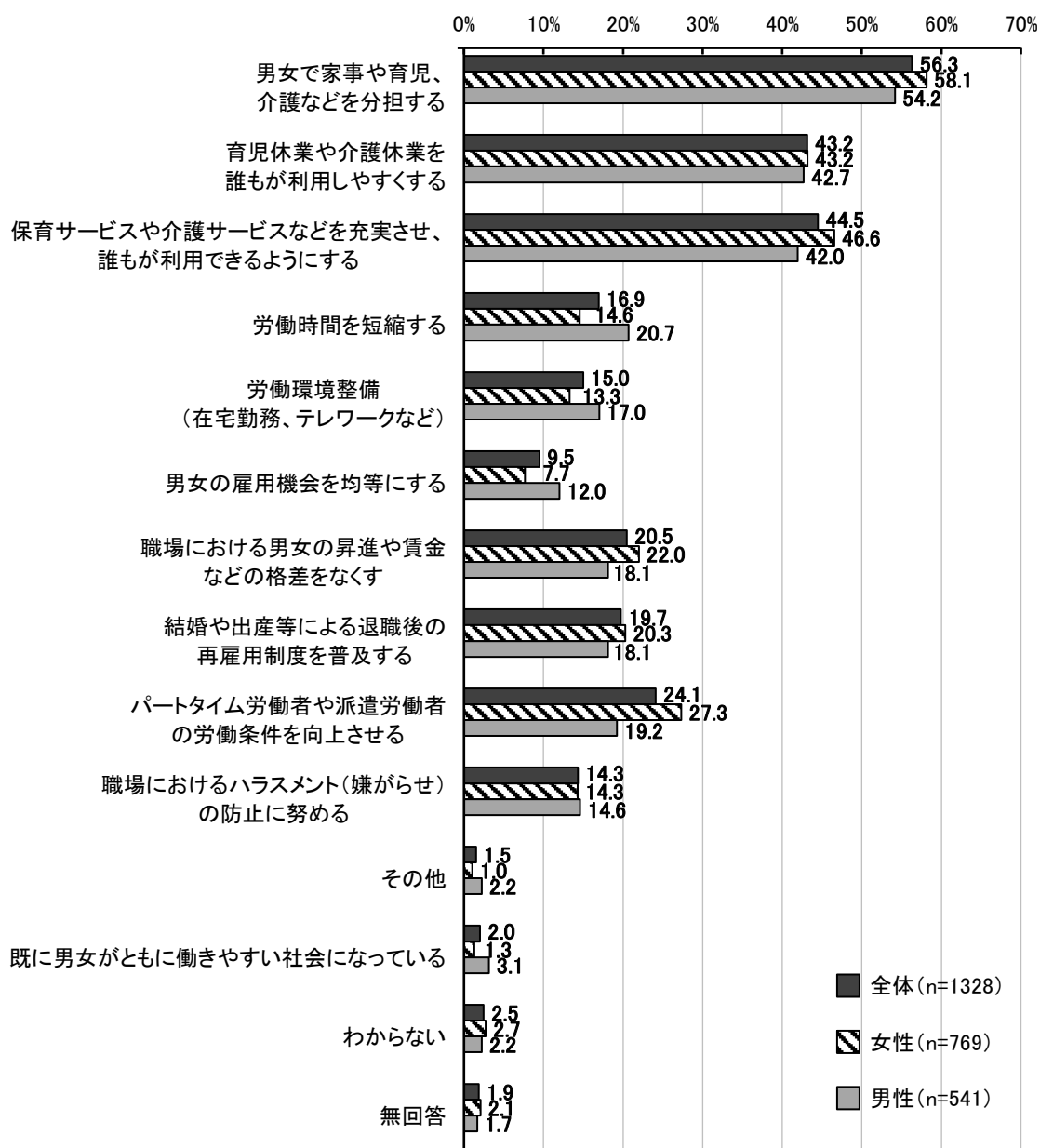


**問8 【全員に伺います】男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)**

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについてみると、「男女で家事や育児、介護などを分担する」56.3%の割合が最も高く、次いで「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、誰もが利用できるようにする」44.5%、「育児休業や介護休業を誰もが利用しやすくする」43.2%の順となっています。「その他」としては「年次有給休暇が取得しやすい労働環境の整備」、「休職中の資金保障の充実」などの回答がありました。

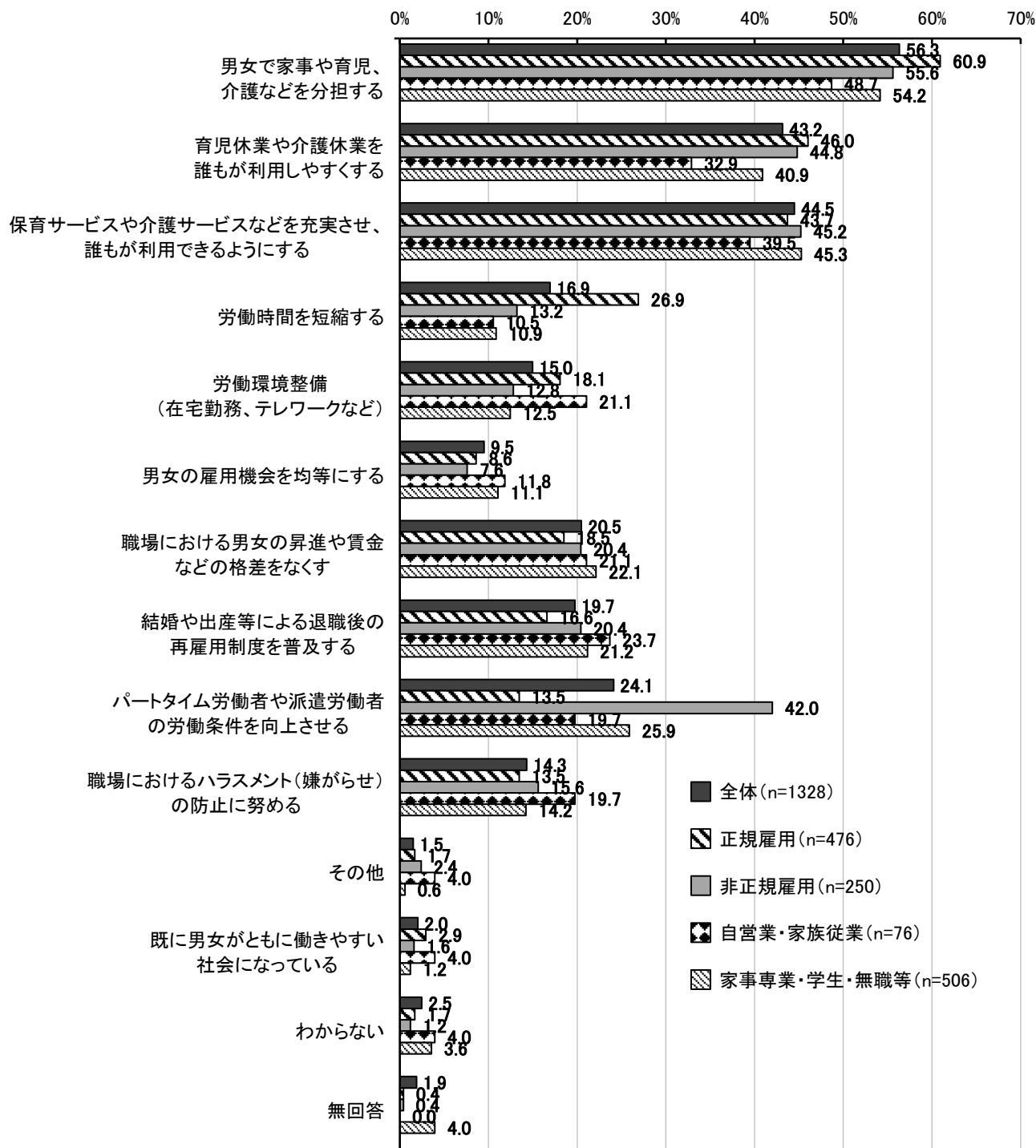
性別にみると、「労働時間を短縮する」の割合は女性に比べて男性が6.1ポイント高く、「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」の割合は男性に比べて女性が8.1ポイント高くなっています。

【性別にみた男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要なことについて】



雇用形態別にみると、正規雇用では「労働時間を短縮する」、非正規雇用では「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」の割合が、それぞれ他の雇用形態に比べて高くなっています。

【雇用形態別にみた男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要なことについて】



## 家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて

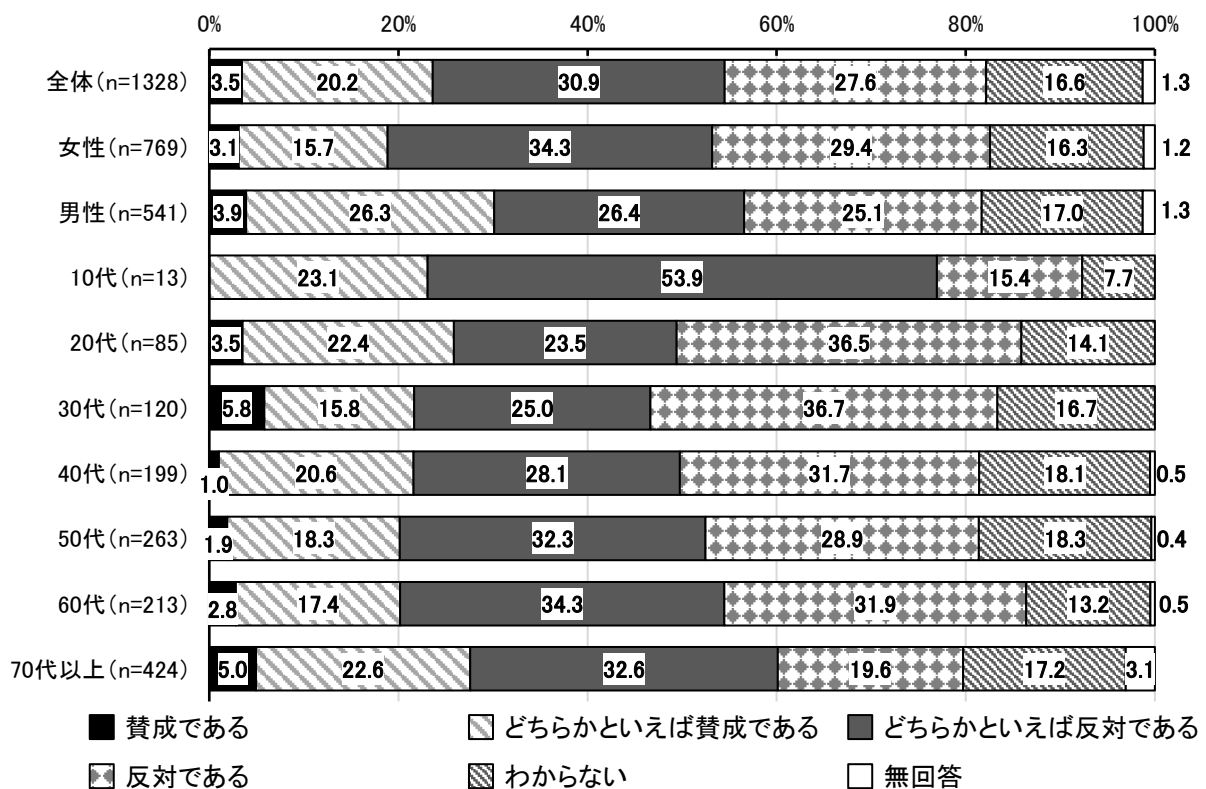
**問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)**

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてみると、「賛成である」「どちらかといえば賛成である」を合わせた『賛成』(以下、同様)の割合は23.7%、「どちらかといえば反対である」「反対である」を合わせた『反対』(以下、同様)の割合は58.5%と『反対』が5割を超えています。

性別にみると、『賛成』は男性が11.4ポイント高く、『反対』は女性が12.2ポイント高くなっています。

年代別にみると、『賛成』は70代以上、20代、10代の順に高く、『反対』の割合は10代、60代、30代の順に高くなっています。

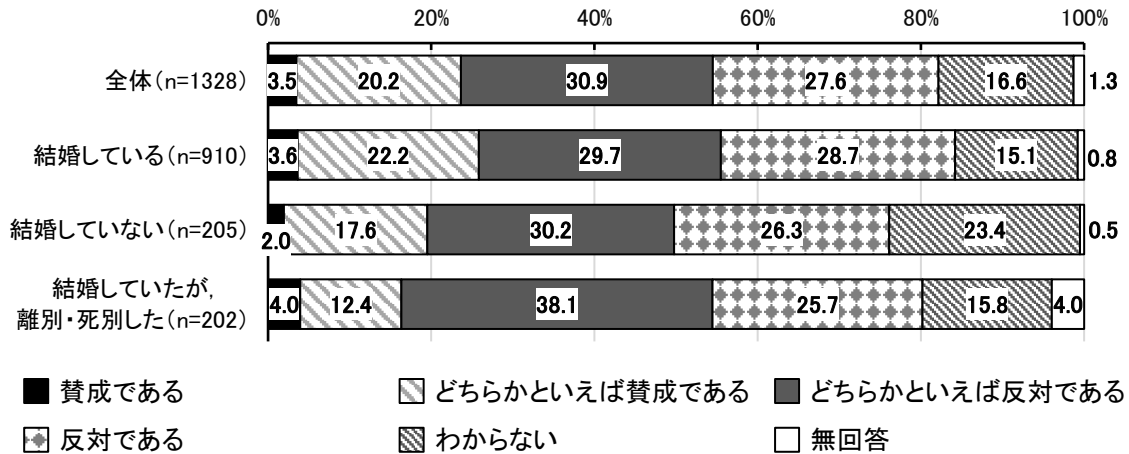
【性別・年代別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



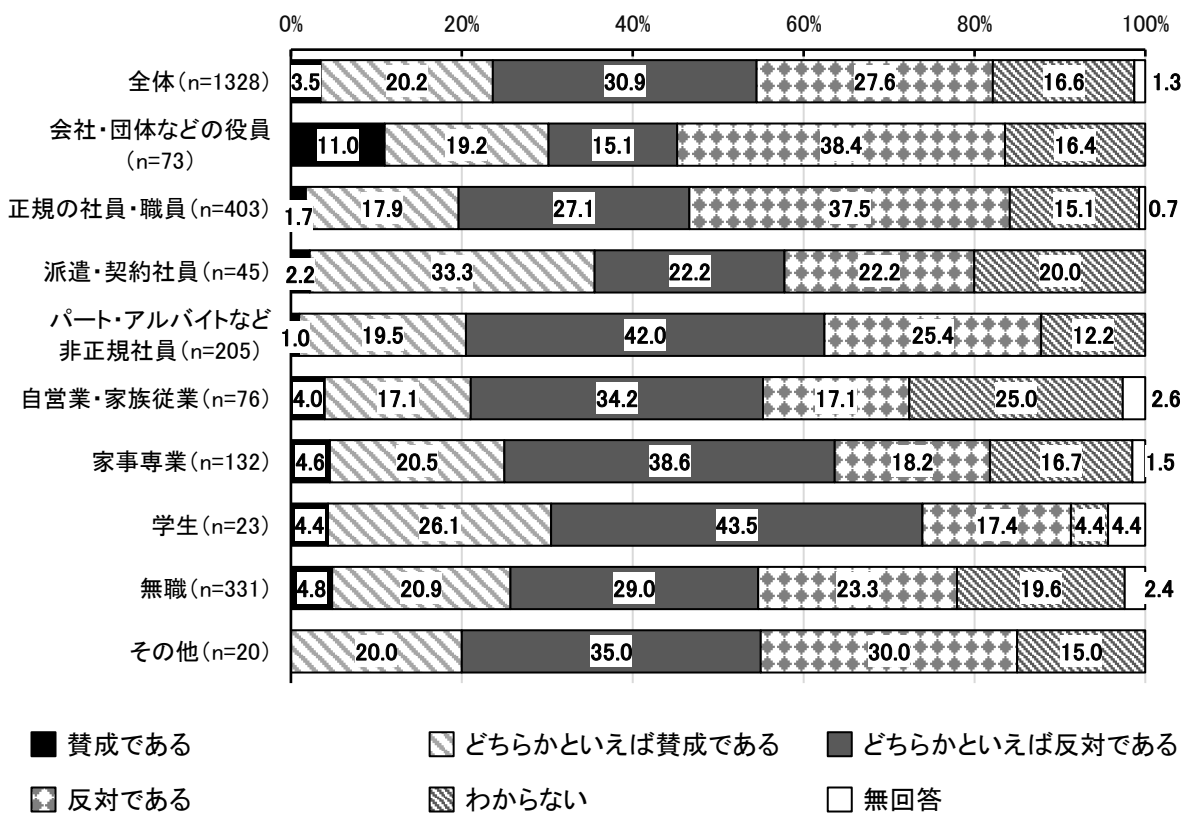
婚姻状況別にみると、結婚している方は『賛成』の割合が高くなっています。結婚していたが、離別・死別した方との差は9.4ポイントとなっています。

自身の職業別にみると、派遣・契約社員が『賛成』の割合が高く、正規の社員・職員との差は15.9ポイントとなっています。

【婚姻状況別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】

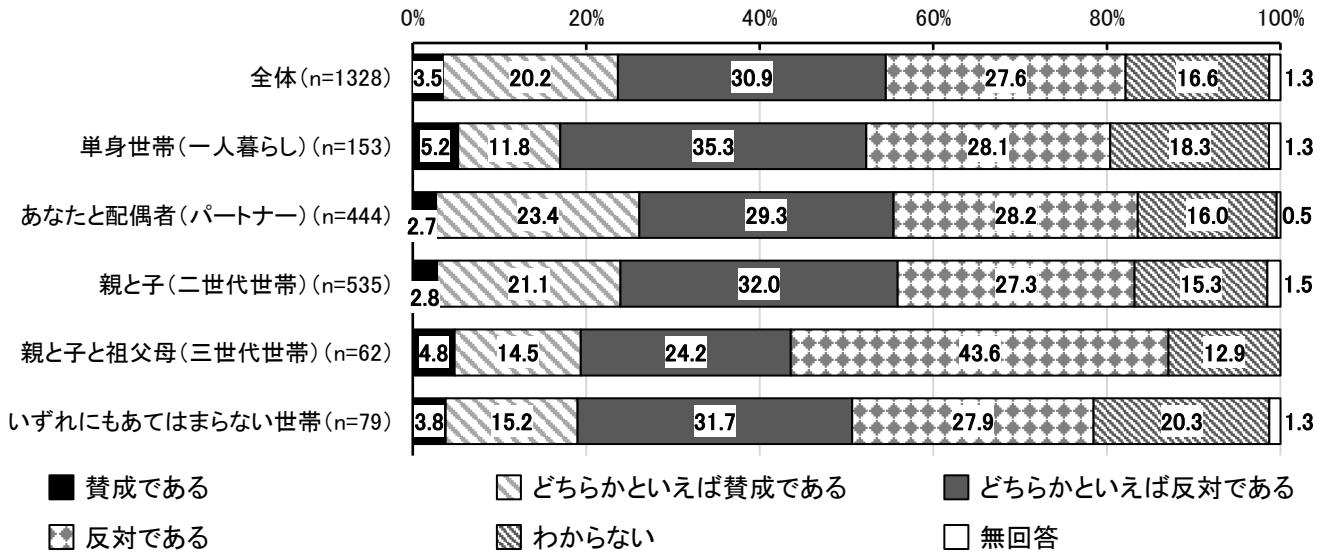


【自身の職業別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



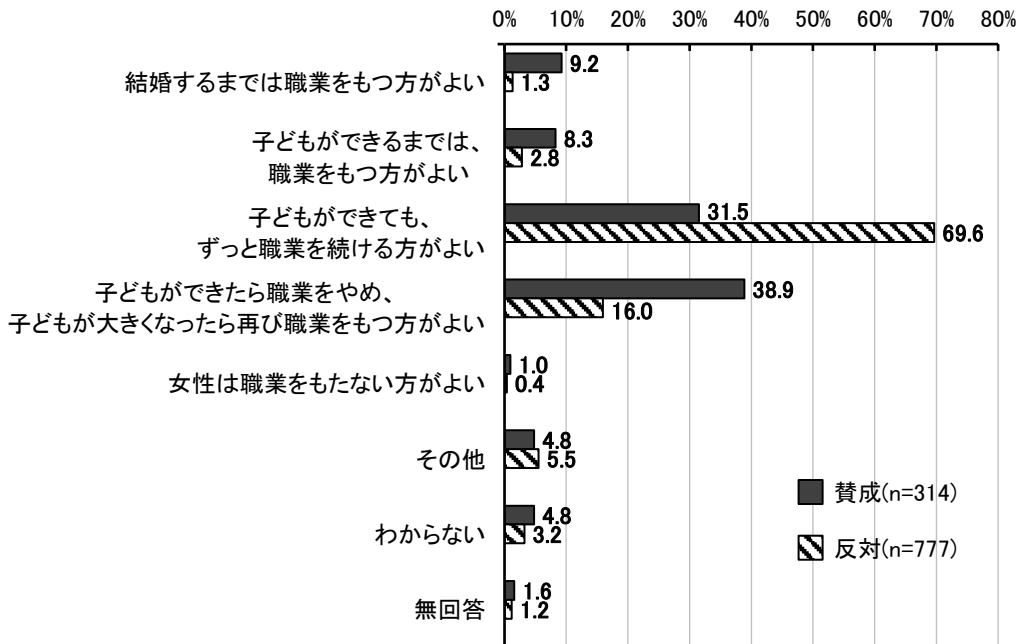
世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）が『賛成』の割合が最も高くなっています。

【世帯構成別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



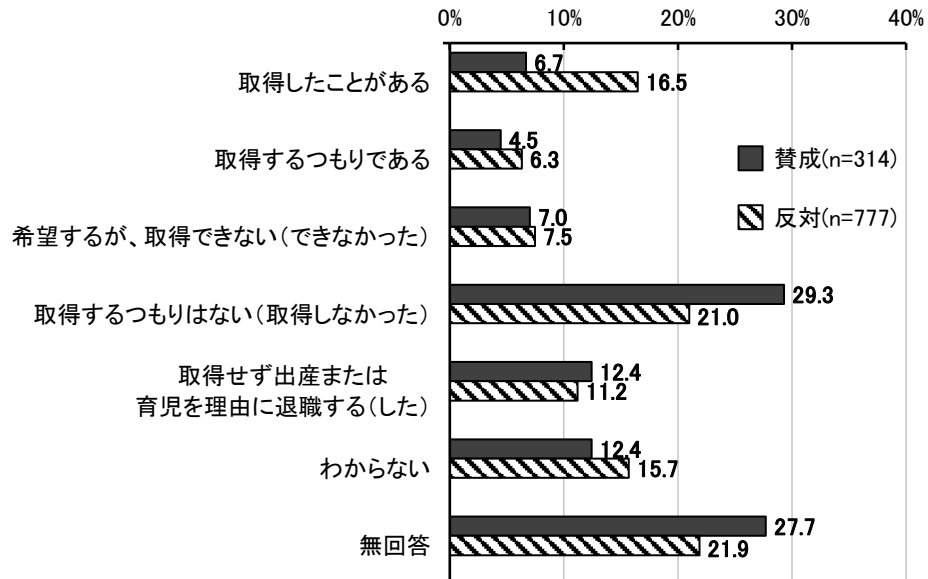
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が69.6%と『賛成』の方より38.1ポイント高くなっています。一方で、『賛成』の方は、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が38.9%と『反対』の方より22.9ポイント高くなっています。

【問2「一般的に女性が職業を持つこと」×問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



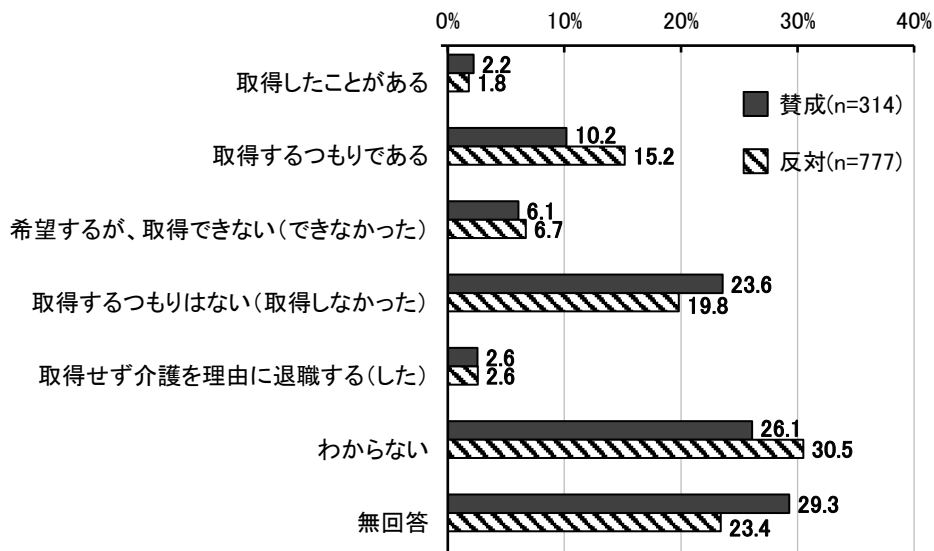
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、育児休業の取得について、「取得したことがある」の割合が16.5%と『賛成』の方より9.8ポイント高くなっています。一方で、『賛成』の方は、「取得するつもりはない（取得しなかった）」の割合が29.3%と『反対』の方より8.3ポイント高くなっています。

【問3「育児休業の取得」×問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、介護休業の取得について、「取得するつもりである」の割合が15.2%と『賛成』の方より5.0ポイント高くなっています。一方で、『賛成』の方は、「取得するつもりはない（取得しなかった）」の割合が23.6%と『反対』の方より3.8ポイント高くなっています。

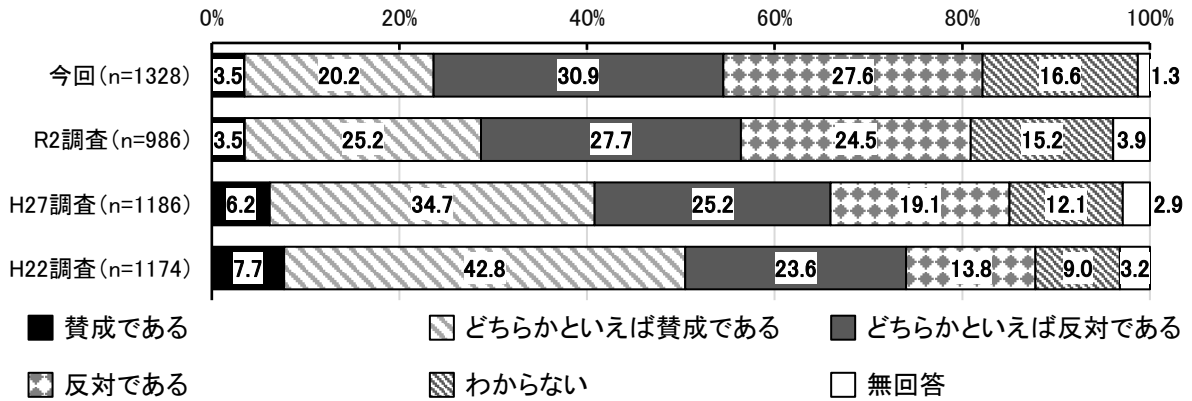
【問5「介護休業の取得」×問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



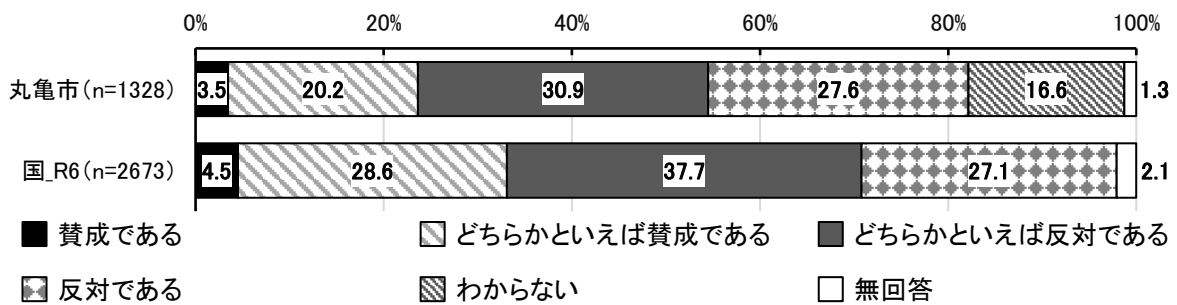
過去調査と比較すると、『賛成』の割合は年々低くなっています。R2 調査より 5.0 ポイント低くなっています。

国調査と比較すると、『賛成』の割合は 9.4 ポイント低くなっています。

【過去調査と比較した「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



【国調査と比較した「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



※参考：令和6年9月実施「男女共同参画社会に関する世論調査」内閣府調査

問 10 あなたの家庭では、(ア) から (カ) までの家事などはどなたがされていますか。  
また、あなたの理想ではどのようにしたいと思いますか。(○は各項目1つずつ)

現実（結婚している方）

【全体】

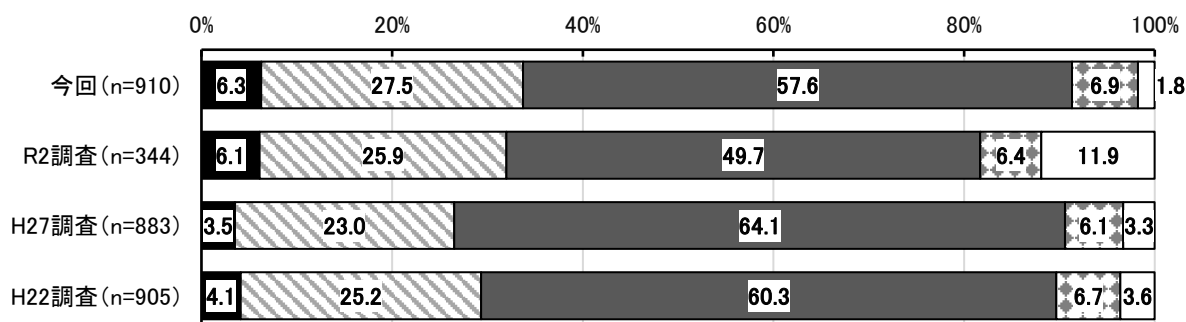
結婚している方の家庭での家事などの役割分担についてみると、「主に夫」は「食事の後片付け」を除くすべての項目で10%未満となっており、「主に妻」は「(ウ) 食事の支度」76.8%の割合が最も高く、次いで「(イ) 洗濯」65.4%、「(ア) 掃除」57.6%、「(エ) 食事の後片付け」54.5%の順となっています。

「夫婦が協力して」は「(オ) 子どもの世話・教育」32.6%の割合が最も高く、次いで「(ア) 掃除」27.5%、「(カ) 家族の介護」25.9%の順となっています。

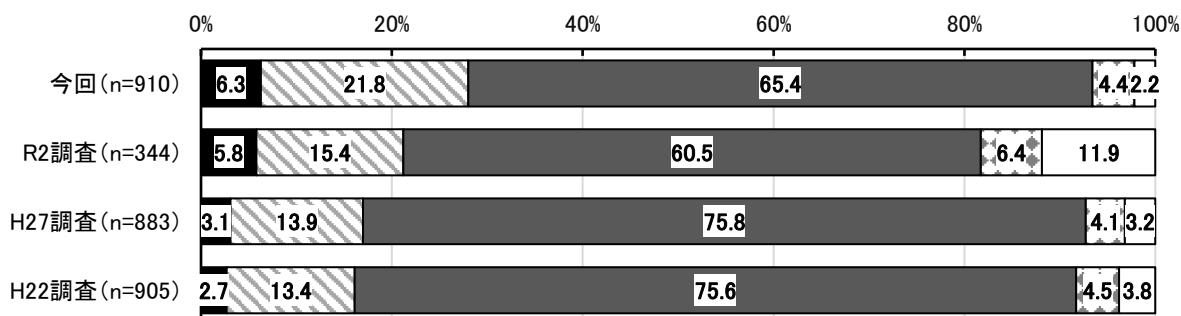
過去調査と比較すると、すべての項目で「主に妻」の割合が増加しています。

【現実：過去調査と比較した各項目の家事などの役割分担について】

<ア 掃除>

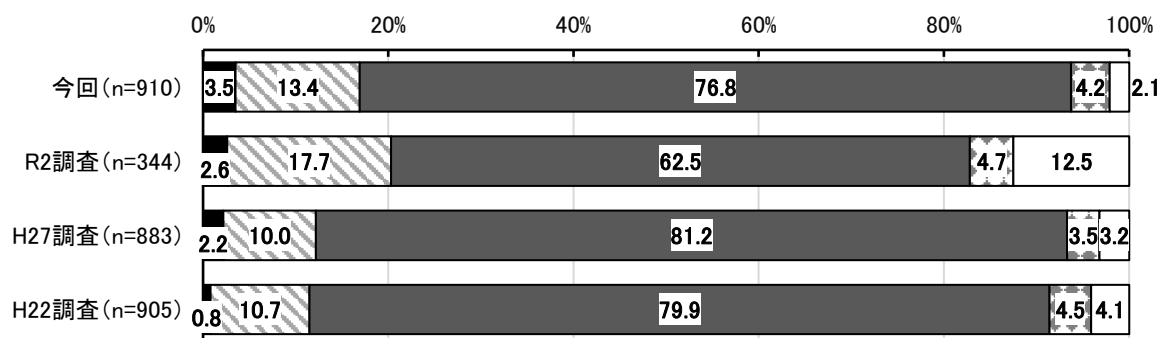


<イ 洗濯>

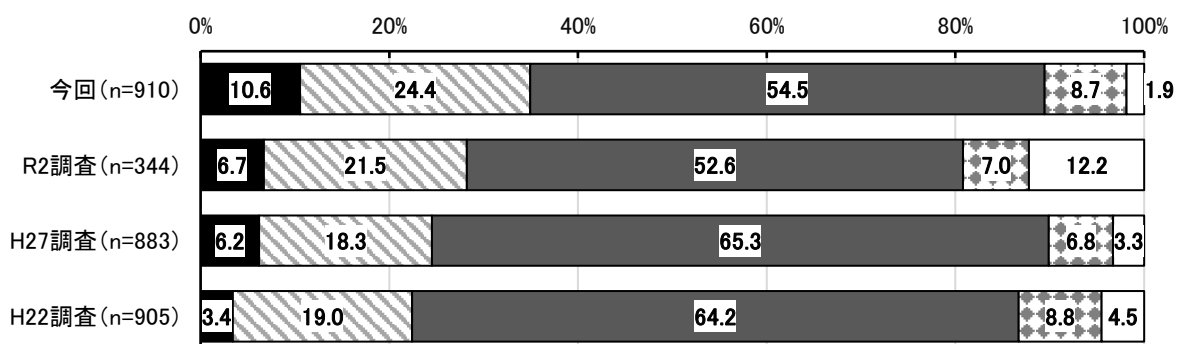


■ 主に夫    ▨ 夫婦が協力して    ■ 主に妻    ▩ 家族が協力して    □ 無回答

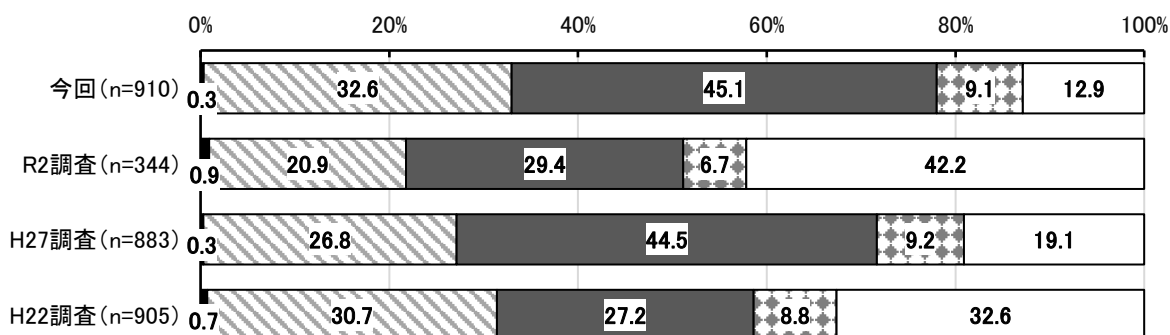
<ウ 食事の支度>



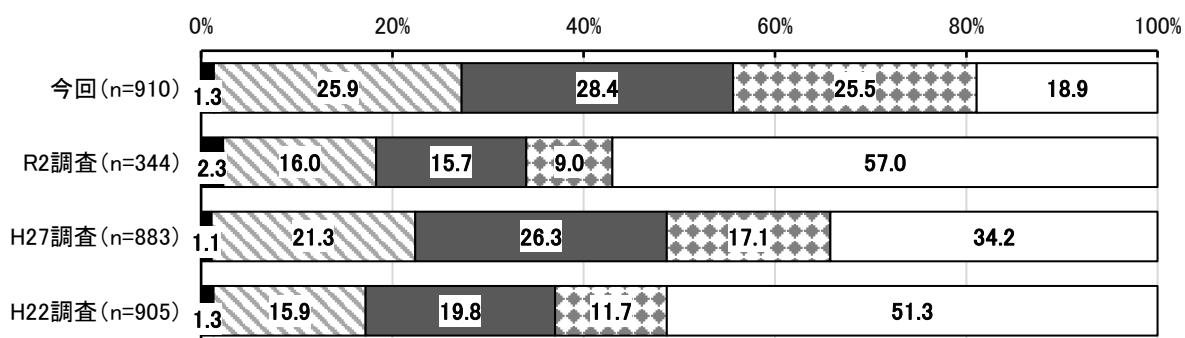
<エ 食事の後片付け>



<オ 子どもの世話・教育>



<カ 家族の介護>



■ 主に夫    ▨ 夫婦が協力して    ■ 主に妻    ▩ 家族が協力して    □ 無回答

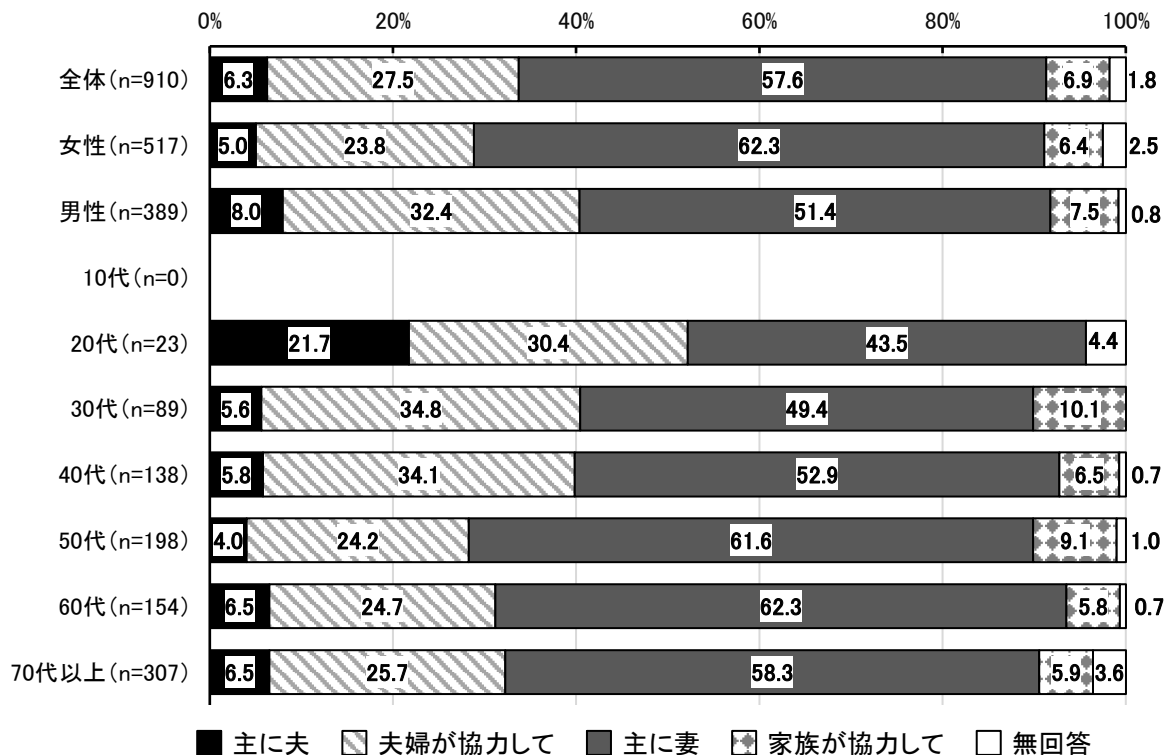
## ア 掃除

掃除についてみると、「主に妻」57.6%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」27.5%、「家族が協力して」6.9%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「夫婦が協力して」の割合が8.6ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合は30代以下を除くすべての年代で半数を超えており、「主に夫」の割合は20代で高くなっています。

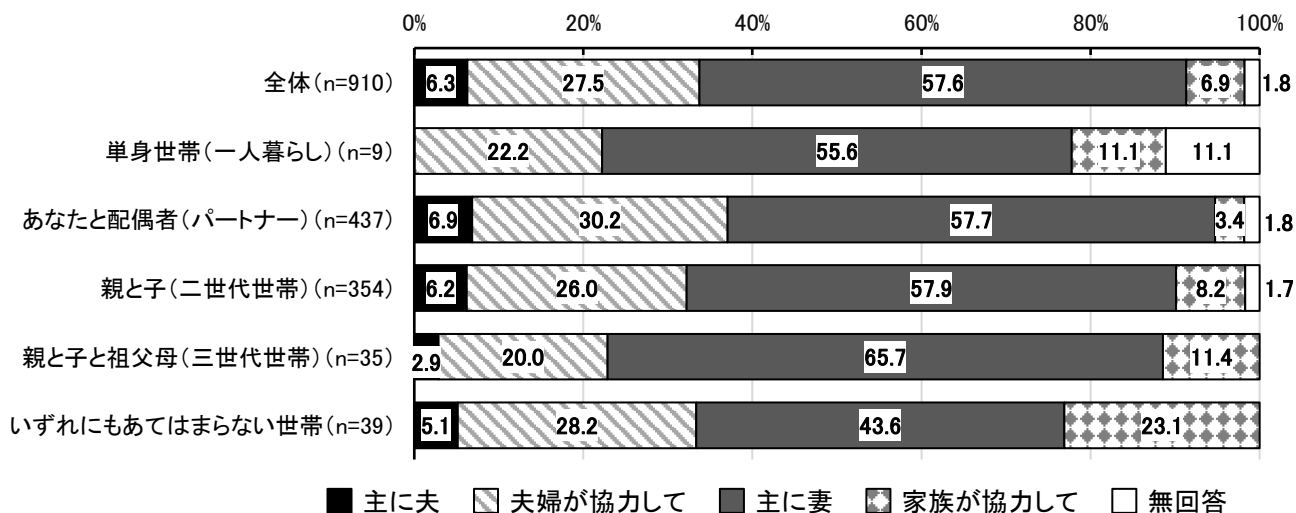
【現実：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】



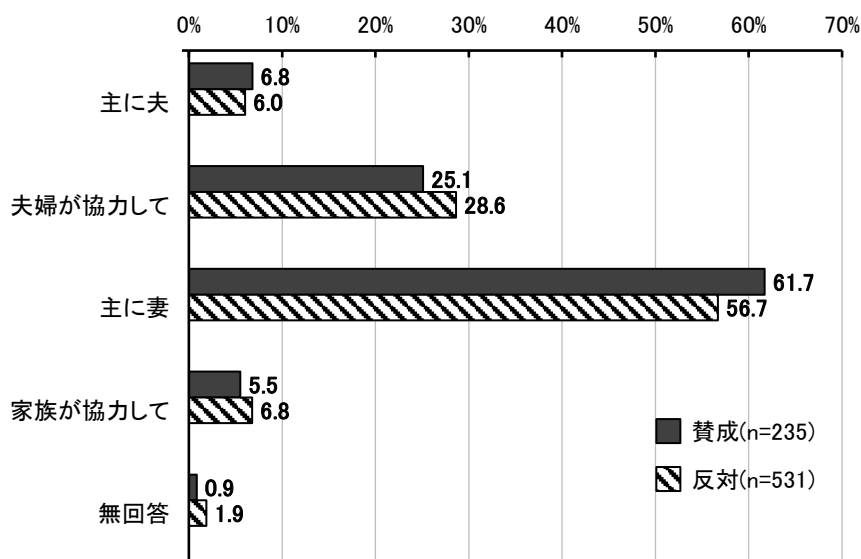
世帯構成別に掃除についてみると、親と子と祖父母（三世代世帯）は「主に妻」の割合が65.7%と最も高くなっています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『賛成』の方は、「主に妻」の割合が『反対』の方より5.0ポイント高くなっています。

【現実：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】



【現実：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(ア 掃除)】



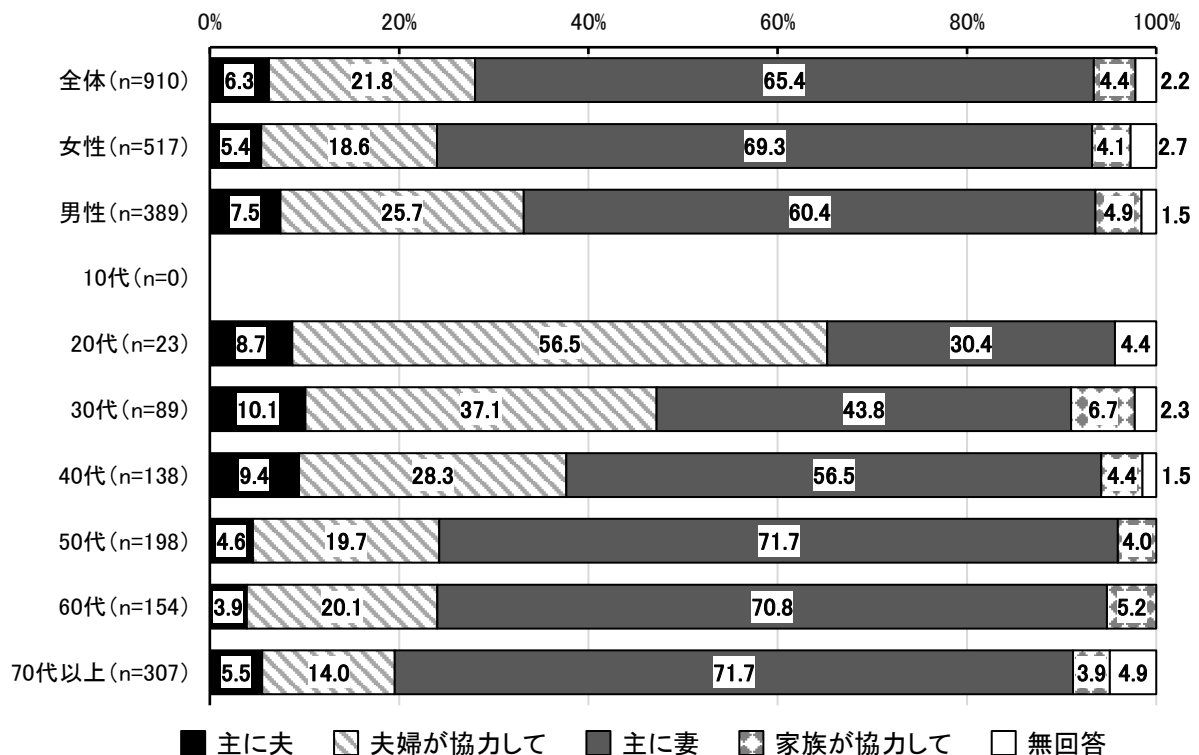
## イ 洗濯

洗濯についてみると、「主に妻」65.4%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」21.8%、「主に夫」6.3%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が8.9ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合は40代以上で半数を超えており、「夫婦が協力して」の割合は20代56.5%で最も高くなっています。

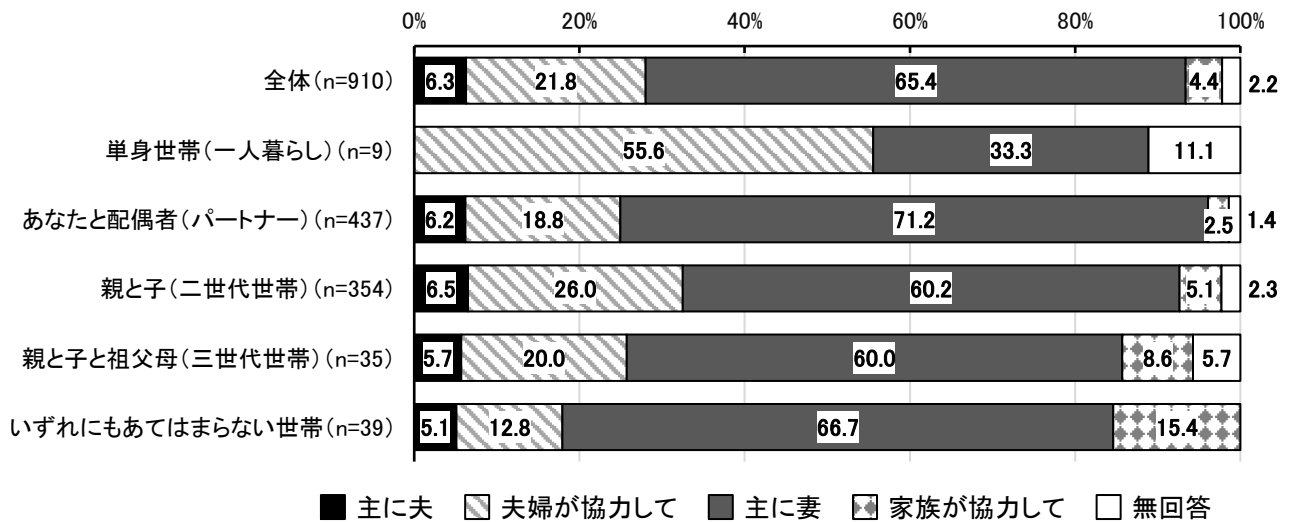
【現実：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



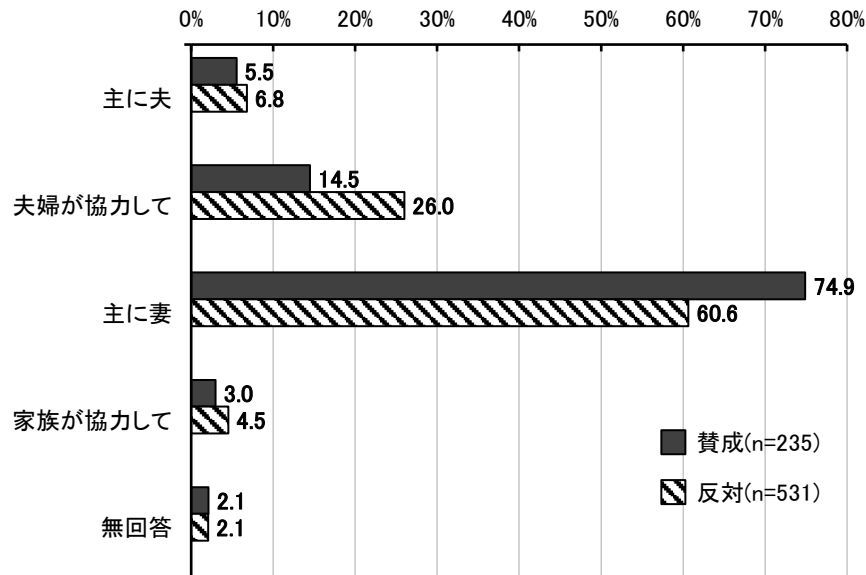
世帯構成別に洗濯についてみると、あなたと配偶者（パートナー）は「主に妻」の割合が71.2%と最も高くなっています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『賛成』の方は、「主に妻」の割合が『反対』の方より14.3ポイント高くなっています。

【現実：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



【現実：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



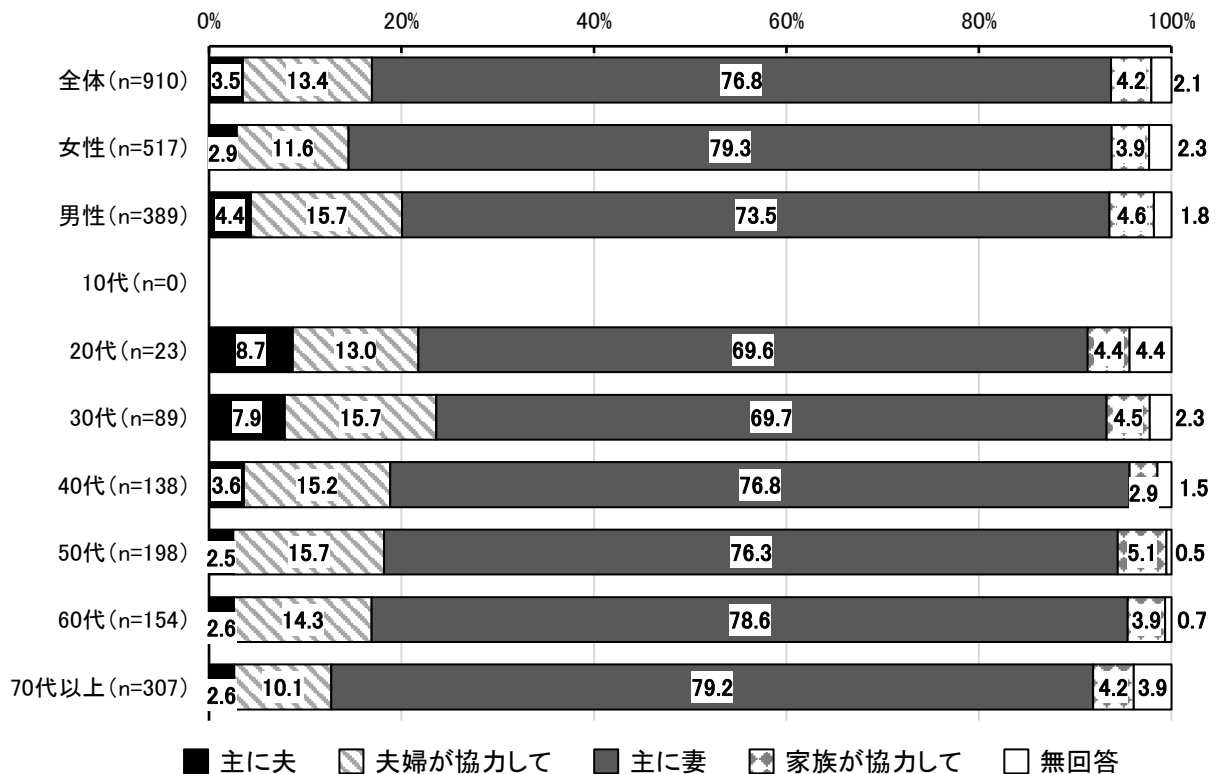
## ウ 食事の支度

食事の支度についてみると、「主に妻」76.8%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」13.4%、「家族が協力して」4.2%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が5.8ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合はすべての年代で60%を超えており、「主に夫」の割合は30代以下が高くなっています。

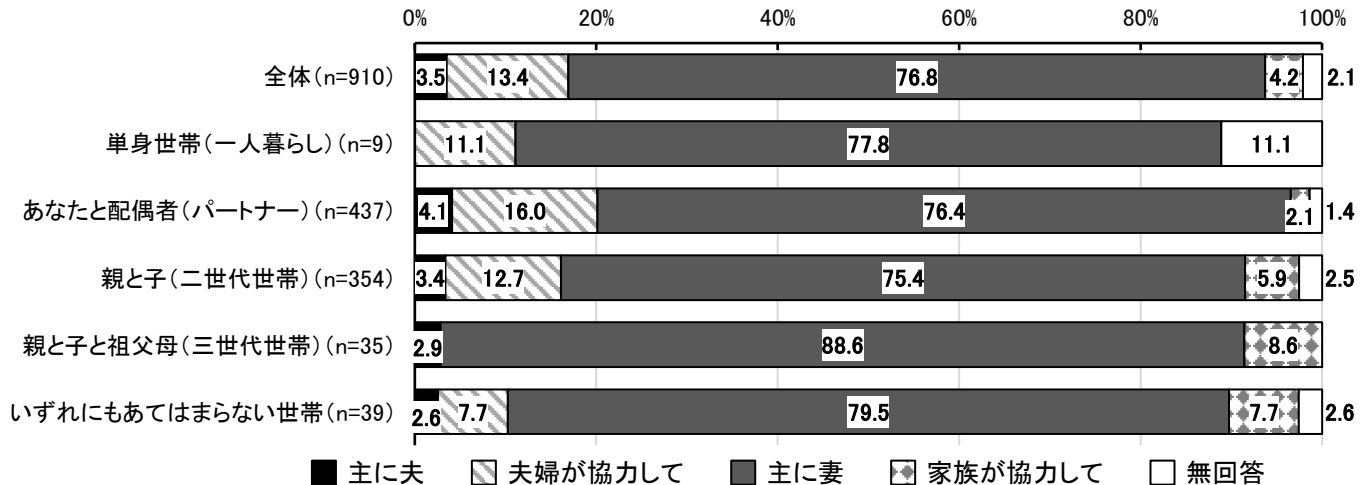
【現実：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】



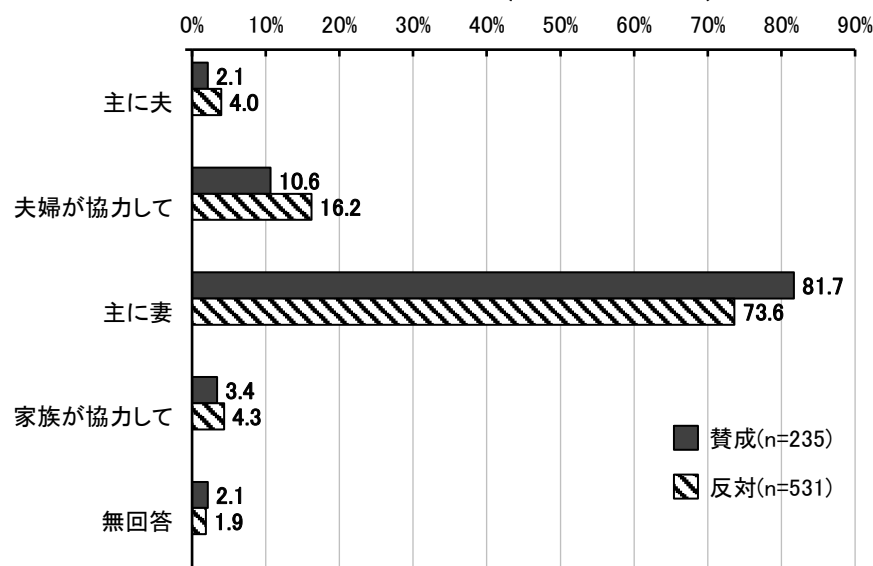
世帯構成別に食事の支度についてみると、親と子と祖父母（三世代世帯）は「主に妻」の割合が88.6%と最も高くなっています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『賛成』の方は、「主に妻」の割合が『反対』の方より8.1ポイント高くなっています。

【現実：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】



【現実：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】



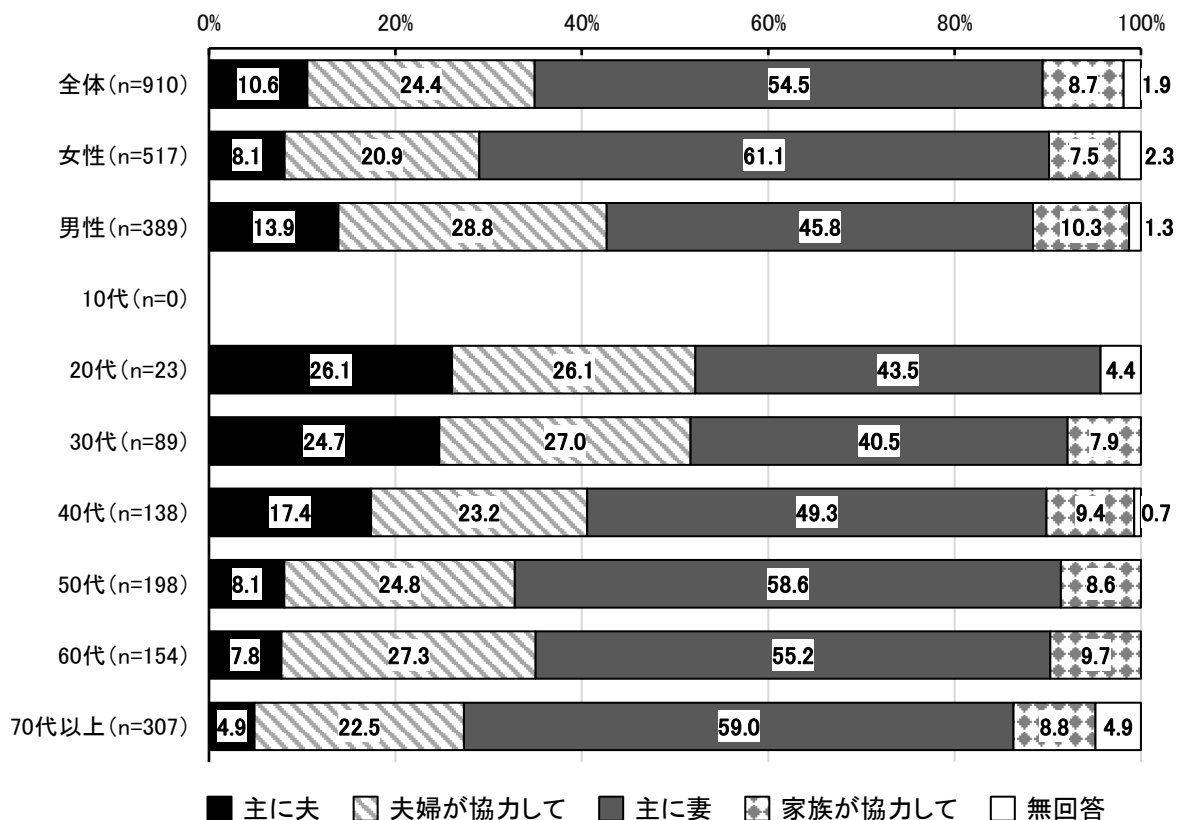
## エ 食事の後片付け

食事の後片付けについてみると、「主に妻」54.5%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」24.4%、「主に夫」10.6%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が15.3ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合は50代以上で半数を超えており、「主に夫」の割合は30代以下で高くなっています。20代では「主に夫」と「夫婦が協力して」の割合が同率となっています。

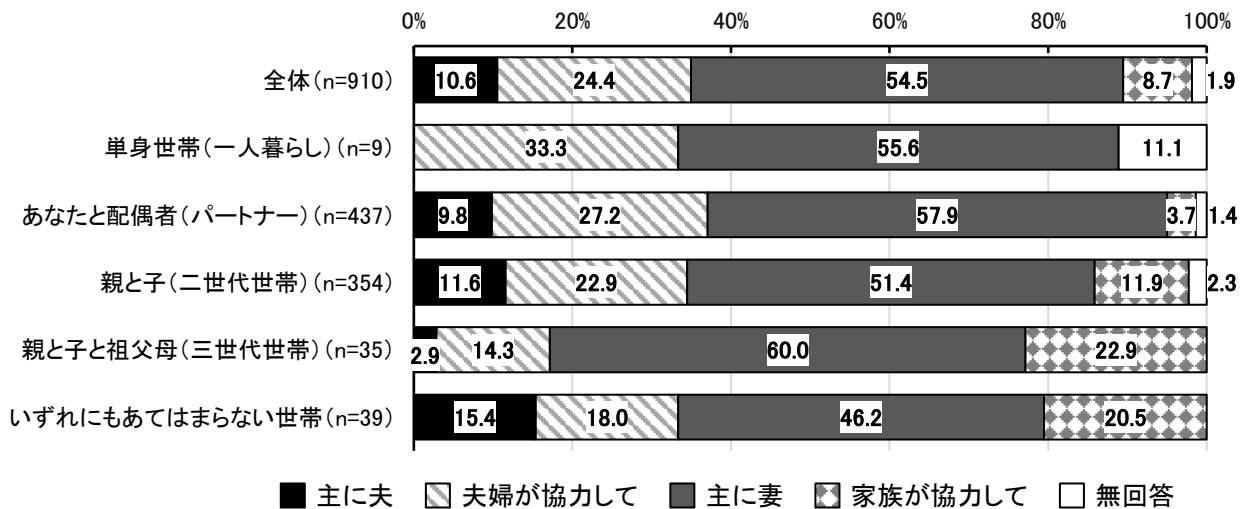
【現実：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】



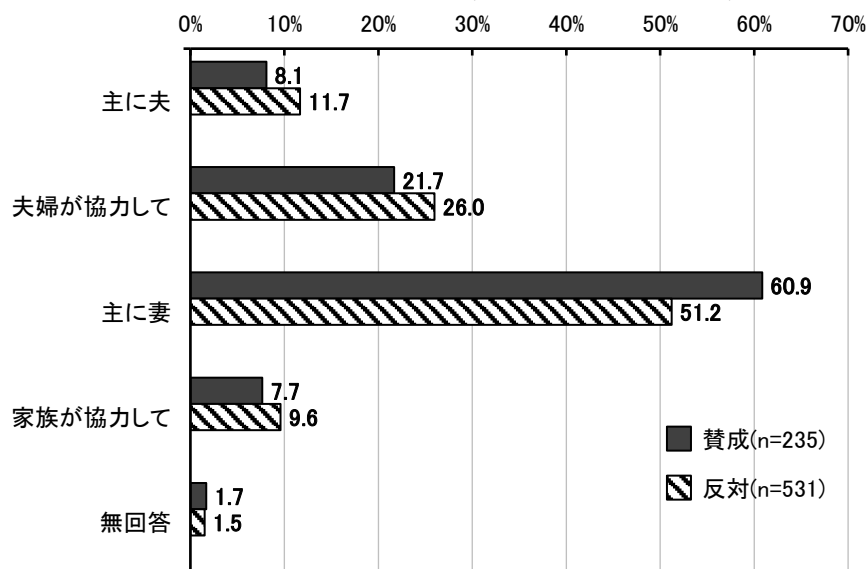
世帯構成別に食事の後片付けについてみると、親と子と祖父母（三世代世帯）は「主に妻」の割合が60.0%と最も高くなっています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『賛成』の方は、「主に妻」の割合が『反対』の方より9.7ポイント高くなっています。

【現実：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】



【現実：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】



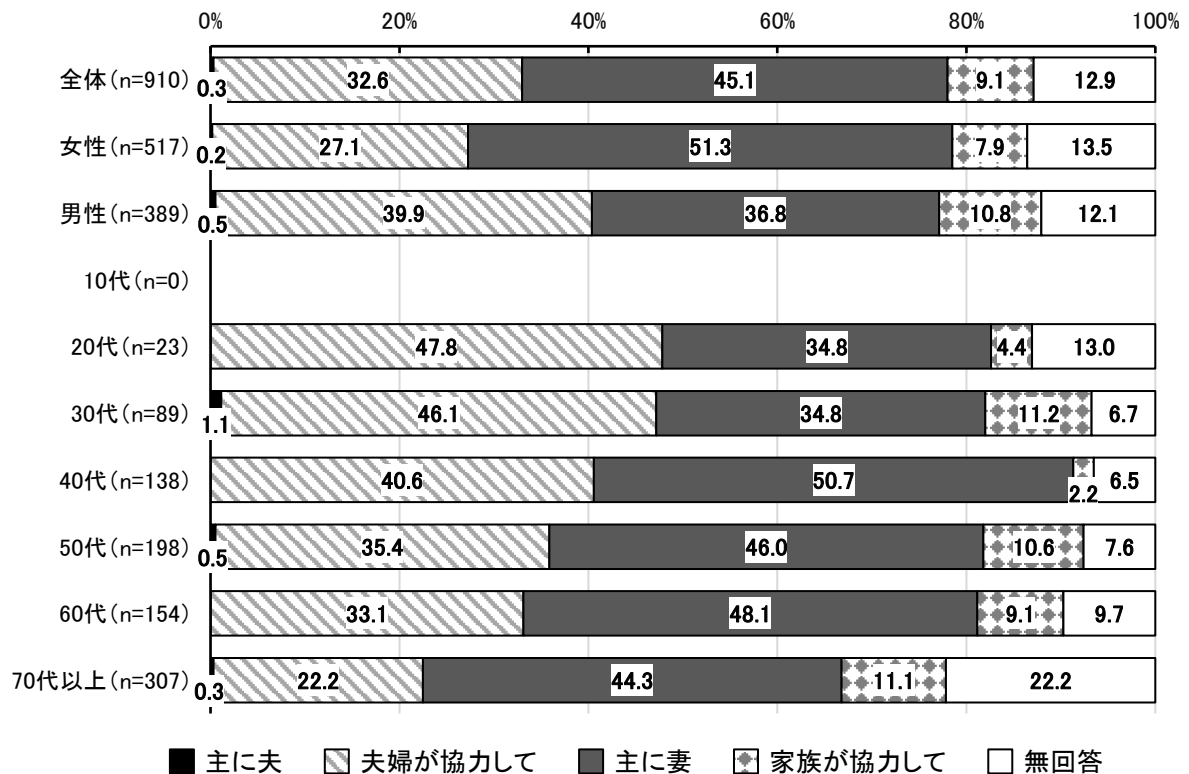
## オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「主に妻」45.1%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」32.6%、「家族が協力して」9.1%の順となっています。

性別にみると、男性は「夫婦が協力して」、女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、30代以下で「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。

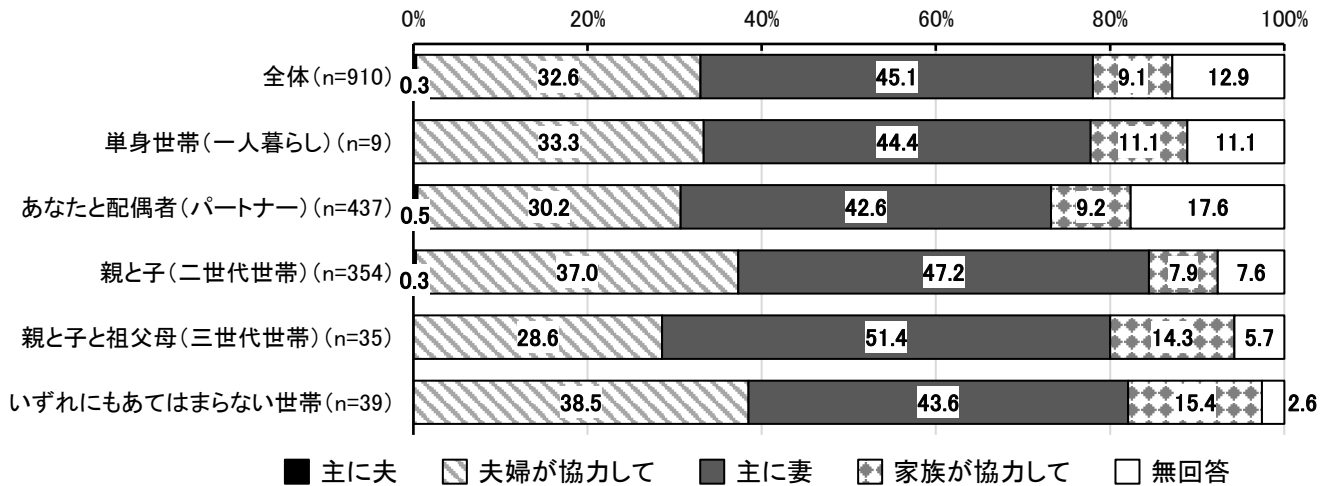
【現実：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



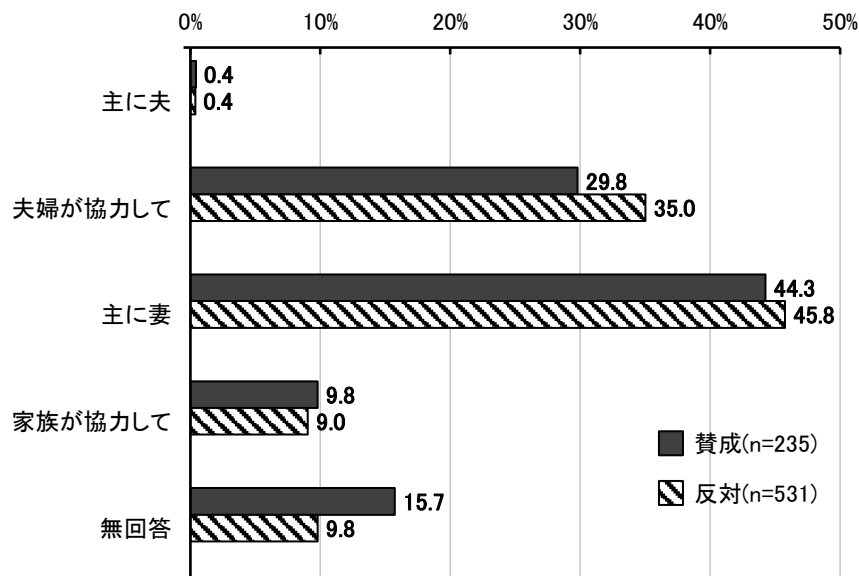
世帯構成別に子どもの世話・教育についてみると、全体と傾向に差はありません。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「主に妻」の割合が『賛成』の方より 1.5 ポイント高くなっています。

【現実：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



【現実：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



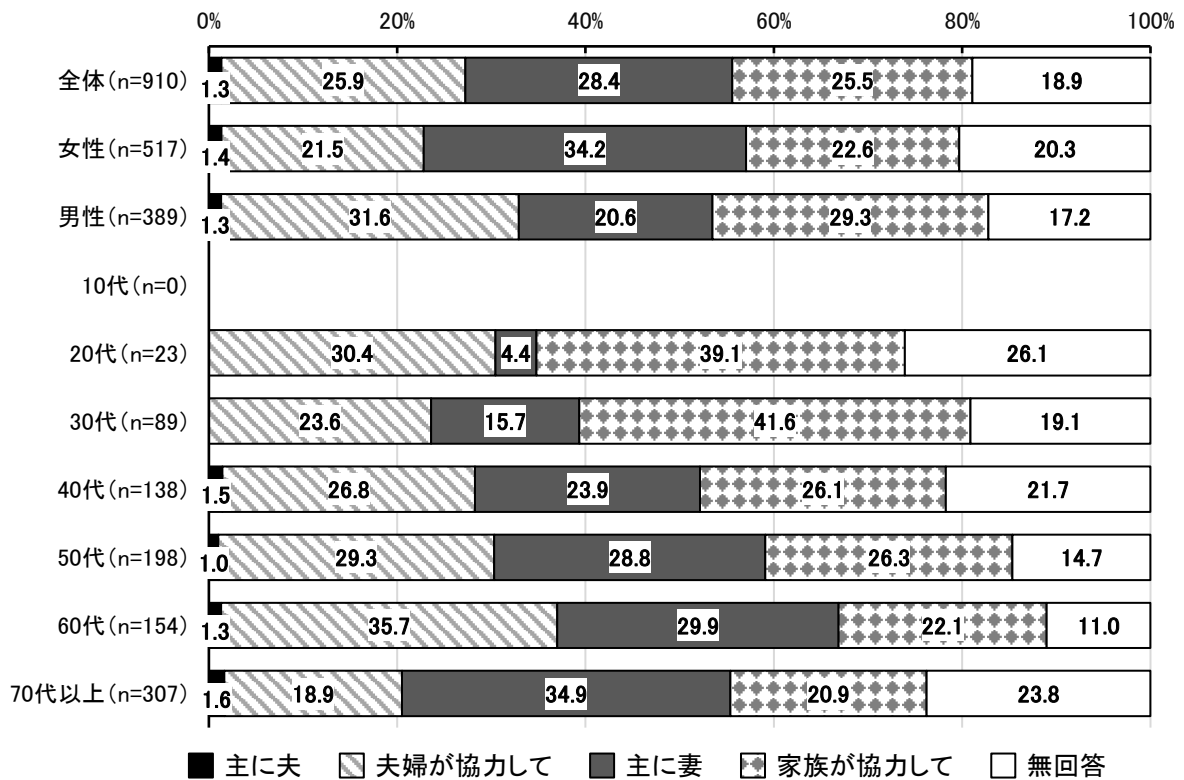
## カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「主に妻」28.4%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」25.9%、「家族が協力して」25.5%の順となっています。

性別にみると、男性は「夫婦が協力して」、女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、30代以下「家族が協力して」、40代～60代は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

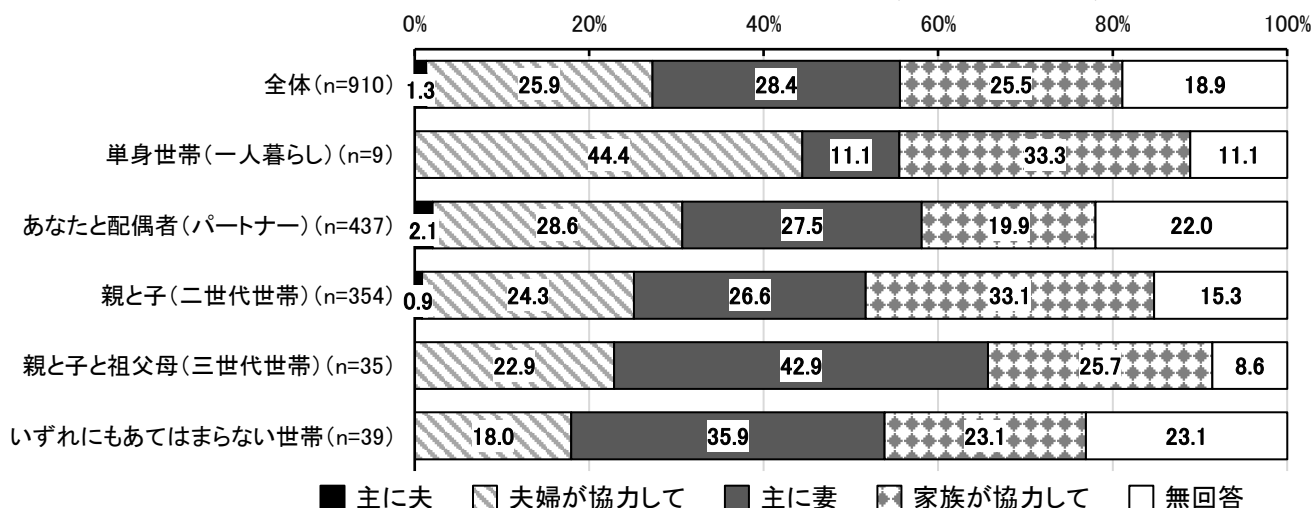
【現実：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



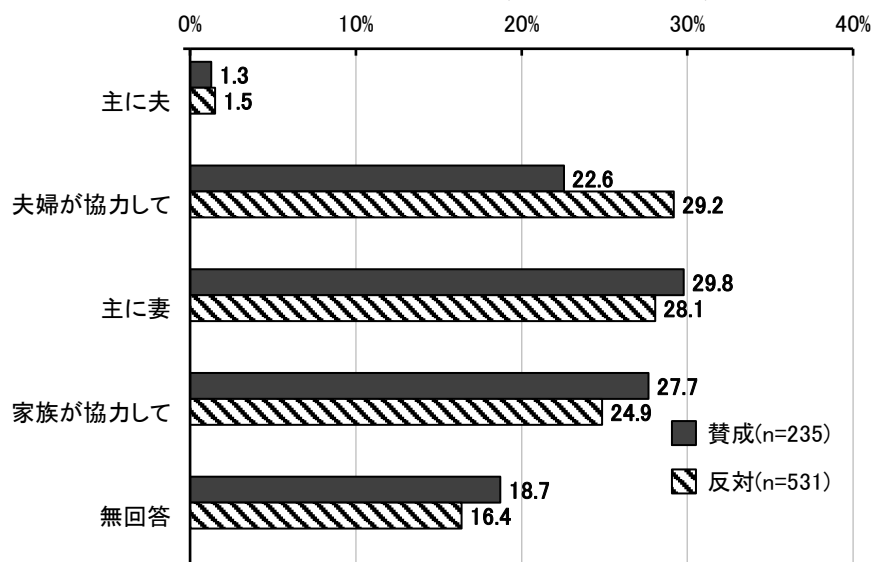
世帯構成別に家族の介護についてみると、親と子と祖父母（三世代世帯）では「主に妻」の割合が42.9%と最も高くなっています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『賛成』の方は、「主に妻」の割合が『反対』の方より1.7ポイント高くなっています。一方で『反対』の方は、「夫婦が協力して」の割合が『賛成』の方より6.6ポイント高くなっています。

【現実：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



【現実：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



理想（すべての方）

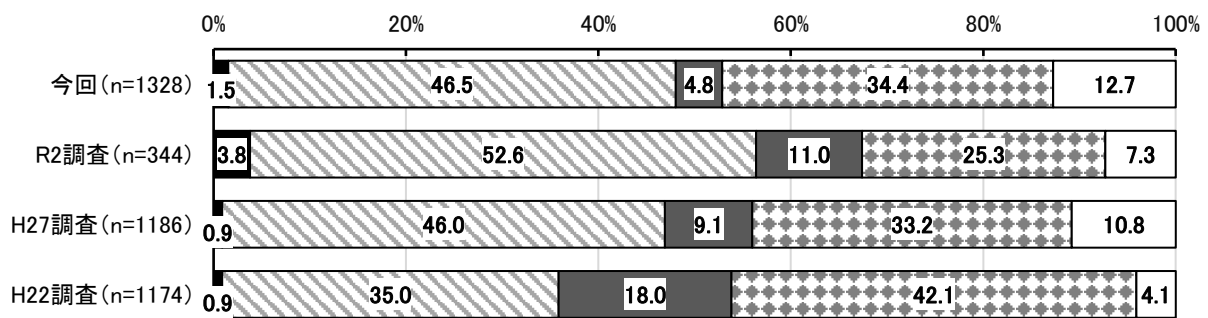
【全体】

家庭での家事などの役割分担の理想についてみると、「夫婦が協力して」では、「(オ) 子どもの世話・教育」54.0%の割合が最も高く、次いで「(ア) 掃除」46.5%、「(ウ) 食事の支度」43.2%、「(イ) 洗濯」42.9%の順となっています。

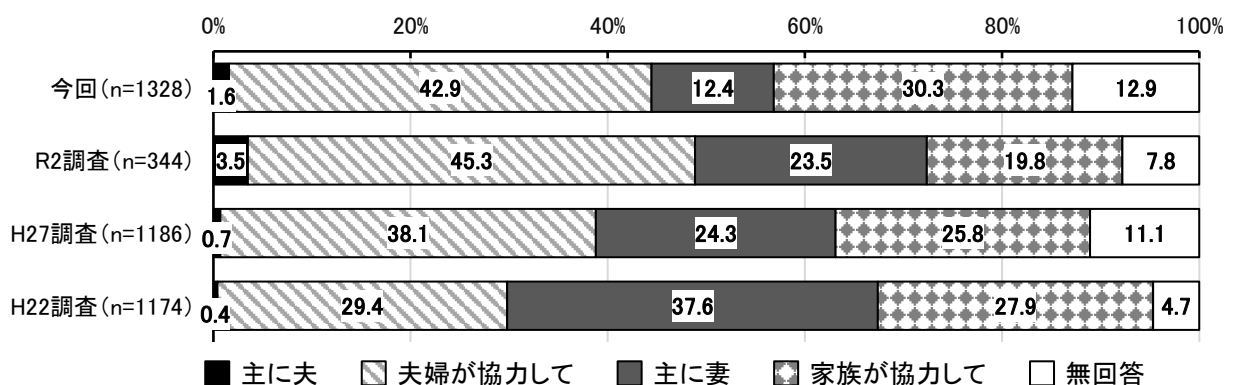
過去調査と比較すると、すべての項目で「主に妻」の割合が低くなっています。

【理想：過去調査と比較した各項目の家事などの役割分担について】

<ア 掃除>

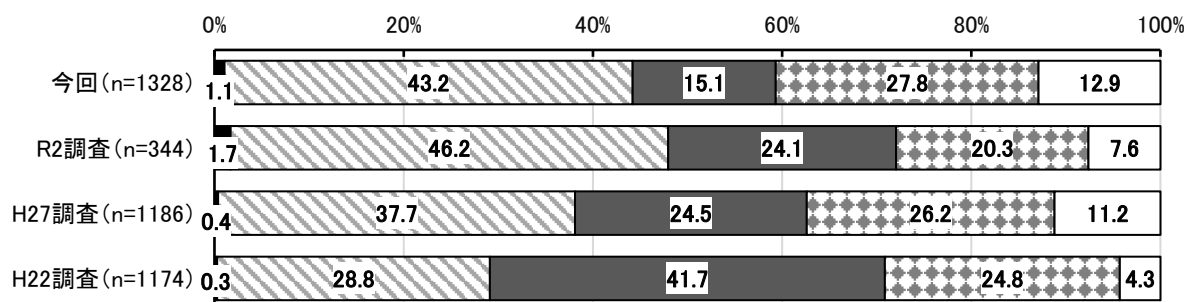


<イ 洗濯>

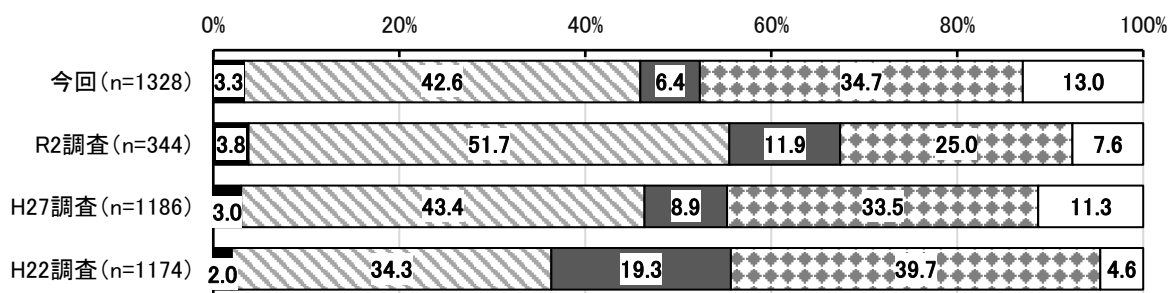


■ 主に夫   □ 夫婦が協力して   ■ 主に妻   ◻ 家族が協力して   □ 無回答

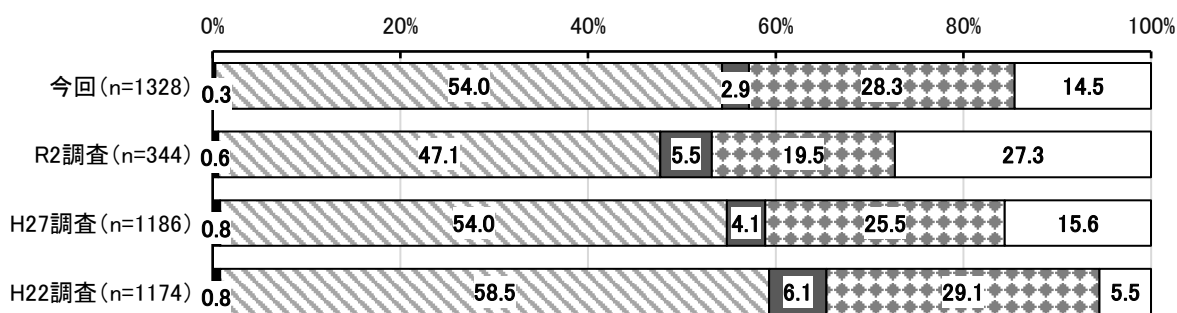
<ウ 食事の支度>



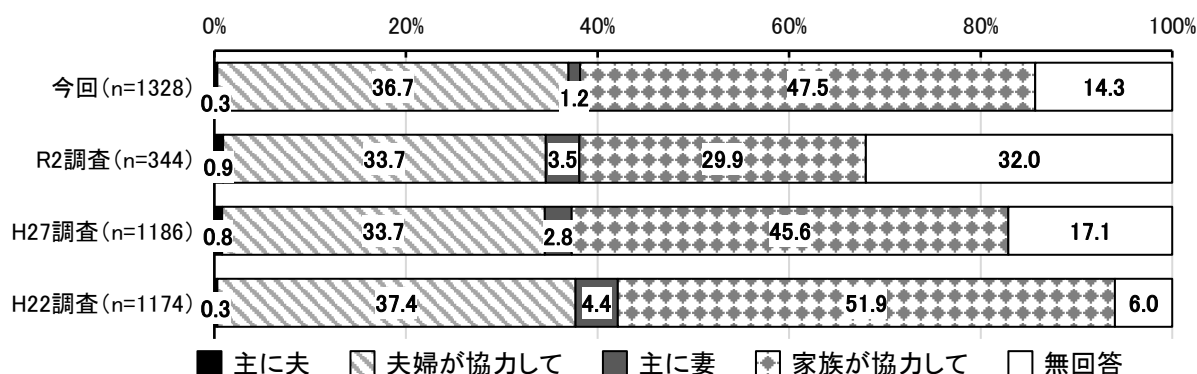
<エ 食事の後片付け>



<オ 子どもの世話・教育>



<カ 家族の介護>



■ 主に夫    ▨ 夫婦が協力して    ■ 主に妻    ▩ 家族が協力して    □ 無回答

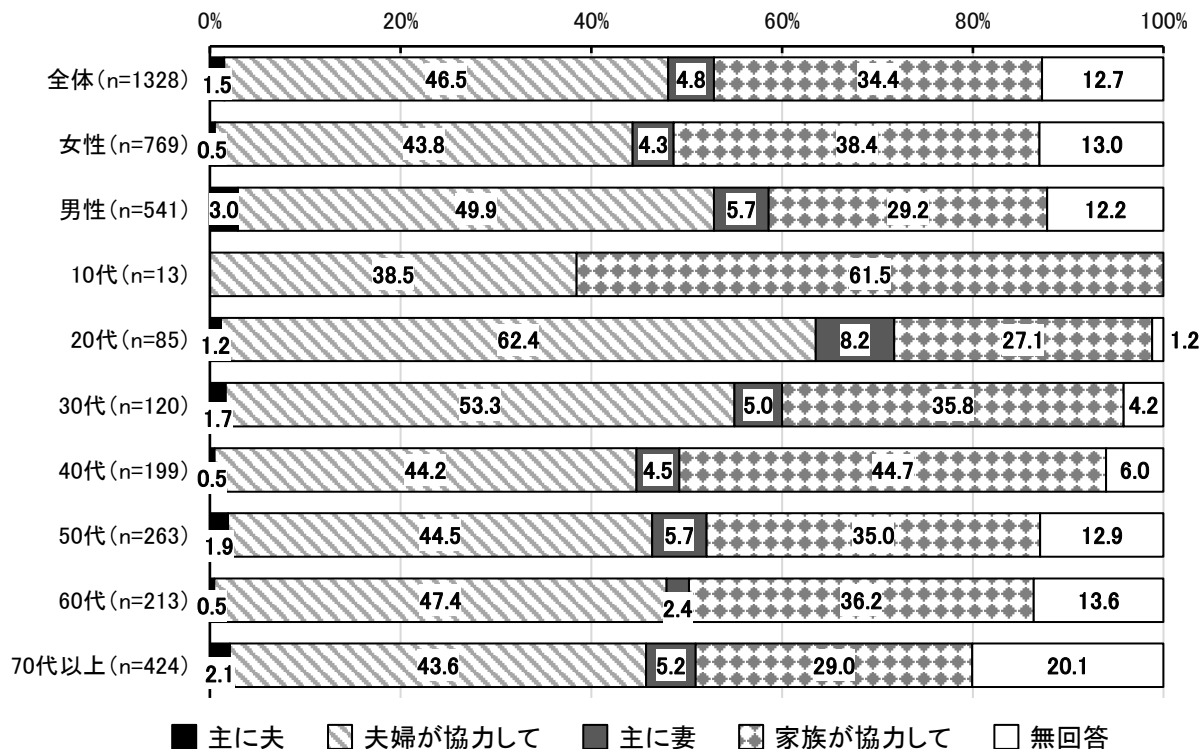
## ア 掃除

掃除についてみると、「夫婦が協力して」46.5%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」34.4%、「主に妻」4.8%、「主に夫」1.5%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「夫婦が協力して」の割合が6.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、10代、40代を除くすべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

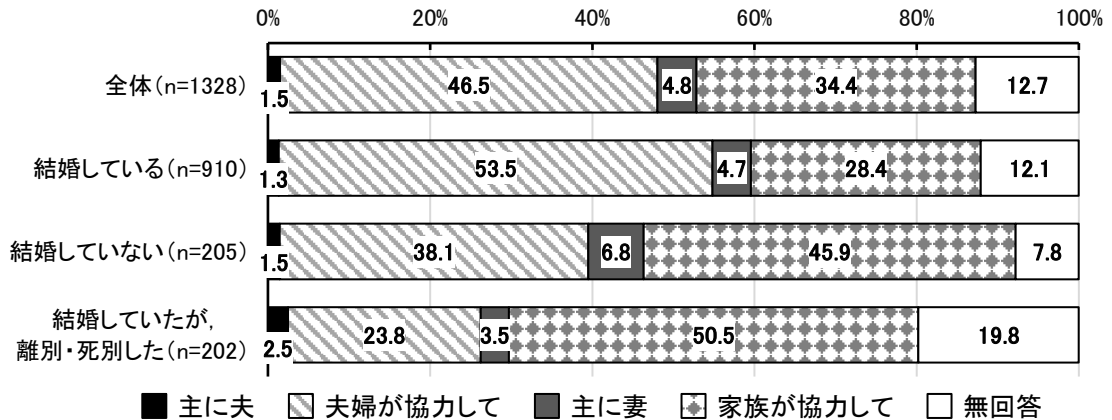
【理想：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】



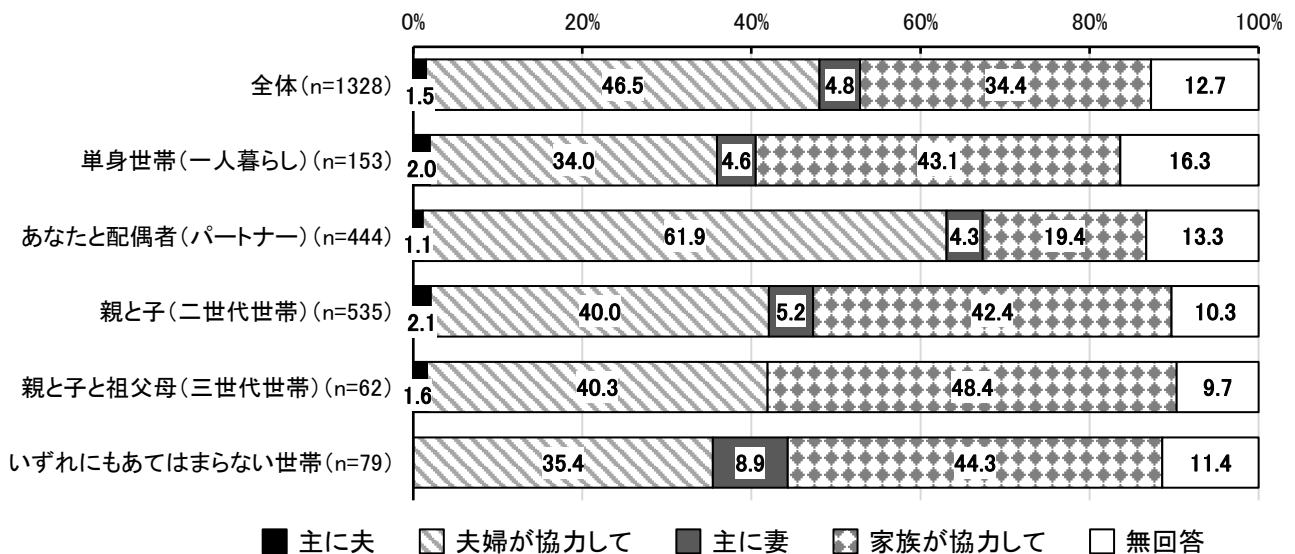
婚姻状況別にみると、結婚していたが、離別・死別した方では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：婚姻状況別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】

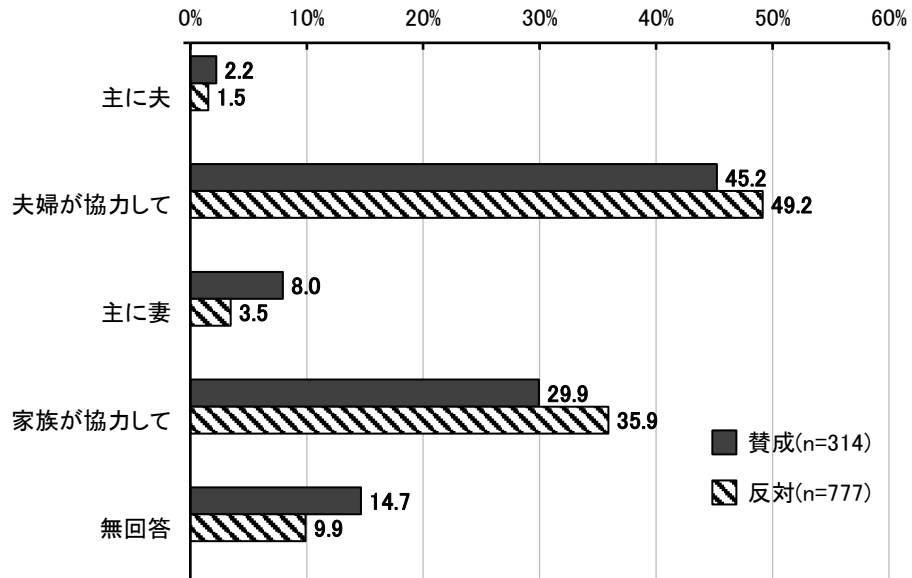


【理想：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「夫婦が協力して」の割合が『賛成』の方より4.0ポイント高くなっています。

【理想：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(ア 掃除)】

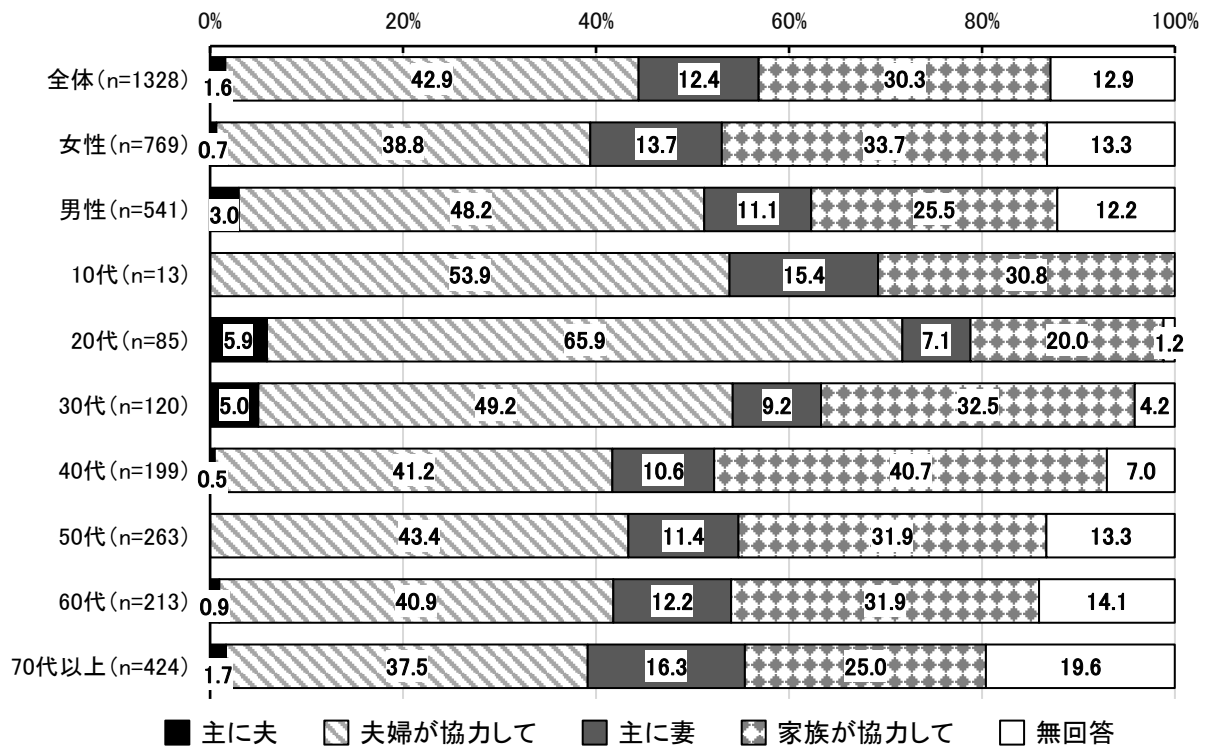


## イ 洗濯

洗濯についてみると、「夫婦が協力して」42.9%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」30.3%、「主に妻」12.4%、「主に夫」1.6%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「家族が協力して」の割合が8.2ポイント高くなっています。年代別にみると、20代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

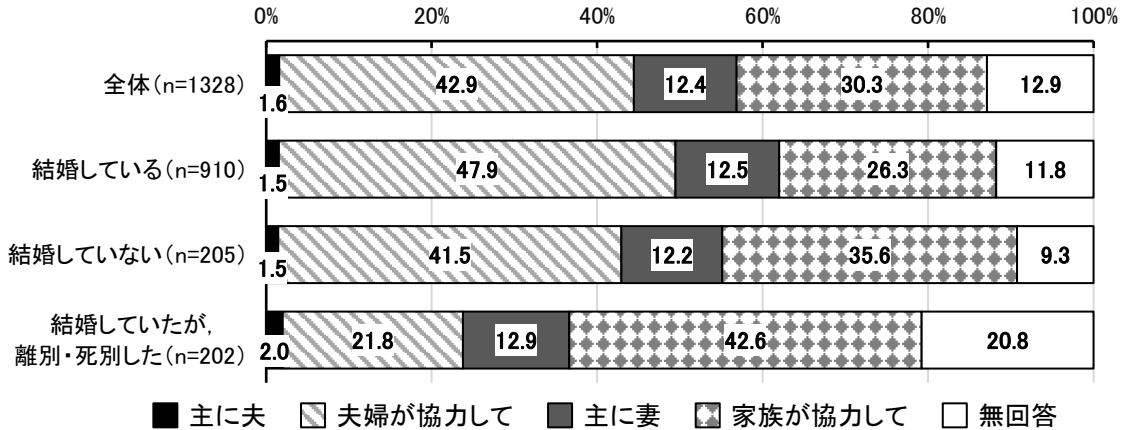
【理想：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



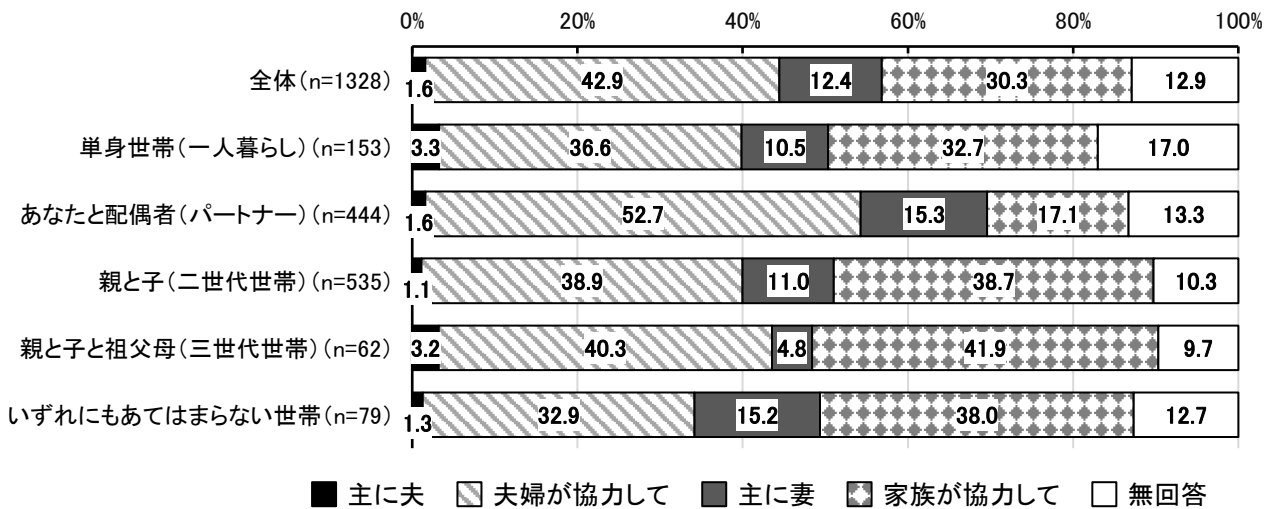
婚姻状況別にみると、結婚していたが、離別・死別した方では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：婚姻状況別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】

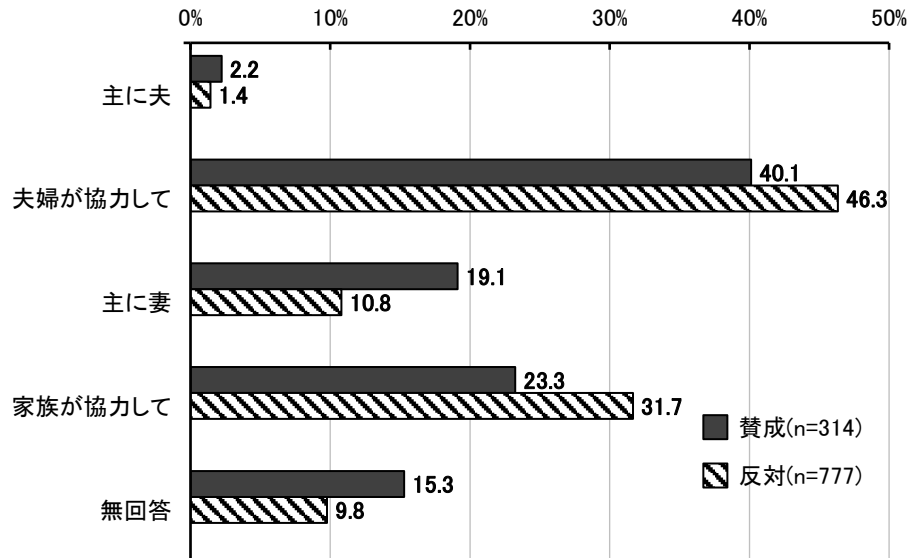


【理想：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「夫婦が協力して」の割合が『賛成』の方より 6.2 ポイント高くなっています。

【理想：問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



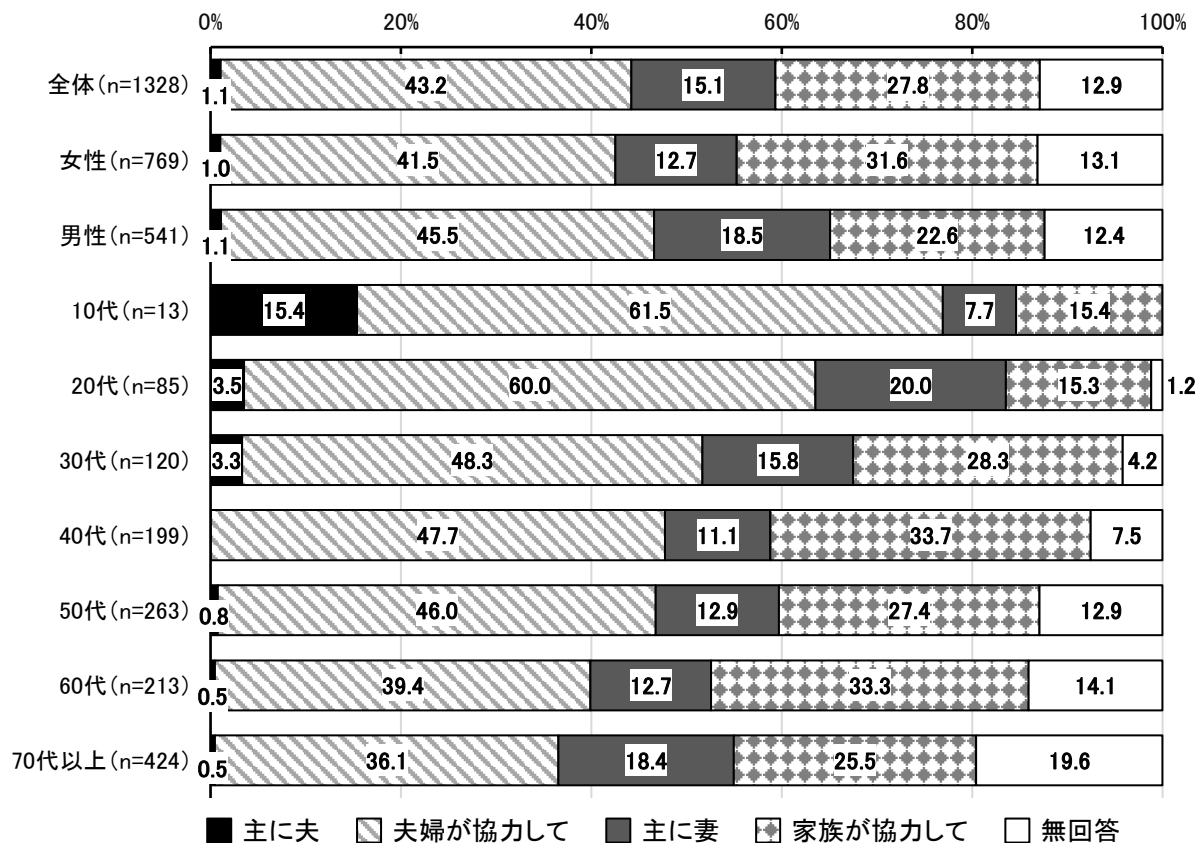
## ウ 食事の支度

食事の支度についてみると、「夫婦が協力して」43.2%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」27.8%、「主に妻」15.1%、「主に夫」1.1%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「主に妻」の割合が5.8ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

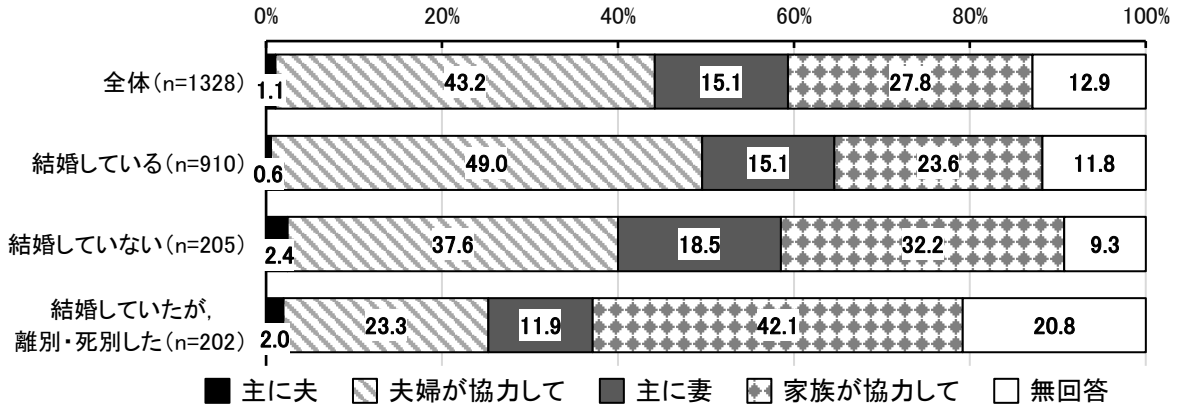
【理想：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】



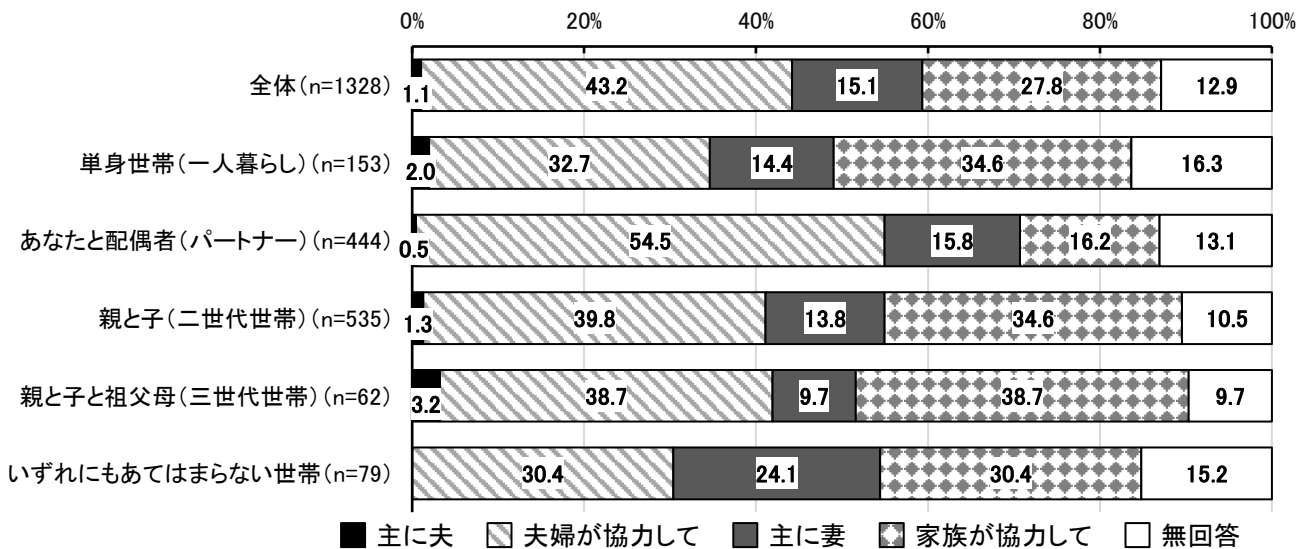
婚姻状況別にみると、結婚していたが、離別・死別した方では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：婚姻状況別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】

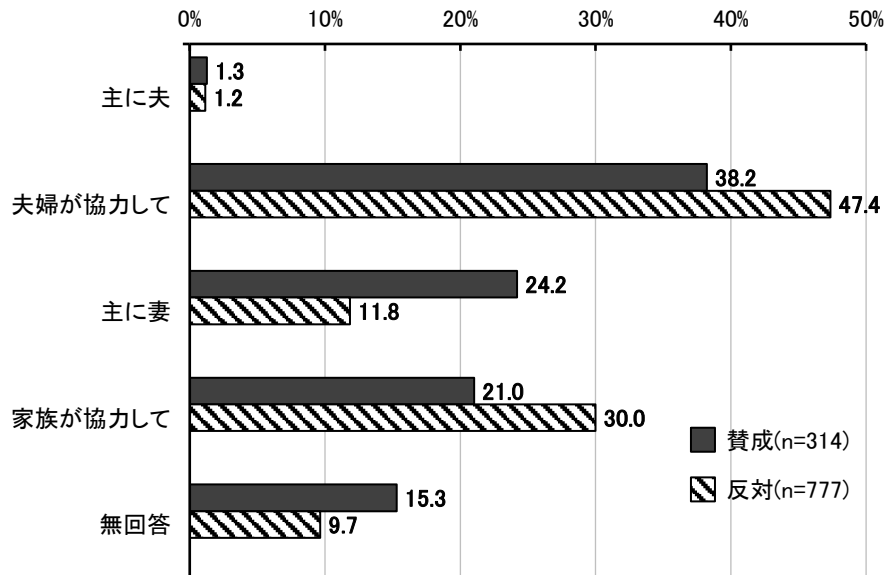


【理想：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「夫婦が協力して」の割合が『賛成』の方より9.2ポイント高くなっています。

【理想：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(ウ 食事の支度)】



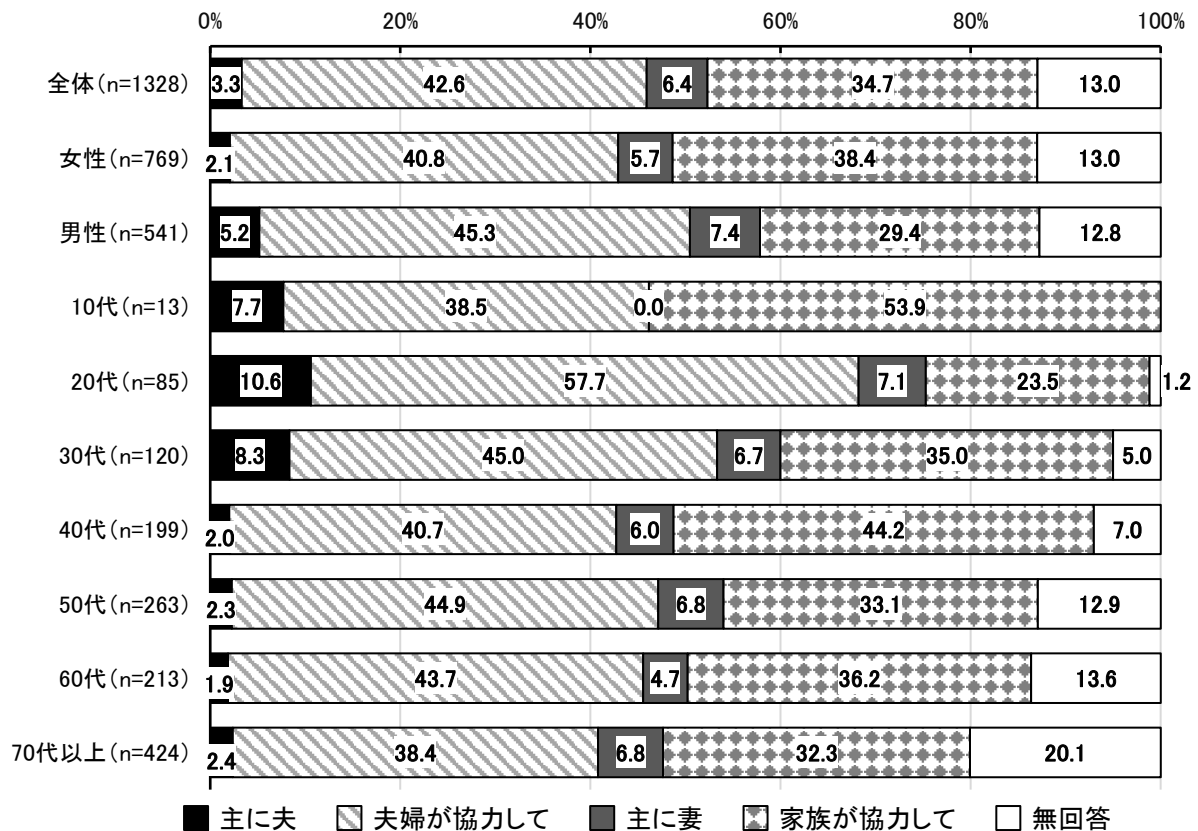
## エ 食事の後片付け

食事の後片付けについてみると、「夫婦が協力して」42.6%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」34.7%、「主に妻」6.4%、「主に夫」3.3%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「夫婦が協力して」の割合が4.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、10代、40代を除くすべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

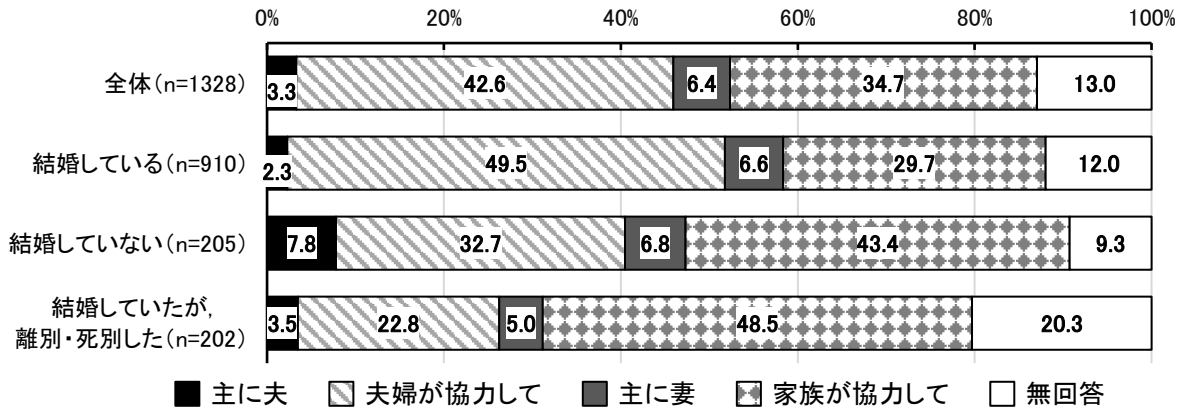
【理想：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】



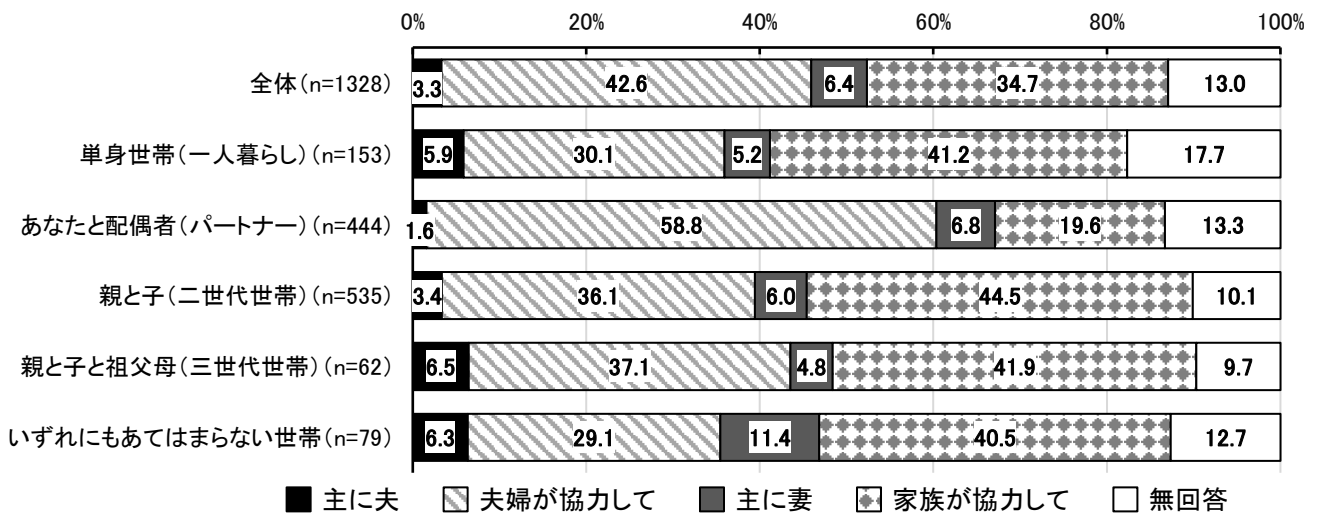
婚姻状況別にみると、結婚していたが、離別・死別した方では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：婚姻状況別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】

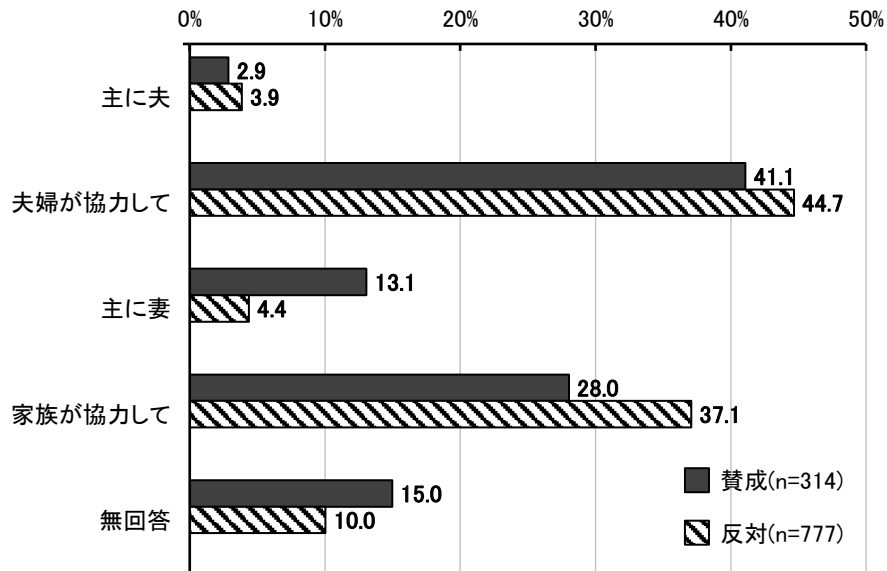


【理想：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「家族が協力して」の割合が『賛成』の方より9.1ポイント高くなっています。

【理想：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(エ 食事の後片付け)】



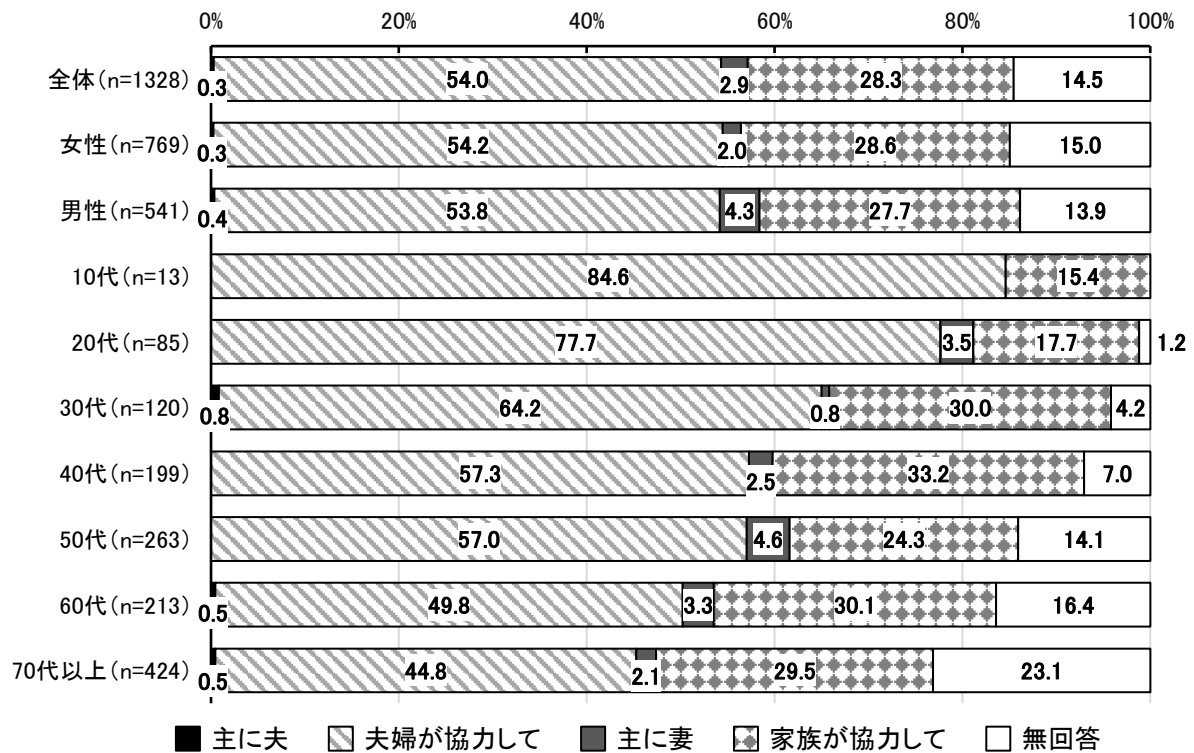
## オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「夫婦が協力して」54.0%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」28.3%、「主に妻」2.9%、「主に夫」0.3%の順となっています。

性別にみると、概ね同様の割合となっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

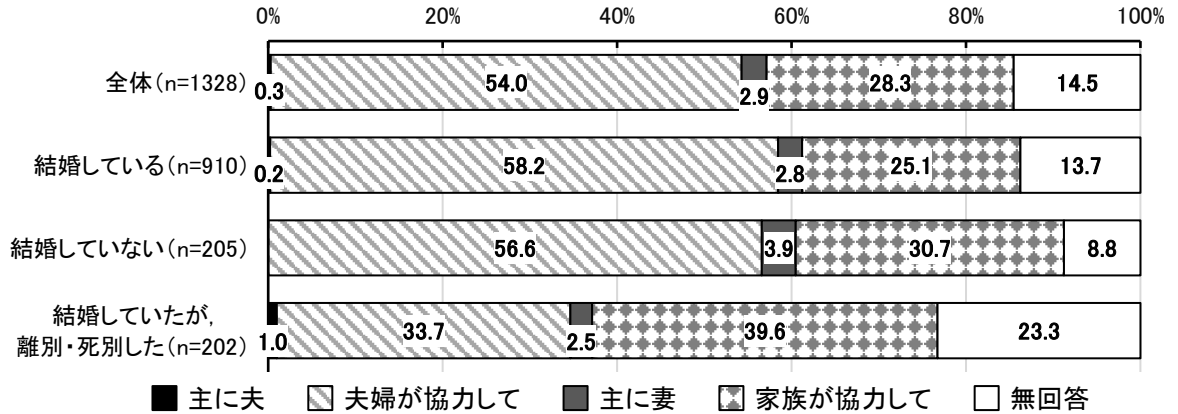
【理想：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



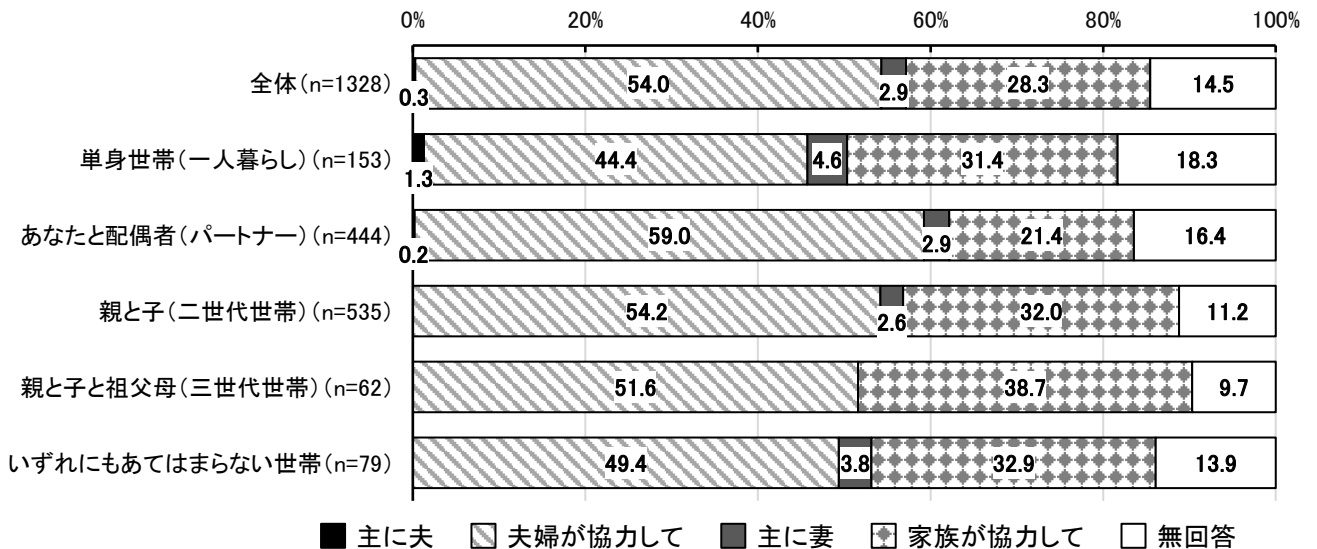
婚姻状況別にみると、結婚していたが、離別・死別した方では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：婚姻状況別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】

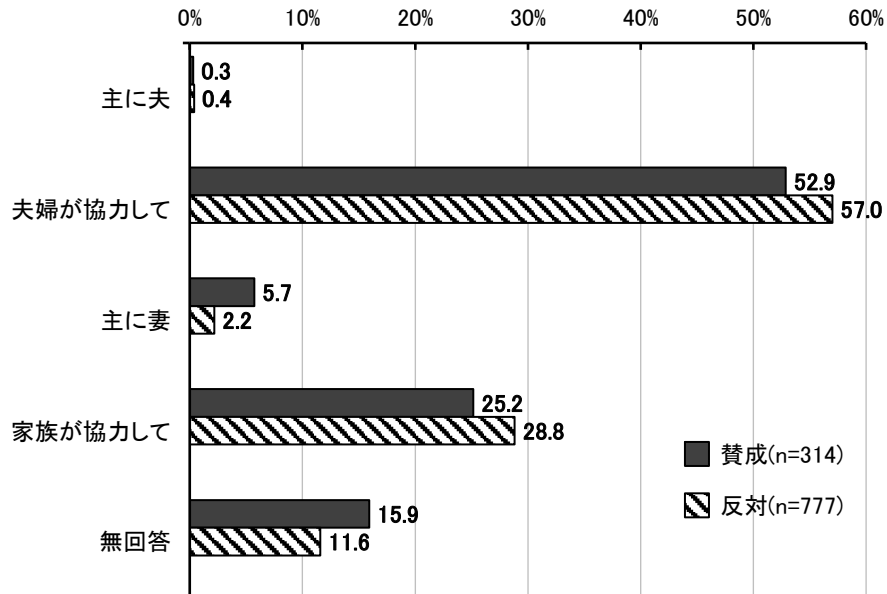


【理想：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「夫婦が協力して」の割合が『賛成』の方より4.1ポイント高くなっています。

【理想：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



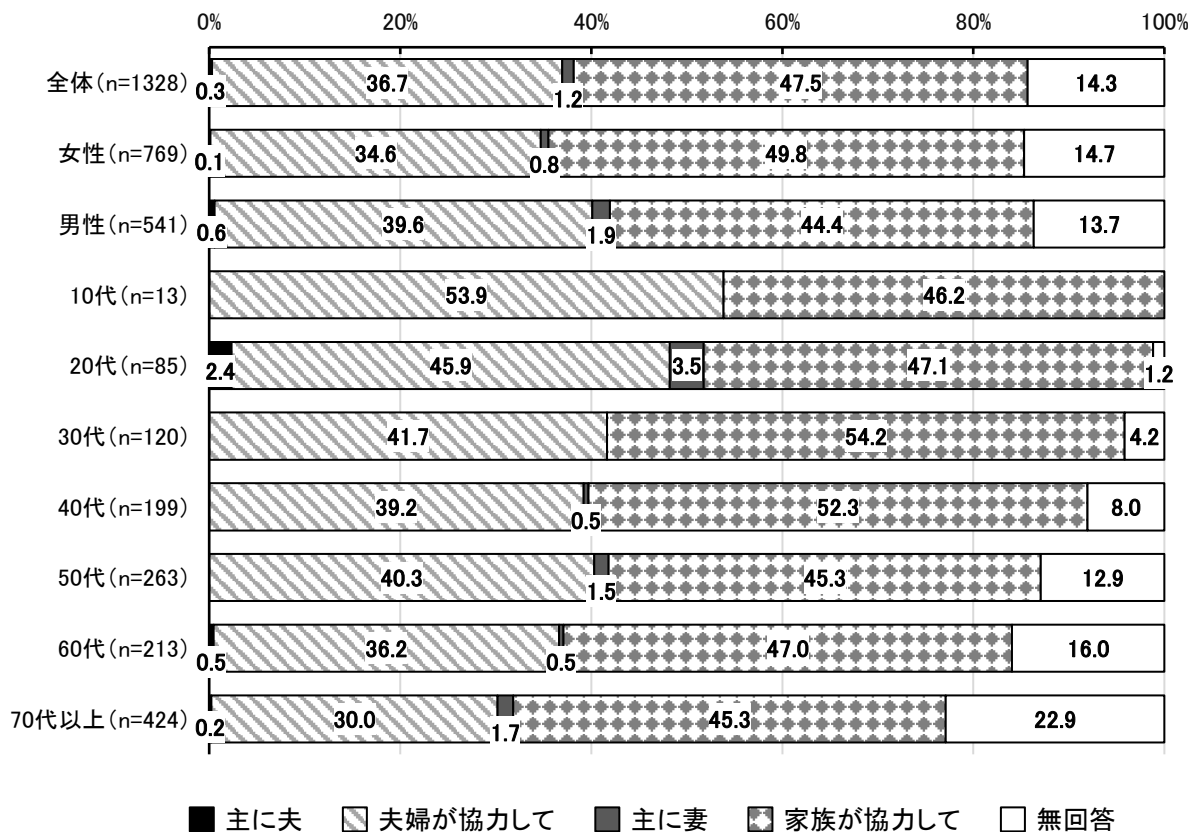
## カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「家族が協力して」47.5%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」36.7%、「主に妻」1.2%、「主に夫」0.3%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「夫婦が協力して」の割合が5.0ポイント高くなっています。

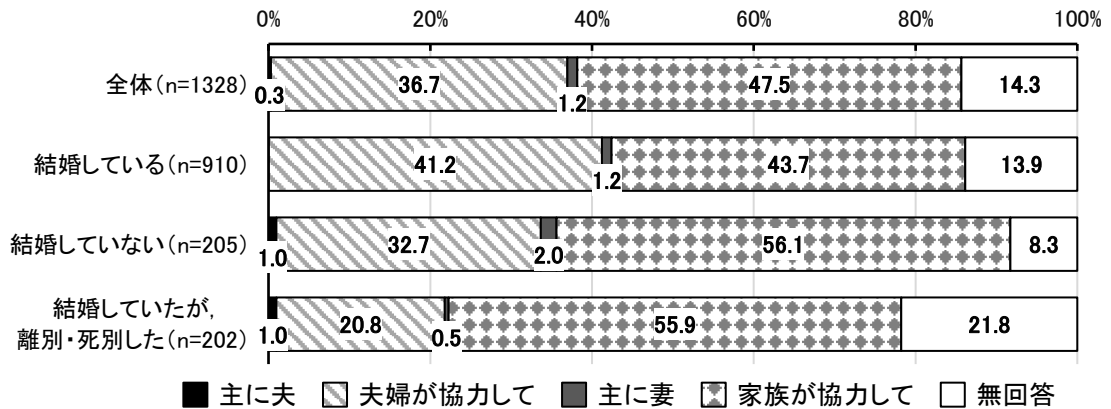
年代別にみると、10代を除くすべての年代で「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：性別・年代別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】

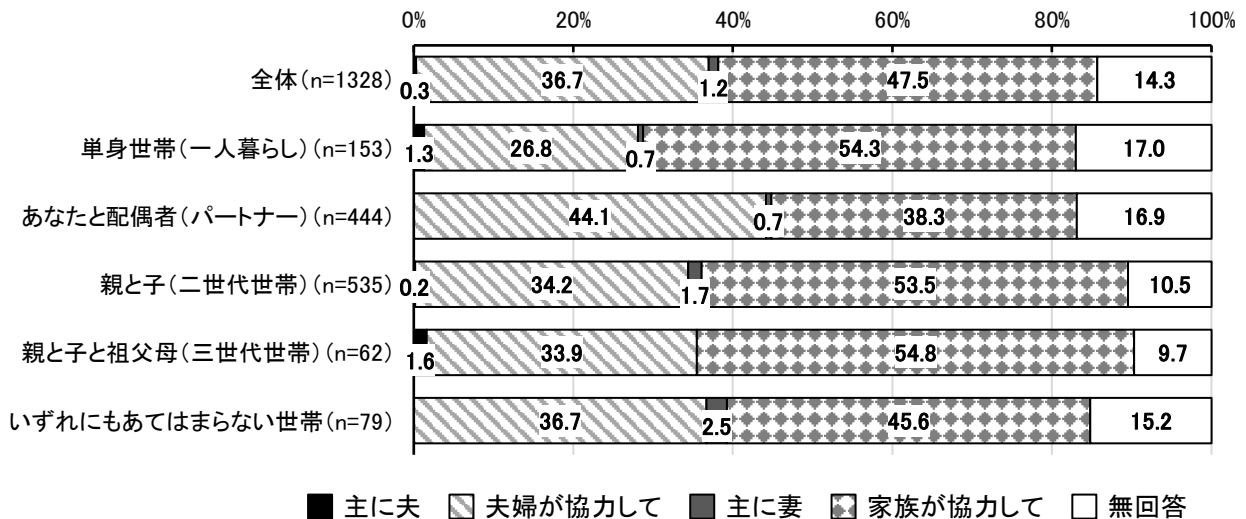


婚姻状況別にみると、結婚していない方では「家族が協力して」の割合が最も高くなっています。  
世帯構成別にみると、あなたと配偶者（パートナー）は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：婚姻状況別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】

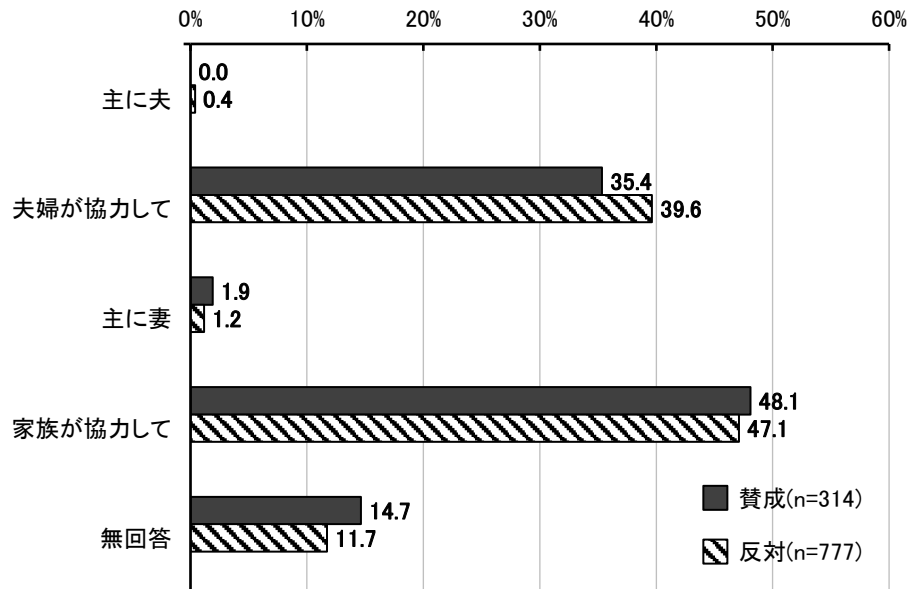


【理想：世帯構成別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に『反対』の方は、「夫婦が協力して」の割合が『賛成』の方より 4.2 ポイント高くなっています。

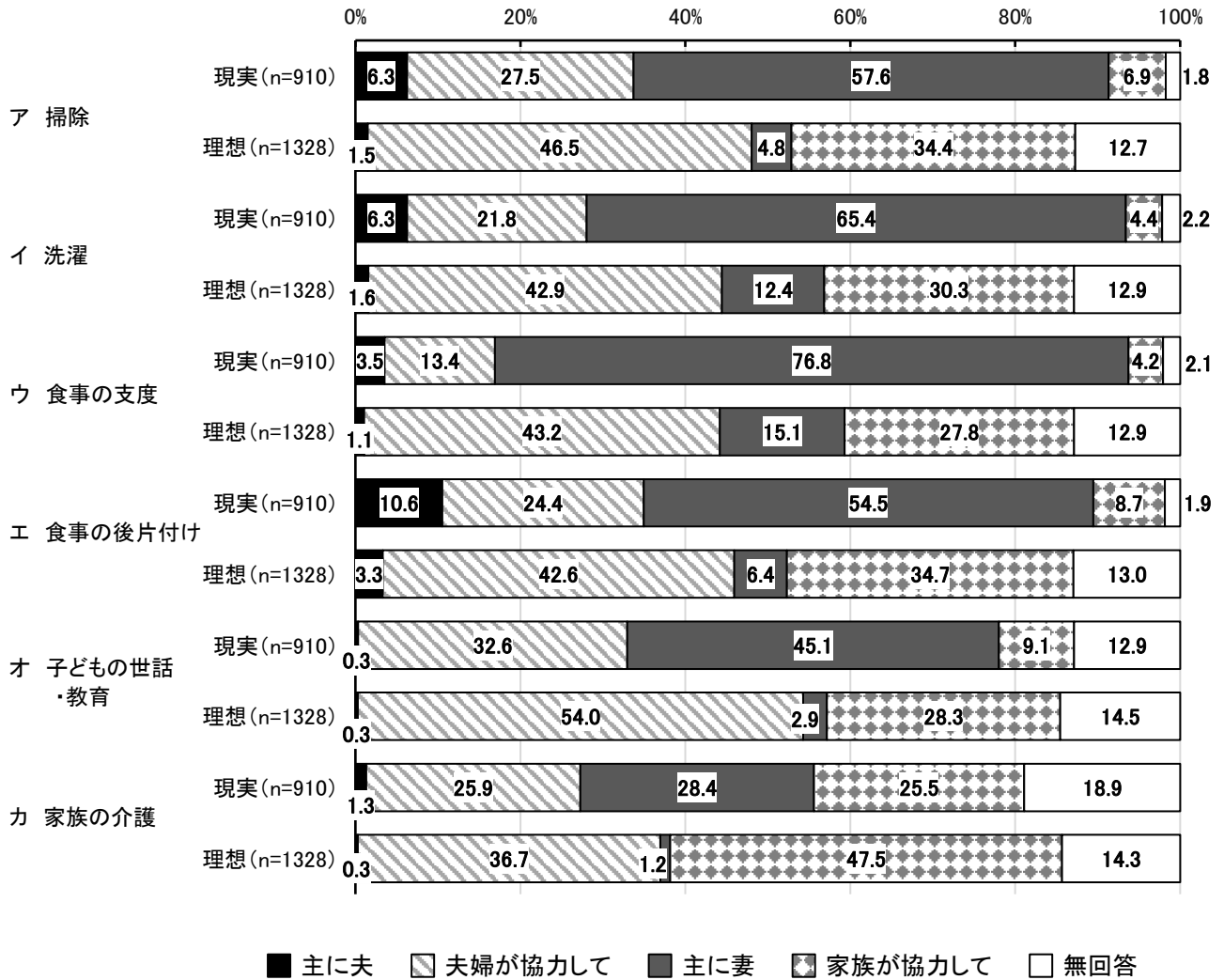
【理想：問9「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方×家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



理想と現実の比較

すべての項目で理想では「夫婦が協力して」や「家族が協力して」の割合が高いのに対し、現実では「主に妻」の割合が高くなっており、理想と現実との違いがみられます。

【理想と現実を比較した各項目の家事などの役割分担について】



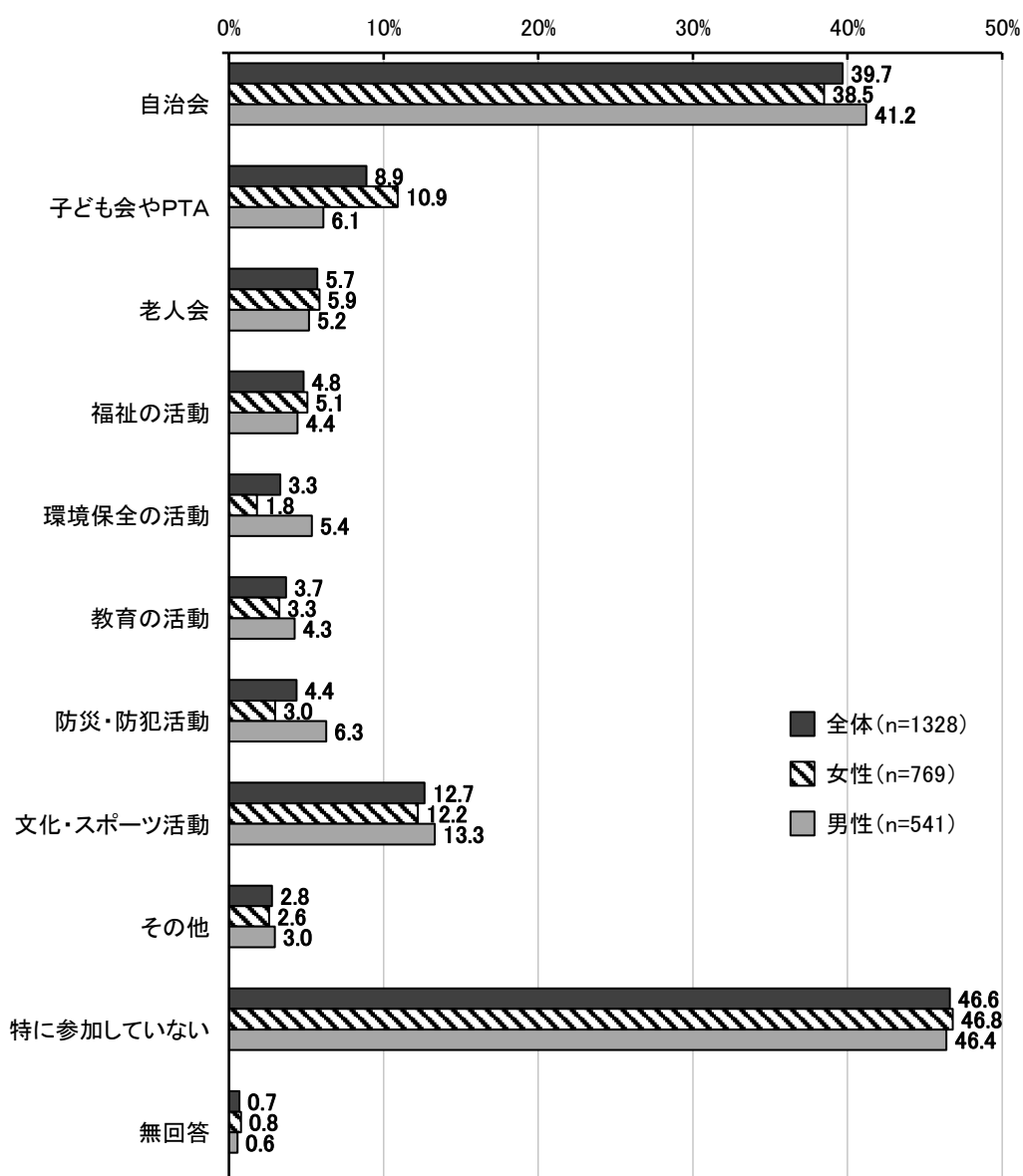
問 11 地域活動や社会活動について、あなたが参加しているものは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

地域活動や社会活動への参加状況をみると、「特に参加していない」46.6%の割合が最も高く、次いで「自治会」39.7%、「文化・スポーツ活動」12.7%、「子ども会やPTA」8.9%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「子ども会やPTA」の割合が高くなっています。

【性別にみた地域活動や社会活動への参加状況について】



年代別にみると、10代～50代は「特に参加していない」の割合が半数を超えています。

自身の職業別にみると、「正規の社員・職員」、「学生」は「特に参加していない」の割合が半数を超えています。

【年代別にみた地域活動や社会活動への参加状況について】

	自治会	子ども会やPTA	老人会	福祉の活動	環境保全の活動	教育の活動	防災・防犯活動	文化・スポーツ活動	その他	特に参加していない	無回答
全体(n=1328)	39.7	8.9	5.7	4.8	3.3	3.7	4.4	12.7	2.8	46.6	0.7
10代(n=13)	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	61.5	0.0
20代(n=85)	9.4	3.5	0.0	3.5	2.4	7.1	1.2	14.1	2.4	68.2	1.2
30代(n=120)	20.8	21.7	0.0	1.7	1.7	7.5	0.8	6.7	2.5	58.3	0.0
40代(n=199)	20.1	20.1	0.0	2.5	1.5	4.5	3.5	15.1	0.5	56.8	0.0
50代(n=263)	36.1	11.8	0.0	2.7	2.3	1.5	2.3	10.7	1.9	52.5	0.0
60代(n=213)	54.9	2.8	2.8	6.1	4.7	2.4	4.2	14.1	5.6	35.2	0.5
70代以上(n=424)	55.7	2.1	15.8	8.0	5.0	3.1	7.8	13.9	3.1	36.1	1.7

【自身の職業別にみた地域活動や社会活動への参加状況について】

	自治会	子ども会やPTA	老人会	福祉の活動	環境保全の活動	教育の活動	防災・防犯活動	文化・スポーツ活動	その他	特に参加していない	無回答
全体(n=1328)	39.7	8.9	5.7	4.8	3.3	3.7	4.4	12.7	2.8	46.6	0.7
会社・団体などの役員(n=73)	41.1	6.9	2.7	6.9	1.4	2.7	6.9	9.6	4.1	46.6	0.0
正規の社員・職員(n=403)	26.8	10.4	0.0	3.0	2.2	3.7	2.5	12.2	1.5	58.3	0.0
派遣・契約社員(n=45)	37.8	6.7	0.0	4.4	2.2	6.7	2.2	11.1	0.0	48.9	0.0
パート・アルバイトなど非正規社員(n=205)	38.1	16.6	2.9	4.4	2.9	3.9	2.9	12.7	4.4	43.9	0.0
自営業・家族従業(n=76)	48.7	15.8	5.3	9.2	5.3	5.3	5.3	21.1	1.3	32.9	0.0
家事専業(n=132)	46.2	7.6	9.1	4.6	5.3	2.3	4.6	12.9	6.1	40.9	0.8
学生(n=23)	0.0	8.7	0.0	4.4	0.0	8.7	4.4	8.7	0.0	65.2	4.4
無職(n=331)	51.1	2.4	13.3	6.3	3.9	3.0	6.0	12.1	1.8	40.2	2.1
その他(n=20)	80.0	10.0	25.0	5.0	15.0	10.0	20.0	30.0	15.0	5.0	0.0

単位：%

問 12 【問 11 で「特に参加していない」と答えた方に伺います】 → 【そのほかの方は問 13 へ】

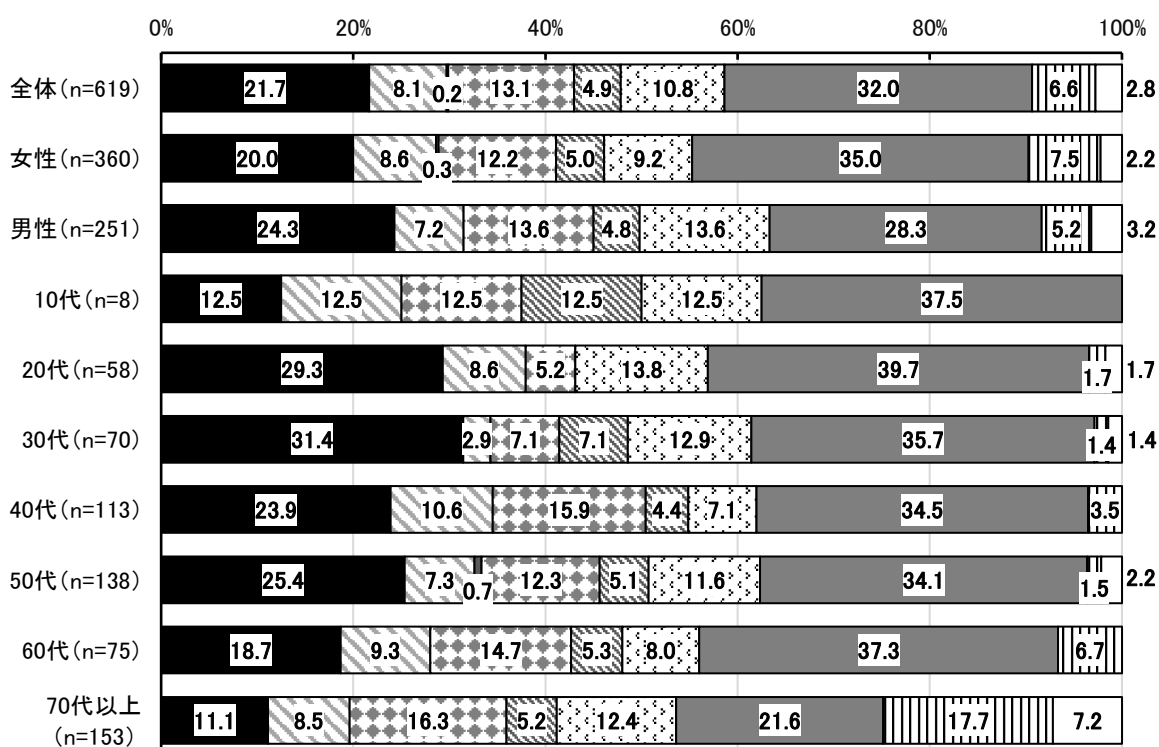
その主な理由は何ですか。(〇は1つ)

地域活動や社会活動に「特に参加していない」と答えた方の参加していない理由についてみると、「参加するきっかけがない」32.0%の割合が最も高く、次いで「忙しくて時間がない」21.7%、「人間関係がわずらわしい」13.1%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「参加するきっかけがない」の割合が、男性は女性より「忙しくて時間がない」の割合が高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「参加するきっかけがない」の割合が最も高くなっています。

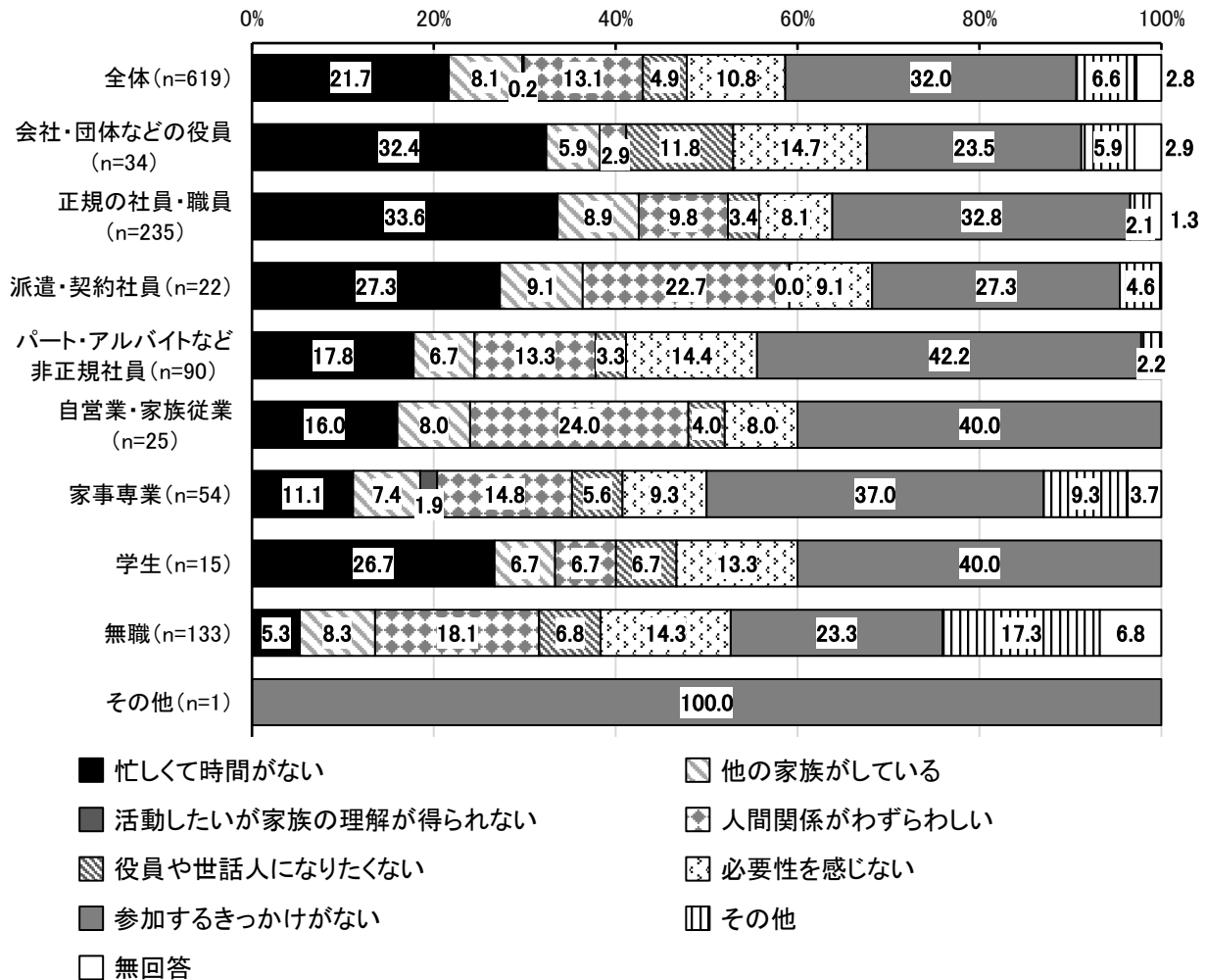
【性別・年代別にみた地域活動や社会活動に参加していない理由について】



- 忙しくて時間がない
- 活動したいが家族の理解が得られない
- ▨ 役員や世話人になりたくない
- 参加するきっかけがない
- 無回答
- ▨ 他の家族がしている
- ▨ 人間関係がわずらわしい
- ▨ 必要性を感じない
- ▨ その他

自身の職業別にみると、「会社・団体などの役員」、「正規の社員・職員」は「忙しくて時間がない」の割合が最も高く、その他の職業では「参加するきっかけがない」の割合が最も高くなっています。

【自身の職業別にみた地域活動や社会活動に参加していない理由について】

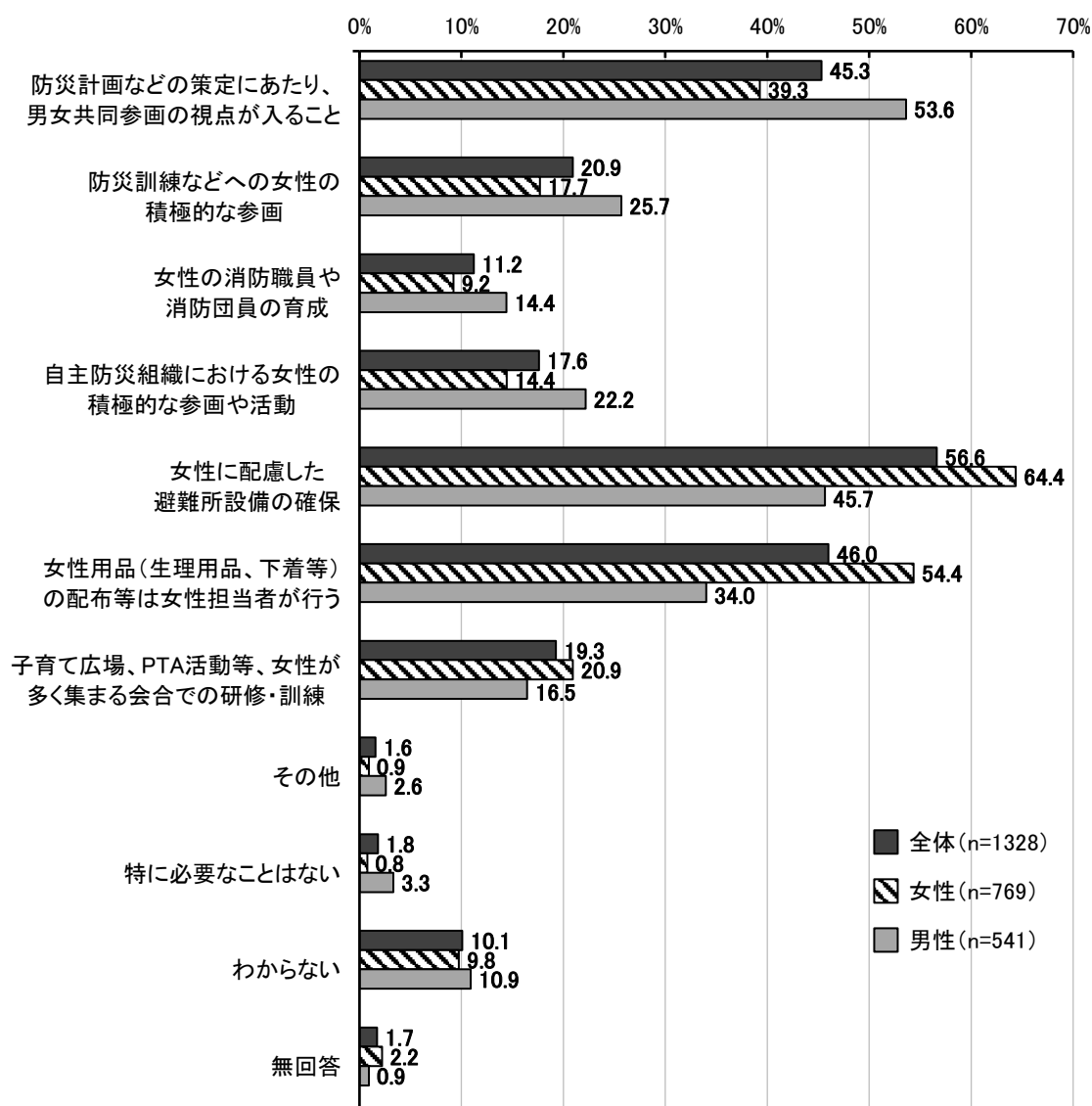


**問 13 【全員に伺います】防災（災害復興も含みます）活動に関して、男女共同参画を推進していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇は特に必要だと思うものを3つまで）**

防災（災害復興も含みます）活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについてみると、「女性に配慮した避難所設備の確保」56.6%の割合が最も高く、次いで「女性用品（生理用品、下着等）の配布等は女性担当者が行う」46.0%、「防災計画などの策定にあたり、男女共同参画の視点が入ること」45.3%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「防災計画などの策定にあたり、男女共同参画の視点が入ること」、「防災訓練などへの女性の積極的な参画」、「女性の消防職員や消防団員の育成」、「自主防災組織における女性の積極的な参画や活動」の割合が高く、女性は男性より「女性に配慮した避難所設備の確保」、「女性用品（生理用品、下着等）の配布等は女性担当者が行う」、「子育て広場、PTA活動等、女性が多く集まる会合での研修・訓練」の割合が高くなっています。

【性別にみた防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて】



年代別にみると、10代は「防災計画などの策定にあたり、男女共同参画の視点が入ること」が全体より22.2ポイント低くなっています。

【年代別にみた防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて】

	のあ防女 視災性 点り計 が、画 入たど る女 こ共 と同 参 画に	防 災 の 訓 練 な ど へ の 参 画	消女 防性 団の 員消 の防 育職 成員 や	活女自 動性主 の防 積災 極組 的織 なにお 参画ける や	避女 難性に 所配 設慮 備した の確 保	女下女 性着等 担用品 当の 者が配 行布理 う等 品、	る動子 会等育 合、て での女広 の研修場 ・多、 訓集 練ま 活	そ の 他	特 に 必 要 な こ と は な い	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1328)	45.3	20.9	11.2	17.6	56.6	46.0	19.3	1.6	1.8	10.1	1.7
10代(n=13)	23.1	15.4	7.7	7.7	46.2	53.9	7.7	0.0	0.0	30.8	0.0
20代(n=85)	36.5	17.7	11.8	9.4	52.9	49.4	21.2	1.2	2.4	12.9	0.0
30代(n=120)	40.8	11.7	17.5	10.0	61.7	51.7	20.0	1.7	5.8	9.2	0.0
40代(n=199)	35.7	16.6	14.1	13.6	55.3	53.3	23.1	1.5	2.0	11.6	1.0
50代(n=263)	50.6	24.3	11.8	14.5	61.2	50.2	17.5	2.7	0.8	7.2	0.8
60代(n=213)	51.2	17.8	11.7	19.3	59.2	41.8	20.7	0.9	2.4	9.9	1.4
70代以上(n=424)	47.2	26.2	7.8	24.8	53.3	39.4	17.0	1.4	0.9	10.6	3.5

単位：%

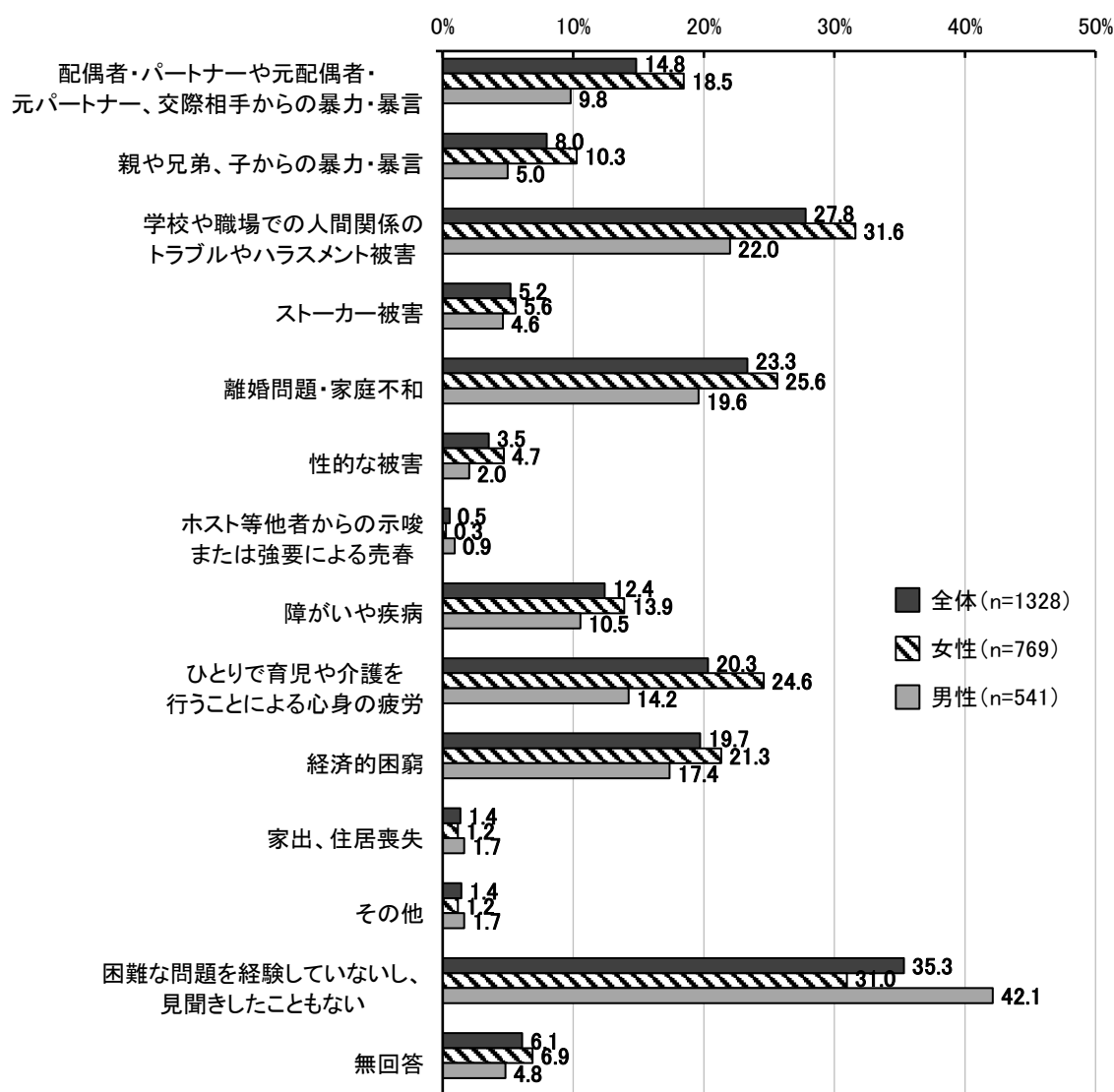
## 生活上の困難に対する支援について

問 14 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律<sup>\*</sup>」が施行されました。あなた自身もしくは、あなたの周りで以下のような困難な問題を経験したり、経験している女性を見聞きしたりしたことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

困難な問題を経験したり、経験している女性を見聞きしたりしたことについて、「学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害」27.8%で最も高く、次いで「離婚問題・家庭不和」23.3%、「ひとりで育児や介護を行うことによる心身の疲労」20.3%などの順となっています。一方「困難な問題を経験していないし、見聞きしたこともない」35.3%となっています。

性別にみると、女性は男性よりも「ひとりで育児や介護を行うことによる心身の疲労」、「学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害」、「配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、交際相手からの暴力・暴言」などの割合が高くなっています。

【性別にみた困難な問題を経験したり、経験している女性を見聞きしたりしたことについて】



※「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」とは、困難な問題を抱える女性の福祉の増進および自立に向けて、保護だけでなく総合的な相談・支援を実施する目的として制定されたものです。

「困難な問題を抱える女性」とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活または社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）と定義されています。

年代別にみると、「ストーカー被害」は10代と20代で割合が高くなっています。「ひとりて育児や介護を行うことによる心身の疲労」は30代～60代で割合が高くなっています。

【年代別にみた困難な問題を経験したり、経験している女性を見聞きしたりしたことについて】

	交際相手からの暴力・暴言	配偶者・パートナーや元パートナーからの暴力・暴言	親や兄弟、子からの暴力・暴言	人間関係のトラブルやハラスメント被害	学校や職場でのトラブルやハラスメント被害	ストーカー被害	離婚問題・家庭不和	性的な被害	ホスト等他者からの示唆または強要による売春	障がいや疾病	ひとりて育児や介護を行うことによる心身の疲労	経済的困窮	家出・住居喪失	その他	ないし、見聞きしたこともない	困難な問題を経験していない	無回答
全体(n=1328)	14.8	8.0	27.8	5.2	23.3	3.5	0.5	12.4	20.3	19.7	1.4	1.4	35.3	6.1			
10代(n=13)	0.0	7.7	30.8	15.4	30.8	7.7	0.0	7.7	15.4	23.1	0.0	0.0	46.2	0.0			
20代(n=85)	20.0	8.2	37.7	15.3	25.9	8.2	0.0	7.1	18.8	21.2	1.2	0.0	34.1	1.2			
30代(n=120)	20.0	8.3	35.0	6.7	30.8	4.2	2.5	8.3	22.5	20.8	2.5	0.0	35.0	0.8			
40代(n=199)	24.6	13.1	34.2	8.5	32.2	7.5	0.5	15.1	26.6	23.6	2.0	1.5	34.2	1.5			
50代(n=263)	21.3	9.9	39.2	8.0	29.7	4.9	1.1	14.8	24.7	20.5	2.7	0.8	29.7	1.5			
60代(n=213)	11.7	7.5	27.2	2.8	22.1	0.9	0.0	12.7	22.1	18.3	0.9	1.9	31.5	6.1			
70代以上(n=424)	5.9	4.7	13.9	0.5	13.0	0.9	0.0	12.0	13.7	17.9	0.2	2.1	41.3	13.4			

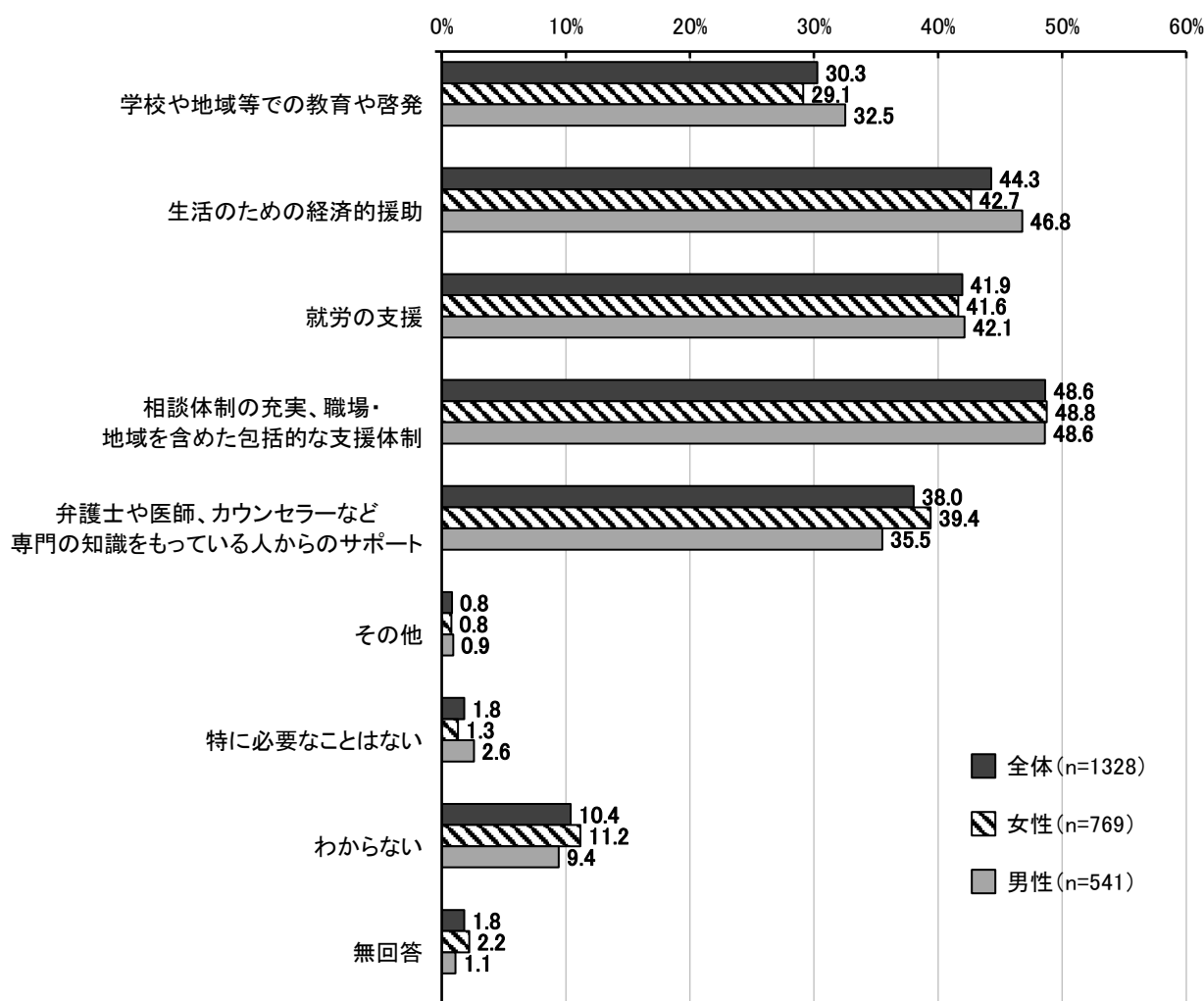
単位：%

**問 15 男女共同参画の視点に立ち、困難な問題を解決するためにどのような環境や支援があるとよいと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)**

困難な問題を解決するために必要な環境や支援についてみると、「相談体制の充実、職場・地域を含めた包括的な支援体制」48.6%の割合が最も高く、次いで「生活のための経済的援助」44.3%、「就労の支援」41.9%などの順となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

【性別にみた困難な問題を解決するために必要な環境や支援について】



年代別にみると、10代～30代は「生活のための経済的援助」の割合が最も高くなっています。30～60代は「就労の支援」、50代以上は「相談体制の充実、職場・地域を含めた包括的な支援体制」、40～60代は「弁護士や医師、カウンセラーなど専門の知識をもっている人からのサポート」が全体より割合が高くなっています。

【年代別にみた困難な問題を解決するために必要な環境や支援について】

	啓学 学校 や地 域等 での 教育 や	生 活の た め の 経 済 的 援 助	就 労 の 支 援	支 援 体 制 を 含 め た 包 括 的 な 職 場 ・	相 談 体 制 の 充 実 、 職 場 ・	支 援 体 制 を 含 め た 包 括 的 な 職 場 ・	支 援 体 制 を 含 め た 包 括 的 な 職 場 ・	支 援 体 制 を 含 め た 包 括 的 な 職 場 ・	支 援 体 制 を 含 め た 包 括 的 な 職 場 ・	支 援 体 制 を 含 め た 包 括 的 な 職 場 ・
全体(n=1328)	30.3	44.3	41.9	48.6	38.0	0.8	1.8	10.4	1.8	
10代(n=13)	38.5	76.9	38.5	30.8	23.1	0.0	7.7	0.0	0.0	
20代(n=85)	37.7	57.7	41.2	40.0	27.1	2.4	3.5	9.4	0.0	
30代(n=120)	27.5	50.8	48.3	32.5	35.8	0.0	1.7	11.7	0.0	
40代(n=199)	35.7	39.2	44.7	46.7	43.2	1.0	2.0	12.1	0.5	
50代(n=263)	33.1	46.8	48.3	54.8	43.0	1.5	1.1	5.7	0.4	
60代(n=213)	24.4	44.1	43.7	55.4	44.6	0.9	1.4	8.9	0.5	
70代以上(n=424)	28.3	39.9	34.4	49.3	32.6	0.2	1.9	13.4	4.7	

単位：%

ストーカー被害、ホスト等他者からの示唆または強要による売春、経済的困窮では「生活のための経済的援助」の割合が、性的な被害では「弁護士や医師、カウンセラーなど専門の知識を持っている人からのサポート」割合が最も高くなっています。それ以外での項目では、「相談体制の充実、職場・地域を含めた包括的な支援体制」が最も高くなっています。

【問14「困難な問題を体験したり、経験している女性を見聞きしたりしたこと」×  
困難な問題を解決するために必要な環境や支援について】

	啓学校や地域等での教育や	生活のための経済的援助	就労の支援	地域相談体制の充実、職場・	支援体制の充実、職場・	てらーなど専門の知識をもつ	弁護士や医師、カウンセ	その他	特に必要なことはない	わからない
全体(n=1328)	30.3	44.3	41.9	48.6	38.0	0.8	1.8	10.4		
配偶者・パートナーや元配偶者・元パートナー、交際相手からの暴力・暴言(n=197)	45.2	46.7	47.7	53.8	48.7	1.5	0.5	5.1		
親や兄弟、子からの暴力・暴言(n=106)	47.2	38.7	50.0	50.9	46.2	1.9	1.9	5.7		
学校や職場での人間関係のトラブルやハラスメント被害(n=369)	37.9	51.5	49.9	56.6	41.5	1.6	0.5	4.6		
ストーカー被害(n=69)	42.0	56.5	47.8	44.9	52.2	2.9	0.0	5.8		
離婚問題・家庭不和(n=310)	37.1	50.0	50.0	56.1	44.5	1.3	0.3	4.8		
性的な被害(n=47)	38.3	51.1	48.9	46.8	55.3	0.0	0.0	8.5		
ホスト等他者からの示唆または強要による売春(n=7)	28.6	71.4	57.1	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0		
障がいや疾病(n=165)	33.3	53.9	46.1	54.6	47.9	1.8	0.0	5.5		
ひとりで育児や介護を行うことによる心身の疲労(n=270)	37.0	52.2	48.5	54.8	43.0	1.1	0.0	4.8		
経済的困窮(n=262)	30.2	65.7	50.8	49.2	40.8	1.2	0.0	4.6		
家出、住居喪失(n=18)	33.3	61.1	61.1	66.7	55.6	0.0	0.0	0.0		
その他(n=19)	21.1	31.6	31.6	57.9	36.8	5.3	0.0	5.3		
困難な問題を体験していないし、見聞きしたこともない(n=469)	28.4	38.2	39.5	44.6	34.3	0.2	4.1	17.1		

単位：%

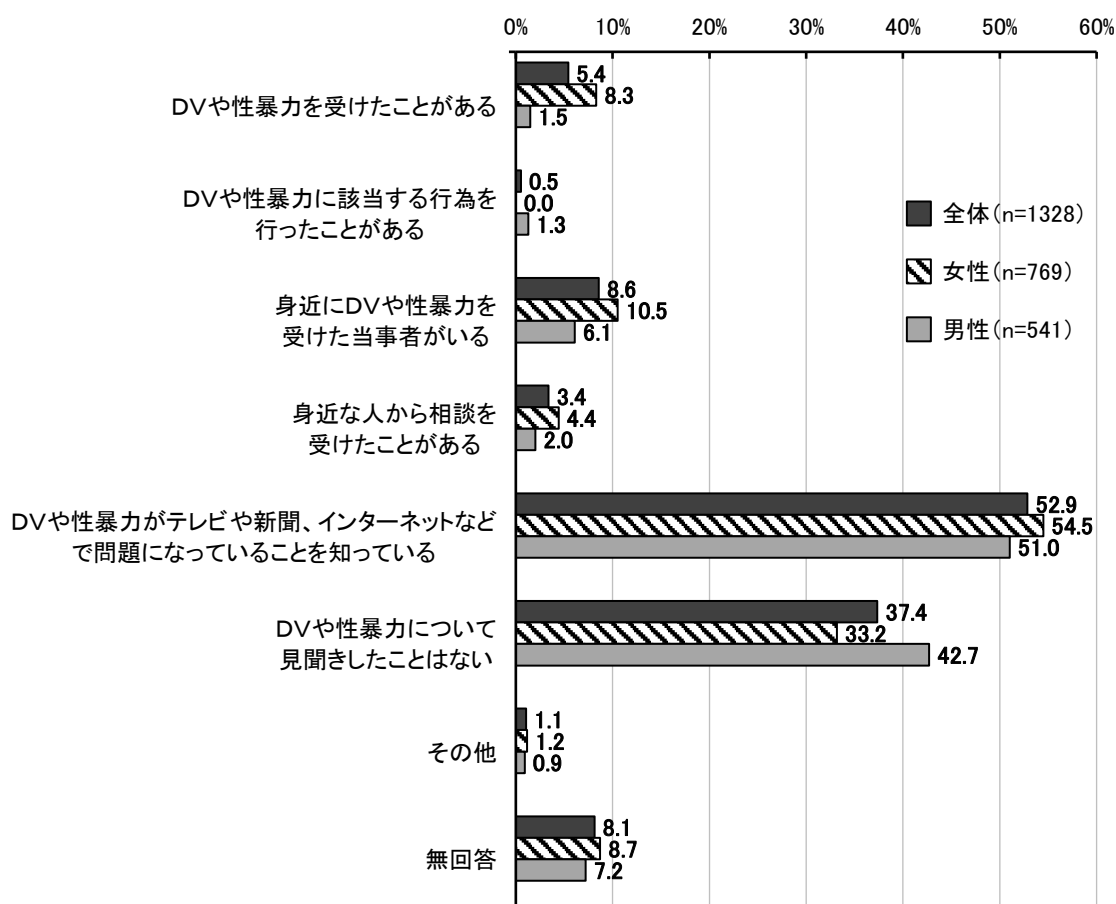
## ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力について

**問 16 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）※<sup>1</sup>や性暴力※<sup>2</sup>を経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）**

DVや性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたことについてみると、「DVや性暴力がテレビや新聞、インターネットなどで問題になっていることを知っている」52.9%の割合が最も高く、次いで「DVや性暴力について見聞きしたことはない」37.4%、「身近にDVや性暴力を受けた当事者がいる」8.6%などの順となっています。

性別にみると、「DVや性暴力を受けたことがある」では女性は8.3%、男性は1.5%となっています。

【性別にみたDVをや性暴力経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】



- ※ 1 ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、配偶者や恋人などの親密な関係にあるパートナーから受ける暴力のことです。殴る、蹴るなどの身体的暴力のみならず、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力や社会的暴力など、広く意味します。
- ※ 2 性暴力とは、同意のない性的な行為のことです。身体的な接触だけではなく、言葉や視覚、情報ツール（スマホなど）を用いた行為も含まれます。たとえ性的な行為があったとしても、相手と対等な関係でなかったり、嫌だと言えない状況であったりしたなら、それは本当の同意があったことにはなりません。また、一つの行為に同意をしたとしても、他の行為に同意したことにはなりません。

年代別にみると、「DVや性暴力を受けたことがある」では40代が13.6%と最も高くなっています。

【年代別にみたDVや性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】

	がDVや性暴力を受けたことがある	DVや性暴力を行ったことが該当する	身近にDVや性暴力を受けた当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	知って聞いている	問題になったりしていることなど	DVや性暴力がテレビや新聞、インターネットなどで	見聞きしたことはない	DVや性暴力について	その他	無回答
全体(n=1328)	5.4	0.5	8.6	3.4	52.9	37.4	1.1	8.1			
10代(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	61.5	0.0	0.0			
20代(n=85)	3.5	0.0	15.3	4.7	51.8	40.0	0.0	2.4			
30代(n=120)	5.8	0.8	12.5	1.7	49.2	45.0	0.8	2.5			
40代(n=199)	13.6	0.5	13.1	5.0	54.3	35.2	0.5	2.5			
50代(n=263)	6.8	0.4	12.9	4.6	55.1	39.2	0.8	3.8			
60代(n=213)	3.3	1.9	4.7	3.8	60.1	31.5	1.4	6.1			
70代以上(n=424)	2.4	0.0	3.8	2.1	48.8	36.6	1.7	17.2			

単位：%

婚姻状況別にみると、「DVや性暴力を受けたことがある」では結婚していたが、離別・死別した方が11.4%と最も高くなっています。

【婚姻状況別にみたDVや性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】

	がDVや性暴力を受けたことがある	DVや性暴力を行ったことが該当する	身近にDVや性暴力を受けた当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	知って聞いている	問題になったりしていることなど	DVや性暴力がテレビや新聞、インターネットなどで	見聞きしたことはない	DVや性暴力について	その他	無回答
全体(n=1328)	5.4	0.5	8.6	3.4	52.9	37.4	1.1	8.1			
結婚している(n=910)	4.3	0.6	7.4	3.1	54.7	38.6	1.2	7.1			
結婚していない(n=205)	4.9	0.5	14.6	3.4	50.2	38.5	0.5	4.9			
結婚していたが、離別・死別した(n=202)	11.4	0.5	8.4	5.0	48.0	29.7	1.0	15.4			

単位：%

自身の職業別にみると、「DVや性暴力を受けたことがある」ではそのほか15.0%と最も高くなっています。

【自身の職業別にみたDVや性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】

	がDVや性暴力を受けたこと	行為を行なったことが該当する	身近にDVや性暴力を受けた当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	問題になっていること	聞、インターネットなどで	DVや性暴力がテレビや新聞、インターネットなどで	見聞きしたことはない	その他	無回答
全体(n=1328)	5.4	0.5	8.6	3.4	52.9	37.4	1.1	8.1		
会社・団体などの役員(n=73)	4.1	2.7	6.9	2.7	43.8	43.8	0.0	9.6		
正規の社員・職員(n=403)	5.5	0.5	12.9	3.7	50.4	42.9	0.3	3.5		
派遣・契約社員(n=45)	6.7	0.0	11.1	8.9	66.7	24.4	0.0	4.4		
パート・アルバイトなど非正規社員(n=205)	6.8	0.5	9.8	3.9	58.5	30.7	1.5	5.9		
自営業・家族従業(n=76)	10.5	1.3	10.5	6.6	46.1	35.5	4.0	11.8		
家事専業(n=132)	7.6	0.0	5.3	1.5	59.9	28.0	2.3	12.1		
学生(n=23)	0.0	0.0	0.0	0.0	52.2	52.2	0.0	0.0		
無職(n=331)	2.7	0.3	4.8	2.4	51.4	38.1	1.2	12.7		
その他(n=20)	15.0	0.0	0.0	5.0	50.0	35.0	0.0	15.0		

単位：%

世帯構成別にみると、「身近にDVや性暴力を受けた当事者がいる」では親と子と祖父母（三世帯世帯）が14.5%と最も高くなっています。

【世帯構成別にみたDVや性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】

	がDVや性暴力を受けたこと	行為を行なったことが該当する	身近にDVや性暴力を受けた当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	問題になっていること	聞、インターネットなどで	DVや性暴力がテレビや新聞、インターネットなどで	見聞きしたことはない	その他	無回答
全体(n=1328)	5.4	0.5	8.6	3.4	52.9	37.4	1.1	8.1		
単身世帯(一人暮らし)(n=153)	8.5	0.0	8.5	3.3	53.6	34.6	0.7	9.2		
あなたと配偶者(パートナー)(n=444)	4.1	1.1	5.6	2.9	55.4	37.8	1.4	7.4		
親と子(二世帯世帯)(n=535)	5.8	0.0	11.2	3.2	50.8	39.3	1.1	6.5		
親と子と祖父母(三世帯世帯)(n=62)	8.1	1.6	14.5	6.5	56.5	33.9	0.0	4.8		
いずれにもあてはまらない世帯(n=79)	6.3	1.3	3.8	1.3	62.0	27.9	0.0	13.9		

単位：%

問 17 【問 16 で「DVや性暴力を受けたことがある」と答えた方に伺います】

→【そのほかの方は問 19 へ】

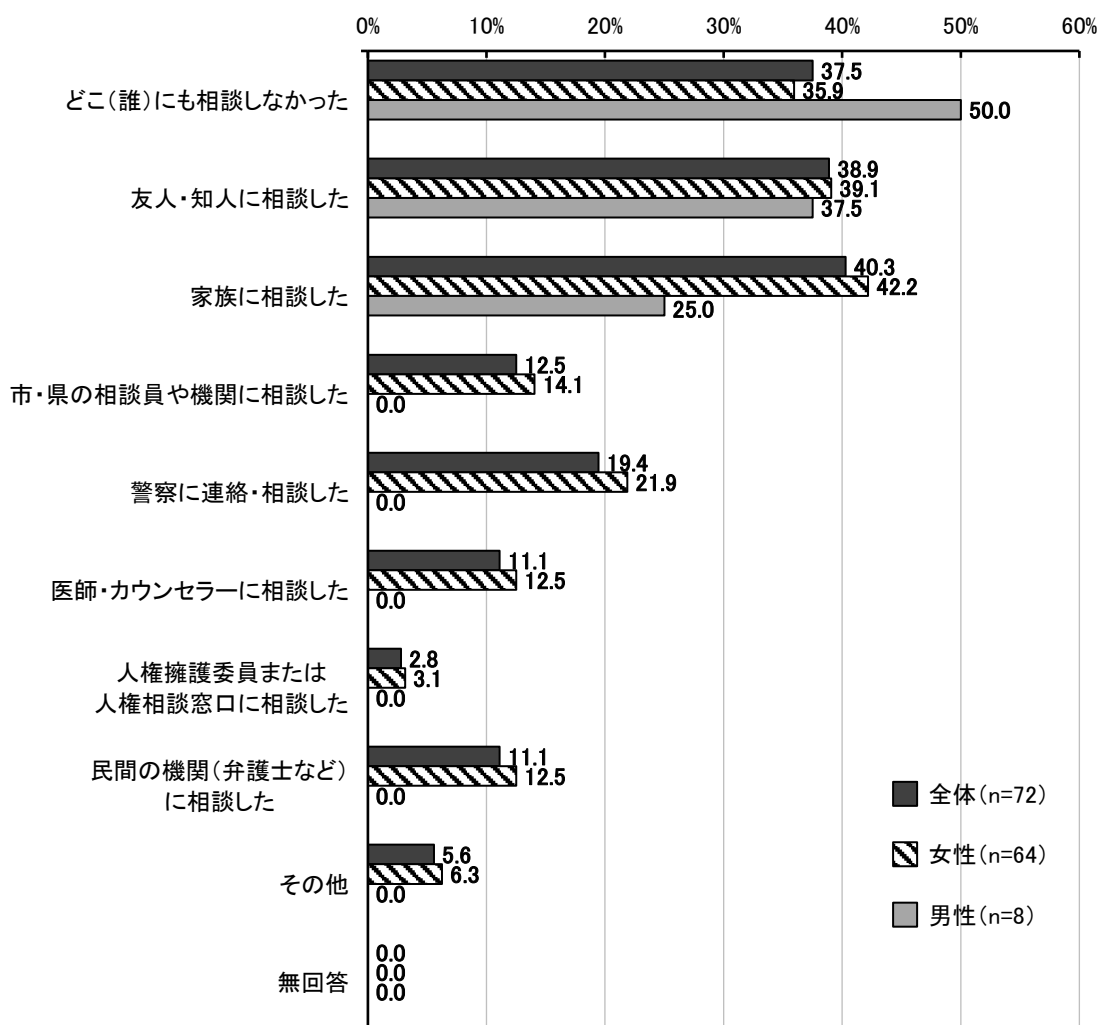
あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。

(○はあてはまるものすべて)

DVや性暴力を受けたことのある方がDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかをみると、「家族に相談した」40.3%の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」38.9%、「どこ（誰）にも相談しなかった」37.5%などの順となっています。

性別にみると、男性は女性より「どこ（誰）にも相談しなかった」の割合が高く、女性は男性より「家族に相談した」の割合が高くなっています。

【性別にみたDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて】



年代別にみると、40代と50代は「どこ（誰）にも相談しなかった」の割合が全体より高くなっています。20代と30代は「友人・知人に相談した」、「家族に相談した」、「市・県の相談員や機関に相談した」の割合が高くなっています。

【年代別にみたDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて】

	どこ（誰）にも相談しなかった	友人・知人に相談した	家族に相談した	市・県の相談員や機関に相談した	警察に連絡・相談した	医師・カウンセラーに相談した	人権擁護委員または人権相談窓口相談した	民間の機関（弁護士など）に相談した	その他	無回答
全体 (n=72)	37.5	38.9	40.3	12.5	19.4	11.1	2.8	11.1	5.6	0.0
10代 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=3)	0.0	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
30代 (n=7)	14.3	42.9	71.4	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
40代 (n=27)	48.2	37.0	33.3	7.4	18.5	11.1	0.0	3.7	3.7	0.0
50代 (n=18)	50.0	33.3	33.3	5.6	22.2	11.1	0.0	11.1	5.6	0.0
60代 (n=7)	14.3	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0
70代以上 (n=10)	30.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0

単位：%

問 18 【問 17で「どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方に伺います】

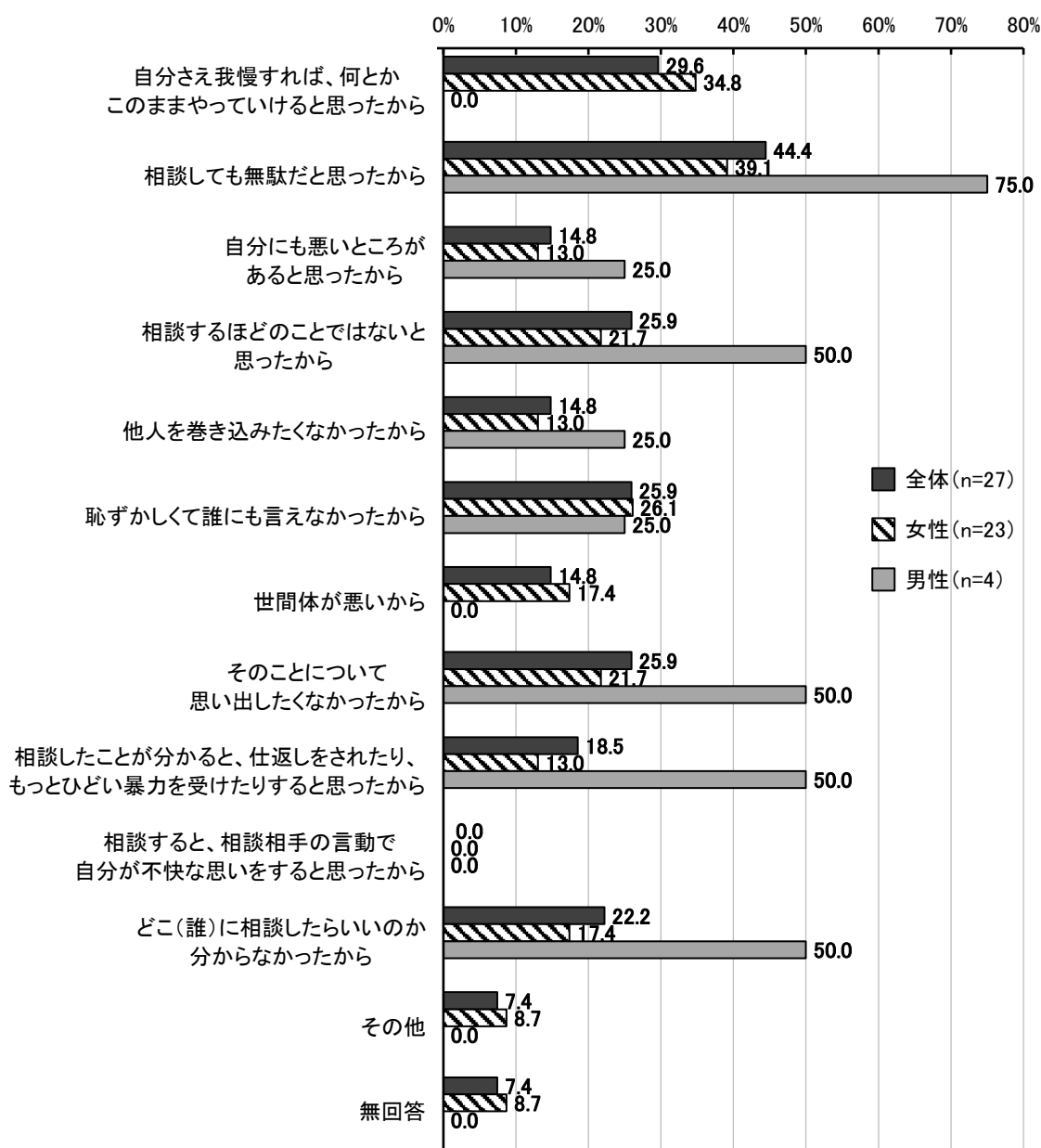
→【そのほかの方は問 19へ】

相談しなかったのはなぜですか。（○はあてはまるものすべて）

DVや性暴力を受けたことがある方のうち、DVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしなかった理由をみると、「相談しても無駄だと思ったから」44.4%の割合が最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけるといったから」29.6%などの順となっています。

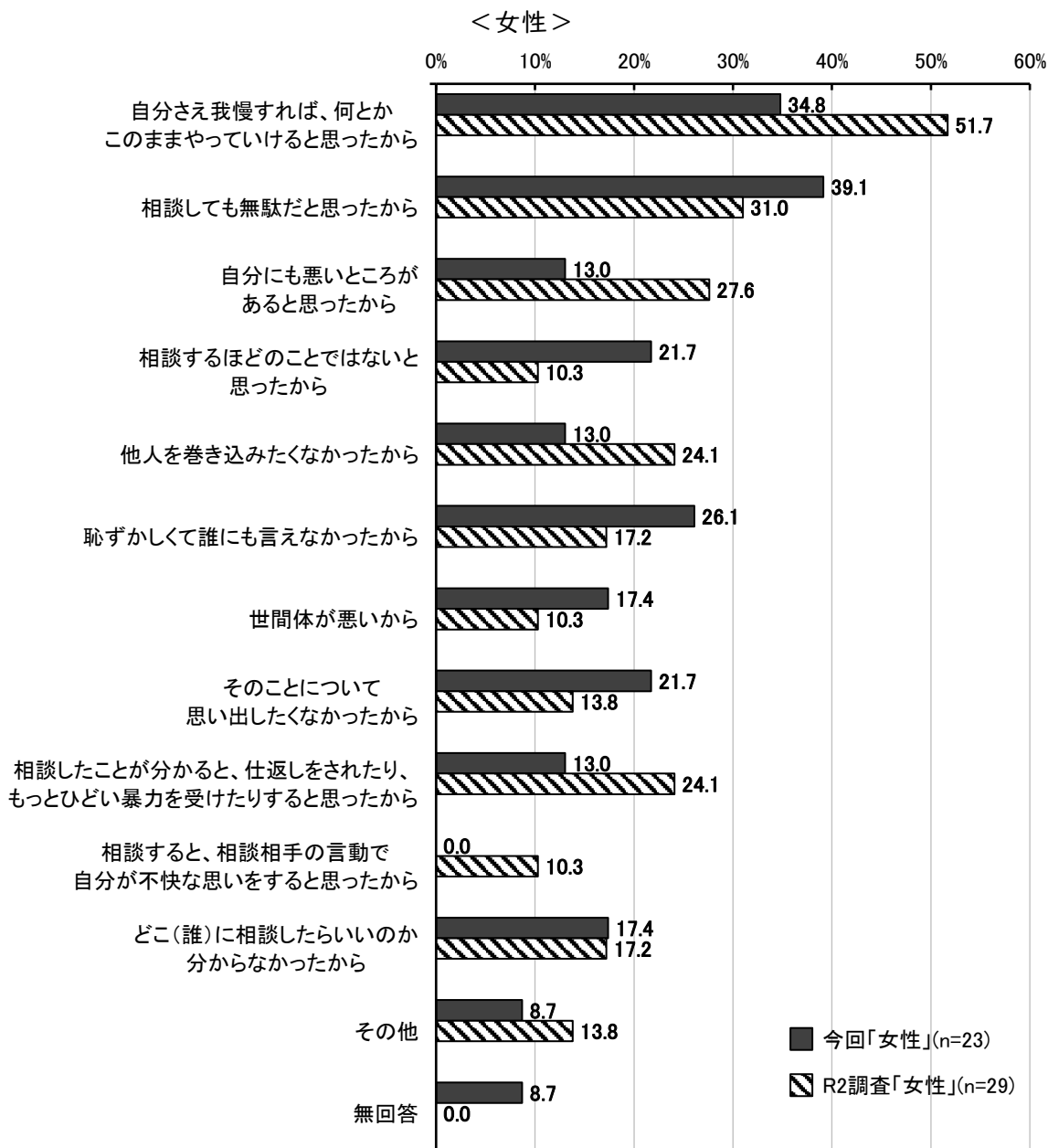
性別にみると、男性は女性より「相談しても無駄だと思ったから」の割合が高くなっています。

【性別にみたDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】



性別に前回調査との比較をみると、女性は「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「相談したことが分かると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから」の割合が低くなり、男性は「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」の割合が低くなっています。

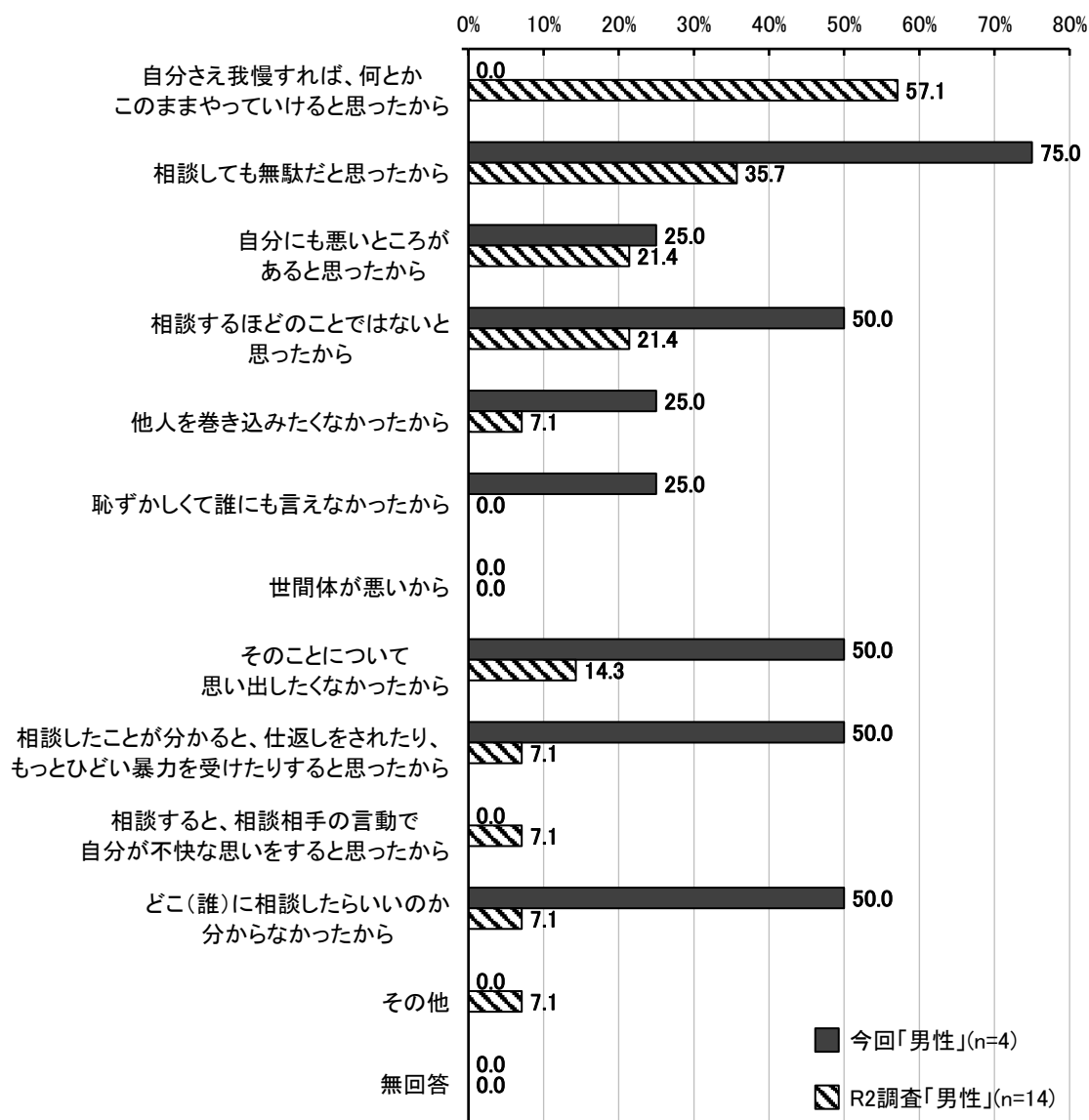
【前回比較・性別（女性）にみたDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】



※R2 調査では DV 被害のみを対象としていました。

【前回比較・性別（男性）にみたDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】

<男性>



※R2 調査では DV 被害のみを対象としていました。

年代別にみると、40代は「自分にも悪いところがあったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が全体より高く、50代は全体と比べて割合が高い項目が複数みられます。

【年代別にみたDVや性暴力のことを誰かに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】

	何と自分かと思つたから	自分さえ我慢すれば、	相談しても無駄だと思つた	自分にも悪いところがある	相談するほどのことではないと思つたから	他人を巻き込みたくなかつたから	恥ずかしくて誰にも言えなかつたから	世間体が悪いから	思ひ出したことについで	仕返しをされたり、もつと	相談したことが分かる	相談すると自分が不快な思いをする	いのか(誰)に相談したらい	その他	無回答
全体(n=27)	29.6	44.4	14.8	25.9	14.8	25.9	14.8	25.9	18.5	0.0	22.2	7.4	7.4		
10代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
20代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
30代(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
40代(n=13)	23.1	46.2	23.1	38.5	7.7	15.4	15.4	15.4	15.4	0.0	15.4	7.7	0.0		
50代(n=9)	33.3	55.6	11.1	22.2	33.3	0.0	55.6	22.2	0.0	44.4	11.1	0.0	0.0		
60代(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
70代以上(n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3		

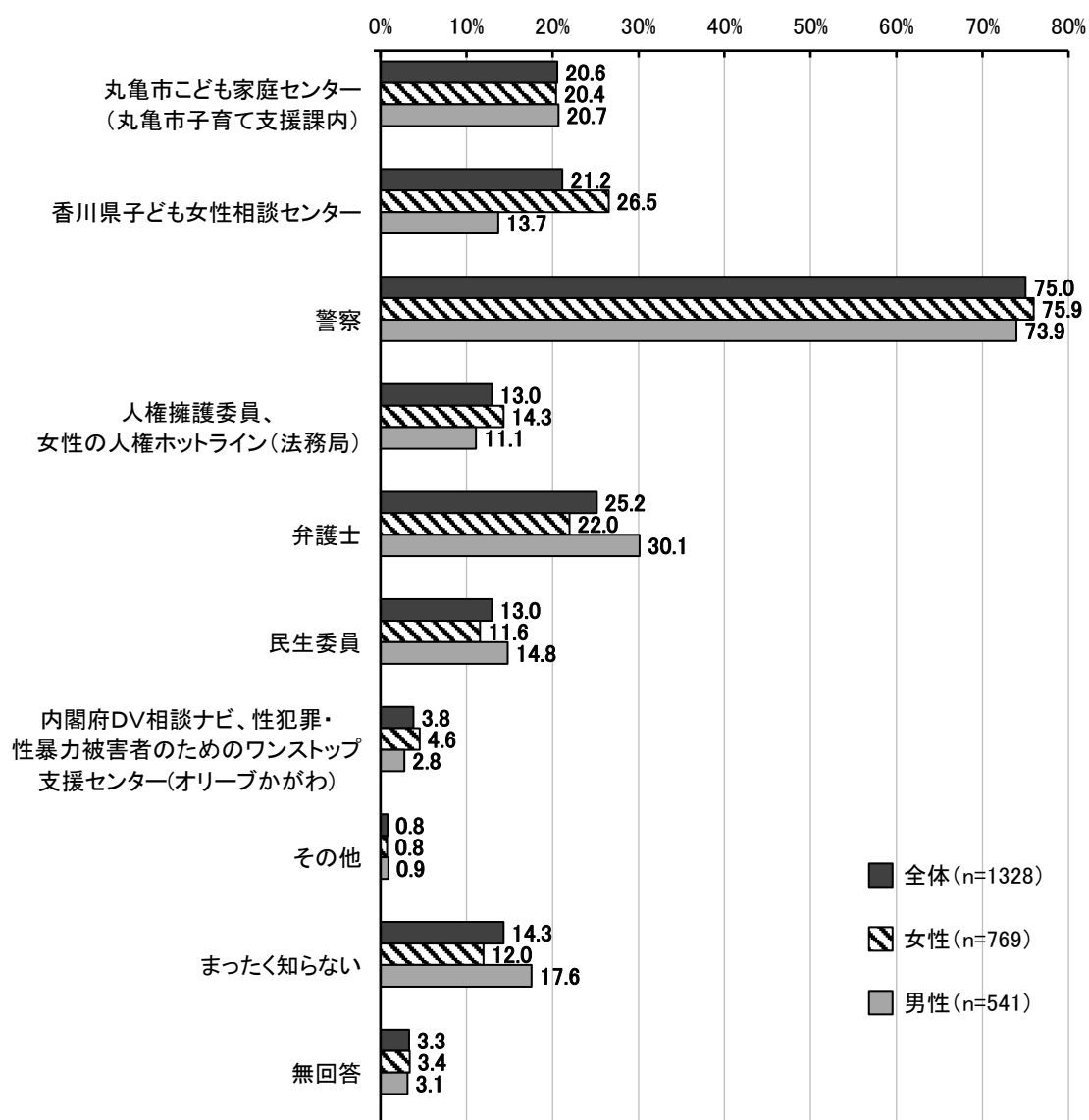
単位：%

問 19 【全員に伺います】ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、あなたが知っているものを教えてください。（○はあてはまるものすべて）

DVや性暴力の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものをみると、「警察」75.0%の割合が最も高く、次いで「弁護士」25.2%、「香川県子ども女性相談センター」21.2%、「丸亀市こども家庭センター（丸亀市子育て支援課内）」20.6%などの順となっています。

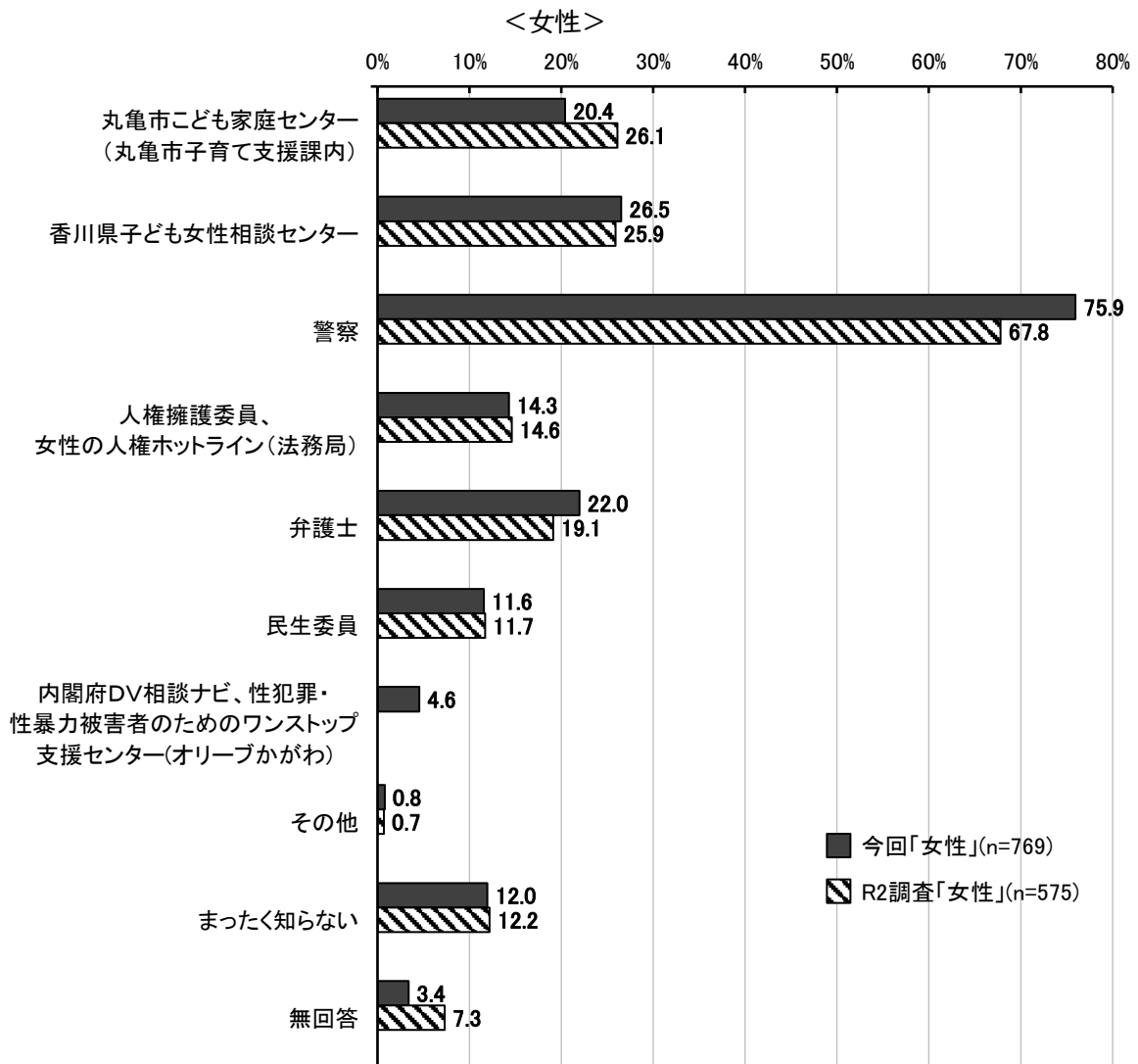
性別にみると、女性は男性より「香川県子ども女性相談センター」は12.8ポイント高くなっています。

【性別にみたDVや性暴力の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて】



性別に前回調査との比較をみると、女性・男性ともに「警察」の割合が高くなっています。女性は「丸亀市子ども家庭センター（丸亀市子育て支援課内）」の割合が 5.7 ポイント低くなり、男性は 8.7 ポイント高くなっています。

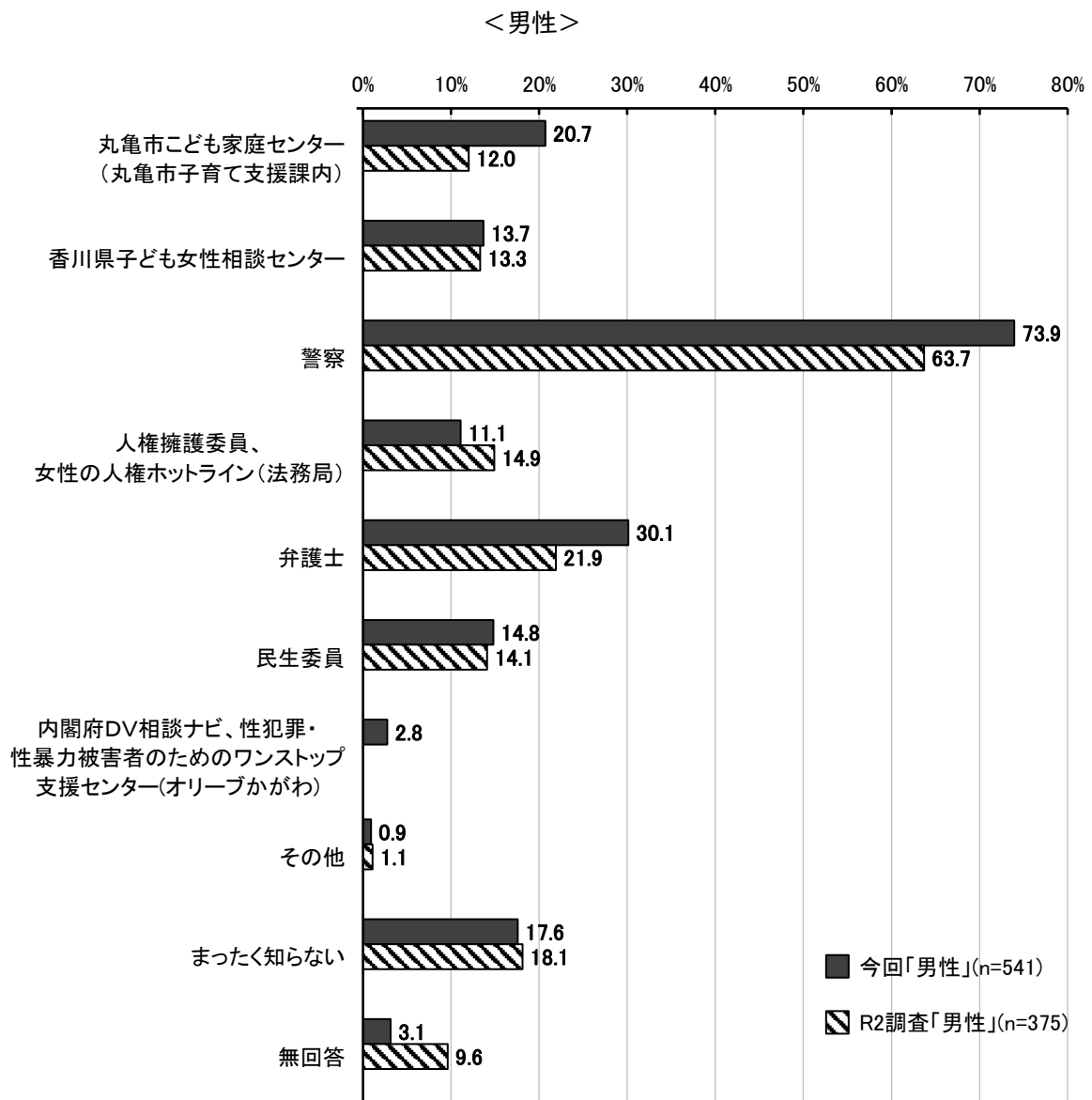
【前回比較・性別（女性）にみたDVや性暴力の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて】



※「丸亀市子ども家庭センター（丸亀市子育て支援課内）」は前回調査では「丸亀市女性相談（丸亀市子育て支援課内）」

※R2 調査では「DV 被害」のみを対象としていました。

【前回比較・性別（男性）にみたDVや性暴力の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて】



※R2 調査では「DV 被害」のみを対象としていました。

年代別にみても、すべての年代で「警察」の割合が最も高くなっています。一方10代は、「まったく知らない」が他の年代に比べて最も高くなっています。

【年代別にみたDVや性暴力の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて】

	丸亀市子ども家庭支援センター (丸亀市子育て支援課内)	香川県子ども女性相談センター	警察	人権擁護委員、女性の人権ホットライン(法務局)	弁護士	民生委員	ワゴン・ストッパがわ(オリスター)	内閣府DV相談ナビ、性暴力被害者のためのセンター	その他	まったく知らない	無回答
全体(n=1328)	20.6	21.2	75.0	13.0	25.2	13.0	3.8	0.8	14.3	3.3	
10代(n=13)	15.4	0.0	61.5	7.7	38.5	0.0	7.7	0.0	38.5	0.0	
20代(n=85)	20.0	18.8	82.4	12.9	32.9	2.4	3.5	1.2	11.8	0.0	
30代(n=120)	30.0	27.5	84.2	14.2	33.3	3.3	3.3	0.0	10.8	0.0	
40代(n=199)	21.6	28.6	77.4	11.6	24.6	4.0	6.0	0.5	17.6	0.5	
50代(n=263)	24.0	29.3	78.7	18.3	34.2	7.2	4.9	0.8	12.2	1.1	
60代(n=213)	20.7	21.1	79.3	13.2	25.8	16.9	4.7	1.4	8.9	3.8	
70代以上(n=424)	15.8	12.3	65.6	10.4	15.8	23.6	1.9	0.9	17.7	7.3	

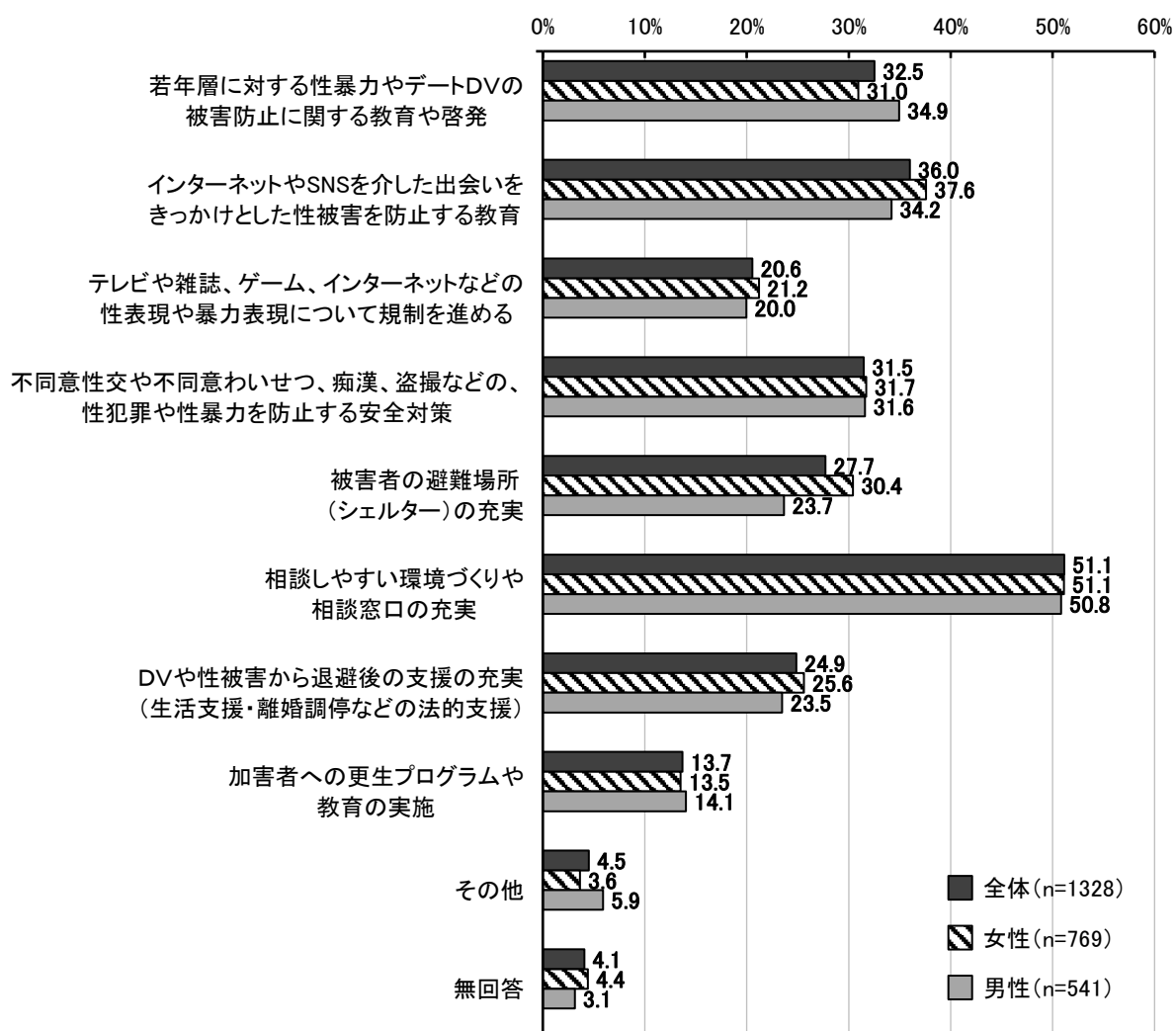
単位：%

**問 20 【全員に伺います】あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力をなくすために、どのような対策が必要だと思いますか。（〇は特に必要だと思うものを3つまで）**

DVや性暴力をなくすために必要な対策についてみると、「相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」51.1%の割合が最も高く、次いで「インターネットやSNSを介した出会いをきっかけとした性被害を防止する教育」36.0%、「若年層に対する性暴力やデートDVの被害防止に関する教育や啓発」32.5%などの順になっています。

性別にみると、概ね同様の傾向となっています。

**【性別にみたDVや性暴力をなくすために必要な対策について】**



年代別にみると、10代と30代を除くすべての年代で「相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」の割合が高くなっています。一方10代では「被害者の避難場所（シェルター）の充実」が半数を超えており、30代では「インターネットやSNSを介した出会いをきっかけとした性被害を防止する教育」が最も高くなっています。

【年代別にみたDVや性暴力をなくすために必要な対策について】

	す る 教 育 や 啓 発	若 し た 性 被 害 者 に 対 し た 性 暴 力 を 防 止 す る 教 育	介 した 出 会 い を 防 止 す る 教 育	イ ン タ ー ネ ッ ト や S N S を 介 した 出 会 い を 防 止 す る 教 育	進 め る 表 現 に つ い て 規 制 を 現 イ	や レ ビ エ ッ ト な ど の 性 暴 力 を 防 止 す る 安	テ レ ビ や 雑 誌 、 ゲ ー ム 、 表 現 イ	全 対 策	犯 罪 性 暴 力 を 防 止 す る 安	つ い て 規 制 を 現 イ	不 同 意 交 渉 な ど の 性 暴 力 を 防 止 す る 安	被 害 者 の 避 難 場 所 （ シ ェ ル タ ー ） の 充 実	相 談 窓 口 の 充 実	相 談 し や す い 環 境 づ く り や	婚 姻 調 停 な ど の 法 的 支 援 （ 支 援 ・ 離 	支 援 の 充 実 （ 生 活 支 援 ・ 後 の 支 援 ）	D V や 性 被 害 者 に 対 し た 性 暴 力 を 防 止 す る 教 育	加 害 者 へ の 更 生 プ ロ グ ラ ム	そ の 他	無 回 答
全体(n=1328)	32.5	36.0	20.6	31.5	27.7	51.1	24.9	13.7	4.5	4.1										
10代(n=13)	38.5	46.2	0.0	46.2	53.9	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0										
20代(n=85)	30.6	32.9	8.2	48.2	27.1	52.9	27.1	11.8	8.2	0.0										
30代(n=120)	39.2	46.7	15.0	32.5	40.8	37.5	32.5	13.3	5.0	0.0										
40代(n=199)	35.2	37.7	14.6	32.7	35.2	41.7	22.1	19.1	6.5	1.5										
50代(n=263)	32.7	38.0	17.5	29.3	30.8	52.1	28.1	19.0	4.6	2.7										
60代(n=213)	26.3	32.4	20.7	32.9	26.3	56.3	32.4	13.6	6.1	1.4										
70代以上(n=424)	32.8	33.5	30.0	27.8	18.9	55.9	17.5	9.0	2.1	9.0										

単位：%

DV や性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたことの有無別にみると、「DV や性暴力を受けたことがある」人は、「相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」が最も高い一方、「DV や性暴力に該当する行為を行ったことがある」人は、「若年層に対する性暴力やデートDVの被害防止に関する教育や啓発」、「インターネットや SNS を介した出会いをきっかけとした性被害を防止する教育」の割合が高くなっています。

【問 16 「DV や性暴力を経験したり、身近で見聞きしたりしたこと」×  
DV や性暴力をなくするために必要な対策について】

	が D あ V る や 性 暴 力 を 受 け た こ と	行 D 為 V を や 行 性 つ 暴 た 力 た に こ 該 と 当 が 有 あ る	受 身 け 近 た に 当 D 事 V 者 や が 性 い 暴 る 力 を	受 身 け 近 た な こ 人 と か が ら あ 相 る 談 を	知 問 っ 聞 て に い な る っ て い る こ と を	見 D 聞 V き や し 性 た 暴 こ 力 と に は つ い て	そ の 他
全体 (n=1328)	5.4	0.5	8.6	3.4	52.9	37.4	1.1
若年層に対する性暴力やデートDVの被害防止に関する教育や啓発 (n=432)	27.8	42.9	36.8	46.7	34.6	32.7	35.7
インターネットやSNSを介した出会いをきっかけとした性被害を防止する教育 (n=478)	22.2	42.9	32.5	60.0	38.5	37.3	21.4
テレビや雑誌、ゲーム、インターネットなどの性表現や暴力表現について規制を進める (n=273)	19.4	14.3	16.7	24.4	22.9	20.2	28.6
不同意性交や不同意わいせつ、痴漢、盗撮などの、性犯罪や性暴力を防止する安全対策 (n=418)	27.8	28.6	31.6	37.8	36.2	26.8	7.1
被害者の避難場所(シェルター)の充実 (n=368)	37.5	0.0	36.8	26.7	29.5	27.6	21.4
相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実 (n=679)	48.6	28.6	51.8	46.7	50.3	52.6	57.1
DV や性被害から退避後の支援の充実(生活支援・離婚調停などの法的支援) (n=330)	34.7	0.0	31.6	22.2	26.5	23.0	7.1
加害者への更生プログラムや教育の実施 (n=182)	23.6	28.6	17.5	15.6	14.7	13.5	7.1
その他 (n=60)	9.7	14.3	9.7	4.4	3.9	4.8	21.4

単位：%

## 男女共同参画社会づくりについて

### 問 21 あなたは、「男女共同参画社会」についてどの程度知っていますか。(〇は1つ)

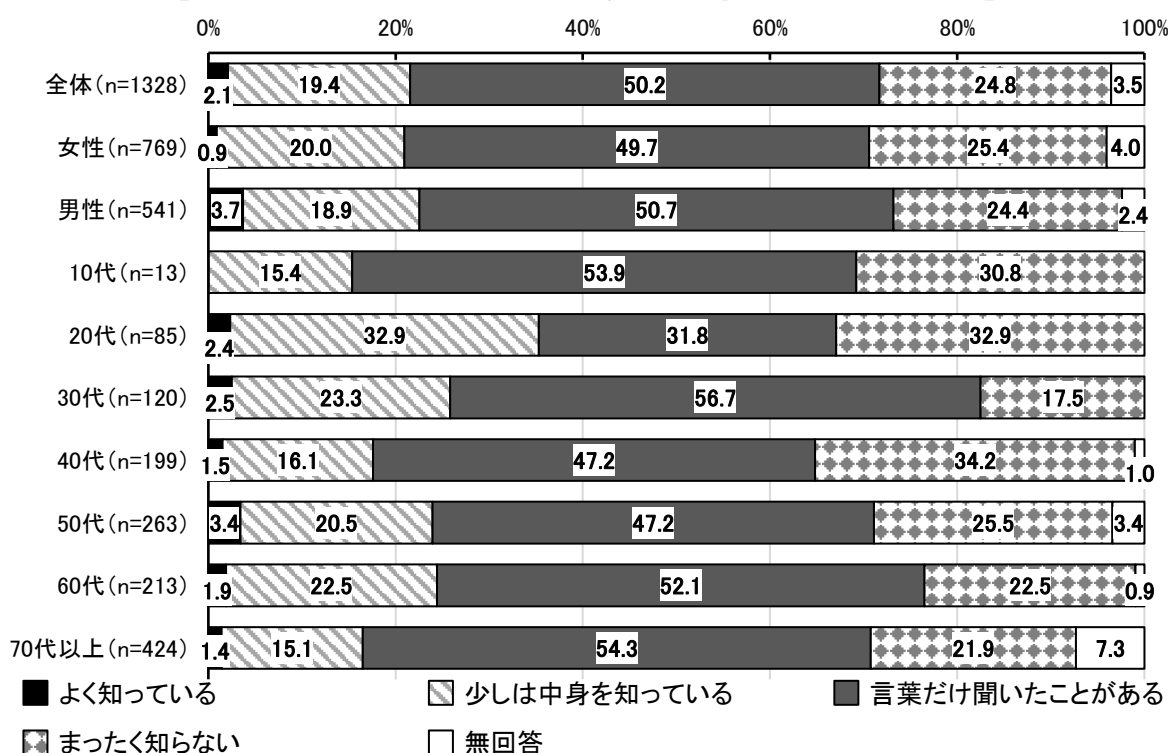
男女共同参画の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」が50.2%、次いで「まったく知らない」24.8%となっており、「よく知っている」、「少しは中身を知っている」を合わせた『知っている』は21.5%となっています。

性別にみると、概ね同様の傾向となっています。

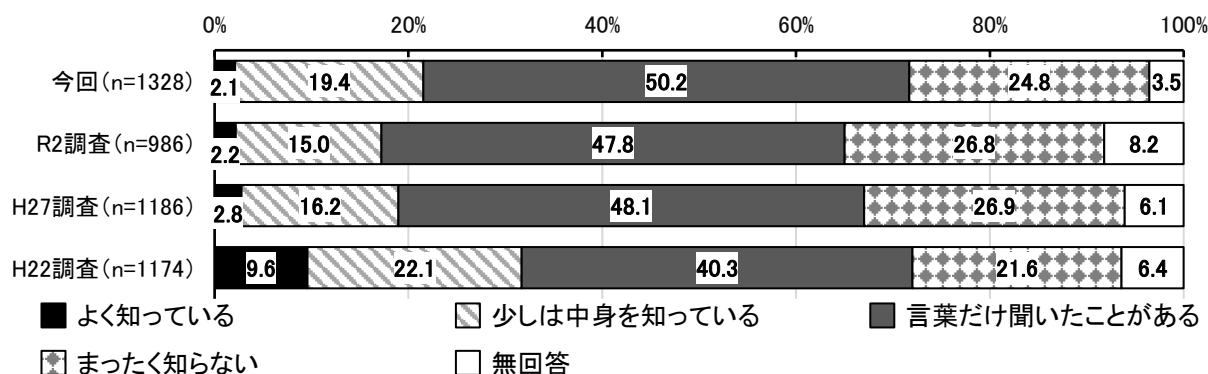
年代別にみると、『知っている』は20代が35.3%で高くなっています。

過去調査と比較すると、『知っている』は前回調査より増えていますが、概ね同様の傾向となっています。

【性別・年代別にみた「男女共同参画社会」の認知度について】



【過去調査との比較にみた「男女共同参画社会」の認知度について】

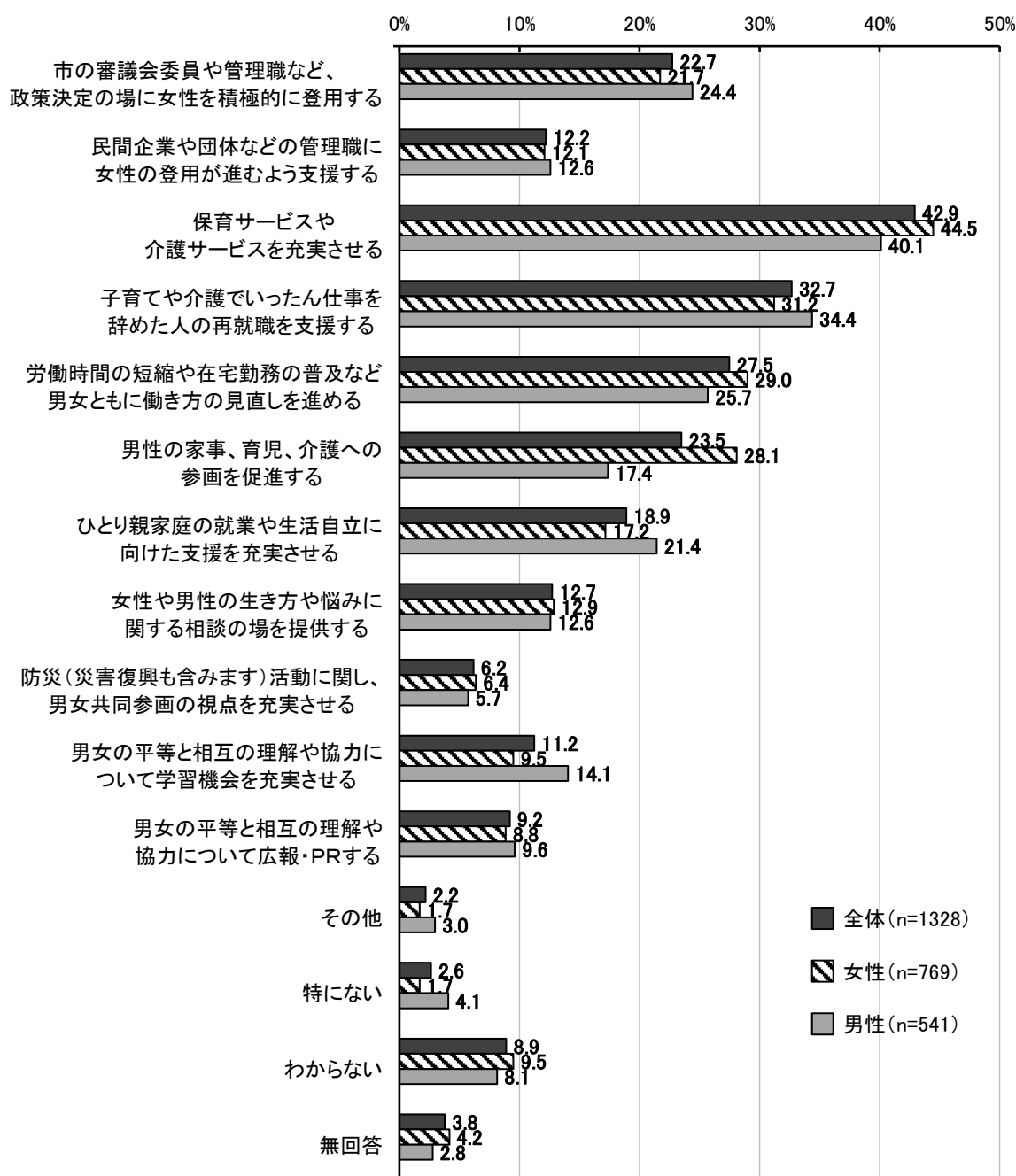


**問22 男女共同参画社会を実現していくために、今後、丸亀市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)**

男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきことについてみると、「保育サービスや介護サービスを充実させる」42.9%の割合が最も高く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」32.7%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」27.5%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「男性の家事、育児、介護への参画を促進する」の割合が10.7ポイント高くなっていますが、そのほかの項目は概ね同様の割合となっています。

【性別にみた丸亀市が力を入れていくべきことについて】



年代別にみると、10代では「保育サービスや介護サービスを充実させる」と「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が同率で最も高く、20代では「保育サービスや介護サービスを充実させる」と「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」の割合が同率で最も高くなっています。30代以上でも「保育サービスや介護サービスを充実させる」の割合が最も高くなっています。

【年代別にみた丸亀市が力を入れていくべきことについて】

	積 多 の 審 議 的 に 登 用 す る 場 に 女 性 を な	支 援 す る に 女 性 の 登 用 が 進 む よ う 理	民 間 企 業 や 団 体 な ど の 管 理	保 育 サ ー ビ ス や 介 護 サ ー ビ	支 援 す る 子 育 て や 介 護 で い っ た ん 支	方 の 普 及 な ど 男 女 と も に 働 き	男 性 の 家 事 、 育 児 、 介 護 へ	自 立 に 向 け た 支 援 を 充 実 さ せ	一 人 親 家 庭 の 就 業 や 生 活	女 性 や 男 性 の 生 き 方 や 悩 み	参 画 の 視 点 を 充 実 さ せ る	防 災 （ 災 害 復 興 も 含 み ま	実 力 を 充 実 さ せ る	男 女 の 平 等 と 相 互 の 理 解 や	協 力 に つ い て 広 報 ・ P R す	男 女 の 平 等 と 相 互 の 理 解 や	其 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1328)	22.7	12.2	42.9	32.7	27.5	23.5	18.9	12.7	6.2	11.2	9.2	2.2	2.6	8.9	3.8					
10代(n=13)	23.1	0.0	69.2	69.2	46.2	23.1	7.7	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0					
20代(n=85)	23.5	9.4	41.2	36.5	41.2	28.2	24.7	15.3	4.7	8.2	2.4	4.7	3.5	8.2	0.0					
30代(n=120)	19.2	15.0	53.3	35.8	38.3	24.2	16.7	13.3	3.3	13.3	4.2	1.7	4.2	6.7	0.0					
40代(n=199)	23.6	11.6	44.2	32.7	34.2	22.6	18.1	9.1	6.0	13.1	9.1	2.5	1.0	9.6	1.0					
50代(n=263)	20.9	12.9	46.0	35.7	30.8	27.8	16.4	11.4	7.6	10.3	7.6	3.4	2.7	7.2	2.3					
60代(n=213)	22.1	10.8	41.8	36.6	24.4	22.5	22.5	16.4	4.2	10.3	10.8	1.4	2.8	8.0	2.4					
70代以上(n=424)	24.5	13.0	37.7	26.2	17.9	20.8	18.9	13.0	7.6	11.8	12.3	1.4	2.8	10.9	8.0					

単位：%

## 自由記述（抜粋）

最後に男女共同参画社会づくりについて意見などがありましたら記入してください。

### 女性・10代

- ・PTAなどの場で男の人がとか女の人がという意見はなくした方がいいと思います。

### 女性・20代

- ・丸亀市は他の市に比べて育児しやすいと思う。これからも期待しています。
- ・夫婦が家庭について話し合いする場を設けてほしい。家庭内で、2人で話をしていると思っていても口に出せないことがある。
- ・今はまだ社会づくりの変革の真っ只かだと思います。大きな変化はまだ必要ありません。女性が社会進出し、役職などを担う場面をまず増やしていくこと。そして、実際どういったことを改めればよりよい社会へと変わるのかを知ることからだと思います。まずはサポートを充実させることが重要だと考えます。男女が共にどうたっている、変わるためのサポートがなければ変わりたくても変われず、何もできず、ただ空回りするばかりです。今はかわっていくためにも、サポートの充実、またその周知に力を注ぐべきだと思います。私は未婚の身ですが、丸亀市で生まれ育ち、今後も丸亀市に住み続けたいと思っています。将来を考える人もそばにおり、現実的な問題として捉えています。一市民の意見ではありますが、私は丸亀市が好きです。住みたいと思える市であり続けてほしいと願っています。
- ・保育園に入れないと働きたくても働けないので、入りやすくなればいいなと思う。女性が妊娠出産で働けないのは仕方ないことだと思う。そのあとの復帰に関してはもう少し融通が利くようになればいいなと思う。

### 女性・30代

- ・もうすぐ子どもを育てる世代としての意見ですが、どうしても父親は子育てや家事が苦手な方が多く、母親を悩ませたり、ケンカのきっかけになる事が多いので、そこは強制するのではなく、もっと家事代行サービスの充実や子どもを一時的に預かってくれる施設の情報を SNS にたくさんアップしてもらいたいです。実際、利用したいのですが情報が全然ないので。みんなが利用できるようにサイトをまとめてほしい。結構周りで父親が仕事で疲れていて家事を手伝ってくれないと言っている人が多いです。
- ・四人（三つ子含む）の育児中。子どもの体調不良で仕事を休むのも母。家事をするのも子どもの世話をするのも母。多胎に対する制度も特になく、私ひとりですべて・・・困っています。結局、男女共同は理想止まりだと思う。実際ひとりですべて仕事、家事、育児。生きづらい。生きているのが辛い時がある。全然平等じゃない。共同じゃない。
- ・策定の場に女性を多く登用するのも重要だと思うが、男女関係なく若年層の意見を積極的に取り入れる場が必要に思う。

- ・男女平等の雇用に関する法的整備は進みつつあると思います。けれど、子供が体調不良の時、迎えに行くのは母親がまだまだ多いと思います。女性が働きやすいだけでなく、男性が早退したり休んだりしやすい環境や意識が醸成される事を望みます。
- ・男女平等といって、女性の登用を多くするのは女性優遇になるのではないのでしょうか。人や地域社会を動かす立場には、性別関係なく知識や能力のある方がいてほしいです。
- ・私は女性ですが、今では逆に男性が生きづらい環境もあると思う。男女ともに行きやすい日本になればと願う。

## 女性・40代

- ・私は今、会社で管理職をしています。定時で帰らせていただき子供のお迎え、食事、習い事等の送迎を行っていますが、やるべき仕事が貯まってしまうため、週末を使って片づける事もしばしばあります。夫、会社の人含めそれが当たり前と考えており、夫は残業して帰りますが私がどうしても残業する時は、夫とは違い両親もしくは夫等に協力を依頼し承諾を得られた時しかできません。私と同じ境遇の女性はおそらく多く管理職になりたくとも物理的に困難に感じている方は多いと思います。本当の意味での共同参画には超えるべき壁がまだ少し高く感じます。
- ・全ての人が自分らしさを発揮できていけるような社会になればと思います。今回、このようなアンケートが届いて、届いた人にとってはこのアンケートで救われたと思う人がいると思います。女性が少しでも男性のように給料をもらえたり、発言権利ができるような社会になれば少しでも女性も頑張れると思います。このようなアンケートが増えていくといいと思います。
- ・学校から〇〇らしさじゃなくて多様な意見がある事を教育していく。
- ・私が小さい時は、ほとんどの家庭でお母さんたちは専業主婦で家にいました。今は女性の社会進出で働くお母さんが多いです。けど、子どもにとってはどうでしょうか？ある程度の年齢まで、父親母親が家にいてもいいと思います。部活や友だちで親を必要とする期間はわずかだと思えます。子育て期間中、父親母親は16:00で仕事を終わりにするなどの思い切った対策をしてみてもいいと思います。
- ・今も男性の方が優位になっていると思う。何かあれば女性がするのが当たり前みたいな所もあると思う。男性が先に女性がしていた事をやれるような環境になっていけるといいと思う。いろんな世代の女性の意見を聞き、小さなことからでも変えていくようになればいいなあと思う。
- ・家事・育児の負担が、未だ女性の方に偏っている。育った環境が将来の夫婦像に影響するので、子供が小さい頃から両親が協力して家事や育児を行う姿を見せる必要があると思う。男女という視点ではなく、1人の人間として、役割や能力を発揮できる社会になると良いと思います。古い考えを持った管理職の意識改革をする研修をしたら良いと思う。会社の規律や人事の決定権があるのは結局そこだから、その意識を変えないと会社も社会も変わらないのでは？

## 女性・50代

- ・既に男社会である中で男女平等の社会にするのは難しいと思う。安易に女性を登用することに

躍起になるのではなく女性登用には慎重になってもらいたい。男女平等が理想ではあるが男性にしかできないこと、女性にしかできないことはあるはずでそこは上手に使い分けていただきたい。

- ・男性の方にも介護にもっと意識していける取り組みをしてほしい
- ・男性、女性、人の気質により向き不向き等あると思うのでお互いにおぎない合える優しく気の利く社会になると良いと思う。例えば力の強い、体力がある、気力がある、繊細、気が利く等人によりあるなしがあるので、人として差別なく尊重できそれぞれの能力を発揮でき、共に協力する取り組みができるよう心に留まるPRがまずは必要かと思いました。1人1人が思いを持たないとなかなか先に進まないかと思えます。
- ・お互いが認め合って、男だから女だからこうしないといけないという考え方は無くし、協力して生きていけたらいいなと思っております。優しい世の中になってほしいです。
- ・法律の整備があつてここ十数年経ってはいるが、まだまだ社会には「男は・・・」「女は・・・」との考えは根強く残っていると思う。特に昭和を生き抜いてきた60歳以上の方々... こういった人たちに分かってもらうようにするためには？固定概念が強く、自身の考えを曲げない方が多いし年齢とともに気性も頑固な人たち。なかなか分かり合えるのは難しい気もする。
- ・男女共同参画の遅れは、「社会的な課題」ではなく、「自治体の存続に関わる、最優先のサバイバル戦略」として、プランの根幹に据える必要があると思えます。
- ・健常者目線ではなく、介護当事者、障がいのある人の目線でも男女共同参画を考えてほしいです。

## 女性・60代

- ・子供が病気になったとき、仕事を休むのは母親の方がほとんどだと思います。子供の為に仕事を休むことに職場では理解があつても休む本人はすごく気にしているケースが多いと思えます。子育て中の若い母親は大変だと思います。
- ・誰もが悩みや問題を抱える時代なので勤務体制の見直し等があつてしかるべきだと思うが、過度にあつては職場に残っている人の負担だけが増えていくので考慮してほしい。
- ・参画の意味がわからない。聞き慣れない言葉、難しい言葉、耳慣れない言葉では興味がわかない。
- ・男女共同とても難しい問題だと思います。昔から男の人が上だとの考え方が今でも根付いています。その考え方をまだまだ持っている人が多いと思えます。
- ・1980年代と比べて今はずいぶん家庭内でも共働きしながら男女で協力して家事子育てが行えているように思います。この頃は核家族がほとんどですが、共働きしながら子育ても行える環境がより見直されてきており、女性も働きやすくなってきていると思えます。より、結婚したい人が増え、子どもの数が増えていくような社会になればと思います。
- ・このような活動があることをもっと広報誌などで常に目につくように紙面に載せる。
- ・女性登用のために、女性だからといって管理職に就いたり、あまりに優遇されたりするのは違うかなと思う。政策決定などに女性の意見や視点を反映させる事は大事だと思う。役職や職業、入試などは、性別に関係なく、能力のある者が選ばれるべきだと思う。

## 女性・70代以上

- ・若い人達に自分達が若いころ経験した良い事、プラスなることを話し合える場所を提供していただきたいです。
- ・まだまだ身近に感じられていない制度だと思います。市民に寄り添えるネーミングではないと私は思います。女性の立場から見ると、是非多くの女性が安心して会社勤め、結婚、育児などを行える社会であってほしいと節に思います。公の相談窓口も気軽に行ける現状ではないと思います。その点から見直し、市民が身近に思える制度であってほしいと思います。
- ・女性自身も積極的に社会に参加しようという自覚を持つことも大切だと思います。女性の意識を変えていく政策が必要ではないかと考えます。
- ・被害にあった時、心身に相談できる人が身近にいると安心して暮らせる。
- ・平和で明るい町づくりの為にはひとりひとりの意欲と自覚が必要と思われれます。広報などの冊子をもっと見ていただくことも大切と思われれます。
- ・地域で気軽に参加できる研修会や講演会を多く開催して欲しい。男女共同参画室について業務内容等についても知りたい。
- ・男女が、なんでも平等であるべきとは思わない。本人の性別や体格の差、環境などによって、希望が叶えられない、挑戦もできないようなことが無い社会になってほしいです。

## 男性・10代

- ・なし

## 男性・20代

- ・大きく PR すること、活動を増やすことが共同参画社会につながるとは思いますが、その成果が大きいとは思えません。しかし、市として行えることは限られており、PR や活動の方に目が向かってしまいます。本当に、必要なのは、結果や事実です。過去とは異なる結果や事実の積み重ねが、新たな常識や考え方につながると思います。結果や事実を大切に政策を進めては、どうでしょう。
- ・歴史的に男性が作り上げてきた社会基盤である以上、男性優位な社会なのかなと考えております。そのため KPI を設定して取り組むことは必須であると考えますが、管理職や役員等に関しては本人の適性を鑑みる必要はあると考えます。人数で管理職が何%達成ではなく、管理職になりたいと思う母数をどれだけ増やせるのかが重要ではと考えます。一方で災害時の対応等に関しては女性目線の考え方が必須であると考えます。生理用品は女性の尊厳を守るために必要なものである。というような女性目線の意見がなければ、平等にはなっても公平にはならないと考えます。
- ・女性だけでなく、男女どちらにも配慮した社会作りが必要であると考えております。

## 男性・30代

- ・男女共同参画社会づくりとは女性に配慮する社会づくりですか？男性には配慮する必要が何故ないのか。なぜ女性に配慮が必要なのか。その理由をつきつめないと何をもって平等なのか。

性差をどう受け入れるのか。

- ・男女共同というよりは、一人ひとりが尊重される社会を目指すことが大切だと考えます。アンケートにある“男性が”“女性が”という項目も、多くは人であれば誰にでも関係することではないでしょうか（妊娠や出産など性別特有のものを除きます）。

#### 男性・40代

- ・近年、男性の仕事とされてきた職種に女性の方を見かけるようになってきましたが、まだまだ少数なのかなと思っています。男女関係なく、職種を選べるように給料面、休日、待遇面を充実させて入社しやすい環境を整える様に企業が働きかける事が重要ではないでしょうか？
- ・女性が管理職へ登用されるのは育児や介護に不安がない人ばかりであり、本当に能力で評価されているのか疑問である。生活状態に左右されず、女性の能力を評価する仕組み作りが必要ではないか。また、限られた予算であるので、ひとり親家庭やDV等で苦しんでいる人達など、本当に困っている人を救済できるような施策に予算を使ってほしい。
- ・近年では男女共同参画が施行されたため、家庭内では女性（妻）の立場が優位になり、男性（夫）の方が生きづらくなっていると思います。
- ・頭のかたい大人ではなかなか浸透しないと思うので、子供たちに積極的に教育すべきである。課外授業等でしっかりした教育を受けさせることが必要かと。子供を通じて親の考えも変わるかもしれないと思う。

#### 男性・50代

- ・男女には肉体的な差がある（重い物を持つなど）ことを十分に理解して男女共同参画を進める必要はあると思う。女性ならではの細かな視点を重視して、何もかもが同じではなくそれぞれの性別に合った参画の方法を具体的に示すことが必要だと思う。事務的な面では同じ様に行っても現場的には女性に限界ラインもあるので、上手く調和していくことが必要と考えます。
- ・女性の積極登用（政治、会社、PTA、学校）はその人の能力、人格を正確に見極めてから起用してほしい。見せかけや社会風潮等で決めて欲しくない。それは男性も同じく。
- ・生きやすい社会は個人ごとに違うので、個々の意見を大切に扱ってほしい
- ・固定観念を無くして何事も男女の区別無くお互いの長所を活かせる世の中になるべきだと考えます。
- ・会社の組織の意識がなかなか変わらない。各会社などの組織が、男女共同参画についてどのような施策をやれば良いのか考えないといけないのではないのでしょうか？
- ・未来を担う世代への教育が重要だと思う。

#### 男性・60代

- ・「男女共同参画社会づくり」の意義が初足当時と大きく変わり、今は「生産労働人口の確保」になっているように感じる。
- ・男女共、もう少し責任を持ち行動していくべき。
- ・まずは、市役所より体制を整え市がこのようにして取り組んでいます。取り組みました、この成

功、失敗例を情報共有していくのが良いのではないかと思います。

- ・ 必要ですが困難が伴う事です。しかし少しずつでも進めて行かなければいけない事です。
- ・ 丸亀市役所において女性管理職が、増えたようですが、女性の登用が目的になっていないでし  
ようか?職員の管理職登用こそ、男女平等あるべきです。
- ・ 家庭での会話を増やす。

## 男性・70代以上

- ・ 男性は女性に、女性は男性に思いやりの気持ちを持つことが大切だと思います。
- ・ 将来、南海トラフの地震が発生した時の運営において、男女共同参画の実践の真価が日々問わ  
れることになるでしょう。避難所運営マニュアルの作成、見直しをお願いします。丸亀市に期  
待申し上げています。
- ・ 男女共同参画社会という言葉が難しい。もっとわかりやすい言葉を使う必要がある。
- ・ 健常者と障害のある方の平等性にも配慮が必要と思う。
- ・ 男女共同参画社会の先進国の事例を分析し、我々の社会に取り入れることを学び、できること  
から実践することが必要だと思います。ただ、それぞれの国には固有の文化や歴史あるわけなの  
で、必ずしも世界に合わせなければならないとは思いません。
- ・ 困難な状況にある方々を救うためには、非営利団体である自治体の役割が大きい。窓口業務も  
大事だが、啓蒙活動や連絡を待って対応するだけでなく、積極的に問題点を見つけて対応し解  
決する人材を育成することが大切だと思う。